

末日聖徒イエス・キリスト教会・2010年5月号

# リアホナ

総大会の説教





アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスにあるスタムスワートの集会所にあったステンドグラスの窓。教会歴史博物館の歴史にちなみ複製

### 「最初の示現」 作者不詳

1820年、青年ジョセフ・スミスは自宅近くの森へ行き、どの教会に加わるべきか知るために祈った。  
ジョセフは祈りの答えとして、御父と御子にまみえた。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。  
そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方が  
わたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、  
「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と言われた。」(ジョセフ・スミス——歴史1:16-17)

## 2 第180回年次総大会の概要

### 土曜午前の部会

#### 4 大会へようこそ

トーマス・S・モンソン大管長

#### 6 神権の力

ボイド・K・パッカー会長

#### 10 「その日わたしは わが霊をはしために注ぐ」

ジュリー・B・ベック

#### 13 わたしたちの義務の道

キース・B・マクマリンビショップ

#### 16 贖い主の岩

ウィルフォード・W・アンダーセン長老

#### 18 母と娘

M・ラッセル・バラード長老

#### 22 彼らが天の家に戻れるよう 助けてください

ヘンリー・B・アイリング管長

### 土曜午後の部会

#### 26 教会役員への支持

ディーター・F・ウークトドルフ管長

#### 27 2009年度教会監査部報告

ロバート・W・キャントウェル

#### 28 2009年度統計報告

ブルック・P・ヘイルズ

#### 29 家庭で子供を教える母親

L・トム・ペリー長老

#### 32 聖文の祝福

D・トッド・クリストファーソン長老

#### 36 助けの手、救いの手

青柳弘一長老

#### 38 主が命じられるとき

ブルース・A・カールソン長老

#### 40 目をさましてうむことがなく

デビッド・A・ベドナー長老

#### 44 わたしの敵に場所を

与えてはならない  
ジェフリー・R・ホランド長老

### 神権部会

#### 47 病人を癒す

ダリン・H・オークス長老

#### 51 宣教師の神聖な召し

ロナルド・A・  
ラズバンド長老

#### 54 すばらしいアロン神権

デビッド・L・ベック

#### 56 忍耐し続ける

ディーター・F・ウークトドルフ管長

#### 60 まったく勤勉に遂行する

ヘンリー・B・アイリング管長

#### 64 備えは祝福をもたらす

トーマス・S・モンソン大管長

### 日曜午前の部会

#### 68 「あなたは、わたしの手である」

ディーター・F・ウークトドルフ管長

#### 75 生きて変わらぬ主、御名に栄えあれや

リチャード・G・スコット長老

#### 78 主に心を向ける

ドナルド・L・ホールストロム長老

#### 81 子供たちが救い主の御顔を

見られるように

チェリル・C・ラント

#### 83 わたしたちはイエス・キリストに従う

クエンティン・L・クック長老

#### 87 主はよみがえりぬ

トーマス・S・モンソン大管長

### 日曜午後の部会

#### 91 先祖と愛によって結ばれる

ラッセル・M・ネルソン長老

#### 95 神に対するわたしたちの義務――

次の世代に対する

親と指導者の使命

ロバート・D・ヘイルズ長老

#### 98 お母さんがそう言ったから

ブラッドリー・D・フォスター長老

#### 101 万事を益となす

ジェームズ・B・マルティノ長老

#### 103 正しく判断する力を養い、 人を裁かない

グレゴリー・A・シュワイツァー長老

#### 106 義にかかわること

フランシスコ・J・ビーナス長老

#### 108 イエス様の話聞かせて

ニール・L・アンダーセン長老

#### 112 閉会に当たり

トーマス・S・モンソン大管長

### 中央若い女性集会

#### 114 雄々しくあれ

アン・M・ディブ

#### 117 決して、決して、決して、 あきらめないで!

メアリー・N・クック

#### 120 自分が何者であるかを忘れない

イレイン・S・ダルトン

#### 123 ビデオプレゼンテーション

――わたしには目的があります

#### 124 末永い幸せ

ディーター・F・ウークトドルフ管長

#### 72 末日聖徒イエス・キリスト教会 中央幹部

#### 128 指導者の言葉

――大会を生活に取り入れる

#### 130 青少年向けの話

#### 132 大会で話された実話や物語の索引

#### 133 わたしたちの時代のための教え

#### 133 中央補助組織会長会

#### 134 教会のニュース



# 第180回 年次総大会の概要

## 2010年4月3日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——菊地良彦長老。閉会の祈り——エリック・W・コピシユカ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク；オルガニスト——リチャード・エリオット、アンドリュー・アンズワース。「わが神、わが王」『賛美歌』87番；「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番；「心に光あり」『賛美歌』139番、ウィルバーク編曲、未刊；「導きたまえよ」『賛美歌』41番；「主はみ子をつかわし」『子供の歌集』20-21、ホフェインズ編曲、未刊；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2010年4月3日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——リン・G・ロビンス長老。閉会の祈り——クレグ・C・クリステンセン長老。音楽——オレムインスティテュート合同聖歌隊；指揮——ライアン・エゲット、アレン・マシューズ；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「来たれ、予言者より」『賛美歌』13番；「救い主の愛」『子供の歌集』42-43、デーリー編曲、ジャックマン刊；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番；「神よ、汝れに近寄らん」『賛美歌』55番、ダフィン編曲、未刊

## 2010年4月3日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——キース・K・ヒルビッグ長老。閉会の祈り——マイケル・ジョン・U・テー長老。音楽——ブリガム・ヤング大学神権者聖歌隊；指揮——ロナルド・ステーリー；オルガニスト——クレグ・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「神は世を愛し」『賛美歌』107番、マクダビット編曲、未刊；「選べ、正義を」『賛美歌』152番、ホール編曲、未刊；「神に栄え」『賛美歌』33番；「鉄の棒」『賛美歌』176番、ステーリー編曲、未刊

## 2010年4月4日 日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ケネス・ジョンソン長老。閉会の祈り——ウォルフガング・H・ポール長老。音楽——タバ

ナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——アンドリュー・アンズワース、クレグ・クリスチャンセン。「On This Day of Joy and Gladness,」*Hymns*, 64番；「主はよみがえりぬ（アレレヤ）」『賛美歌』115番；「This Is the Christ,」ムーディー作曲、ブラッドフォード編曲、ネイチャーシングズ刊；「喜べ、主を」『賛美歌』32番；「主の来られる時」『子供の歌集』46-47、マーフィー編曲、未刊；「主はよみがえりぬ」『賛美歌』114番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2010年4月4日 日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——クリストフェル・ゴールデン・ジュニア長老。閉会の祈り——リチャード・C・エッジリービショップ。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ、ボニー・グッドリフ。「来ませ、王の王」『賛美歌』29番、マーフィー編曲、未刊；「いやしく生まれ」『賛美歌』113番、カセン編曲、ジャックマン刊；「主は生けりと知る」『賛美歌』75番；「主よ、われと共に」『賛美歌』94番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2010年3月27日土曜夜、中央若い女性集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——イレイン・S・ダルトン。開会の祈り——カーリー・ガブラー。閉会の祈り——ケンドリック・スマエリー。音楽——ユタ州リーハイステーク、リーハイ東ステーク、リーハイ北ステーク、リーハイ南ステークの若い女性による聖歌隊；指揮——メリリー・ウェップ；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番、ウェップ編曲、未刊；「Dearest Children, God Is Near You,」*Hymns*, 96番；ワトキンズ編曲、未刊；「Be Strong,」*A Brand New Year: 2010 Youth Celebration* から、未刊；「力強き主よ」『賛美

歌』164番、カセン編曲、ジャックマン刊；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番、ウェップ編曲（高声部）

## 総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができません。インターネットで [conference.lds.org](http://conference.lds.org) を開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

## ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

## 表紙

表紙——トーマス・S・モンソン大管長とフランシス・モンソン姉妹の写真／ジョン・ルーク

裏表紙——ソルトレーク神殿の写真／ウェストン・コルトン

## 大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。

ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、レス・ニルソン、スコット・デービス、リンゼー・ブリッグズ、コーディー・ベル、マーク・ウェインバーク、ウェストン・コルトン、ジュニカ・ヘインツェルマン、ブランドン・フリント、ロバート・ケーシー。アルゼンチン——ルシオ・ジャビエル・フレイトス、クリスティアン・ラファエル・ロベス・フォンセカ。ブラジル——ラウレン・アマデル・フォチェット、アナ・クラウディア・ソリ。チリ——オスカー・シュミットナー。チェコ共和国——ベブ・ロビソン。フランス——カルロス・ゴンザレス。フィリピン——エドウィン・レドリノ。アメリカ合衆国オレゴン州——ジョン・スナイダー



●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30 電話 03-3440-2351 定価 年間予約/海外予約 1,000円(送料共) 普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。 Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」は、www.liahona.lds.org に様々な言語で掲載されています。「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルバニア語, アルメニア語, ビスマラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブア語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ヒンディー語, ハンガリー語, アイスマンド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, シンハラ語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タミル語, テルグ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2010 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用することは複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。 For Readers in the United States and Canada: May 2010 Vol. 34 No. 5. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431) POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト (50 音順)

アイリング, ヘンリー・B, 22, 60
青柳弘一, 36
アンダーセン, ニール・L, 108
アンダーセン, ウィルフォード・W, 16
ウークトドルフ, ディーター・F, 26, 56, 68, 124
オックス, ダリン・H, 47
カールソン, ブルース・A, 38
クック, クエンティン・L, 83
クック, メアリー・N, 117
クリストファーソン, D・トッド, 32
シュワイツァー, グレゴリー・A, 103
スコット, リチャード・G, 75
ダルトン, イレイン・S, 120
ディブ, アン・M, 114
ネルソン, ラッセル・M, 91
バックナー, ボイド・K, 18
バラード, M・ラッセル, 120
ビーナス, フランシスコ・J, 106
フォスター, ブラッドリー・D, 98
ヘイルズ, ロバート・D, 95
ベック, ジュリー・B, 10
ベック, デビッド・L, 54
バドナー, デビッド・A, 40
ベリー, L・トム, 29
ホールストロム, ドナルド・L, 78
ホランド, ジェフリー・R, 44
マクマリン, キース・B, 13
マルティノ, ジェームズ・B, 101
モンソン, トーマス・S, 4, 64, 87, 112
ラズバンド, ロナルド・A, 51
ラント, チェリル・C, 81

テーマ別索引

あ 愛, 68, 98
証, 40, 117
アロン神権, 51, 54, 60
安全, 83
イエス・キリスト, 16, 32, 68, 75, 78, 81, 83, 87, 98, 101, 108, 112
祈り, 13, 114
戒め, 13, 38
癒し, 47
永遠の観点, 101
教えること, 29, 75, 106, 108
親, 95, 106
か 改宗, 改心, 36
学習, 40
家族, 6, 29, 40, 81, 91
家族歴史, 91
家庭, 29, 95
神の特質, 120
神への務め, 22, 54, 60, 95
義, 106
希望, 16
義務, 13, 60, 95
逆境, 78, 101, 124
救助, 22, 36
教会の発展, 4
勤勉, 60
啓示, 10
幸福, 124
子供, 22, 40, 81, 108
さ 裁き, 103
死, 87
自信, 54
従順, 13, 38, 103, 114
祝福, 38
正直, 64

情欲, 44
贖罪, 75, 83
信仰, 16, 47, 56, 120
神権, 6, 56
神権の祝福, 6, 47
神殿, 4, 91
人道支援活動, 4
真理, 32
成長するわたし, 22, 95, 117
聖文, 32, 106, 114, 117
聖霊, 10, 103, 117, 120
総大会, 112
備え, 64
た 父親の務め, 6
忠実, 44
慎み, 18
伝道活動, 51
徳, 120, 123
な 慰め, 68
忍耐, 56, 124
は 母親の務め, 18, 29, 98
美, 120
標準, 64
扶助協会, 10
復活, 87
平安, 78
奉仕, 36, 64, 68
ボルノグラフィー, 44
ま 娘, 18
模範, 18, 95
モルモン書, 40
や 勇気, 114, 117
預言者, 114
ら 靈感, 51
わ 若い女性, 123



トーマス・S・モンソン大管長

# 大会へようこそ

兄弟姉妹の皆さん、イエス・キリストの福音に対する皆さんの信仰と献身に感謝します。

**愛**する兄弟姉妹の皆さん、再びともに集う機会を大変うれしく思います。今回は、教会が組織されてから180年目に当たる大会です。預言者ジョセフ・スミスが真理を求め、見だし、主の指示の下に福音を回復し、教会を組織してくれたことに、わたしたちはどれほど感謝しているでしょうか。

1830年に組織されて以来、教会は着実な成長を遂げています。毎年、さらに多くの人々の生活を変えながら世界中に広がっています。宣教師は力を合わせて、真理

を探し求める人々を見だしています。教会の会員の皆さんに改めてお願いします。新しい改宗者や教会に戻ろうとしている方に手を差し伸べ、愛で包み込み、彼らが教会でくつろげるようにしてあげてください。

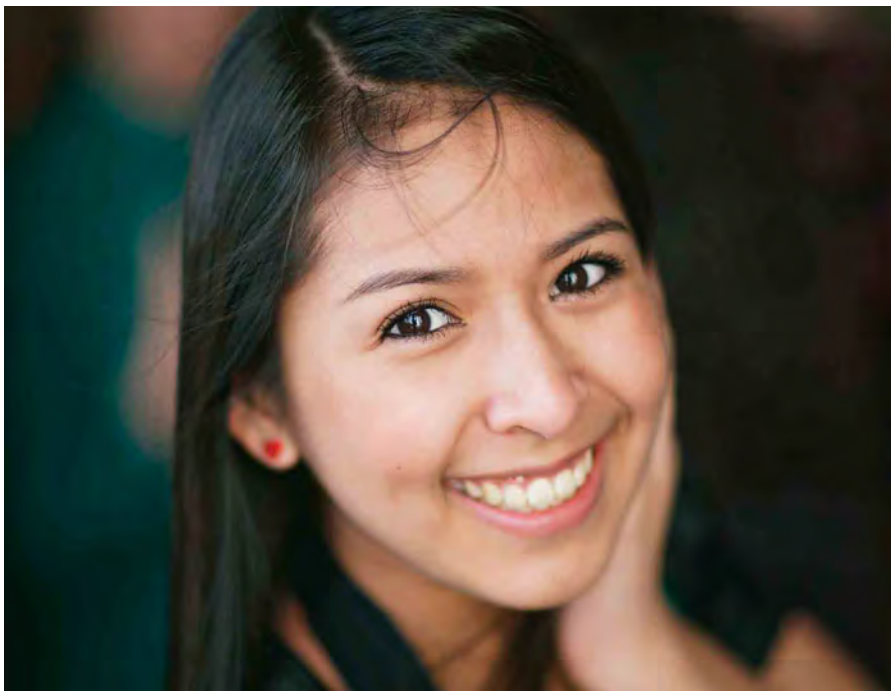
兄弟姉妹の皆さん、イエス・キリストの福音に対する皆さんの信仰と献身に感謝します。ワード、支部、ステーク、地方部での皆さんのすべての働きに感謝します。皆さんは進んですばらしい奉仕を行い、偉大な善を成し遂げています。主に従い、

主の戒めを守ろうと努める皆さんのうえに主の祝福がありますように。

前回の大会以来、教会は世界の様々な場所で人道支援を行い、大きな必要にこたえてきました。過去3か月だけでも、フランス領ポリネシア、モンゴル、ボリビア、ペルー、アリゾナ州、メキシコ、ポルトガル、ウガンダを含む多くの場所で人道支援を行いました。最近では、大地震と津波により被災したハイチとチリで支援を行いました。これらの災害により苦しんでいる教会員の皆さんにわたしたちの愛をお伝えします。皆さんのために祈っています。教会の人道支援活動に進んで加わってくれたすべての人に心からの感謝をお伝えします。皆さんは時間、才能、専門技術などを使い、持てるものを分かち合ってくれました。

この人道支援プログラムが、教会の福祉部門の活動に組み入れられてから今年で25年になります。このプログラムを通して支援を受けた人の数は正確には数えられないほどです。教会はこれからも、世界のどこで災害が起ころうとも、真っ先に駆けつける団体の一つであり続けるつもりです。

教会は発展と前進を続けています。神殿の建設からもその発展ぶりが分かります。先日、教会はユタ州ペイソンに新しく建設される神殿を発表しました。また、ユタ州オグデン神殿の大規模な改修工事についても発表しました。これからの3か月間で、ブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバー、アリゾナ州ヒラバレー、フィリピンのセブシティーで新しい神殿を奉獻します。今年の後半にも奉獻と再奉獻を行う神殿があります。会員数の増加に伴い、教会はこれからも世界中で神殿の建設を進めていきます。神殿では、亡くなった愛する人たちのために毎年何百万もの儀式が執り行われています。自分自身では儀式を受けられない人たちのために、わたしたちが引き続き忠実にこれらの儀式を行っていくことができるよう願っています。

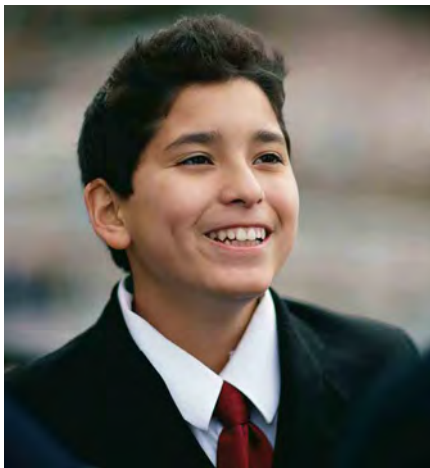




10月の大会の後、わたしの愛する妻フアンシスが倒れ、腰と肩を骨折したことを知っている人も多いと思います。2回行われた手術はどちらも成功し、数週間の入院の後に家に帰ることができました。経過は良好で、全快に向かっています。先週の土曜日には中央若い女性集会にも出席することができました。この総大会でも一つか二つの部会に出席する予定です。実際、妻は直前になって「今日出席するわ」と言い、この部会に出席しています。天の御父と、妻のために祈り、気にかけてくださった皆さんに、妻とともに心からの感謝をお伝えします。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは教えと靈感を受けるために集まりました。教会に入って間もない皆さんを歓迎します。試練、困難、失意と闘い、大切なものを失って悲しんでいる教会員もいます。皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。この2日間で、様々な福音のテーマを扱った多くのメッセージに触れることができます。話者は男性も女性も皆、天からの助けを求めながらメッセージを用意しました。

わたしたちが耳を傾け、学ぶときに、主の御霊に満たされるよう祈ります。そのとおりになるよう、わたしたちの主、救い主イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。■



十二使徒定員会会長  
ボイド・K・パッカー会長

## 神権の力

神権の力が本来あるべき形で家族にしっかりと根付いていないと神権に本来の強さはなく、将来もその力を持つことはないでしょう。

**家**族の中の父親、そして教会のすべての家族に向けて話します。何年も前に、わたしたちはハロルド・B・リー大管長の指示の下で相互調整に着手しました。そのとき、トーマス・S・モンソン大管長はこのように言いました。「今日わたしたちの目の前には、罪、悪徳、邪悪が集結して陣を張っています。……わたしたちが人々を救うために戦うこの戦いは自分たちで計画したものではありません。主の靈感と啓示によって〔定められたものです。〕」<sup>1</sup>

相互調整を行った数年の間に、教会の運営形態は全面的に変わりました。教科課程もすべて再編成されました。組織の目的や組織間の関係が改めて定められました。調整と再編成が行われた数年間のキーワードは**神権**でした。

モンソン大管長はまた、旧約聖書の時代の英雄ギデオンについて話しました。ギデオンはイスラエルの屈強な兵士1,000人を率いる指揮官に選ばれました。しかし、彼がその中から選んだ兵士はわずか300人でした。

ギデオンが兵を選んだ方法は興味深いものでした。小川で水を飲むとき、ほとんどの兵士はひざを折り、「かがんで水を飲〔みました〕。」ギデオンはこれらの兵士を選びませんでした。わずかな兵士だけが、警戒を解かず、手で水をすくって飲み

ました。そして彼らが選ばれたのです。<sup>2</sup>

わたしたちは「様々な地における戦争と戦争のうわさと地震」<sup>3</sup>の起こる時代に生きています。預言されているように「全地が混乱し」<sup>4</sup>「サタンは地の方々に」<sup>5</sup>います。サタンは善良で義にかなったすべての人を滅ぼそうとしています。<sup>6</sup> サタンとは神の御前から投げ落とされたルシフェルです。<sup>7</sup> これらのことにもかかわらず、わたしたちは前途に対して非常に楽観的です。

ギデオンの小さな軍勢が勝利を収めたのは、記録によれば、「おのおのその持ち場に立〔った〕」からでした。<sup>8</sup>

この「時満ちる神権時代」<sup>9</sup>は、御父と御子が少年ジョセフ・スミスに御姿を現されたときに始まりました。<sup>10</sup> 続いて天使モロナイが、ジョセフにモルモン書を含む版が埋められている場所を示しました。<sup>11</sup> ジョセフは版を翻訳する力を与えられました。<sup>12</sup>

翻訳中、ジョセフとオリバー・カウドリはバプテスマについて書かれている箇所を読みました。二人は何をするべきかを知るために祈りました。<sup>13</sup> すると天からの使者としてバプテスマのヨハネが遣わされました。ヨハネは二人に、「天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ」アロン神権を受けました。<sup>14</sup>

次に、主の務めの間最も近くにいた使





徒のペテロ、ヤコブ、ヨハネが現れて、ジョセフとオリバーに大神権<sup>15</sup>すなわち「神の御子の位に従う聖なる神権」を授けました。<sup>16</sup> 聖文によると、この神権はアブラハムが什分の一を納めた偉大な大祭司メルキゼデクにちなんで名付けられました。<sup>17</sup>

このようにして、神権は彼らの権能となりました。二人は神権の鍵を通して天のあらゆる力を行使することができました。彼らは、すべての国民に福音を携えて行くよう命じられました。<sup>18</sup>

イエス・キリストの福音に添って生活することは決して容易ではありません。主がこの世におられたときも、教会の初期の時代にも容易ではありませんでした。初期の聖徒たちは言語に絶する苦しみと敵対を受けたのです。

神権が回復されてから180年以上がたちました。会員数は今や1,400万近くに達しています。それでも地上の何十億の人口と比較すれば、ごくわずかでしかありません。けれども、現在のわたしたちがわたしたちであり、今知っていることがわたしたちの知識です。わたしたちは福音を宣べ伝えるために出て行くのです。

モルモン書には、わたしたちが数におい

て他を圧倒することはないとはっきり書かれています。しかし、わたしたちには神権の力があります。<sup>19</sup>

預言者ニーファイはこのように記しました。「そして、神の小羊の教会が見えたが、この教会に属している者の数は、……少なかった。それでも、神の聖徒である小羊の教会の人々もまた、地の全面にいるのが見えた。しかし、地の面における彼らの占める場所は、……小さかった。」<sup>20</sup>

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう語りました。「世界……と比べればわたしたちはほんの一握りの数でしかない……かもしれません。それでも、わたしたちは救い主が言われたパン種のようなものです。最終的には全世界をふくらませる〔すなわち高める〕ことでしょう。』<sup>21</sup>

わたしたちは全人類に影響を及ぼすことができます。時が来れば必ずそうなります。わたしたちが何者であって、なぜこのような人物であるかが知れわたることでしょう。それは不可能と思えるかもしれませんが、確かに難しいことです。ですが、サタンとの戦いに勝つのは可能であるばかりか、それは確実なことなのです。

何年か前に「すべての長老が知ってお

くべきこと——神権政体の原則に関する手引き」という話をしました。その後の出版の際、わたしは題名を「すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと」と改めました。<sup>22</sup>

姉妹たちを含めたのは、すべての人が、兄弟たちに何が期待されているかを理解することがきわめて大切だからです。母親、娘、姉妹は、夫、父親、息子、兄弟に影響力を持っています。彼女たちの助けを得られなければわたしたちは進歩できません。姉妹たちを軽んじると、神権は大幅に力を失うのです。

神権は、神に代わって行動するために神が地上の男性に与えられた権能であり、力です。<sup>23</sup> 神権の権能を正しく行使するとき、神権者は神がその場におられるなら行われるであろうことを行うのです。

これまで、神権の**権能**の分配はとても順調に進んできました。ほぼすべての地で神権の権能を確立してきました。長老と大祭司の定員会は世界中にあります。しかしわたしは、神権の力の分配は、神権の**権能**の分配ほど進んでいないと思います。神権の力が本来あるべき形で家族にしっかりと根付いていないと神権に本

来の強さはなく、将来もその力を持つことはないでしょう。

ハロルド・B・リー大管長はこのように述べています。「教会には、これまでも今も、よりいっそうの力を注いで**家族**がその神聖な使命を果たせるよう助ける以外の**選択肢はありません**。これは確かであるとわたしは思います。それは、家庭が天の組織であるからだけでなく、このことが、わたしたちが若人にできる最も**実質的な**貢献となるからです。これにより、末日聖徒の家庭における生活の質を向上させるのです。プログラムや組織を通して努力することは大切ですが、それらは家庭に取って代わる**ものではなく、家庭を援助する**ものであるべきです。」<sup>24</sup>

ジョセフ・F・スミス大管長は家庭における神権についてこう話しました。「家庭において管理の権能は常に父親に与えられています。家の事柄や家族の事柄においてこれ以上の権能はありません。この原則は次の例で十分に説明できるでしょう。長老たちは時々、ほかの家族から**いと**の祝福を施してほしいと頼まれることがあります。このような長老の中には、ステーク会長、使徒、ひょっとすると大管長会の一員がいるかもしれませんが。そのようなときに、家族の父親が後ろに下がって、この大切な儀式の執行について長老たちの指示を求めることは正しくありません。父親がそこにいるのです。管理する権利と義務は父親にあります。父親が油を注ぐ人と祈る人を選ぶべきです。教会の管理役員がそこにいるからといって、家庭で福音の祝福を管理する権限が免除されると考えてはなりません。(父親が不在の場合は、その場にいる管理役員に責任を引き受けてくれるよう母親が要請します。) たとえだれがその場にしようと、父親は家族で行うことや祈りを管理し、家族の生活に関する総合的な指示を与えます。」<sup>25</sup>

ベトナム戦争中、わたしたちは兵役に召集された教会員のために特別集会を開いていました。シカゴで開かれた集会が終

わった後、若くて感じの良い末日聖徒がハロルド・B・リー大管長に、ベトナムへの出征命令を受け、出征前に休暇で実家へ戻っていると話していました。わたしも横でその話を聞いていました。青年はリー大管長に祝福をしてほしいと言いました。

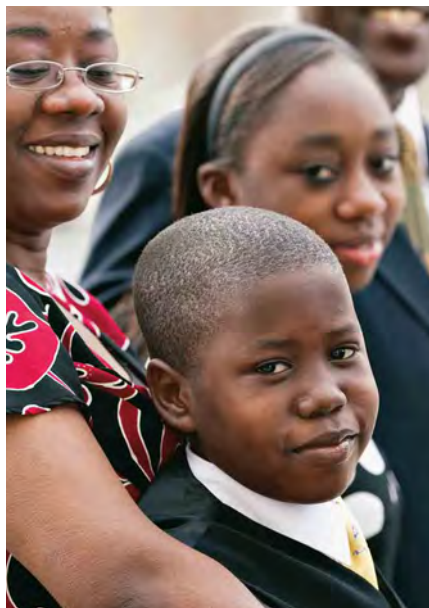
驚いたことに、大管長はこう言いました。「あなたに祝福を授けるべき人はお父さんです。」

青年はとてもがっかりした様子で言いました。「父は祝福の仕方を知らないと思います。」

リー大管長はこう答えました。「さあ、家に戻って、これから戦争に行くので、父親の祝福を受けたいとお父さんに言ってください。もし方法を知らなければ、自分がいすに座るので、お父さんは後ろに立って、頭に手を置き、心に思い浮かんだことを言うように伝えるのです。」

その青年は悲しげな様子で去って行きました。

2年ほどして、場所は思い出せませんが、わたしは青年に再会しました。彼はあの時の経験について話してから、こう言いました。「わたしは言われたとおりにしました。わたしがいすに座るので、頭に手を置いてほしいと説明しました。二人とも神権の力で満たされました。それは命がけの戦闘の日々で、力となり守りとなりました。」



また別の折に遠くの都市を訪れたときのことです。大会が終わってから、わたしたちは指導者を聖任し、任命していました。それが終わると、ステーク会長がこう言いました。「伝道地への出発を控えている青年をご一緒に長老に聖任したいのですが。」もちろんわたしは承諾しました。

青年が進み出ると、ステーク会長は3人の兄弟たちに聖任に加わるよう合図しました。

わたしは、周りにいた人たちの後ろの列に、この青年とそっくりの人がいるのに気づいて尋ねました。「あなたのお父さんですか。」

青年は「そうです」と言いました。

「では、お父さんに聖任してもらいましょう」とわたしは言いました。

青年は「でも、ほかの兄弟に聖任してもらうように頼んでありますから」と言って固辞しました。

そこでわたしは言いました。「お父さんが聖任します。あなたはいつかこの日のことを主に感謝するでしょう。」

すると、父親が前に進み出ました。

幸いにも父親は長老でした。もしそうでなかったとしても、その場で長老になっていたことでしょう。軍隊ではそれを「戦場特進」と呼びます。教会でも時々そのようなことが行われます。

父親は息子を聖任する方法を知りませんでした。わたしは彼の肩に腕を回して、儀式を終えるまで指導しました。父親が儀式を終えたとき、息子は長老になっていました。するとすばらしいことが起きました。父と息子がまったく別人のようになって抱き合ったのです。二人にとって人生で初めての経験だったことは明らかでした。

涙ながらに父親は言いました。「ほかの息子たちは聖任できませんでした。」

ほかの人が聖任していたら、たとえそれが使徒であったとしても、これ以上のことが実現したでしょうか。

現在、神権者は全世界にいます。すべての長老と大祭司、すべての神権者にお



願います。規模は小さくとも屈強だったギデオンの300人の軍勢のように、*自分の持ち場で*立っててください。わたしたちは今、すべての長老、大祭司、定員会、グループ、家庭の父親の中で、全能者の神権の力が目覚めるようにしなければなりません。

主は「世の弱者たちが出て来て、力ある強い者たちを打ち破る」と言われました。<sup>26</sup>

預言者ニーファイも、「神の小羊の力が、地の全面に散っている小羊の教会の聖徒たち、すなわち主の聖約の民のうえに下る」と語り、こう言いました。「彼らは義と神の力とをもって、大いなる栄光のうちに武装していた。」<sup>27</sup>

わたしたちは全員を必要としています。くたびれている人、疲れ果てている人、怠惰な人は、そして罪に縛られている人でさえも、悔い改めと赦しを通して元の位置に戻らなければなりません。神権を持つ兄弟たちのあまりにも多くが、自分の特権に見合わない、主の期待を下回る生活をしています。

わたしたちは神権の崇高な力に信頼を置いて前へ進まなければなりません。全能者の業において自分が何者であり、何を手にして、何をすべきかを知ること、力と励ましを得ることができます。

主は言われました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あ

なたがたは何の約束も受けない。」<sup>28</sup>

神権者のいない家庭は神権定員会が見守り、教え導きます。このようにして、教会のすべての家族が必要な祝福を受けるのです。

何年も前、小柄で年老いたデンマーク人女性のベッドを囲んで、ある家族が集まっていました。その中に、それまで好きなように生きてきた中年の息子がいました。彼は何年もその家に住んでいました。

涙ながらに彼は言いました。「母さん、生きてなきゃだめだよ。母さん、死んじゃだめだよ。行かないで。ぼくは母さんを行かせないよ。」

小柄な母親は息子を見上げて、強いオランダなまりの英語で言いました。「だが、おまえにその力はあるのかい。」

パウロは言いました。

「〔わたしたちは、〕使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、

そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。」<sup>29</sup>

主の業が全地に広がるのは確かです。そして、わたしたちが総力を結集し、一致しなければならぬということもまた事実です。

神権の権能はわたしたちとともにあります。あらゆることが相互に調整され、系統立てられた今、教会において神権の力を

積極的に行使する責任はわたしたちにあります。神権の内にある**権能**は聖任によって与えられます。神権の内にある力は聖約を尊びながら忠実で従順な生活を送ることによって与えられます。義にかなって神権を行使し、用いることによってその力は増し加えられるのです。

さて父親の皆さん、あなたの召しが神聖なものであることを改めて伝えます。あなたには、家庭を守るために主から直接与えられた神権の力があります。サタンが加える攻撃から盾となって家族を守るものが神権の力以外になくなる時がやって来ることでしょう。皆さんは聖霊たまものの賜物を通して主から導きを受けるでしょう。

現在、サタンがこの教会の集会をあからさまに妨害することはありません。あるとしてもそれはまれなことです。わたしたちは基本的に、大きな妨害を受けることなく、望むときに集会を開くことができます。しかしサタンとサタンに従う者たちは、家庭と家族にあきらめることなく攻撃を続けています。

教会のすべての活動の究極の目的は夫と妻と子供が福音の原則と律法によって守られ、永遠の神権の聖約により結び固められて、家庭で幸せに暮らすことです。

すべての律法、原則と力、すべての信条、すべての儀式と聖任、すべての聖約、すべての説教と聖餐せいさん、すべての勧告と矯正、結び固め、召し、解任、奉仕。これは皆、個人と家族の完成を究極の目的としています。なぜなら、主は次のように言っておら

れるからです。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」<sup>30</sup>

わたしたちを守り、導くために教会に与えられた神権の力を証します。神権があるので、わたしたちは将来を恐れません。恐れは信仰の対極にあります。主がわたしたちを、特に家庭の中で、見守ってくださるという確信を胸に、わたしたちは前進します。主について証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. トーマス・S・モンソン, "Correlation Brings Blessings," *Relief Society Magazine*, 1967年4月号, 247
2. 土師7:4-8 参照
3. モルモン8:30. 教義と聖約45:26; ジョセフ・スミス訳マタイ1:23, 28も参照
4. 教義と聖約45:26. 教義と聖約88:91も参照
5. 教義と聖約52:14
6. 教義と聖約10:22-23 参照
7. 黙示12:7-9; 教義と聖約29:36-37; 76:25-26 参照
8. 土師7:21
9. 教義と聖約112:30
10. ジョセフ・スミス—歴史1:17 参照
11. ジョセフ・スミス—歴史1:33-34, 59 参照
12. モルモン書タイトルページ; 教義と聖約135:3 参照
13. ジョセフ・スミス—歴史1:68-69 参照
14. 教義と聖約13:1
15. 教義と聖約27:12-13 参照
16. 教義と聖約107:3
17. 教義と聖約107:2-4 参照。ヘブル7:1-4; アルマ13:15も参照
18. 教義と聖約42:58 参照
19. 1ニーファイ14:14 参照
20. 1ニーファイ14:12
21. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Conference Report*, 1968年10月, 123
22. 「すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと——神権政体の原則に関する手引き」『聖徒の道』1994年11月号, 15
23. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』140; ジョセフ・スミス訳創世14:28-31 参照
24. ハロルド・B・リー, "Preparing Our Youth," *Ensign*, 1971年3月号, 3. 強調付加
25. ジョセフ・F・スミス, *Gospel Doctrine*, 第5版(1939年), 287
26. 教義と聖約1:19
27. 1ニーファイ14:14
28. 教義と聖約82:10
29. エペソ2:20-22
30. モーセ1:39



中央扶助協会会長  
ジュリー・B・ベック

## 「その日わたしは わが霊をはしたために注ぐ」

御霊を受けるにふさわしくなり、御霊を受け、御霊に従って生活しているとき、自分が成功していることが分かります。

この1年、わたしは多くの国で何千人もの姉妹たちに会ってきました。姉妹たちが抱える問題は多く、深刻です。家庭内の悩みもあれば経済的な試練、災難、事故、病気もあります。心を乱すものが多く、平安や喜びは十分ではありません。よくメディアが流しているメッセージとは裏腹に、人生の荒波を避けるに足る財力や美貌、頭脳を持ち合わせている人などいないのです。

姉妹たちが投げかける質問は深刻で核心を突くものです。将来に対する不安や、期待どおりに物事が進まなかったときの悲しみ、決めかねていること、自分の価値に疑問を感じた経験について話してくれます。正しいことをしたいという心からの意欲も見られます。

わたしの中には、神の娘は貴い存在であるという力強い証が育っています。これは姉妹たちのおかげです。姉妹たちと話していて、今ほど信仰と個人の義を増し加える必要に迫られている時代はかつてなかったと感じてきました。今ほど強く結ばれた家族、堅固な家庭が必要とされる時代はありません。今ほど、援助を必要としている人のためにできることがあふれている時代はありません。信仰を増し加え、家族を強め、人に慰めを与えるには

どうしたらよいのでしょうか。<sup>1</sup> どうすれば今日の女性は自分が抱える疑問の答えを見だし、想像を絶する悪や困難を前に毅然として冷静でいられるのでしょうか。

#### 個人の啓示

善良な女性は、気にかけている人全員に手を差し伸べ、行いたいと痛切に感じる善行をすべて実行するだけの時間も元気も機会も持ち合わせてはいないことを承知しているものです。たいいていの女性にとって生きることは生易しいことではなく、日々達成すべきことが無数にあって、しかもそのほとんどが重要なことです。女性は責任から解放されて自分の時間を持つ権利があり、もっと楽で自立した生き方をするべきであるという魅力的で人を惑わす声があちこちから聞こえてきますが、善良な女性はそのような言葉と常に闘わなければなりません。しかし、個人の啓示を受ければ、物事に正しい優先順位を付け、自信をもって人生を歩むことができます。

個人の啓示を受けるにふさわしくなり、啓示を受けてそれに従うという能力は、この人生で身に付けられる技術の中で最も大切なものです。主の御霊を受けるにふさわしくなるには、まず、御霊を受けたい



という望みを持つことから始まり、ある程度のふさわしさが必要になります。戒めを守り、悔い改め、バプテスマのときに交わした約束を新たにすることによって、いつも御子の御霊を受けるといふ祝福を得ることができます。<sup>2</sup> 神殿の聖約を交わし、それを守ることによって、霊的な強さと力が女性の生活に増し加えられます。聖文を読むことによって難しい疑問の答えがたくさん見つかります。なぜなら、聖文は啓示を促すものだからです。<sup>3</sup> 聖文から得る理解力は時とともに蓄積しますから、毎日幾らか時間を割いて聖文を研究することは大切なのです。日々の祈りも、主の御霊を受けるために欠かせません。<sup>4</sup> 祈りと聖文研究を通して熱心に助けを求め人の中には、そばに紙と鉛筆を置いておいて、疑問点を書き出し、受けた印象

や浮かんだ考えを書き留めている人がよくいます。

啓示は、正しいことをしているときに時々刻々与えられるものです。女性はキリストがなさったように養育育てていて助けが必要なときに、力と平安が注がれて、何をすればよいか分かることがあります。例えば母親は、疲れていて、子供たちが注目を引こうと騒ぎ立てているときでも、御霊の助けを感じられます。しかし、子供に怒りを爆発させてしまうと、御霊から遠ざかってしまいます。ふさわしい状態であれば、わたしたちは導きを受けることができます。心を乱さないようにするには意識的な努力が必要ですが、啓示の霊を受けていれば相反する力に打ち勝ち、うまくいかない日が続いても、生活に欠かせない決まり切った作業を繰り返す中でも、信

仰を貫くことができるのです。個人の啓示があれば、信仰と個人の義を増し加え、家族と家庭を強め、助けを必要としている人を見つけるために、日々何をしたらよいか分かるようになります。個人の啓示は常に新たな力を与えてくれますから、試練の中でもふんだんに助けを受けることができるのです。

わたしたちは、「公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁くように」導く御霊に頼るよう言われています。<sup>5</sup> また、御霊はわたしたちの思いを照らし、霊に喜びを満ちし、なすべきことをすべて教えるとも言われています。<sup>6</sup> 約束された個人の啓示は、それがわたしたちに注がれると信頼しながら、願い求め、備え、信仰をもって前進しているときに与えられます。

#### 扶助協会 —— 教え、靈感と力を与える場

さらに、主はその知恵によって、この末日に生きる娘たちを助けるために扶助協会を与えてくださいました。靈感された方法で扶助協会がその役割を果たすならば、女性は乱れた世の中から引き上げられて永遠の命という祝福に備える生き方ができるようになります。この組織の中核には、姉妹たちの信仰と個人の義を増し加えて家族と家庭を強め、援助が必要な人を探し出して助けるという責任があります。扶助協会を通して、姉妹たちは疑問に対する答えを得、すべての姉妹の一つになった霊的な力から祝福を受けるのです。扶助協会は、神の娘の真実で永続する特質を確かなものとします。それは聖なる務めであり、導きの光であり、強く確固とした者となるよう神の娘たちを教え、励ますよう心を配るシステムです。扶助協会の掲げる「愛はいつまでも絶えることがない」<sup>7</sup> というモットーは、すべての善良な女性の中に生きています。

少女が成長して扶助協会に入ったり、女性がバプテスマを受けて教会に入ったりすると、姉妹の輪の中に入り、強められ、永遠の命を受ける備えをします。扶助協



会に入るといことは、女性が教会の中で大きく貢献することを期待され、信頼されることを意味します。そして、人前で功績をたたえられることなく個人として成長し続けるのです。

第2代中央扶助協会会長エライザ・R・スノーは、姉妹たちに次のように語りました。「わたしたちは行いにおいて立派な女性になりたいと思っています。世の中の人が女性という言葉から連想するような女性ではなく、神と聖なる御子とともに働くにふさわしい者になりたいのです。善いことを行うだけでなく、自分自身を磨くことによって、組織的に助け合うことができます。そして、進み出てこの偉大な業の遂行を助けようとする人の数にかかわらず、神の王国の中で栄えある地位を占めるのです。……女性は女性でなければならず、常に褒めたりしかったりしなければならぬ赤ん坊であってはなりません。認められたいという気持ちがあることは分かりますが、当然と思われる評価を受けられなかったとしても、それが何だというのでしょうか。わたしたちは主から大いなる責任を課せられていることを知っています。主がわたしたちの心に植え付けてくださる義にかなった望みや願いの中で、実現しないものはないのです。そして、自分たちのため、お互いのためにできることで最も大切なのは、こうした責任にふさわしい者となるた

めに、人を高める好ましいすべての事柄において自分を磨き、高めることです。」<sup>8</sup>

### 成功の尺度

善良な女性は常に、自分が成功しているかどうか知りたいと願うものですが、成功の尺度がゆがめられがちな世の中にあって適切な尺度で認められ、支持されることが大切です。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』にあるリストを分かりやすく言い換えると、キリストの特質をはぐくみ、主の福音に厳密に従おうと努めているとき、わたしたちは成功していることになります。自分を高め、最善を尽くしているとき、わたしたちは成功しているのです。信仰と個人の義を増し加えているとき、家族と家庭を強固なものにしているとき、援助が必要な人を探し出して助けているとき、わたしたちは成功しています。御霊を受けるにふさわしくなり、御霊を受け、御霊に従って生活しているとき、自分が成功していることが分かります。最善を尽くしていてもなお落胆を経験することはありますが、自分に落胆してはなりません。御霊があなたを通して働いていると感じるとき、主はあなたを喜んでおられると確信できます。<sup>9</sup> 成功を正しい尺度で測る人は、平安と喜び、希望を得られます。

ヨエル書にある啓示には、終わりの日には、神の娘たちは預言をし、主はその御霊

をはしたために注ぐという宣言が書かれています。<sup>10</sup> スペンサー・W・キンボール大管長は、この預言を繰り返して、次のように語っています。「終わりの時に教会に大きな発展がもたらされようとしています。その多くは、世界中にいる善良な女性たち（彼女たちは多くの場合優れた霊性を備えています）が大勢教会に引き寄せられることが理由となって起きるでしょう。これがどの程度の規模になるかは、教会の女性たちがどの程度まで義を反映した生活を送り、自分をしっかりと表現できるか、また、どの程度まで世の中の女性と良い意味で区別され、異なって見られるかによって決まるでしょう。……このように、教会の女性の模範は、終わりの時における教会の数のうえでの発展と霊的な成長の両方において、大きな力となるでしょう。」<sup>11</sup>

イエス・キリストの福音が真実であることを証します。シオンの家庭を堅固なものとし、地上に主の王国を築くために、神の娘たちが自分の役割を果たしてくれるよう、主は期待しておられます。姉妹たちが個人の啓示を求め、それを受けるにふさわしくあるなら、主はその御霊をこの末の日に主のはしたために注いでくださるでしょう。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

### 注

1. モルモン書ヤコブ2:17; モーサヤ4:26; 教義と聖約38:35; 44:6 参照
2. 教義と聖約20:77 参照
3. 2ニーファイ32:3 参照
4. 3ニーファイ19:24-33 参照
5. 教義と聖約11:12
6. 教義と聖約11:13-14 参照
7. 1コリント13:8
8. エライザ・R・スノー、リーハイワードの扶助協会に向けた講話。1869年10月27日、アルパイン(ユタ)ステーク、リーハイワード、Relief Society, Minute Book, 1868-79, 教会歴史図書館、ソルトレーク・シティー, 26-27
9. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』10-11 参照
10. ヨエル2:28-29 参照
11. スペンサー・W・キンボール「義なる女性の役割」『聖徒の道』1980年3月号, 142-143 参照



管理ビショップリック第二顧問  
キース・B・マクマリンビショップ

# わたしたちの義務の道

義務は完全を要求しませんが、勤勉さを求めます。義務は、ただ法律に添うというだけでなく、道徳にかなうということです。

**世**の中には問題があふれています。あらゆるところで不和と災難が起っています。人類そのものが脅かされているかのように思われるときもあります。

この時代を予見して、主はこう言われました。「天が震え、地も震えるであろう。そして、ひどい艱難が人の子らの中にあるが、わたしは自分の民を守ろう。」<sup>1</sup> この約束は大きな慰めを与えてくれるでしょう。

災難によって「[わたしたちの] 穏やかな日々さえもが」<sup>2</sup> 完全に乱されたとしても、必ずしもいつまでも打ちひしがれている必要はありません。災難は、「[わたしたち] の義務を思い出すように促し、<sup>3</sup> 「神への義務感を [わたしたちに] 自覚させ」<sup>4</sup>、「自分の義務の道に」<sup>5</sup>とどまらせてくれるのです。

第二次世界大戦中のオランダで、キャスパール・テン・ブームと彼の家族は、ナチスに追われていた人々を自宅にかくまっていました。それは彼らにとって、キリスト教として信仰を実践する方法だったのです。隠れ家を提供したことで、家族のうち4人が命を失いました。コリー・テン・ブームと姉のベッツィーは、悪名高いラベンズブルック強制収容所で悪夢のような数か月を過ごしました。ベッツィーはそこで亡くなり、コリーは生き延びました。

ラベンズブルックで、コリーとベッツィーは、人を救えるように神が助けてく

ださることを学びました。戦争の後、コリーはこのメッセージを人々に伝えようと決心します。戦禍に苦しむ人々に向けてドイツで話をしたときのことです。「神は救したもう」というテーマで話をしました。そのとき、忠実であり続けたコリー・テン・ブームに祝福が注がれたのです。

ある男性が近づいて来ました。コリーは、彼が収容所で最も無慈悲な看守の一人だったことに気づきました。彼は言いました。「ラベンズブルックの話を読みましたね。わたしはそこで看守をしていました。でも、その後でキリスト教になりました。」その人は、自分が行った残酷な仕打ちについて神に赦しを求め続けていることを話



した後で、手を差し出してコリーに尋ねました。「わたしを赦していただけますか。」

コリー・テン・ブームはこう語っています。「彼が手を差し出して立っていたのは、ほんの数秒にすぎなかったでしょう。しかし、それまでの人生で最も難しいことを求められ葛藤していたわたしには何時間にも思えました。

……神は救したもうというメッセージには……わたしたちが自分を傷つけた人を赦すという条件が付いているのです。

……わたしは心の中で祈りました。『お助けください。手を差し出せますように。大きな一歩を踏み出せますように。赦す気持ちをお与えください。』

……わたしは差し出された手に、ぎこちなく、機械のように自分の手を当てました。その途端、信じられないことが起こりました。肩から電気が走り、腕を伝って、つないだ二人の手に流れ込んだのです。癒しのぬくもりが体全体に満ちるようで、涙があふれました。

『あなたを心から赦します、兄弟。』わたしは泣きながら言いました。

かつての看守とかつての囚人は、長い間手を握り合っていました。そのときほど、神の愛を強く、深く知ったことはありませんでした。』<sup>6</sup>

悪を避け、善い人生を送り、明るい一日を過ごせるように努力し、神の戒めを守るなら、たとえ悲劇に見舞われたとしても、事態は好転し続けるでしょう。救い主は道を示されました。主はゲツセマネ、十字架、そして墓から勝利のうちによみがえり、すべての人に命と希望をお与えになりました。主は「わたしに従ってきなさい」<sup>7</sup>と告げておられます。

トーマス・S・モンソン大管長はこのように勧告しました。「自信をもって堂々と生きたいのであれば、人のために何かをしなければなりません。主の御心を遂げ、みもとに戻って天の御父と住みたいのであれば、戒めを守り、救い主に倣って生活しなければなりません。そうすることに



よって、永遠の命という目標に到達できるだけでなく、義務を果たして生きなかつたときよりも、豊かで良い世界を残してこの世を去ることができるのです。』<sup>8</sup>

聖書には次のような霊感あふれる言葉が記されています。「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である〔訳注——英語で「人の本分」は duty of man 「人の義務」の意。〕」<sup>9</sup>

義務とは何でしょうか。

わたしが語る義務とは、行うように期待されていること、なるように期待されている人物のことです。個人と地域社会に求められている道徳的な責務であり、正しく、真実で、称賛すべき事柄です。義務は完全を要求しませんが、勤勉さを求めます。義務は、ただ法律に添うというだけでなく、道徳にかなうということです。有力で地位の高い人だけがかわかるものでもありません。むしろ個人の責任や誠実さ、勇氣の土台となるものです。義務を果たすことは信仰を示すことです。

このことについて、モンソン大管長はこう

語りました。「わたしは『義務』という高潔な言葉が好きで、大切にしています。』<sup>10</sup> イエス・キリストの教会の会員にとって、義務の道とは日々の生活で聖約を守ることです。

わたしたちはだれに、また何に義務を負っているのでしょうか。

まず、わたしたちは永遠の父なる神に義務を負っています。御父は救いの計画の創始者であり、「天地を形造られた御方」であり、アダムとエバの創造主であられます。<sup>11</sup> 真理の泉であり、<sup>12</sup> 愛を体現された御方であり、<sup>13</sup> キリストによる贖い<sup>あがな</sup>が存在する理由であられます。<sup>14</sup>

ジョセフ・F・スミス大管長は言いました。「わたしたちの持つあらゆるものは〔神〕から来ています。……わたしたちは内側も外側も、命のない粘土の塊にすぎません。命、英知、知恵、分別、判断力<sup>たまもの</sup>など、すべては神が人の子らに下さった賜物です。神は体力と精神力を与えてくださっています。……英知、力、理解、知恵など、持てるすべての力を尽くして神を敬うべきです。わたしたちは世にあって善をなそうとす

るべきです。これがわたしたちの義務なのです。』<sup>15</sup>

人は、神の御子、主イエス・キリストに対する義務を果たさずに、父なる神に対する義務を果たすことはできません。御一方をあがめるには、もう一方の御方を敬うことが求められます。なぜなら、人はキリストの御名により、またキリストの御名を通じてのみ、課せられた義務を完全に果たすことができると御父が定められたからです。<sup>16</sup> 主は模範であり、贖い主であり、わたしたちの王であられます。

神への義務を果たす男性、女性、少年、少女は、互いに対して、また家族、教会、国家、そして自分に託されているすべてのものに対して義務を果たすべきだという思いに駆られます。才能を伸ばし、法律を守る善良な人となる義務を負います。そして謙遜で、従順で、容易に勧告<sup>げんそん</sup>に従うようになるのです。節度があるので私欲に打ち勝ち、従順なので勤勉になります。平安が彼らを覆います。市民は忠実になり、慈悲に富んだ地域社会が築かれ、隣人は友となります。天の神は喜ばれ、地には平



和が満ち、この世はより良い場所となるのです。<sup>17</sup>

危機のさなかにあるとき、義務の道どのように知ることができますか。

それは祈りによってです。あらゆる人にとって、祈りこそが知識への確かな道であり、天へと通じる命綱です。使徒ペテロは言いました。「主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈にかたむく。」<sup>18</sup>

一人一人が謙遜に、心から、靈感によって祈りをささげるとき、必要としてやまない神の導きを頂くことができます。ブリガム・ヤングは勧告しました。「人々は様々な問題を抱え、心配事や問題が山積し……心を乱されることがあります。けれどもわたしたちの良識に照らしてみれば、……**祈る義務がある**ことが分かります。」<sup>19</sup>

イエスは教えておられます。

「あなたがたは誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らなければならない。……

だからあなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。

あなたがたの妻子が祝福を受けるよう

に、あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい。」<sup>20</sup>

祈りが効力のあるものとなるには、天の計画と一致していなければなりません。信仰の祈りは、そのような一致があるときに実を結びます。この一致は、祈りが聖なる御霊によって靈感されているときに起こります。御霊はわたしたちに何を願う求めるべきかを示してください。<sup>21</sup> この靈感された導きがなければ、わたしたちは「悪い求め方を〔し、〕」<sup>22</sup>「御心」ではなく、<sup>23</sup>自分の思いを求めてしまいがちです。祈るときに聖なる御霊の導きを受けることが大切であるように、祈りの答えを受けるときも、同じ御霊に照らされなければなりません。天の祝福はそのような祈りによってもたらされます。なぜなら、御父は「求めない先から、〔わたしたちに〕必要なものはご存じ」<sup>24</sup>であり、真心からの祈り一つ一つにこたえてくださるからです。結局、次のように約束してくださるのは御父と御子なのです。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、

あけてもらえるであろう。」<sup>25</sup>

わたしたちの義務の道は、永遠の父なる神と御子イエス・キリストを一心に信じることによって、また祈りの力によって、はっきりと示されることを証します。この道は、神を愛し、神の戒めを守りたいと願うすべての神の子供たちが歩むべき道です。この道によって、若人は、自分で何かを達成し、備えることができるようになります。この道によって、大人は、信仰と決意を新たにすることができるようになります。この道によって、年配の人は、大局を見極め最後まで義になくなって堪え忍べるようになるでしょう。義務の道により、すべての忠実な旅人は主の力をまとい、日々直面する悪から守られ、「事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。**これはすべて人の本分である**」<sup>26</sup>という知識を与えられるのです。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. モーセ7:61。強調付加
2. ジョセフ・F・スミス, *Gospel Doctrine*, 第5版 (1939年), 156
3. モーサヤ1:17
4. アルマ7:22
5. ヒラマン15:5
6. コリー・テン・ブーム, *Tramp for the Lord* (1974年), 54-55
7. ルカ18:22
8. トーマス・S・モンソン, 許可を得て掲載
9. 伝道12:13。強調付加
10. トーマス・S・モンソン「召しの義務」『聖徒の道』1996年7月号, 51
11. 教義と聖約20:17-19参照
12. 教義と聖約93:36参照
13. 1ヨハネ4:8参照
14. ヨハネ3:16; ヒラマン5:10-11参照
15. ジョセフ・F・スミス, *Conference Report*, 1899年10月, 70。強調付加
16. モロナイ10:32-33; 教義と聖約59:5参照
17. アルマ7:23, 27参照
18. 1ペテロ3:12
19. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』47。強調付加
20. 3ニーファイ18:18-19, 21
21. 教義と聖約50:29-30参照
22. ヤコブの手紙4:3
23. マタイ6:10
24. マタイ6:8
25. マタイ7:7。Bible appendix, Joseph Smith Translation, Matthew 7:12-13も参照
26. 伝道12:13。強調付加





七十人  
ウィルフォード・W・アンダーセン長老

## あがな 贖い主の岩

主の戒めを守る人は信仰と希望が増し、人生のあらゆる試練に打ち勝つ力が与えられると証します。

何年も前に、家族とともにイリノイ州ノーブーを訪れました。そこは初期の聖徒たちが避け所を求めた地です。多くの聖徒が家と農場を失いました。その中には激しい迫害によって愛する人を失った聖徒もいました。彼らはノーブーに集まり、美しい町を新たに築きました。しかし容赦ない迫害のため、1846年までに、しかも今度は真冬に、再び家を手放さざるを得なくなりました。彼らはパーリー通りに馬車を連ねて、凍りついたミシシッピ川を渡る順番を待ちました。これから未知の世界へと旅立つのです。

彼らの絶望的な状況に思いをはせながらパーリー通りにたたずんでいたわたしの目を引いたのは、フェンスの支柱に打ちつけられた板でした。その板には、この苦境の中にあつた聖徒が日記に記した言葉が刻まれていました。一つずつ読んでみて驚いたのは、わたしたちが彼らの言葉の中に見いだしたのは、落胆や絶望ではなく、確信、決意、さらには喜びだったということです。彼らは希望に満ちていました。1846年2月のサラ・デアモン・リッチの日記からの引用文に、その希望が表れています。「冬のさなかにこのような旅に出発するなんて……まるで死の淵へ歩いて行くようなものでした。けれどもわたしたちには信仰がありました。……解放の日が来たことを喜んでいました。」<sup>1</sup>

この初期の聖徒たちには家はなくとも、

確かに希望がありました。心は傷ついていましたが、霊は健やかでした。彼らは深遠で大切な教訓を学んでいました。希望には常に平安と喜びという祝福が伴い、希望は境遇に左右されないということを学んでいました。彼らは、希望の真の源は信仰すなわち主イエス・キリストと主の無限の贖罪への信仰であり、それが人生の確かな基であることを見いだしていました。

今日、この大切な原則を実践している、別の開拓者たちがいます。1月12日火曜日に、大地震がハイチを襲いました。この地震によって首都ポルトープランスは壊滅しました。その衝撃はすさまじく、推定100万人が家を失い、死者は20万人を超えると報じられています。

かつてないほどの国際支援が行われた



一方で、ポルトープランスではもう一つのすばらしく感動的な救出活動が進行していました。その活動を指揮したのはハイチの地元教会指導者から成る委員会で、神権の秩序に従って組織され、靈感に基づいて運営されました。委員会にはポルトープランスの二人のステーク会長と二人のステーク扶助協会会長、そして伝道部会長が含まれていました。この30歳の伝道部会長はハイチ・ポルトープランス伝道部で働く74人の専任宣教師を管理しています。彼が管理する宣教師は全員ハイチ人で、奇跡的にも、この大地震でけがをした宣教師は一人もいませんでした。

皆さんの多くから寄せられた惜しみない寄付を含む教会の資源が、これら地元の靈感あふれる指導者の手に届けられています。このような寄付に対して、ハイチの人々は深く感謝しています。委員会の指示の下で、トラックに満載された物資がドミニカ共和国から直ちに到着しました。地震から数日で、飛行機に満載された食糧、浄水装置、テント、毛布、医療用品が届けられ、医師団が到着しました。

ポルトープランス内外の9つの礼拝堂はほとんど被害を受けなかったことも、驚くべき奇跡でした。地震後数週間にわたって、これらの礼拝堂は5,000人以上のハイチの人々の避難所となり、食糧や水を配給し、治療を施す基地として使用されました。基本的な必要が満たされ、秩序が回復し始めています。

ハイチの忠実な聖徒の苦しみは大きいのですが、彼らは将来に対して大きな希望も抱いています。1846年の初期の開拓者のように、心は傷ついています。霊は健やかです。ハイチの聖徒たちも、希望と幸福と喜びは、境遇によるのではなく、主を信じる信仰により生まれることをわたしたちに教えてくれています。

預言者モルモンも困難な境遇に置かれていましたが、次の教えを理解し、明確に教えてくれています。

「また、わたしの愛する同胞よ、わたし

は希望についてあなたがたに話したいと思う。……

……見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの贖罪……によって……望まなければならない。あなたがたがキリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるのである。

したがって、もし人に信仰があれば、必ず希望もあるに違いない。信仰のない希望はあり得ないからである。』<sup>2</sup>

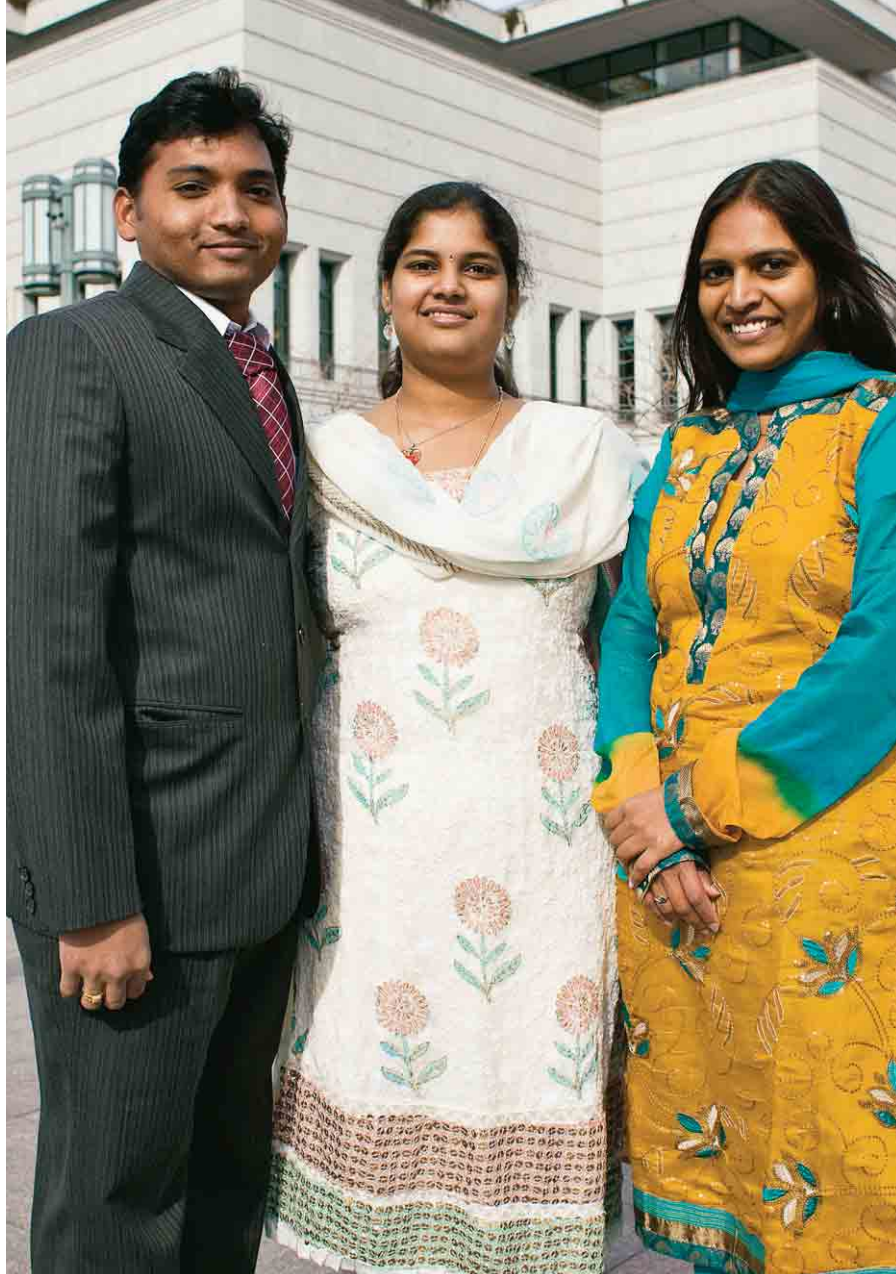
希望はイエス・キリストへの信仰から生じます。すでに世に打ち勝った主は、わたしたちが主に頼り、信じて従いさえすれば、涙をぬぐい取ると約束しておられます。<sup>3</sup>

今この瞬間に打ちひしがれ落胆している人は、果たして希望を取り戻せるだろうかと思うかもしれません。もし皆さんがそうであるなら、希望は信仰の結果生じることを思い出してください。希望を築きたければ、信仰を築く必要があります。

救い主への信仰は、単に信じる以上のことが求められます。使徒ヤコブは、悪霊たちでさえ信じておののいていると教えました。<sup>4</sup> しかし、まことの信仰には行動が要求されます。悪霊とこの教会の忠実な会員との違いは、信じるのではなく行動することにあります。戒めを守るにより信仰が増します。戒めを守るには行動しなければなりません。『聖句ガイド』にはこのように記されています。「奇跡が信仰を生み出すのではなく、イエス・キリストの福音に従うことによって強い信仰ははぐまれるのである。言い換えれば、信仰は義から生じるのである。』<sup>5</sup>

罪を悔い改め、救い主に従うために最善を尽くすことを約束し、神の戒めを守るよう努力していると、贖いによって万事うまく行くという確信が増し始めます。そのような気持ちは聖霊によって強められます。聖霊は、開拓者が「無益な憂い」と呼んだものを取り除いてくださいます。試練を受けていても、幸せな気持ちに満たされ、まことに「すべては善し」<sup>6</sup>と歌いたくなります。

臨床的うつ病の現実を過小評価するつ



もりはありません。うつや不安を取り除くには有能な専門家への相談を必要とすることがあります。けれどもわたしたちのほとんどにとっては、幸福の計画の創始者に信頼を寄せ、平和の君に対する信仰を増すときに、悲しみや恐れが解消され始め、幸福と平安が取って代わります。

最近、わたしの親しい友人が<sup>がん</sup>で亡くなりました。彼とその家族は偉大な信仰を持っていました。その非常に難しい時期を彼らが信仰によって乗り越えるのを目にしたときに感動を覚えました。彼らは心に満ちていた平安によって支えられ、力づけられました。遺族の許可を得て、彼が他界する数日前に彼の娘が書いた手紙を紹介します。

「ここ数日は特につらかったです。……

昨晩、皆で父のベッドを囲んだとき、主の御霊をはっきり感じました。御霊はわたしたちを慰めてくださいました。わたしたちは穏やかな気持ちになりました。……わたしたちのだけれも、こんなつらい経験は今までしたことがありませんでしたが、天のお父様が再び家族として生活できることを約束しておられるのをはっきりと知っている……わたしたちは平安です。病院で医師から万策尽きたと言われたとき、父は完全な信仰をもってわたしたち全員に目を向け、はっきりと尋ねました。『この中に、救いの計画は受け入れ難いと感じている人がいるかな。』だれもいませんでした。皆、救いの計画に完全な信頼を寄せるよう教えてくれた父と母に感謝しています。』



十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード長老

苦しんでいる人、嘆き悲しんでいる人、この世の試練や問題に今直面している人やいづれ直面する人すべてに申し上げます。悩んでいる人、心配している人、失意にあるすべての人に申し上げます。それは世が始まって以来、愛に満ちた御父が子供たちに絶えず与えてこられた慰めの言葉です。

「……覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の電と大風があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」<sup>7</sup>

わたしは証します。主は世に打ち勝たれました。主は御自分の手のひらに彫り刻んだわたしたちを、決して忘れてたり、見捨てたりはなさいません。<sup>8</sup> 主の戒めを守る人は信仰と希望が増し、人生のあらゆる試練に打ち勝つ力が与えられると証します。彼らは人知ではとうてい計り知ることのできない平安を得るでしょう。<sup>9</sup> イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. サラ・デアーモン・リッチの言葉、キャロル・コーンウォール・マドセン、*Journey to Zion: Voices from the Mormon* (1997年)、173 - 174 で引用。原文 [英文] においては、つづりは現代の用法に修正。
2. モロナイ 7: 40 - 42
3. 黙示 7: 14 - 17 参照
4. ヤコブの手紙 2: 19 参照
5. 『聖句ガイド』「信仰」
6. 「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17 番
7. ヒラマン 5: 12
8. 1 ニーファイ 21: 16 参照
9. ピリピ 4: 7 参照

## 母と娘

この終わりの時にあって、親と子が互いの言葉に耳を傾け、学び合うことは不可欠であり、きわめて大切です。

**兄** 弟姉妹、6か月前、わたしは総大会の神権部会で父親と息子の皆さんに向けて話しました。すでに察している方もいるかもしれませんが、その後、5人の娘、24人の孫娘、そして増え続けるひ孫娘たちから、それでは不公平だと言われています。そこで今日は、おもに教会の母親と娘の皆さんに向けて話します。

愛する妻のバーバラは、娘や孫娘たちに永遠にわたる重要な影響を与え、逆に彼女たちからも同じ影響を受けてきました。世の中では悪い影響力が女性と母親の役割をおとしめ、ねじ曲げていますが、母と娘は手を取り合って無限の可能性の道をたどるといふ、とても重要な役割を果たします。

1世紀近く前、ジョセフ・F・スミス大管長は教会の女性たちに向かってこのように話しました。「称賛に値する、神に近づくためのあらゆる事柄、人の子らを高め、清めるすべての事柄について、……あなたがたは世の女性たちによって導かれるのではなく、……世の女性たちを導くのです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』184)

姉妹の皆さん、創世の前から神が皆さんに与えられた業をわたしたち兄弟が行うことはできません。やってみようとしても、皆さんだけに与えられた賜物をまねしようと望むことすらできません。この世に

は、義にかなった女性の影響力ほど個人的で、人を養い、人生を変えるものはないのです。

若い女性の中には、このような事柄について話し合える母親のいない人もいることを、わたしは承知しています。現在、娘のいない女性も多くいます。しかし、神の属性として、すべての女性には母親のように優しく人をいたわるという生来の能力と責任があるので、これからお話することのほとんどは、時としてこの重要な母と娘の関係を補うことになる祖母、おば、姉妹、継母、義理の母、指導者、助言者にも同じように当てはまります。

若い女性の皆さん、お母さんはあなたを心から愛しています。新しい世代である皆さんに大きな期待を寄せています。皆さんが何かを達成し、克服する度に心から喜んでくれます。そしてまた、皆さんの悩みと悲しみは、お母さんの悩みと悲しみでもあるのです。

今日は、若い女性の皆さんに、お母さんとの関係を最大限に活用する方法を提案しましょう。それから母親の皆さんにも、娘さんとほかの家族に最も良い影響を及ぼす方法についてわたしの考えを伝えましょう。

残念ながら、現在の社会では女性のほんとうの姿を分からなくさせたり、間違っ理解させたりするものが嫌というほどあります。慎みがなく、不道徳で節度のない



女性がテレビやラジオにあふれ、雑誌のページを埋め、映画のスクリーンに登場し、世の喝采を浴びています。使徒パウロは、終わりの時に来る「苦難の時代」について預言したとき特にある事柄について触れ、そのことを「さまざまの欲に心を奪われて、多くの罪を重ねている愚かな女ども」と表現しています(2テモテ3:1, 6)。パウロはこれを特に危険な苦難だと感じたのかもしれませんが、今日多くの人に受け入れられている文化では、女性のことを、愚かで、取るに足りない存在、思慮が浅くて、何もできない存在のように見せることがよくあります。女性を人として見なさず、尊重せず、女性は性的な魅力でしか人類に大きな影響を与えられない存在だと言うのです。これは、サタンが女性に送るメッセージであり、世の中に蔓延する大きな危険をはらんでいます。

ですから、若い女性の皆さん、心から強くお勧めします。現代の文化を手本にしたり、そこから助言を求めたりしないでください。従うべき模範として、信仰深いあ

なたのお母さんに頼ってください。主の標準に従っておらず、また永遠の観点に立った価値観を持っていないであろう有名人ではなく、お母さんを手本にしてください。お母さんに頼ってください。彼女の強さ、勇気、忠実さから学んでください。お母さんの言葉に耳を傾けてください。お母さんは携帯電話でメールを送るのが苦手かもしれませんが、フェイスブックにも登録していないかもしれませんが、心について、また主については豊かな知識があります。皆さんが結婚の時を迎えるとき、若い母親になるとき、お母さんは知恵の源となってくれます。この地上でこれほどまでにあなたを愛してくれる人はほかにいません。皆さんのために進んで犠牲を払い、皆さんがこの世でも永遠にも幸せになるよう励まし、助けてくれる人はほかにはいないのです。

若い姉妹の皆さん、お母さんを愛してください。尊敬してください。耳を傾けてください。信頼してください。お母さんは心からあなたの最善を願っています。あなた

の永遠の安全と幸せを願っているのです。ですから、優しくしてあげてください。お母さんには不完全なところがあります。それを忍耐してください。わたしたちは皆、不完全なのですから。

次に母親の皆さん、母が娘の人生で果たす特別な役割について、わたしの考えを話しましょう。わたしの家族ぐるみの友人で、よく親戚と旅行する女性がいます。旅行から帰る度に、彼女から若い女性というものとは母親と同じように行動するものだと聞かされます。母親が儉約家なら娘もそうですし、母親が慎み深ければ娘も同じです。サンダルを履き、普段着で聖餐会に出席する母親の娘は、同じような服装をします。母親の皆さん、娘さんは認めないかもしれませんが、彼女たちにとってあなたの模範はきわめて大切なのです。

世界の歴史を通して、女性はいつも道徳的価値観を教える役割を果たしてきました。女性が与える教えはゆりかごの中から始まり、子供たちの生涯を通じて続きます。今日、わたしたちの社会は、女性と



母親について危険なまでに邪悪で、誤ったメッセージの攻撃にさらされています。そうしたメッセージに従うなら、娘さんは罪と自滅の道に足を踏み入れてしまうでしょう。彼女たちは、皆さんが教えなければ、また、教えるだけでなく、良い選びをする方法を模範で示さなければ、そのことを理解できないかもしれません。イスラエルの母親である皆さんは、世の誘惑にさらされている娘さんの防御の最前線なのです。

さて、母親の皆さん、大切な教訓を伝えようとしても子供が耳を貸そうとしないと感じるときがあることをわたしは理解しています。実際、わたしも10代の子に大切な話をしている、さあ、ここからがいちばん大事な部分だというときに、その子がうつろな目をしていたことを覚えています。しかしこのことは知っててください。まったく聞いていないと思えるときでも、娘さんはあなたの発言と行動が一致しているかを観察しながら学んでいるのです。ラルフ・ワルド・エマーソンは次のように語ったと言われています。「人格は言葉よりも行動から分かるものである。」(ラルフ・キーズ, *The Quote Verifier* [2006年], 56 参照)

子育ては楽しいという気持ちが育つよう娘さんを教えてください。そうするならば、お子さんの愛と才能は、最も偉大な、永遠の意味を持つようになります。これを

念頭に置いて、ハロルド・B・リー大管長の次の教えについて考えてください。「あなたが行く最も大切な……業は、あなた自身の家庭という囲いの中にある。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』134) この教えはすべての人に当てはまりますが、母と娘の関係を考えるとき、特に力強く響きます。

母親の皆さん、神の忠実な娘はうわさ話や人を裁こうとする誘惑を避けるものであるということを娘さんに教えてください。預言者ジョセフはノーブーの扶助協会への説教で次のように勧告しました。「舌は制しにくい器官です。重要でない事柄については黙っててください。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』455)

ここ数年、人のことを悪く言ったり「意地悪な」態度を執ったりする女性や少女を主人公にするような記事、書籍、映画がたくさん出回っています。サタンは常に、女性が神から受け継いだ最も貴い特質、すなわち養い育てるという特質を損なおうとしています。

娘は、母と娘の関係の中で養い育てられることにより、養い育てる方法を学びます。愛され、教えられ、そして、自分のことを思えばこそ間違いを正し、同時に励まし信頼し続けてくれる人がいるのはどういうことかを肌で体験するのです。

姉妹の皆さん、神はあらゆる道徳的な力、霊的な力の源であられることを覚えて

いてください。主と聖約を交わし、守ることによって、その力にあずかることができます。母親の皆さん、娘さんに聖約を交わすことの大切さを教え、その後は、どうすれば聖約を守るかを模範によって示してください。そうするならば、娘さんは神殿に参入するふさわしさを保って生活したいと望むようになるでしょう。

今の世の中において、それは娘さんに性的な事柄について話すことを意味します。皆さんの娘さんたちは、息子さんたちと同様に、早い年代で、抵抗もなく、無分別に不道徳を行うことが当たり前のように受け入れられる社会に育っています。慎みのない、道徳的に不潔な女性が理想化され、多くの場合、もてはやされ、まねされています。現代の生活で見られる不快な事柄になるべく触れないよう、家庭や家族で手段を講じることはできますが、皆さんの娘さんたちを取り巻く露骨な性描写や誘惑を完全に避けることは不可能です。皆さんは、娘さんたちと頻繁に、率直に話し合い、これらの問題について何が真実かを教える必要があります。

例えば、びったりしすぎた服、短すぎる服、胸もとが開きすぎたり、股上が浅すぎたりする服を着ると、日常をともに過ごす若い男性に誤ったメッセージを伝えるだけでなく、女性の価値は性的な魅力でしか決まらないという誤った考えを自身の中に深く根付かせるということを、娘さんたちは理解する必要があります。そのような誤った考え方が、神の忠実な娘を表す義の定義に含まれることは、過去にも未来にも絶対にありません。若い女性はあなたの口から、このことを明確に、繰り返し聞く必要があります。彼女たちは、このことが母親自身の服装の標準、身だしなみの標準、慎み深い生活の標準において正しく、一貫して反映されているのを見る必要があるのです。

すべての青少年は、御霊<sup>みなたま</sup>の存在と声が認識できるようになるならば、高い確率で聖約を交わし、守るようになります。娘さんに

御霊にかかわる事柄について教えてください。娘さんを聖文へと導いてください。神権の力による祝福を日々大切にしたいと思えるような経験をさせてください。聖約を守ることで、青少年は主の声を聞き、個人的な啓示を受ける方法を学びます。神は確かに彼らの祈りを聞き、こたえてくださいます。2010年のミューチャルのテーマ「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」(ヨシヤ1:9)は、青少年だけでなく、わたしたち全員に当てはまるものです。これにより、彼らは安全に主の宮へと導かれることでしょう。

青少年が、聖約を守ることが永遠の幸福への最も安全な道だということを必ず知るようにしてください。必要であれば、悔い改める方法、そして清さとふさわしさを保つ方法を教えてあげてください。

さて兄弟姉妹、今日の話に聞き覚えがあるとしたら、それはわたしが3つの総大会で続けて親と子供の皆さんに向けて話してきたからです。去年の4月には、「過去の教訓から学ぶ」よう青少年の皆さんに勧告しました。その中から引用しましょう。「進んで耳を傾けて学ぶなら、最も有意義な人生の教訓の幾つかは、自分たちより前の時代を生きた人たちからもたらされ[ます]。……キリストに忠実に従った[人の]……優れた模範に従[う]なら、皆さんの生活はどれほどよくなるでしょうか。」(『過去の教訓から学ぶ』『リアホナ』2009年5月号, 31, 33)

去年10月の総大会の神権部会で父親と息子の皆さんに向けて話をし、今日はおもに母親と娘の皆さんに向けて話しました。どれも異なるメッセージですが、共通する部分があります。皆さんが耳を傾け、一つのパターンを見いだせますように。また、この終わりの時にあって親と子が互いの言葉に耳を傾け、学び合うことが不可欠であり、きわめて大切であるという不変で一貫したメッセージをとらえることがで



きますように。わたしが話してきたことは絵空事ではありません。最も大切な事柄であり、わたしたちが永遠の幸せと平安を得るための神の計画の中心を成すものです。

教会はできるだけお手伝いします。親と子供の皆さんを応援し、支えたいと願っています。しかし、今日の青少年が将来の家族と教会を導くように備える最も重要な場所は家庭です。できるかぎりのことを行って、忠実で義にかなった男性や女性になるよう青少年を備える責任は、母親であり父親であるわたしたち一人一人にあります。訓戒と模範によって福音を教えるべき場所は家庭なのです。

最後にジョセフ・F・スミス大管長のこの言葉を引用して、わたしの勧めをまとめ、締めくくります。「家族のつながりは、

この世だけの一時的なものではありません。わたしたちはこの世から永遠にわたって生きています。この世から永遠にわたって交わりやつながりを築き続けるのです。……末日聖徒のほかにも、家族関係が墓を超えて続くと考えている人々がいるのでしょうか。末日聖徒は、父、母、子供は家族の一員であることを認識して、……この家族は神の業の完全な組織の一単位であって、この世から永遠にわたって存続すると考えています。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』385)

神の祝福があって、現在そして将来にわたってわたしたちに課せられた偉大な業を達成するため、家庭という囲いの中で互いに教え、養い、備え合うことができますように。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。■



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

# 彼らが 天の家に戻れるよう 助けてください

わたしたちが神の子供たちを助ける最善の方法は、彼らが若いときに、イエス・キリストと回復された主の福音への信仰を築くことです。

**兄** 姉妹、天の御父は、霊の子供たちが再び御自身のみもとへ戻れるようわたしたちが助けることを望み、求めておられます。わたしは今日、すでに主のまことの教会に入って、天の家に戻る細くて狭い道を歩み始めている若人について話します。御父は、彼らがその道にとどまるための霊的な強さを早い時期から身に付けるよう望んでおられます。そして御父は、もし彼らがさまよい始めているのであれば、速やかにその道へ引き返せるように、わたしたちの助けを必要としておられます。

主はわたしたちに、子供たちを早い時期から強めること、また速やかに救助の手を差し伸べることを望んでおられます。その理由をはっきりと認識し始めたのはわたしが若くしてビショップを務めていたときでした。一人の若い女性の話を紹介します。その後長年にわたって多くの若者を助けるために努力してきましたが、彼女はその典型的な例でした。

彼女はビショップ室の机を隔てて座っていました。そして、それまでの生活につい

て話し始めました。バプテスマを受けて、教会員に確認されたのは8歳のときでした。その後の20年以上について話す彼女の目に涙こそなかったものの、声は沈んでいました。刺激的に思えた人々につきあい始めたのが悪循環に陥るきっかけでした。やがて、彼女はそれほど大切でないと考えた戒めを破り始めました。

最初は多少の悲しみと、罪悪感という後ろめたさを覚えていました。しかし、彼らと交際し、好かれていることにかつて味わったことのない気持ちを覚えてくると、

時々悔い改めようとした決意もやがて薄れていきました。次第に重大な戒めを破るようになって、幸せな永遠の家庭を築くという夢はかすんでいきました。

向かいに座った彼女は、自分が惨めだと言いました。がんじがらめになった罪のわなから救い出してほしいと言いました。しかし、抜け出す唯一の方法は、彼女がイエス・キリストへの信仰を行使し、打ち砕かれた心を持ち、悔い改めて、清められ、変わり、主の贖罪を通して強くなることでした。わたしはそれが可能であることを証しました。実際にそれはまだ可能でした。けれども、神の家に戻る旅の初期に、迷い始めたときに信仰を行使していたら、それはもっと容易だったのです。

ですから、わたしたちが神の子供たちを助ける最善の方法は、彼らが若いときに、イエス・キリストと回復された主の福音への信仰を築くことです。そして、その信仰が弱まって道をそれる前に、速やかに燃え立たせなければなりません。

皆さんにもわたしにも、旅を続ける神の子供たちを助ける機会はなく訪れることでしょう。救い主はその理由として、罪とサタンが作り出す霧の中に置かれている神のすべての霊の子供たちが家に戻るためには、危険な旅をしなければならないことを述べておられます。

「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い。そして、そこから入って行く者が多い。」







命に至る門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。」<sup>1</sup>

愛に満ちた天の御父は子供たちの必要を予見して、道の傍らに道しるべと救助者を置かれました。安全にまた視界を遮られることなく旅ができるように、御父は御子イエス・キリストを遣わされました。御父は現在の預言者としてトーマス・S・モンソン大管長を召されました。モンソン大管長は若いころから、道にとどまる方法だけでなく、悲しみにあえぐ人々を救助する方法を教えてくださいました。

天の御父は旅人を力づけ、必要であれば安全な場所に導くため、わたしたちを様々なところに配置しておられます。わたしたちにとって最も重要で、強い影響力を発揮すべき務めは、家族の中にあります。家族の中でそれらの務めが重要なのは、子供の人生の初期に、天の家に戻る道にしっかりと足をつけさせる機会が、家族にはあるからです。両親、きょうだい、祖父母、おじやおばは、家族に固有の愛というきずなによっていっそう力強い導き手となり、救助者となることができます。

家族は子供の生涯の最初の8年間、有利な立場にあります。イエス・キリストの贖罪により保護されているこの時期に、サタンは御父のみもとへ戻る道を暗黒の霧で隠すことができないからです。この大切な時期に、子供たちを霊的に強めようとする家族を支援するため、主は初等協会の役員教師を召しておられます。また、聖式をささげるためアロン神権者を用意しておられます。聖餐の祈りの中で、子供たちは神の戒めに従うならば導き手として聖霊を受ける日が来るという約束を聞きます。その結果、子供たちは誘惑を退けるよう、そしていつか将来、ほかの人を救い出すために出て行くよう強められるのです。

教会の多くのビショップは靈感によって、初等協会の子供一人一人に仕えるという召しを、ワードで最も堅固な信仰を持った人々に与えています。ビショップは子供た

ちが信仰と証を得て強くなれば、10代になったときに救助を必要とする機会が少なくなることを知っています。また、霊的に堅固な土台を築くことによって、人生が大きく違ってくることを知っています。

わたしたちは皆、助けることができます。おばあさん、おじいさん、またその子を知っているすべての会員は手を差し伸べることができます。初等協会での正式な召しを受ける必要はありません。年齢制限もありません。CTRのモットーを考え出したのは、若くして中央初等協会管理会に召された一人の女性でした。

彼女はいつでも喜んで子供たちに奉仕しました。彼女は、自分から願い出て90歳くらいまでワードの初等協会で教え続けました。幼い子供たちは彼女から愛されていることを感じることができました。彼女の模範を目にしていました。彼女からイエス・キリストの福音の単純な原則を学びました。中でも、彼女の模範から聖霊を感じ、聖霊の導きに気づくことを学びました。このようにして誘惑を退けるために必要な信仰を築いていったのです。彼らは救い出してもらわなければならない、ほかの

人々を救い出すために出て行く備えをしました。

我が家の子供たちが幼かった時期に、わたしは祈りと聖霊に対する純粋な信仰に力があることを学びました。そのとき、長男はまだバプテスマを受ける年齢に達していませんでした。御霊を感じ、また御霊の導きに気づき、そして御霊の助けを受ける方法が分かるように、親とともに初等協会の教師や神権指導者が彼を助けてくれていました。

ある日の午後、妻は読み方を教えてくれる女性の家に長男を送って行きました。仕事からの帰りにわたしが息子を迎えに行くことにしていました。

予定していた時刻よりもレッスンが早く終わりました。長男は帰り道が分かるかと思っていたので、歩いて帰ることにしました。後で話を聞くと、息子は完璧な自信があって、独りで歩いて帰るのも悪くないかと思っていました。半マイル(0.8キロ)ほど歩いたところで、辺りが暗くなってきました。けれども、家まではまだかなりの距離があることが分かりました。

横を通り過ぎていく車のヘッドライトが



涙でかすんで見えたことを息子は今でも覚えています。自信たっぷりに独りで家に向かった少年ではなく、幼子おきなこのような自分を感じました。助けが必要なことに気づきました。そのとき、記憶の中から浮かび上がってくるものがありました。祈らなければならないことに気づいたのです。そこで、道を外れて、暗がりの中でかろうじて見える木の茂った場所に向かって歩き出しました。そして、ひざまずいて祈る場所を見つけました。

やがて、茂みの向こうから、こちらに向かって来る人の声が聞こえました。二人の若者が泣き声に気づきました。二人は息子に近づいて言いました。「どうしたの。」息子は泣きながら、迷子になって、家に帰りたと言いました。二人は家の電話番号か住所が分かるか尋ねました。息子は知りませんでした。次に自分の名前が言えるかと尋ねました。それなら知っていました。それから、近くの自分たちの家に連れて行きました。そして電話帳から我が家の名字を見つけてくれました。

わたしは電話を受けると、息子の帰り道、神が親切な人々を置かれたことに感謝しながら、急いで救助に向かいました。迷子になったとき助けが来るという信仰をもって祈るよう息子が教えられていたことに、わたしはいつも感謝してきました。その信仰が息子を安全な場所へ導き、救助者を向かわせたのです。そのような事例は、息子が今覚えているよりもたくさんありました。

主は王国における救助と救助者のパターンを定めておられます。そして、その時は必ずやって来ます。主は、その知恵により、わたしたちが10代の時期を通過する間、わたしたちを強化する最強の方法しもべを作り出し、最適の救助者を配置するよう僕たちに靈感を与えておられます。

ご承知のように主は二つのすばらしいプログラムを与えてくださいました。一つは若い女性のための「成長するわたし」です。もう一つはアロン神権者のための「神への務め」です。わたしたちは次の世代の若人に、自分たちが霊的に大きな力を身に付ける潜在能力を持っていることを自覚するよう勧めます。そして若人に心を配っている人々には、彼らを助けるために主の望んでおられることを実行するよう切にお願いします。教会の将来は彼らに懸かっており、そのためにもわたしたちは皆、若人のことを気にかけています。

これら二つのプログラムは改訂されましたが、目的に変更はありません。モンソン大管長はこのように説明しています。わたしたちは「学ぶべきことを学び、なすべきことを行い、なるべき人物にな〔らなければなりません。〕」<sup>2</sup>

小冊子、若い女性『成長するわたし』ではその目的が明確にされています。

『『成長するわたし』プログラムでは、若い女性の8つの徳質が用いられます。これらの徳質は、自分は何者なのか、なぜこの地上にいるのか、神殿に参入して神聖な聖約を交わす日に備え、神の娘として何をすればよいのかについてさらに深く理解するのに役立ちます。』

そして、こう記されています。若い女性は「決意し、それを実行に移し、その進歩状況を親か指導者に報告」します。このような約束もあります。「あなたが、祈りや聖文の研究、奉仕、日記を付けることなど、『成長するわたし』プログラムを進めるときに設ける生活様式が、個人の日々の習慣になることでしょう。これらの習慣によってあなたの証は強くなり、またその習慣は生涯を通じて学び、成長するのに助けとなることでしょう。」<sup>3</sup>

アロン神権の若い男性のための「神への務め」プログラムは強化されるとともに簡素化されました。アロン神権の3つの職すべてが一つの冊子にまとめられます。若い男性と指導者がこの新しい冊子を受

け取るようになります。これは強力なツールとなります。

このプログラムは若い男性の証を強め、神との関係を強めるものとなるでしょう。彼らは神権の義務について学び、その義務を果たしたいと思うことでしょう。両親との関係、定員会会員との関係、指導者との関係を強化することでしょう。

これらのプログラムはともに、若人自身が努力することに大きな比重を置いています。だれにとっても決して容易でないことを学び行うよう勧められています。わたし自身の青少年時代を振り返ってみると、これほど難しい課題に取り組んだ記憶はほかにありません。そういえば、難しいことを達成するよう求められたことはありましたが、それも時々でしかありませんでした。これらのプログラムでは継続と大きな努力を求められ、さらに何年間にもわたって学習と霊的な経験を積み重ねることが要求されます。

これらのプログラムについて考えたときに、これらの冊子の内容は、主が次の世代に対して、また彼らを愛しているわたしたち全員に対して信頼を寄せておられることの具体的な表れであることを実感しました。わたしはその信頼の裏付けを目にできました。

わたしは訪問先でアロン神権定員会が機能する様子を見てきました。若い男性が学習のパターンを実行し、神が望んでおられることを行う計画を立て、それから決意したことを実行に移し、自分たちが霊的にどのように変わったかをほかの人に話しているのを目にしました。このようにわたしが彼らの様子を見、彼らの話を聞いていたとき、はっきりと分かったことがあります。若い男性たちがどのようにして強められたかについて証するのを聞いていた父親や母親、指導者、友人はもとより、ともに集っていたほかの出席者までが御霊を感じていた、ということです。つまり、青少年が証をするとき、証をする本人だけでなく、彼らが成長するのを助けようと努めて

いた人々も高められていたのです。

若い女性のプログラムにも、若い女性の霊的な強さを増し加え、支援の手を差し伸べる機会をわたしたちに与える同様の力強いパターンがあります。「成長するわたし」のプログラムは、若い女性たちが神殿の儀式を受ける準備をするうえで役立っています。若い女性は母親、祖母そして教会で周囲にいる義にかなったあらゆる女性の模範によって助けられています。わたしは、娘の実行したあらゆる善いことに気づき、確認することによって目標と夢を達成できるよう助けている親たちを見ってきました。

数日前、ある母親が娘と一緒に壇上に立ち、二人とも優れた女性の模範になったことをたたえられ、ともに「若い女性表彰」を受けるのを目にしました。これが二人にとってどんなに意義深いことなのかを聞いたとき、主がお喜びになり、わたしたち全員を励ましておられるのを感じました。

若人に与えられる最大の支援は、彼らが神の家に続く道を歩んでいて、実際そこに戻れるとわたしたちが確信しているということ、彼らに感じてもらうことです。そのための最善策は、彼らとともに歩むことです。道は険しく、時には困難であるため、彼らは落胆したり、つまずいたりすることがあります。目的地が分からなくなり、永遠の観点から見てもあまり重要でない目標を追い求めることがあるかもしれませんが、この靈感されたプログラムに頼ればその心配は減ります。これらのプログラムは聖霊の導きを求めて、それを受けるよう若人を導くからです。

わたしたちが若人に与えることのできる最も優れた助言は、神の御霊によって導かれ、御霊によって生活を正していくならば、必ず天の御父のみもとにたどりつけるということです。ですから、わたしたちは知恵を用いて、聖霊の導きにつながるあらゆることを奨励し、称賛し、その模範を示しましょう。彼らが行っていることや感じていることを打ち明けられたときに、わた



したちも御霊を受けるにふさわしくなければなりません。すると彼らはわたしたちの称賛とほほえみから神が承認しておられるのを感じ取るでしょう。もし誤りを正すよう助言する必要があると感じたとしても、彼らはその助言を受けたとき、非難や拒絶を感じるのではなくわたしたちと神の愛を感じてくれるでしょう。一方、非難や拒絶を感じさせるなら、サタンが彼らを遠くへ連れ去ってしまうでしょう。

若人が最も必要としているわたしたちの模範は、わたしたち自身がなすべきことを行うことです。わたしたちは御霊の賜物を祈り求めなければなりません。聖典と生ける預言者の言葉について深く考える必要があります。願ひ事だけでなく聖約についても計画を立てる必要があります。そして、主との約束を守る必要があります。生活で経験している贖罪の祝福を若人と分かち合うことによって、彼らを引き上げる必要があります。

わたしたちは主が求めておられるようにいつまでも揺るぎない忠実さを絶えず生活の中で示す必要があります。そうすればわたしたちは、若人が御霊からある確信を感じられるようにすることができます。すなわち、もし彼らが最後まで忠実で

あれば、愛に満ちた救い主と天の御父から次の言葉をかけていただけるという確信です。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」<sup>1</sup> そして、そばにいて彼らを助けるわたしたちも、喜びをもってそのような言葉を聞くことでしよう。

主は皆さんと神のすべての子供たちを愛しておられることを証します。この教会は、預言者ジョセフ・スミスを通して神権の鍵とともに回復された神の王国です。トーマス・S・モンソンは今日の主の預言者です。わたしは皆さん一人一人に約束します。このイエス・キリストのまことの教会において与えられる靈感に基づく指示に従うならば、若人とそして若人を助け愛するわたしたちは、天の御父と救い主のおられる家に安全に送り届けられ、家族とともに喜びのうちにとこしえに住むことができるでしょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 3 ニーファイ 14:13 - 14
2. トーマス・S・モンソン「学び、行い、人格を築く」『リアホナ』2008年11月号, 67 参照
3. 『若い女性—成長するわたし』(小冊子) 6
4. マタイ 25:21



大管長会第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ管長による提示

## 教会役員の支持

**わ** たしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしあれば、同様にその意を表してください。

わたしたちは次の兄弟たちを、2010年5月1日をもって地域七十人から解任するよう提議します。

ホルヘ・M・アルバレド、ホメロ・S・アマートー、マニユエル・アラヘズ、ホルヘ・

D・アレビラガ、マルセロ・ボルファリーニ、フェルナンド・E・カルデロン、ガブリエル・A・カンボス、<sup>チェジュエンチア</sup>賈居仁、フラビオ・A・クーパー、ロナルド・ダ・コスタ、ジョン・C・ダルトン、ケビン・R・ダンカン、ランディー・D・ファンク、ロバート・H・ガーフ、ジェリット・W・ゴング、フィリック・ゴーツ、S・オラシオ・グンズマン、ロナルド・J・ハモンド、<sup>ホニ</sup>ステイーブン・W・ハンセン、<sup>ユチエン</sup>何・フィリップ・於振、パトリック・キアロン、クリスチャアン・H・クレーウェグ、ラリー・R・ローレンス、ロバート・W・リーズ、F・ルネ・ロリ、ファン・A・マチュカ、ベア・G・マーム、カルロス・S・オバタ、アレクサンダー・A・オデュメ、A・ローランド・オヨラ、メルビン・R・パーキンス、ジェームズ・C・ベリー、ジョン・C・ピングリー、ディナー・M・レーエス、D・チャド・リチャードソン、モーリー・W・ショーフ、ハンス・T・ソレンセン、ジョン・C・タガート、ドナルド・P・テニー、G・ペリン・ウォー

カー、ヨハン・A・ワンドラ、<sup>やましたかずひこ</sup>山下和彦。

彼らの素晴らしい奉仕に、ともに感謝を示してくださる方は、手を挙げてその意を表してください。

わたしたちはチェリル・C・ラント姉妹、マーガレット・S・リファース姉妹、ビッキー・F・松森姉妹を中央初等協会会長会から解任するよう提議します。

また、中央初等協会管理会のすべての会員も解任します。

姉妹たちの素晴らしい奉仕に、ともに感謝を示してくださる方は、手を挙げてその意を表してください。

わたしたちは、七十人第一定員会の新たな会員として、ケビン・R・ダンカン、ジェリット・W・ゴング、パトリック・キアロン、フワン・A・ウセダを、また、七十人第二定員会の新たな会員としてラリー・R・ローレンス、ベア・G・マーム、ジャイロ・マサガルディを支持するよう提議します。

賛成の方は、その意を表してください。

反対の方は、同様をお願いします。

わたしたちは次の兄弟たちを新しい地域七十人として支持するよう提議します。

イアン・S・アルデルン、フィリップ・K・ブッシー、ルネ・J・カブレラ、レナト・カベレットティー、ポール・D・M・クリステンセン、ホジェリオ・G・R・クルス、ドナルド・D・デシュラー、ジョージ・R・ドナルドソン、イニ・B・イコン、クリスチャン・フィンジャール、クレーグ・G・フィッシャー、ジェ

### 新しく支持された中央初等協会会長会



リル・L・ガーンズ, ジャック・N・ジェラード, M・キース・ギデンズ, プレント・J・ヒリアー, フィ・チャン・ファン, ジョージ・M・キール, デーン・O・レビット, アレクサンダー・T・メストレ, アライク・V・ミナシャン, T・ジャクソン・マハベラ, S・ギッフォード・ニールセン, バレンティン・F・スネス, ジェフリー・E・オルソン, R・イングバル・オルソン, ロバート・N・バックナー, ナサニエル・R・ペイン, セザール・A・ペレス・ジュニア, フォチャード・ピエール・ナウ, マイケル・J・レアル, エドソン・D・G・リベイロ, ブラッド・K・リゼンメイ, モーツァルト・B・ソアレス, カルロス・A・ソリス, ノーランド・デ・ソーサ・ロペス, 田代浩三<sup>たしろこうぞう</sup>, オマー・ビラロボス, W・クリストファー・ワデル, アラン・J・ウェブ, ジェラルド・J・ウィルヘルム, ケビン・J・ウォーセン, クレグ・T・ライト, ジム・L・ライト。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちはまた、ローズマリー・M・ウィクソム姉妹を新しい中央初等協会会長として、またジーン・A・スティーブンス姉妹を第一顧問、チェリル・A・エスプリン姉妹を第二顧問として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見たかぎり、カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

愛する兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と、継続した信仰、献身、祈りに感謝します。

新たに召された中央幹部および中央初等協会会長会の皆さんは、前に来て壇上にお座りください。■

# 2009年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター

ロバート・W・キャントウェル提出

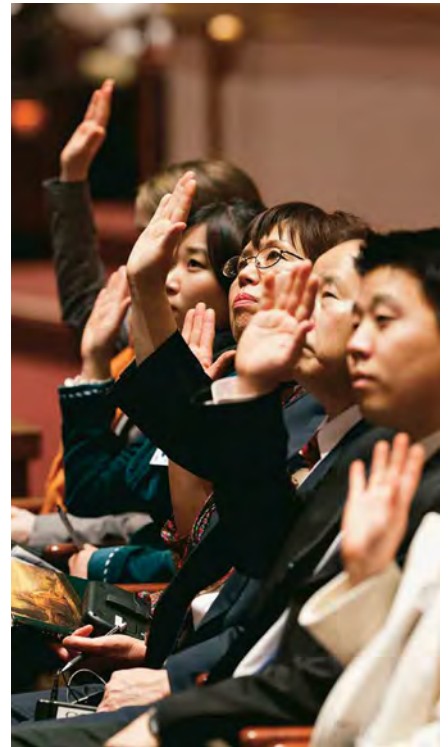
## 末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

**愛**する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒定員会、および管理ビショップリックで構成されており、教会の各部門と運営組織の予算を承認します。教会の各部門は承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、基金の収支と教会資産の保全が適切に管理されているかを監査するうえで必要なあらゆる記録やシステムから情報を入手する権利があります。教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており、監査を実施する人々は公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

監査の結果、教会監査部では、2009年度において、教会のすべての資料、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告いたします。



教会監査部

実務運営ディレクター

ロバート・W・キャントウェル ■

# 2009年度統計報告

大管長会秘書  
ブルック・P・ヘイルズ提出

**大** 管長会は、2009年12月31日  
付けで、教会に関して次のよう  
な統計報告を発表しました。

## 教会ユニット数

ステーク .....2,865  
伝道部 ..... 344  
地方部 ..... 616  
ワードと支部の合計 ..... 28,424

## 教会員数

教会員総数 ..... 13,824,854  
2009年の記録上の子供の増加

..... 119,722  
2009年にバプテスマを受けた改宗者  
.....280,106

## 宣教師

専任宣教師数 ..... 51,736

## 神殿

2009年に奉獻された神殿 ..... 2  
(ユタ州ドレーパー神殿,  
ユタ州オーカーマウンテン神殿)  
儀式が執行されている神殿数 ..... 130

## 2009年4月以降に他界した、以前の中央役員および著名な教会員

ロイデン・G・デリック長老、名誉中央幹部； ジョージ・I・キャノン長老、W・ドン・ラッド長老、ダグラス・J・マーティン長老、ジョセフ・C・ミュレン長老、元七十人会員； コリーン・W・エイシー姉妹、名誉七十人のカーロス・E・エイシー長老夫人； ジーン・C・ダン姉妹、名誉中央幹部のポール・H・ダン長老夫人； ジレア・C・シンプソン姉妹、名誉中央幹部のロバート・L・シンプソン長老夫人； ジャクリン・Y・ローレンス姉妹、元七十人会員のW・マック・ローレンス長老夫人； ベティ・N・ターリー姉妹、元七十人会員のリチャード・E・ターリー・シニア長老夫人； デビッド・S・キング兄弟、元若い男性相互発達協会会長補佐； アン・S・リース姉妹、元中央扶助協会会長顧問； ロバート・J・マシューズ兄弟、ジョセフ・スミス訳聖書の権威、トルーマン・マドセン兄弟、教会学者および元BYUエルサレムセンター長 ■





十二使徒定員会  
L・トム・ペリー長老

# 家庭で子供を教える 母親

母親の役割として次の世代を養い育てることが強調されているのは、神の計画です。わたしはそう信じています。

**最**近わたしは、ドナルド・L・ホールストロム長老と一緒に合衆国の中央部にある5つの都市を訪問する機会を得ました。訪問したそれぞれの都市で専任宣教師と集会を開き、その後ステーキとワードの指導者を集めて伝道活動に関する集会を持ちました。どの都市でも、この二つの集会の間にステーキ扶助協会が軽い夕食を用意して、わたしたちがステーキ会長と会う時間を取るようにしてくれました。ウイコンシン州のミルウォーキーに着いたときのことです。子供がまだ小さい二つの家族が扶助協会に、夕食を作って提供したいと願ひ出ました。夫二人が厨房で働き、母親二人はテーブルの準備と配膳を指示しました。幼い3人の子供が、母親の指示に従ってテーブルに食器をそろえ食べ物を運びました。これは、母親たちにとって子供を教える絶好のチャンスでした。子供たちが細かいところまで母親に教えられたとおりに実践する様子は見事でした。割り当てられたことを完璧にこなしたのです。

この経験を機に、わたしは自分が母から受けた教育を思い返しました。預言者ニーファイや多くの皆さんのように、わたしも「善い両親から生まれた」のです(1ニーファイ1:1参照)。

最近、めいの一人が、わたしの母がぎっしり書き込んだ4冊のノートを見せてくれました。扶助協会のクラスで教える準備のために使ったノートでした。母がレッスンの準備に何百時間も費やしたことの証だと思えます。わたしがまだ調べていないこのようなノートは、ほかにもあります。

母は偉大な教師でした。手を抜くことなく一生懸命にレッスンの準備をしていました。レッスン前の数日の様子は、わたしの記憶に鮮明に残っています。食卓はレッスンのために用意した参考資料やメモ



ブラジル、サンパウロ

モであふれかえていました。用意した資料は相当な量でしたから、クラスで使ったのはそのうちのほんの一部だったことでしょう。でも、準備したものは何一つ無駄にならなかったとわたしは確信しています。この確信はどこから来ると思えますか。母のノートをパラパラとめくって見たとき、母がわたしに教える声がもう一度聞こえてくるような気がしました。母はまた、ノートのどの項目にも、1回のレッスンでは伝え切れないほど多くのことを書き込んでいました。クラスで教えなかった内容を、母は自分の子供たちに教えたのです。

母は扶助協会の姉妹たちの中でもとりわけ有能な教師でしたが、最も手腕を發揮したのは家庭で子供に教えるときだったと言っても過言ではないと確信しています。もちろんこのおもな理由は、扶助協会の姉妹たちを教える時間に比べて自分の子供を教える時間の方がはるかに長いからということになります。母がここまでじっくり準備していた理由は第1に、子供に対して、熱心に教会の奉仕を行う模範となるため、そして第2に、レッスンの準備で学んだことは、息子や娘に教えるというさらに高い目的のために繰り返し使えることを知っていたからだと思えます。

少しの間わたしに思い出話をさせてください。家庭で福音を教えるということについて、母から学んだ教訓を幾つか伝えたいのです。母は、子供が小さいうちに標準や価値観、教義を教えることが大切だということを理解していました。教会にせよ学校にせよ、家庭外で子供を教える人たちに感謝していました。しかし、母は、子供を教える責任は親に託されており、最終的に親こそが天の御父の望まれることを自分の子供に教えていかなければならないということを知っていました。きょうだいとわたしが家庭外で何かを教わったときには、母は事細かに質問してきました。正しい教えがわたしたちの耳に届き、それがわたしたちの精神の育

成に役立つことを確かめたかったです。

学校から走って帰ればその日の学習は終わりだと、当時わたしは思っていました。しかし、母が玄関でわたしの帰りを待っているのを見た瞬間、この幻想は崩れました。小さいころ、わたしたちには一人一人の机が台所にあって、母が家事をしたり夕飯を作ったりしている間は、そこで母から引き続き教えを受けられるようになっていました。母は生まれつきの教師でしたし、わたしたち子供に対しては、学校や教会の先生よりもはるかに厳しかったのです。

母は、この世の学問も霊的なレッスンも両方とも教えてくれました。わたしたちがみんな学校の勉強についていけるように、母はよく補習をしてくれたものです。また、わたしたちを使って、扶助協会のレッスンの練習もよくしました。わたしたちが受けたのはもちろん、ノートに書いてあった完全版のレッスンであって、1回のクラスの持ち時間に合わせた要約版ではありませんでした。

家庭での学習には、聖文や信仰箇条、預言者、聖見者、啓示者の言葉の暗記も含まれていました。母は、心というものは常に働かせていないと弱くなってしまうという考えの持ち主でした。わたしたちが皿洗いをしたり、バターをかき回したり、そのほか多くの手伝いをしているときに、母はわたしたちを教えました。肉体労働をしているときですら、子供の心につまらない考えが入り込むすきを与えてはならないと母は考えていたのです。

母を今の世界の親の手本として採り上げていくわけではありません。時代が大きく違います。しかし、時代が移り変わろうとも、親の教えの価値が下がることはありません。ある世代の価値観を次の世代の価値観に結びつける活動はたくさんありますが、その中でも最も重要なのは、親が家庭で子供に教えるということではないでしょうか。特に価値観や、道徳的・倫

理的な標準、信仰についての教育を考えると、このことが言えます。

家庭で教えるということは、現代の世の中ではますます重要になってきています。敵対する者であるサタンは非常に広範囲に影響力を及ぼし、社会のまさに基盤である家庭を攻撃して、これを徐々に弱め、破壊しようとしているからです。親は、家庭での教育が非常に神聖で重要な責任であることを肝に銘じなければなりません。教会や学校などほかの組織は、親が「子をその行くべき道に従って教え」る（箴言22:6）のを支援することはできますが、この責任は最終的には親にあります。偉大な幸福の計画によると、天の御父の子供たちを世話し、成長させる責任を任されているのは親です。わたしたちの家族は、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」という神の業と栄光の中で欠くことのできない要素なのです（モーセ1:39）。神の永遠の計画においては普通、子供の人生で中心的な役割を果たすのは親です。幸いなことに、子供の人生にはほかに助け手がいて、親ができないときに助けてくれます。しかし、子供を光と真理の中で育てるよう主から命じられているのは親なのです（教義と聖約93:40参照）。

親は1回の家族の祈り、1回の聖文研究、1回の家庭の夕べ、1度の本の読み聞

かせ、1曲の歌、1回の家族の食事などを行う度に、家庭の中に光と真理をもたらさなければなりません。義にかなって誠実に、日々親の務めを果たし続けることによる影響は、世の中を良くするための最も大きな原動力になるということを親は知っています。健全な社会やそこに住む人々の幸せ、繁栄、平和の根底にはすべて、家庭での子供の教育という共通の基盤があるのです。

ジョセフ・フィールディング・スミス長老は次のように教えています。

「子供にイエス・キリストの救いの原則を教えることは、親の義務です。親がその義務を果たして初めて、子供はバプテスマを受ける理由を学び、バプテスマの後も神の戒めを守り続けようという望みを胸に抱き、やがては神のみもとへ帰ることができるのです。兄弟姉妹の皆さん、家族や子供とともに住みたいと思いませんか。家族とともに先祖に結び固められたいと思いませんか。……もしそう思うなら、ゆりかごの傍らで教えることを始めなければなりません。皆さんは訓戒と模範によって、子供を教えるのです。」（Conference Report, 1948年10月, 153）

家庭における教師として母の模範を考えると、もっと一般的な教育に考えが及びます。教会の指導者は、教会での教育を







どうしたら改善できるか莫大な時間をかけて考えています。このように時間と労力を注ぐのはなぜでしょうか。それは、個人の信仰を増し加え、家族を強めるために、教育は計り知れない力を発揮すると信じているからです。教会での教育を改善するためにできる最も効果的な方法の一つは、家庭での教育を改善することだとわたしは信じています。家庭で教えれば、教会で効果的に教える準備になりますし、教会で教えれば、それは、家庭で効果的に教えるための準備になります。どのワード、支部にも、参考資料であふれかえった食卓や、レッスンで教えるアイデアがぎっしりと書き込まれたノートを使っている教師がいます。イエス・キリストの福音を教えるに当たっては、準備しすぎることはありません。なぜなら、福音に基づいた洞察力は、クラスの時間に使う機会があるうとなかろうと、家庭でいつでも教えることができるからです。

靈感を受けて作成された「家族——世界への宣言」には、次のように述べられています。

「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜った嗣業であり』(詩

篇 127:3) とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。

……神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。』(『リアホナ』2004年10月号, 49)

「家族——世界への宣言」によれば、家庭での教育についてわたしがこれまで話してきた原則は父親にも母親にも当てはまるとされていますが、これは特に母親の役割として欠かすことができません。父親は、仕事のために一日の大半家を空けることが多いものです。家庭で子供を教える責任の大部分が母親にかかってくる多くの理由の一つがこれです。状況は様々ですし、物事はいつも理想どおりに運ぶわけではないのですが、母親の役割として次の世代を養育することが強調されているのは、神の計画です。わたしはそ

う信じています。今日、神の子供たちを間違った方向に導こうとする、破壊的で心を乱す影響力から多くの問題が起こっているのを目にします。不信仰と絶望の嵐が渦巻く中で信仰を固く保って立っているためには、霊の根が深く伸びていなければなりません。この根が十分に張っていない若者をよく目にします。天の御父の子供たちの中で、この世的な欲望に打ち負かされている人があまりにも多いのです。子供たちに対する悪のすさまじい攻撃は、かつてないほど巧妙かつ大胆になっています。イエス・キリストの福音を家庭で教えることによって、わたしたちは世の影響から守る保護膜をもう一枚子供たちにかぶせてやれます。

神は、シオンのすばらしい母親と父親の皆さんを祝福しておられます。神は、御自身の永遠の子供たちの世話をわたしたちに託されました。わたしたちは親として神のパートナーとなって働き、神と手を取り合って、神の業と栄光を神の子供たちにもたらしめます。最善を尽くすことがわたしたちの神聖な義務です。このことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。■



十二使徒定員会  
D・トッド・クリストファーソン長老

## 聖文の祝福

すべての聖文の第一の目的は、わたしたちの心を父なる神と御子イエス・キリストを信じる信仰で満たすことです。

**15** 36年10月6日、痛々しい姿の人物が、ベルギーのブリュッセル近郊にあるビルボールデ城の地下牢から連れ出されました。1年半近く、暗くじめじめした独房の中で孤独な日々を強いられていました。城壁の外に連れ出された囚人は木製のくいに縛りつけられ、最後の祈りを口にしました。「主よ、イングランド国王の目をお開きください。」その後、彼は絞殺され、遺体はその場で焼かれました。この男性は何者だったのでしょうか。どのような違法行為のために、政治権力者と宗教指導者の両方から激しく非難されたのでしょうか。その人の名前は、ウィリアム・ティンダル、罪状は、聖書を英語に翻訳し出版したことでした。

ティンダルは、コロンブスが新世界に向けて航海した時代にイングランドに生まれました。オックスフォード大学とケンブリッジ大学で教育を受け、後にカトリックの聖職者となりました。ギリシャ語、ヘブライ語、ラテン語を含む8つの言語に通じていました。聖書を熱心に学んでいたティンダルは、聖職者と一般信徒の両方に広く見られた聖文に対する無知に深く心を悩ませていました。聖文を一般民衆の手に渡すべきではないと主張する聖職者との激しい論争の中で、ティンダルはこう誓いました。「神がわたしの命を守ってくださるならば、数年の間に、すきを引いて畑を耕す少年を、あなたよりも聖書に精

通するようにならう。」

彼は、聖書を英語に翻訳する手はずを整える承認を教会の指導者に求めました。すべての人が神の御言葉を読み、実践できるようにするためでした。しかし、その願いは却下されました。聖職者以外のあらゆる人が聖文を直接手にすることは教会の権威にとって脅威であり、「真珠を豚に投げる」(マタイ7:6)ことに等しいというのが当時の一般的な考え方だったからです。

それでもティンダルは困難な翻訳の業に着手しました。1524年、偽名を使ってドイツに移り、逮捕への絶えざる脅威の下で多くの時間を身を隠して過ごしました。ティンダルは、献身的な友人の助けを借りて、新約聖書、後には旧約聖書の英訳の出版にこぎつめます。ティンダルの聖書はイングランドに密輸され、多くの需要を生み出し、入手に成功した人たちから高い評価を受けました。そして多くの人々の手



に、ひそかに渡っていきました。当時の指導者は見つけた聖書をすべて焼き払いました。それでもティンダルの死から3年たたないうちに、神は確かに国王ヘンリー8世の目を開かれました。いわゆる「大聖書」と呼ばれた書物が出版され、民衆が英語の聖文を読めるようになったのです。ティンダルの英訳は、その後に行われたほとんどの英訳聖書の基となりました。中でも特に有名なものが欽定訳聖書です。<sup>1</sup>

多くの国、多くの言語で神の御言葉を暗黒からもたらすために、死をもいとわぬ犠牲を払った人は、ウィリアム・ティンダルの前後にも存在しました。わたしたちはそのようなすべての人に大きな恩義があります。また、御言葉を忠実に記録し、長年にわたって保存したモーセ、イザヤ、アブラハム、ヨハネ、パウロ、ニーファイ、モルモン、ジョセフ・スミスをはじめとする多くの人には、さらに大きな恩義があるでしょう。彼らの働きはしばしば忍耐と犠牲を伴うものでした。彼らは聖文の大切さについて何を知っていたのでしょうか。それはわたしたちも知る必要のあることです。莫大な費用をかけ、命の危険を冒してまで聖書を手に入れようとした16世紀のイングランドの人々は、何を理解していたのでしょうか。それはわたしたちも理解すべきことです。

死の迫っていた預言者アルマは、民に関する神聖な記録を息子のヒラマンに託しました。アルマは、聖文が「この民に多くのことを思い出させ、また多くの人に彼らの行いが誤っていることを納得させ、神について知らせて彼らが救われるようにしてきた」ことを再度ヒラマンに告げました(アルマ37:8)。また、記録を保存するようヒラマンに命じました。記録を通して、神が「御自分の力を後の時代の人々に示せるように」するためでした(アルマ37:14)。

聖文を通して、神は、御自身の子供たちを救い、昇栄に導くために、確かに「御自



分の力を……示」されます。アルマが語ったように、神は御自身の言葉によって、わたしたちに多くのことを思い出させ、偽りや誤りを明らかにし、悔い改めに導き、贖い主イエス・キリストにあって喜びを得られるようにしてください。

### 聖文はわたしたちに多くのことを思い出させる

聖文は多くのことを思い出させてくれます。いつも主について、主や御父との関係について思い起こさせ、前世で知っていたことを思い出させてくれます。聖文は別の意味でも記憶を広げてくれます。わたしたち自身が経験したことのない時代、会ったことのない人々、見たことのない出来事について教えてくれるのです。わたしたちの中で、紅海が二つに分かれるのを見、モーセとともに水の壁の間を渡って対岸にたどり着いた人はいません。山上の垂訓を聞き、ラザロが死人の中からよみがえる光景を目の当たりにし、救い主がゲツセマネで、また十字架上で苦しまれるのを目撃した人はいません。空になった墓の前で、マリヤとともに、イエスは死者の中からよみがえられたと二人の天使が証するのを聞いた人はいません。わたしも皆さんも、バ

ウンティフルの地で救い主の招きにこたえ、群衆とともに一人ずつ進み出て、釘の跡に触れ、涙で救い主の足をぬらしたことはありません。聖なる森でジョセフ・スミスのそばにひざまずいて、御父と御子を見詰めたことはありません。しかし、わたしたちはこれらの事柄のすべて、また、さらに多くのことを知っています。なぜなら聖文の記録が多くのことを思い出させ、知らなかったことを教えてくれるからです。これらの事柄を思いと心で理解するとき、神と神の愛する御子に対するわたしたちの信仰が根付くのです。

また、聖文が多くのことを思い出させてくれるおかげで、わたしたちは、自分や昔の世代の人々が学んだことを忘れずいられます。記録された神の言葉を持っていない人、あるいは無視する人は、最終的に神を信じなくなり、自分が存在する目的を忘れてしまいます。皆さんは、エルサレムを去るときに真鍮の版を携えて行くことがリーハイの民にとってどれほど大切だったかを覚えているでしょう。それは聖文であり、神と、来るべきキリストの贖いについて知るうえで欠かせないものでした。リーハイのすぐ後に「エルサレムから出て来た」別の民は、聖文を持っていませんで

した。そのおよそ300年から400年後、リーハイの子孫が彼らに会ったときの状況について、記録には次のようにあります。「彼らの言葉はなままっており、……しかも、自分たちの創造主の存在を否定していた。」(オムナイ1:15, 17)

ティンダルの時代、聖文に無知な人が多かったのは、聖書、とりわけ自分たちの言語で理解できる聖書がなかったためでした。今日、聖書などの聖典はすぐ手に取りますが、それを読もうとしないために聖文に無知な人の数が増えています。そうした人々は、結果として彼らの祖父母が知っていたことを忘れてしまっているのです。

### 聖文は真実と誤りを見分けるための基準となる

神は聖文を使って、誤った考え方、偽りの言い伝え、壊滅的な影響をもたらす罪を正されます。思いやりに満ちた親である神は、わたしたちが不必要な苦しみや悲しみに遭わないようにしてくださり、同時に、神のようになれるよう助けてくださるのです。例えば聖文は、現代の多くの人が再び受け入れるようになった古からの哲学が誤っていることを明らかにしています。それは、絶対的な道徳基準などとい



うものは存在せず、「人は皆自分の素質に応じて栄え、自分の力に応じて勝利を得る……、また人がすることはどんなことも決して罪にならない」また「人が死ぬばそれで終わりである」というコリホルの哲学です(アルマ 30:17-18)。コリホルの問題を解決したアルマは、神から与えられた道徳の規範が確かに存在することを信じず、その主旨を疑っていた息子のコリアントンにも手を差し伸べました。性的な罪を犯していたコリアントンに、父親であるアルマは愛情を込め、しかしはっきりと語りました。「わが子よ、あなたはこのことが主の目から見て忌まわしい行いであること、まことに、罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為であることを知らないのか。」(アルマ 39:5)

1世紀前とは状況が完全に変わり、今日では不道徳のゆゆしさについてアルマに反論する人が多くいます。何が不道徳かは時と場合によって変わる、または、罪や悪事は神の愛により赦されると主張する人もいます。そうした人は、神が存在するなら、わたしたちを愛しているので、あらゆる罪や悪行を赦してください、だから悔い改めの必要はない、あるいは、せいぜい簡単に告白するだけで十分だと言うのです。彼らは、イエスはわたしたち

に社会正義を目指して努力するよう教えるものの、個人の生き方と行動には干渉されない御方だと想像しているのです。<sup>2</sup>しかし愛ある神は、わたしたちが悲しい経験をしてから「悪事は決して幸福を生じたことがない」と理解するようにはされません(アルマ 41:10。ヒラマン 13:38も参照)。神の戒めは現実を知らしめる声であり、自らが招く痛みに対する防御です。聖文は正しさと真理を測る試金石です。聖文には、真の幸福は神の正義を否定しても、罪の結果から逃れようとしても得られないこと、また真の幸福は、神の御子の贖いによる恵みを通して悔い改め、赦されることによって得られるということが明確に記されています(アルマ 42章参照)。

聖文は、高潔、責任、無私<sup>ゆる</sup>の心、忠実、慈愛など、市民社会を維持するうえで不可欠な原則や道徳的価値観をわたしたち一人一人に教えてくれます。聖文には、真の原則を尊ぶことによって祝福がもたらされる様子や、それらの原則を個人や文明が無視するときに悲劇を迎える様子がはっきりと描かれています。聖文にある真理が無視されたり、放棄されたりする場所では、社会に欠かせない道徳の土台が崩れて衰退が始まります。そしてやがては、社会を維持する制度や機関が失われてしまうのです。

### 聖文はわたしたちを贖い主であるキリストに導く

結局のところ、すべての聖文の第一の目的は、わたしたちの心を父なる神と御子イエス・キリストを信じる信仰で満たすことです。すなわち、御二方が生きておられるという信仰、不死不滅と永遠の命をもたらす御父の計画を信じる信仰、幸福の計画を可能にするイエス・キリストの贖いと復活を信じる信仰、イエス・キリストの福音をわたしたちの生き方とする信仰、「唯一の、まことの神……と、また、[神]がつかわされたイエス・キリストとを」を知るという(ヨハネ 17:3)信仰でわたしたちの心を満たすことなのです。

アルマが語ったように、神の御言葉は、心の中に植えられた種のようなものです。それはわたしたちの中で成長し始めるときに信仰を生み出してくれます(アルマ 32:27-43参照。ローマ 10:13-17も参照)。信仰は、学術的な追及を唯一の目的として古代の文章を研究しても得られません。考古学的な発掘や発見によっても得られません。科学的な実験によっても得られません。また、奇跡を目の当たりにしても得ることはできないのです。これらはすでに持っている信仰を確認したり、時として信仰を得るきっかけとなったりする点で役立つかもしれませんが、信仰を生む

ことはありません。信仰は、神の御言葉を聞くときや読むときに、聖なる御霊から心に、すなわち御霊から霊に与えられるのです。そして、信仰は御言葉をよく味わい続けることで成熟していきます。

信仰にまつわる聖文の話は、わたしたち自身の信仰を強めるのに役立ちます。わたしたちは、キリストが直接来てもらわなくても僕を癒された百卒長の信仰や（マタイ8:5-13参照）、主人の食卓から落ちるパンくずでも頂きますとたとえて語り、娘を癒してもらった謙遜な異邦人の母親のことを思い出すことができます（マタイ15:22-28；マルコ7:25-30参照）。苦悩するヨブが、「たとえ彼がわたしを殺そうとも、わたしはなお彼を信頼する」と叫ぶ声を聞くことができます（ヨブ13:15参照）。また彼が、「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、末の日に彼は必ず地の上に立たれる。……わたしは肉にあって神を見るであろう」と宣言する声を聞くことができます（ヨブ19:25-26参照）。また、多くの大人から憎まれ、まだ少年だったにもかかわらずひどい迫害を受けた預言者の決意を聞き、勇気を得ることができます。「わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定できず、またそうする勇気もなかった。」（ジョセフ・ミスー歴史1:25）

聖文には、御父と御子を証するという役割を持った聖なる御霊が伴っています。聖文がキリストの教義を説き明かすからです（3ニーファイ11:32参照）。したがって、聖文を読むことは、聖霊を受ける一つの方法です。言うまでもなく、そもそも聖文は聖霊を通して与えられています（2ペテロ1:21；教義と聖約20:26-27；68:4参照）。それと同じ御霊は聖文が真実であることをわたしたちに証することがおできになるのです。注意深く、丹念に聖文を研究してください。聖文について深く考え、祈ってください。聖文は啓

示であり、さらなる啓示を与えてくれることでしょう。

聖書に加え、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠など900ページにも上る聖文を与えられていることがどれほど大きな祝福か考えてください。さらに、これらに加えて、この大会のような機会を通して預言者が聖霊に感じるままに語る言葉、すなわち主が聖文と呼ばれる言葉（教義と聖約68:2-4参照）が、テレビ、ラジオ、インターネット、衛星放送、CD、DVD、出版物を通してあふれるほどに与えられていることについて考えてください。歴史が始まって以来、これほど多くの聖文に恵まれている民はいないと思います。それだけでなく、すべての男性、女性、そして子供が、このような神聖な言葉を、ほとんどの場合は自分の国の言葉で、個人用に所有し、研究することができるのです。このような事柄は、ウィリアム・ティンダルの時代に生きた人々にとって、また過去の神権時代に生きた人々にとって、どれほど素晴らしいことと映るでしょうか。また主が、この祝福を与えることによって、わたした

ちが常に聖文を用いる必要性が以前のどの時代と比べても高いと語っておられることも確かです。わたしたちがなすべきことをすべて告げるキリストの言葉を常によく味わうことができますように（2ニーファイ32:3参照）。わたしは聖文を学び、深く考えました。そして、この復活祭の時期に、聖文で明らかにされているとおりに御父と御子について証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. ウィリアム・ティンダルに関する情報源として以下を参照。デビッド・ダニエル、*The Bible in English* (2003年)、140-57；レネット・ハドリー・リード、*How We Got the Bible* (1985年)、67-74；S・マイケル・ウィルコックス、*Fire in the Bones: William Tyndale - Martyr, Father of the English Bible* (2004年)；ジョン・フォックス、*The New Foxe's Book of Martyrs* (1997年)、121-133；ウィリアム・ティンダル、[http://en.wikipedia.org/wiki/William\\_Tyndale](http://en.wikipedia.org/wiki/William_Tyndale)、2010年2月28日閲覧。Bible Dictionary, "Bible, English" の項
2. リチャード・ナイツェル・ホルツァプフェルのインタビュー、マイケル・デ・フローテ、"Questioning the Alternative Jesus", *Deseret News*, 2009年11月26日付、M5参照





七十人  
青柳弘一長老

## 助けの手, 救いの手

わたしたちが、預言者の勧告と模範に従い、日々助けの必要な人々を見つけ出すことができますように。

**兄** 姉妹の皆さん、この大会でお話しできる機会に心から感謝しています。トーマス・S・モンソン大管長に感謝し、大管長が生ける神の預言者であることを証します。モンソン大管長のすばらしい模範あかしに深く感動しています。大管長は、自らの手を差し伸べて人々を助け救うことにその半生を費やしてきました。

わたしたちは、多くの人が災難に遭い、地震や津波、ハリケーンなどの自然災害の破壊的な影響のために助けを必要としている時代に生きています。教会は、人道支援活動を通して、これらの人々に助けの手を差し伸べようと努めています。教会員は毎月、忠実に断食献金を惜しみなくささげ、愛の精神による奉仕の業を行っています。彼らは文字どおり、主の方法にかなって助けの手を差し伸べています。彼らは主の次の戒めに従っているのです。「貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こしなさい。これらのことを行わない者は、わたしの弟子ではないからである。」(教義と聖約 52:40)

今日わたしは、霊的に助け、救う手に目を向けてみたいと思います。主の業と栄光は、まさに「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」です(モーセ1:39)。わたしたちの周りの多くの人が、霊的な助けを必要としています。わたしたちは、あまり教会に来ていない会員やパートメン

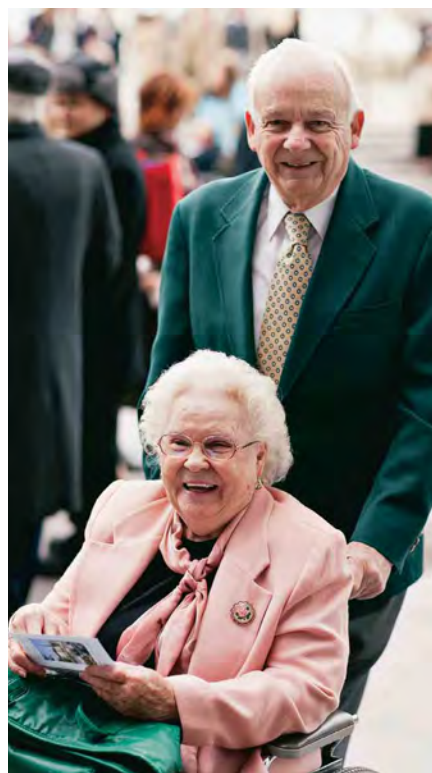
バーの家族、教会員でない人々に救いの手を差し伸べるとき、すべての人々を「キリストのもとへ来る」<sup>1</sup> よう招いているのです。

改宗して間もないころ、わたしは信仰深い会員の救いの手によって霊的に救助されるという経験をしました。わたしは、日本の長野県松本市で生まれ育ちました。冬季長野オリンピックの開催地の近くです。わたしの故郷は、ソルトレーク・シティーと地形がよく似ており、美しい山々に囲まれた盆地です。わたしは17歳のとき、カーター長老と林長老という二人のアメリカ人宣教師に会いました。わたしと2、3歳しか変わらないのに、長老たちは、わたしが今まで感じたことのないすばらしい何かを持っていました。熱心で、明るく、愛にあふれ、輝いていました。彼らの持つ特質に魅了され、わたしも彼らのようにになりたいと思いました。彼らのメッセージに耳を傾けているうちに、バプテスマを受ける決心をしました。両親は、仏教徒であったため、わたしのバプテスマに強く反対しました。しかし、宣教師と主の助けにより両親が許可してくれて、奇跡的にバプテスマを受けることができました。

翌年、わたしは横浜の大学に入りました。故郷と親しい人々のもとを遠く離れ、独り暮らしをするようになったわたしは、孤独を感じ、教会から遠ざかってしまいました。そんなある日、故郷の会員からはがきを受け取りました。彼女は、わたしが

教会の集会に出席していないことを知り、ある聖句を引用して、教会に戻るよう勧めてくれました。わたしはその聖文の言葉に圧倒されました。このことがきっかけとなり、わたしは自分が何か大切なものを失っているかもしれないことに気づき、幾日も、深く考え、悩みました。やがて、宣教師がわたしにしてくれた次の約束を思い出すに至りました。「モルモン書を読み、モロナイ書に記された約束が真実かどうか、熱心に祈り、尋ねてみてください。そうすれば、聖霊の力を通して、真理が分かるでしょう。」<sup>2</sup>

それまで心を尽くして祈っていなかったことを悟り、心から祈る決心をしました。ある朝、早く起きて、小さなアパートの部屋でひざまずき、心から祈りました。すると驚いたことに、約束されたとおりに聖霊による確認を受けました。心が熱く燃え、体が震え、喜びに満たされました。聖霊の力を通して、父なる神とその御子イエス・キリストが生きておられ、御二方がほんとうにジョセフ・スミスに御姿みすがたを現されたことを知ったのです。わたしは、悔い改めて残りの生涯をイエス・キリストに忠実に従って生きていこうと、心に決めました。





この霊的な経験により、わたしの人生は一変しました。わたしを救助してくださった主と手を差し伸べてくれた先ほど述べた教会員への感謝の気持ちから、伝道に出ようと決心しました。伝道を終えた後、すばらしい女性と神殿で結び固められ、4人の子供を授かりました。実はこの女性こそ、何年も前に横浜の寂しいアパートにはがきを送ってわたしを救ってくれた人なのです。わたしをもう一度、キリストのもとへ来る<sup>3</sup> ように招いてくださった主の憐れみとこの教会員の助けに対して、わたしの感謝は絶えることはありません。

皆さんの多くが、愛に満ちた救いの手を日々、目立たぬところで差し伸べていることを知っています。例えば、訪問教師として割り当てられた姉妹たちだけでなく、病気の姉妹やほかに助けを必要としている姉妹たちをも世話している忠実な扶助協会の姉妹がいます。彼女は、長年にわたって度々訪問して、多くの人の信仰を強めてきました。また、自分のワードで夫や妻に先立たれた人々を足しげく訪問していたあるビショップのことが思い出されます。責任を解任になった後も、長年にわたってこのような援助を続けていたのです。

父親を亡くした若い男性のためによく時

間を割いている、ある神権指導者を知っています。彼はその若い男性と様々な活動に参加し、福音を教え、父親の代わりに様々な相談に乗ってあげています。別の家族は、福音を分かち合うことを喜びとしています。両親と子供たちは、周りの人々に福音を証し、多くの人から愛されています。

わたしの5歳の孫娘は、今、初等協会の活動の一環として、善い行いをする度に、大きなガラス瓶にポップコーンの粒を入れています。毎日、善いことを探しながら、大きな声で次の初等協会の歌を歌っています。「従おう、預言者は主の道を知っている。」<sup>4</sup>

わたしが目にした教会員のすべての善い行いを紹介する時間はありません。彼らは、ほかの人々が知らないところで、義務や責任感からではなく、自らの自由意志によって、喜んで預言者の勧告に従っています。

時折わたしたちは、自分は弱く、人々を救助するには力不足だと感じます。しかし、主はわたしたちに次の言葉を思い出させてくださいます。「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわ

ち、わたしにしたのである。」(マタイ 25:40)

最後にトーマス・S・モンソン大管長の言葉を引用します。「兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの周りには、家族、友人、知人、他人を問わず、わたしたちの注目、励まし、支え、慰め、親切を必要としている人が大勢います。わたしたちは地上で主の御手に使われる器であり、わたしたちには御父の子供たちに仕え、彼らを高める責務があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです。」<sup>5</sup>

わたしたちが、預言者の勧告と模範に従い、日々助けの必要な人々を見つけ出し、主の子供たちを助け、救うことにおいて主の御手に使われる器となることができますよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

#### 注

1. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』1参照
2. モロナイ 10:4-5 参照
3. マタイ 11:28 参照
4. 「預言者にしがたおう」『子供の歌集』58-59
5. トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号、85



七十人  
ブルース・A・カールソン長老

# 主が命じられるとき

すべきことがどのくらい大変そうに見えても、心から従順であるなら、主は導きと助けと平安を与えてくださいます。

**あ**るアウトドア好きの二人が、小型飛行機をチャーターして人里離れた湖まで毎年恒例の釣り旅行に出かけました。行きの飛行は何事もありませんでした。帰りの飛行機が二人のいる場所に到着すると、パイロットはすぐに、釣った魚で重くなりすぎて、本人たちと道具を全部積んでは飛べないと二人に言いました。すべてを運ぶにはもう一度往復する必要がありました。

もう一往復分の追加料金を払いたくなかった二人は、荷物を上手に詰め、料金が多少の上積みをするのと約束したため、パイロットは飛行機を飛ばすことをしぶしぶ承知しました。

飛行機が何とか離陸すると、二人はうまくいったとほくそ笑みました。しかし数秒後、飛行機は失速し、湖の端にある広く平らな沼地に墜落してしまいました。

失速したのは、有名な「地面効果」という現象で飛行機が飛んでいたからでした。「地面効果」は、翼と地面の距離が近いとき、その間の空気が圧縮されて、浮き上がる力が飛行機に加わることで起こります。この話の場合、機首をゆっくりと上げた飛行機は「地面効果」が消える前に自力で飛ぶだけの力を得ている必要があったのですが、それができなかったのです。

幸い、だれも大きなけがをしましませんでした。意識が戻り、釣り人の一人が「何があったんだ」ともう一人に尋ねました。彼は答えました。「離陸に失敗したんだ。

去年落ちた場所から100ヤード(91メートル)くらいしか離れていないかな。」

この二人の釣り人のようにわたしたちも時々、主の戒めを守るのに、もっと簡単な方法があるに違いないと思うことがあります。個人の事情に合わせて近道をした、戒めに手を加えたりすることができると思ってしまうのです。このような考えでは、神の律法に厳密に従うことで祝福を受け、従わなければ予想どおりの結果になるということが分からなくなってしまいます。

教会の大管長に召されたとき、ハロルド・B・リーは言いました。「教会の安全は、戒めを守る会員たちにかかっています。……戒めを守るとき、祝福がもたらされます。」<sup>1</sup>

何らかの戒めに従わない選択をする理由には、たいてい次のものがあります。

(1) その戒めが自分には当てはまらないと決めつけているから。(2) その戒めは大切だとは思わないから。(3) 難しすぎて従えないと思いついてるから。

## 1. この戒めはわたしには当てはまらない

ソロモン王の統治の晩年に、主は預言者を通して王に言われました。「わたしは必ずあなたから国を裂き離して、それをあなたの家来に与える。」<sup>2</sup>

間もなく預言者アヒヤは、ヤラベアムこそがその家来であることを知りました。「手腕 [があり]」、ソロモンが「ヨセフの

家のすべての強制労働の監督をさせた」人物です。<sup>3</sup> ヤラベアムは任務上、住まいとしているエフライムの山地からエルサレムの都まで幾度も旅をしなければなりませんでした。そうしたあるとき、アヒヤは道で彼に会いました。主はアヒヤを通してヤラベアムに「わたしは……あなたに十部族を与えよう」<sup>4</sup> と言い、そして命じられました。「もし、あなたが……わたしの道に歩み……わたしの定めと戒めとを守るならば、わたしはあなたと共にいて……イスラエルをあなたに与えよう。」<sup>5</sup>

アヒヤの預言を知ったソロモンはヤラベアムを殺そうとしました。そこで、ヤラベアムはエジプトに逃れます。<sup>6</sup> ソロモンが死ぬと、ヤラベアムはエジプトから戻ってイスラエルの北部に住み、北の十部族を治め始めました<sup>7</sup>。

ところが、王国を治めるヤラベアムの計画には善と悪が混ざっていました。ヤラベアムは民にとって宗教的に大きな意味のある町シケムを国の都としましたが、悲しいことに、礼拝にサタンの儀式を持ち込んだのです。<sup>8</sup>

ヤラベアムは、神の戒めの中には自分に当てはまらないものがあると決めつけていました。そうした行いの結果、子孫はすべて殺され、また神聖な儀式に異教徒の慣習を持ち込んだために、イスラエルの十部族は後に受け継ぎの地から追われることになりました。<sup>9</sup>

翼が持ちこたえられないほど荷物を積んだまま「地面効果」の外に出る飛行機が破壊的な結果を見るように、神の律法に中途半端に従ったり、自分で選んだ律法にのみ従ったりするなら、従順のもたらす祝福のすべてを受けることはできません。

## 2. これは大切な戒めではない

数十年後、スリヤの軍勢の英雄、「大勇士」<sup>10</sup> ナアマンは郷里の地からイスラエルへ行き、ヨラム王に重い皮膚病を治してくれるよう願いました。<sup>11</sup>

ナアマンは預言者エリシャのもとへ行く



よう言われました。すると、「エリシャは彼に使者をつかわして言った、『あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、……清くなるでしょう。』」<sup>12</sup>

癒されると預言者が約束したにもかかわらず、ナアマンはエリシャが直接彼に会わなかったことに腹を立てました。また、小さくて濁ったヨルダン川で7回身を洗うよう指示されたことにはいっそう憤慨しました。国や社会での地位と身分にふさわしい、もっと目を見張るような、盛大な治療法でなければ、彼のプライドが許さなかったのです。

ナアマンにとって幸いだったのは、預言者が何を言ったとしてもそのとおりにすれば主の祝福が受けられると、僕たちが説得したことです。ナアマンは指示に従い、ヨルダン川で体を洗いました。従順の結果として、重い皮膚病は癒されたのです。<sup>13</sup>

どれほどささいで取るに足りないことのように思えても、主の戒めに従順であれば、約束された祝福は必ず与えられます。

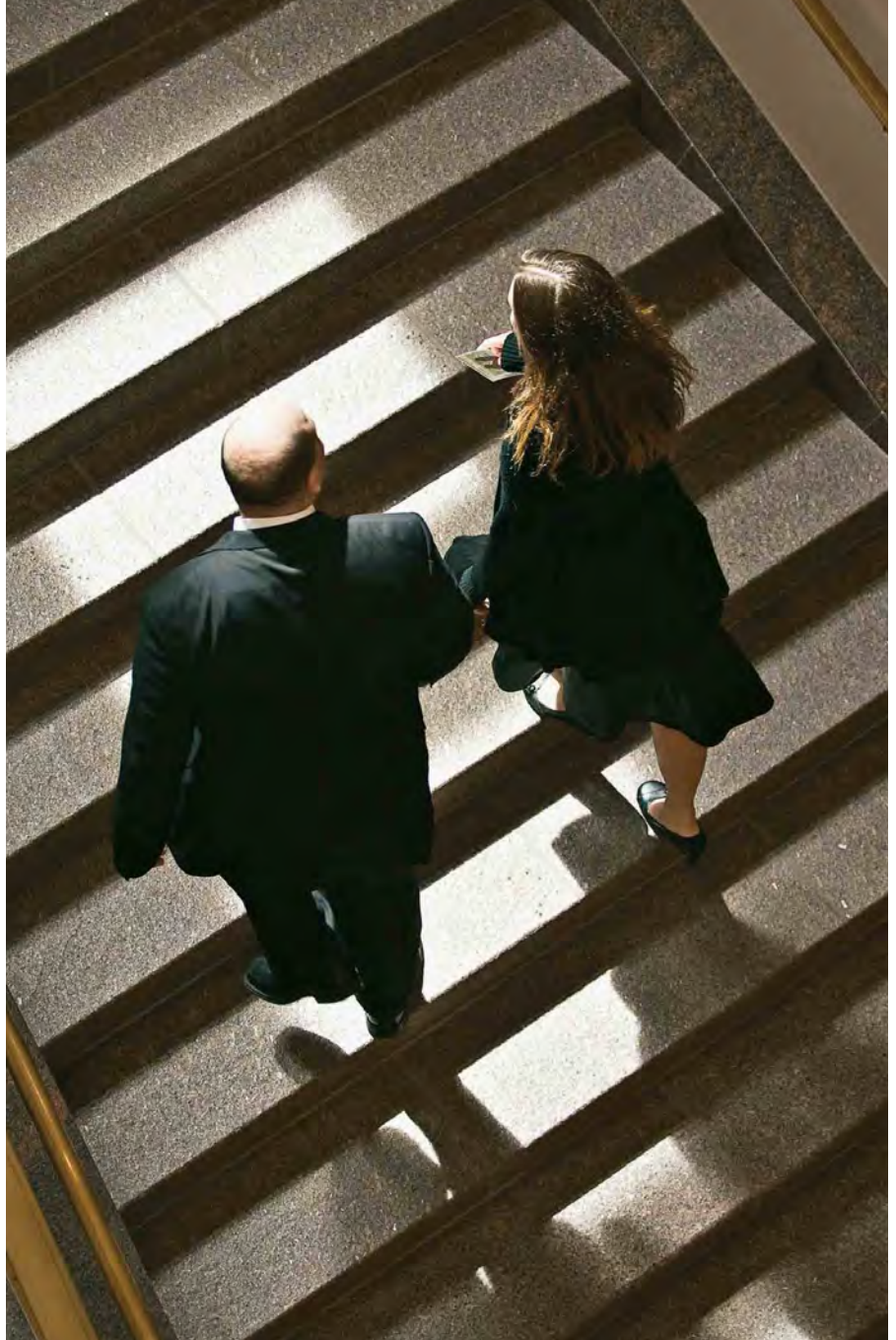
### 3. この戒めは難しすぎる

預言者リーハイは主の命令に従い、家族を連れて荒れ野に出ました。出発して数日たったとき、リーハイは息子のレムエルに次のように教えました。「主の戒めを守ることに於いて堅く確固として、揺るぎなくあるように。」<sup>14</sup>

しかし長男と二男は、「ユダヤ人の記録」<sup>15</sup> が載った真鍮の版を取りにエルサレムへ戻るようにという預言者の要求に、「難しい」<sup>16</sup> と言って反発しました。

兄たちは不満を言いましたが、ニーファイは主の命令を信じる信仰を持っていました。そして主の命令に従い、真鍮の版を手に入れることができました。そのおかげで、国が築かれ、言語が守られ、その後の何世代にもわたってイエス・キリストの福音が教えられたのです。

主の律法を守ることが難しい、恥ずかしい、あるいは苦痛でさえあるのは、自分の状況が特別だからであり、従順でなくて



も主は理解してくださると正当化することがあるかもしれません。しかし、すべきことがどのくらい大変そうに見えても、心から従順であるなら、主は導きと助けと平安を与えてくださいます。

預言者ジョセフ・スミスは、重要な友人であるマーティン・ハリスが、リーハイ書の翻訳の最初の手書き原稿 116 ページをペンシルベニア州ハーモニーからパルマイラに持って行くことを、2度主に懇願しました。主の勧告は2度とも、原稿をハリス氏に渡してはならないというものでした。

マーティンが原稿を欲しがったのは、仲間が自分とジョセフ・スミスの親交についてうわさを広めないようにするためでし

た。3度目の懇願で、主はジョセフの願いを受け入れられました。<sup>17</sup>

マーティンは原稿をなくし、その結果、長い期間、版は預言者ジョセフ・スミスから取り上げられました。この経験は、預言者ジョセフにとってつらい教訓となりました。ジョセフはこう語っています。「わたしは……次の規則に従うようにしています。『主が命じられるなら、行いなさい。』」<sup>18</sup> これは、わたしたちの規則にもすべきですし、することができます。

わたしたちが主の戒めを守れば、主は確かにそれにこたえてくださいます。主はこのように約束しておられます。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、

あなたは永遠の命を得るであろう。』<sup>19</sup>

主はさらに勧告をお与えになりました。「主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。』<sup>20</sup>

主の戒めに従順であるなら、自分で選んだ道に自信を持つことができます。たゆまぬ努力によって、教えと導きを受けるにふさわしくなります。また、救い主イエス・キリストのようになり、御父のみもとに戻る道が開かれます。

イエス・キリストの福音にある律法、儀式、戒めにいっそう従順となれるよう日々努力し、それによって主がわたしたちをいっそう豊かに祝福してくださるように祈っています。

神の命令に従うことによって天の祝福がもたらされることを証します。天の御父と御子イエス・キリストは生きておられ、モルモン書は神の御言葉であり、トーマス・S・モンソン大管長は現代における主の預言者であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. ハロルド・B・リー。スティーブ・Wギブソン。"Presidency Meets the Press," *Church News*, 1972年7月15日付, 3で引用
2. 列王上 11:11
3. 列王上 11:28
4. 列王上 11:31
5. 列王上 11:38
6. 列王上 11:40 参照
7. 列王上 12:2-3, 20 参照
8. 列王上 12:25-30 参照
9. 列王上 14:10, 15-16 参照
10. 列王下 5:1
11. 列王下 5:5-6 参照
12. 列王下 5:10
13. 列王下 5:11-14 参照
14. 1ニーファイ 2:10
15. 1ニーファイ 3:3
16. 1ニーファイ 3:5
17. *History of the Church*, 第1巻, 20-21; 教義と聖約 3章:10章参照
18. 「歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス」161
19. 教義と聖約 14:7
20. 教義と聖約 76:5, 強調付加



十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

## 目をさまして うむことがなく

シオンの親が子供に関する事柄を警戒し、識別するのに役立つ、  
霊的な初期警告システム [があり] ます。

**先** 日車を走らせていると、雷が鳴りフロントガラスに雨粒が落ちてきました。道路わきの電光掲示板には「前方に水たまり」という警告が表示されました。走っている路面はまったく安全に見えましたが、この重要な情報のおかげで、思いつきもせず、まだ見えてもいなかった危険に備えることができました。目的地へ走り続けながら、スピードを落とし、危険を示すほかの表示がないか、注意しました。

初期の警告は、生活の多くの面で明白です。例えば、発熱は病気の最初の徴候となり得ます。金融市場や労働市場の様々な指標は、地方や国の経済動向を予測するために用いられます。また、世界のどの地域に住んでいるかによって異なりますが、洪水、雪崩、ハリケーン、津波、竜巻、吹雪などの警告を受けることがありますでしょう。

また、霊的な初期警告もあり、わたしたちの生活の中で守りや導きとなっています。思い出してください。ノアは、まだ見えていない事柄について神から警告を受け「その家族を救うために箱舟を造」りました(ヘブル 11:7)。

リーハイは人々に悔い改めるよう宣言し、そのために命をねらわれていたので、エルサレムを離れて家族を荒野へ連れ

て行くよう警告されました(1ニーファイ 2:1-2 参照)。

主御自身も天使の警告により救われました。「見よ、主の使が夢でヨセフに現れて言った、『立って、幼な子とその母を連れて、エジプトに逃げなさい。そして、あなたに知らせるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが幼な子を捜し出して、殺そうとしている。』」(マタイ 2:13)

「知恵の言葉」として知られる啓示の中の主の言葉遣いについて考えてください。「終わりの時に陰謀を企てる人々の心の中に今あり、また将来もある悪ともくろみのゆえに、わたしはあなたがたに警告を与えており、また、啓示によりこの知恵の言葉を与えることによって、あなたがたにあら





かじめ警告するものである。」(教義と聖約 89:4)

霊的な警告を受けたら警戒を強めるべきです。わたしたちは「警告の時」に生きており(教義と聖約 63:58)、これまでも、そして今後も警告されるので、使徒パウロの勧告のように「目をさましてうむことがな[い]」ようにする必要があります(エペソ 6:18)。

シオンの親が子供に関する事柄を警戒し、識別するのに役立つ、霊的な初期警告システムについて、わたしは聖霊の導きを祈り求めながら説明します。この初期警告システムはあらゆる年代の子供に当てはまり、3つの基本的な要素から成っています。(1) 子供と一緒にモルモン書を読んで話し合う。(2) 子供に福音が真実であるという証あかしをごく自然に伝える。(3) 福音の学習者として、作用される者ではなく、作用する者になるよう子供に勧める。これらのことを忠実に行う親は、早い段階で子供の霊的成長や問題のサインに気づき、子供を強め助けるための靈感を受けるよう、自らをよりよく備えることができるでしょう。

### 第1の要素——子供と一緒にモルモン書を読んで話し合う

モルモン書は救い主の完全な福音を収めており、主御自身が真実であると証された唯一の書物です(教義と聖約 17:6 参照)。ラッセル・M・ネルソン「モルモン書の証」『リアホナ』2000年1月号、84も参照)。確かに、モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石です。

人に確信を与え改心させるモルモン書の力は、その焦点が主イエス・キリストに置かれていることと、その靈感あふれる教えが明瞭めいりょうで分かりやすいことから来ています。ニーファイはこう宣言しました。「わたしは、民が学べるように分かりやすい言葉で話すことを喜びとしている……。」(2ニーファイ 25:4) この聖句の核となる「分かりやすい」という言葉は、平凡で単純という意味ではなく、明瞭で理解しやすいという意味です。

モルモン書は地上で最も正確な書物です。なぜならこの書物の中心は真理(ヨハネ 14:6:1 ニーファイ 13:40 参照) すなわちイエス・キリストであり、この書物によって、真実の福音から取り去られた分かりやすくて貴い事柄が回復されている

からです(1ニーファイ 13:26, 28-29, 32, 34-35, 40 参照)。救い主が中心であり、教えが分かりやすいという二つの要素の独特な組み合わせは、神会の第三の御方である聖霊からの確認の証を力強く招き寄せます。その結果、モルモン書はほかのどの聖典にも見られない力で、読者の霊と心に語りかけるのです。

預言者ジョセフ・スミスは、人はモルモン書の教えに従うことにより、ほかのどの書物にも増して「神に近づくことができる」と教えています(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』64)。モルモン書を読んで話し合うなら、誘惑を退け、家族の中に愛を生み出す力がわいてきます。モルモン書の中の教義や原則について話し合うなら、親は子供を観察し、子供の声に耳を傾け、子供から学び、子供を教える機会を得ることになります。

若人は何歳であっても、幼児でさえも、モルモン書の特有の霊に反応します。子供はすべての言葉や話の筋を理解していないかもしれませんが、確かにイザヤが述べた霊、すなわち人を助けるという「亡霊」を感じることができます(イザヤ 29:4。2ニーファイ 26:16も参照)。そして、子



供の質問や意見が、またそこから始まる話し合いが、きわめて重要な「霊的な初期警告」になる場合があります。大切なことに、親はそのような会話により、子供が直面している問題と同時に、この神聖な聖典にある真理について子供が何を学び、考え、感じているかを識別することができます。

## 第2の要素——ごく自然に証を伝える。

証とは、永遠に重要な幾つかの事柄についてそれが真実であるという、聖霊からの確認に基づいた認識です。聖霊は御父と御子の使者であり、あらゆる真理の教師であり、導き手です（ヨハネ14：26：16：13参照）。したがって、「聖霊の力によって、〔わたしたちは〕すべてのことの真理を知る」のです（モロナイ10：5）。

聖霊から授かるそのような知識と霊的確信は、啓示によってもたらされます。こうした祝福を求めて得るには、誠心と、誠意と、キリストを信じる信仰が必要です（モロナイ10：4参照）。個人の証には責任も付随します。

親は、子供に証を述べる何げない機会を見逃さないよう、霊的に注意を払っているべきです。そのような機会は、あらかじめ計画したり、予定を立てたり、台本を書いたりする必要はありません。実際、計画

性が低ければ低いほど、そのような証によって教化され、影響が長続きする可能性が高まります。「また、あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」（教義と聖約84：85）

例えば、夕食を囲んで家族が何げなく話をしているときは、ありふれた一日の中で親が経験した具体的な祝福について詳しく話し、証を述べる最良の場かもしれません。また、証をするときには、必ずしも「証をします」という言葉で始める必要はありません。証は、次のように簡単に述べることができます。「今日は仕事に確かに靈感を受けたよ」あるいは「この聖句にある真理は、いつもわたしを力強く導いてくれるよ」などです。そのほかにも、車やバスと一緒に乗っているときなど、いろいろな場面で証を述べる機会がたくさんあります。

そのような何げない証に子供がどう反応するか、子供が熱心に話に乗るか否かは、霊的な初期警告の重要な手がかりとなります。子供が家族の聖文学習で学んだ教訓について話したり、福音の原則や実践に関する不安を率直に言ったりする

と、子供の考えや気持ちが明らかになり、親は子供の具体的な疑問や必要をよく理解できます。そうした話し合いは、特に親が、話をするときと同じくらい熱心に耳を傾けるならば、家庭内に優しく安心できる雰囲気をはぐくみ、難しい話題についても徐々に理解し合えるように助けてくれます。

## 第3の要素——作用する者になるよう子供に勤める

神が創造された万物は「作用するもの」と「作用されるもの」に大きく分けられます（2ニーファイ2：14）。わたしたちは天の御父の子供として、選択の自由、すなわち自分で行動を起こす能力を頂いています。選択の自由を与えられたわたしたちは、自ら行動する者であり、本来は作用する者であって、作用されるだけの者ではないのです。「研究によって、また信仰によって学問を求め」るときには特にそうです（教義と聖約88：118）。

福音の学習者であるわたしたちは「御言ことばを行う人になり……ただ聞くだけの者となつては」なりません（ヤコブの手紙1：22）。選択の自由を正しく使い、正しい原則に従って行動するとき、わたしたちの心は聖霊の影響を受けやすくなり、教え証する聖霊の力を招くことができます。信仰によって行動し、学問を求めるように子供を助けることは、親の神聖な務めです。そして、このように学べないほど幼すぎる子供はいません。

魚をもらえば1食は賄えます。魚の取り方を学べば一生食べていけます。親であり福音の教師である皆さんやわたしの仕事は、魚を与えることではなく、魚の取り方を学び、霊的に安定するよう子供を助けることです。このきわめて重要な目標を達成する最も良い方法は、正しい原則に従って行動するよう子供を励まし、実践によって学ぶよう助けることです。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教おしえが神からの

ものか、……わかるであろう。】(ヨハネ7:17) このような学習には、単に受け身の姿勢ではなく、霊的、精神的、肉体的に努力することが求められます。

福音の学習者である子供に、作用される者ではなく作用する者になるよう勤めることは、モルモン書を読んで話し合い、家庭で何げなく証を述べることを土台とします。例えば、モルモン書を読んで学んだことについて、また家庭での福音の話し合いや何げない証の中で最近強調されたことについて、子供が質問を用意して家庭の夕べに参加する場面を想像してください。さらに、子供の質問に答えるために親が十分に準備できていない様子を想像してください。あらかじめ答えが準備できないそのような家庭の夕べに不安を感じる親もいるでしょう。でも、最良の家庭の夕べは、レッスンプランと視覚教材の一式を前もって準備したり、購入したり、ダウンロードしたりしなければいけないわけではないのです。家族と一緒に聖句を探したり、聖霊から教えを受けたりするのは、何とすばらしい機会でしょう。「教えを説く者は聞く者よりも偉いわけではなく、教える者は学ぶ者よりも偉いわけではないので、……彼らは皆、各々自分の力に応じて働いた。」(アルマ1:26)

皆さんやわたしは、研究と信仰によって学問を求め、自ら選択し行動する者となるよう子供を助けているのでしょうか。あるいは、教えられるのを待つようにしつけてきたのでしょうか。親であるわたしたちは大抵の場合、子供に霊的な魚に相当するものを与えていないのでしょうか。それとも、自ら学び、確固として動かずに立てるよう常に助けているのでしょうか。熱心に求め、捜し、たたくよう子供を助けているのでしょうか(3ニーファイ14:7参照)。

皆さんやわたしが祝福として得てきた霊的な理解、心で真実だと確認してきた霊的な理解を、そのまま子供に与えるのは不可能なことです。そのような知識を得て自分のものにするには、研究と信仰に



よって勤勉に学ぶという代価を払わなくてはなりません。このようにして初めて、頭で分かったことを心で感じるができるのです。また、このようにして初めて、子供は親や大人の霊的な知識や経験に頼る段階を終えて、その祝福を自分で求めることができるのです。このようにして初めて、子供はこの世の試練に対して霊的に備えることができるのです。

#### 約束と証

一貫して子供とともにモルモン書を読んで話し合い、何げなく子供に証を伝え、福

音の学習者である子供に単に作用される者ではなく作用する者となるよう勤める親には、遠くを見ることが出来る目(モーセ6:27参照)と、ラッパの音を聞く耳(エゼキエル33:2-16参照)が祝福されるでしょう。以上の3つの神聖な習慣から受ける霊的な識別力と靈感により、皆さんは家族のために見張り台に立つ見張り人となり、「目をさましてうむことがなく」(エペソ6:18)、家族と子孫に祝福をもたらす者となるでしょう。このことを、主イエス・キリストの聖なる御名により証し、約束します、アーメン。■



十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホランド長老

# わたしの敵に場所を 与えてはならない

愛と結婚生活と社会と魂を、神が望まれる本来あるべき清い状態にできるかぎり保とうと努めるとき、わたしたちの内にある最も気高く最高の自分に忠実であることの喜びを得られますように。

**ホ**ランド姉妹とともに、ある遠方の空港に降り立ったときのことです。美しい若い女性が3人、同じ機内から急いで降りて来て、あいさつしてくれました。3人とも教会員だと自己紹介しましたが、それ自体は驚くようなことではありません。教会員ではない人が、空港で急いでわたしたちのところに来て来るなどということは普通はないからです。しかし、会話は思いがけない方向に進み、この3人の女性の涙から、彼女たちが離婚したばかりだと分かりました。いずれの女性の場合も、夫の不貞が原因でした。しかも、3件とも離反と背罪の種は、夫がポルノグラフィーに心を奪われたことでまかれたのです。

今日のメッセージの導入として、このような赤裸々な話から始めたのは、それが話しにくい事柄だからです。わたしは今、いにしえのヤコブのような思いでいます。彼はこう言いました。「ひどくあからさまに話さなければならないことは、わたしにとって悲しいことである。あなたがた……の多くは、……非常に感じやすく、清く、繊細である。」<sup>1</sup>しかし、わたしたちはあからさまに話をする必要があると考えています。恐らくわたしの中にある父親としての思い、あるいは祖父としての思いが

そうさせるのだと思いますが、その若い女性たちの涙を見て、わたしもホランド姉妹も涙を流し、3人の次のような疑問を自らに向けました。周囲の世界でどうしてこれだけ道徳の荒廃が進んでいるのだろうか。また、どうしてこれほど多くの人や家族が、一部の教会員も含めて、その荒廃の犠牲になっていて、そのために悲惨な傷を負っているのだろうか、ということです。

もちろんわたしは、少なくともこの自問に対する答えの一部を承知しています。わたしたちは皆、ほぼ毎日のように攻撃にさらされ、不道徳なメッセージがあらゆる角度からわたしたちのうえに洪水のように押し寄せています。映画やテレビや音楽産業の闇の部分<sup>やみ</sup>は、不快な言葉や性的不品行へと一っそう歩み寄ってきています。まことに悲しいことに、わたしの家族歴史の探索を可能にし、神殿の儀式に名前を



準備させてくれるその同じコンピューターやインターネットのサービスが、フィルターや制限をかけなければ、わたしの子供や孫たちがアクセスすれば永遠にわたってその脳にダメージを受けるような、汚れた画像や思いの地球規模の集積所にもなり得るのです。

あの若い妻たちが夫の不貞はポルノグラフィーに心を引かれたことから始まったと言ったことを忘れないでください。しかし、不道徳な行いは男性だけの問題ではなく、夫だけが罪を犯すわけではありません。マウスをクリックするときの危険性は、チャットルームで仮想の出会いをするときに起こり得る危険性も含め、人を偏り見ることはありません。老若男女を問わず、既婚未婚も問いません。そして、こうした誘惑に、IT産業の言葉を借れば、「だれでもアクセスできるようになる」と、敵対者は忙しくその領域を広げ、携帯電話、テレビゲーム、MP3プレーヤーにまでその触手を伸ばそうとしています。

木から伸びた枝を一つずつ切り落とすような方法でこのような問題に対処することをやめ、根元から直接なぎ倒さないかぎり、当然ながら、情欲という木はひそかに芽を出すことになるでしょう。情欲という言葉は耳障りな言葉です。確かに説教のテーマとしては耳障りな話題です。しかし、言い伝えて、これが「七つの大罪」<sup>2</sup>のうちで最も死に値するものとして知られているのには、十分な理由があるのです。

では、なぜ情欲が「死に値する」罪になるのでしょうか。情欲というものが、わたしたちの魂を脅かし、御霊<sup>みたま</sup>の働きを完全に破壊するような力を持つだけでなく、神が地上にいる人間に与えられた最も気高く最も神聖な関係を汚す罪だからだと思えます。その関係とは、男性と女性が互いに抱く愛であり、二人で永遠につながる家族を築くために子供を授かりたいと思う願いを指しています。かつて、真の愛は永遠という概念と結びついていなければならぬ、と言った人がいます。真の愛



は堪え忍ぶものです。しかし、情欲というものは、ポルノグラフィーのページをめくる速さで、あるいは男であれ女であれ、満足させてくれる対象が目に入れば、どんどん変わっていきます。真の愛というものは、わたしがホランド姉妹に対して抱いているような、実に麗しい思いのこです。屋根の上から堂々と宣言できるほどです。しかし、情欲の特徴は、やましさと人目を避けることにあります。ほとんど病的なまでに隠し通したいのです。時間帯は遅ければ遅いほどよく、暗ければ暗いほど好都合ですし、念のため二重ロックのドアが欲しいと願います。愛を抱くと、本能的に神に近づきほかの人に手を差し伸べたくなります。一方、情欲はと言えば、神聖な思いとはほど遠く、だらしなくてわがままです。愛があれば、手も心も開かれて寛大になりますが、情欲が解放するのは欲求だけで、飢える一方です。

愛の真の意味を曲解するという事は、それが想像上のことであれ実在する人とのことであれ、実に破壊的であると考える理由を、幾つかここで紹介しておきましょう。まず、それは、神を信ずる信仰に次ぐ大切なもの、すなわち、愛する者への信頼を台なしにしてしまいます。現在あるいは将来の愛を築く土台となるはずの信頼を根底から揺さぶります。しかも、その信頼は、一度失ってしまうと、回復するにはひどく時間がかかってしまうものです。それは、家族の一員のように親しい人であろうと、あるいは高級官僚や実業界の指導者、メディアの寵児ちようじ、スポーツの花形選手であろうと同じく当てはまり、もしこの問題がいつそう悪化すると、日ならずして、道徳的に責任ある社会のために建設したはずの建物に、「空家」<sup>3</sup>という看板を掲げることになるのです。

わたしたちが独身か既婚かにかかわらず、また老若にかかわらず、誘惑がどのような形で現れようと、その誘惑からどう身を守ったらよいか、少しの時間、話しましょう。わたしたちは今日の社会のすべ

での問題を解決することはできないかもしれませんが、しかし個人としてどのような行動が取れるかについて話しましょう。

- 最も大切なことですが、あなたを害する人や物や環境から遠ざかることから始めるのです。アルコール依存症などと闘っている人が承知しているように、近づくことで招く誘惑が命取りになります。道徳的な問題でも同じです。ポテパルの妻の前に立つヨセフのように<sup>4</sup>、ただ逃れ出てください。あなたを誘惑しようとするものからは、それがだれであれ、何であれ、できるだけ遠くへ逃れてください。そして、誘惑の場から逃れるときには、決して連絡先を教えないでください。
- 重度の依存症という鎖で縛られている人は、往々にして自助努力以上の助けが必要だということを認識してください。それはあなたのこともかもしれません。助けを求め、その助けを歓迎してください。ビショップに話し、その勧告に従ってください。神権の祝福を求めてください。教会のファミリーサービス部の支援を活用してください。あるいは、資格のある専門家にその他の助けを求めてください。たゆまず祈ってください。あなたを助けてくれる天使を求めてください。
- コンピューターにフィルターをかけたか、不適切なものへの愛着心に鍵をかけたか、人生を実際にコントロールできるのは自分自身しかいないということを心に留めてください。これに加えて、皆さんの目の前にある境界線上の事柄を、もっとコントロールできるよう

努めてください。テレビ番組が下品なものだったら、テレビを消してください。映画が粗野なものだったら、映画館から出てください。もし不適切な関係に発展しそうななら、そのような関係は断ち切ってください。こうした影響力の多くは、少なくとも始めは、表面的には害悪とならないかもしれませんが、しかし、そうしたことはわたしたちの判断力を衰えさせ、霊性を鈍くします。そして、本物の悪へと導いていくのです。「千里の道も一歩から」<sup>5</sup>という古いことわざがあります。自分の足もとに注意してください。

- 夜来る盗人のように、歓迎されない思いというものは、わたしたちの心に入り込むすきをうかがっています。しかし、わたしたちは、ドアを開放し、盗人を紅茶とケーキでもてなし、銀の食器をどこに保管してあるか告げてあげる必要はないのです。(そもそも紅茶を出してはいけません。)ならず者のような思いは心から追い出してください。みだらな思いは、希望に満ちた考えや楽しい記憶と入れ替えてください。愛してくれている人たちが、あなたが期待を裏切ったら打ちひしがれてしまうであろう人たちの顔を思い起こしてください。家で帰りを待っていてくれる母親や妻、子供の顔を思い出すことによって、罪や愚かな行いから救われた人はたくさんいます。どんな思いにせよ、あなたの心には「あなたが招いた」思いだけがあるようにしてください。いにしへの詩人が言ったようにあなたの意志をあなたの分別にして、思いをコントロールしてください。<sup>6</sup>



• 主の御霊が宿る場所を整え、その中で過ごしてください。皆さん自身の家やアパートがそのような場所となるよう努め、ふさわしい芸術や音楽や書籍をそろえてください。すでにエンダウメントを受けていれば、状況が許すかぎり神殿に参入してください。神殿に参入すると「〔神〕の力を帯び……〔神〕の栄光が〔皆さん〕の周りにあり、〔神〕の天使たちが〔皆さん〕に対する務めを果たし」<sup>7</sup> てくれることを心に留めてください。そして、神殿から出て来るときには、一緒に象徴や約束を忘れずに持ち帰ってください。決してわきに置いたままにしたり、忘れてしまわないでください。

問題を起こした人の大半は、最後にはこう叫びます。「自分はいったい何を考えていたんだろう。」何を考えていたにせよ、キリストのことを考えていなかったのは確かです。主の教会の会員であるわたしたちは、毎週日曜日に、進んで御子の御名を受け、「いつも御子を覚え」<sup>8</sup> ることを固く約束します。ですからもう少し一生懸命に主を覚えようではありませんか。主が「われわれの病を負い、われわれの悲しみをになっ〔て〕」<sup>9</sup> くださったこと、そして「われわれのとなのために傷つけられ、……その打たれた傷によって、われわれはいやされた」<sup>9</sup> ことを特に覚えましょう。そしてわたしたちは、罪を犯す度に、自分の愛する人たちだけでなく、こよなく愛して下さっている主をも傷つけているのだということを感じるなら、自分の行動を劇的に善い

方へと変えていけるはずですよ。もし罪を犯したとしても、あるいはその罪がどれほど重大なものであったとしても、ほかならぬあの御方、あの威厳に満ちた御方によって救いにあずかることができるのです。この御方こそ、天下に与えられた、人を救い得る唯一の名をお持ちの御方なのです。<sup>10</sup> わたしたちが罪と対峙して、真の痛みで心を苦しめているとき、次のように叫んで改心したアルマのようになりますように。「おお、神の御子イエスよ、……わたしを憐れんでください。」<sup>11</sup>

兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんを愛しています。トーマス・S・モンソン大管長もほかの幹部の兄弟たちも皆さんを愛しています。しかし、それよりはるかに大切なことは、天の御父が皆さんを愛しておられるということです。わたしは今日、愛について話そうと努めてきました。まことの愛、真実の愛、愛を尊重すること、人々が知った、健全な社会における愛のあり方について、結婚した男女の愛と、愛の結晶である家族の間にある愛の神聖さについて語ろうと努めてきました。キリスト御自身の恵みを通してもたらされた<sup>あがな</sup>愛、体現された慈愛について語ろうと努めてきました。また、必要に迫られて、悪魔、悪しき者、つまり偽りと情欲の父についても語ってきました。悪魔は真の愛に出会うと、それを破壊し、その神聖さを汚すためなら何でもします。そしてできることならわたしたちをも滅ぼそうという悪魔の魂胆についても語ってきました。

現代にあってわたしたちは、そのような

誘惑に遭うとき、若いニーファイがしたように、次のように宣言しなければなりません。「〔わたしは〕もうわたしの敵に場所を与え〔ない〕」。<sup>12</sup> わたしたちは悪しき者を拒むことができます。もしわたしたちが心の奥底から望むなら、主イエス・キリストの贖いの力によってその敵を今も将来も叱責することができるのです。さらに、皆さんに約束しますが、キリストの永遠の福音の光は、かつて人生とはこれほどまでに希望も助けもなく暗いままのかと恐れたそのような場所にさえ、再び明るい輝きをもたらすことができますし、必ずそうなります。愛と結婚生活と社会と魂を、神が望まれる本来あるべき清い状態にできるかぎり保とうと努めるとき、わたしたちの内にある最も気高く最高の自分に忠実であることの喜びを得られますように。イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

#### 注

1. モルモン書ヤコブ 2:7
2. 例えばヘンリー・フェアリーの優れた著作 The Seven Deadly Sins Today (1978年)参照
3. フェアリー, The Seven Deadly Sins Today, 175 参照
4. 創世 39:1-13 参照
5. ラオ・ツー, Bartlett's Familiar Quotations, 第14版, ジョン・パートレット編(1968年), 74
6. ジュブナル, The Satires, satire 6, 223行参照
7. 教義と聖約 109:22
8. 教義と聖約 20:77;79 節も参照
9. イザヤ 53:4-5
10. 使徒 4:12 参照
11. アルマ 36:18
12. 2 ニーファイ 4:28





十二使徒定員会  
ダリン・H・オックス長老

# 病人を癒す

この神権の力を有するわたしたちは、それを正しく使えるように  
しっかり備えるべきです。

**世** 界中が混乱している今日、ますます多くの信仰深い人々が、慰めと癒しの祝福を求めて主に頼っています。わたしは神権者の皆さんに、医学と、信仰の祈り、そして神権の祝福によって、病人を癒すことについて話したいと思います。

## I.

末日聖徒は最新の科学的知識と技術を役立てるべきだと信じています。わたしたちは健康を保つために栄養補給や運動などの習慣を役立てますし、健康を回復するために内科医や外科医など専門家の助けを得ます。

医学を利用することは、信仰を込めて祈ることや、神権の祝福に頼ることに矛盾しません。ブリガム・ヤングは、神権の祝福を依頼されたときに、「何か治療をしましたか」と尋ねたものです。「いいえ、長老たちが手を置けば癒されると信じているので」と言う人には、ブリガム・ヤングは次のように答えました。「それはわたしの信条とはかなり違いますね。病気のときに、主に祝福を願い、自分ですべきことを全部主にお任せするとしたら、救いの福音についてわたしが理解しているところによれば、それは耕しもせず、種まきもせず、小麦やトウモロコシの生長を主に願い求めるようなものです。考えつく限り

の治療をすることと、[その後]わたしの体のためにその治療を聖めてくださいと……天の御父に願うことは、矛盾しないことであるとわたしには思えますよ。」<sup>1</sup>

もちろん、治療法をすべて試してしまうまで、信仰の祈りや神権の癒しの祝福を待つ必要はありません。緊急時には祈りと祝福が先です。たいていの場合、あらゆる処置を同時に行います。これは、「常に祈り」(教義と聖約 90:24)、すべてのことを賢明に秩序正しく行うべきであるという聖文の教えに一致します。<sup>2</sup>

## II.

わたしたちは、個人で、家庭で、あるいは礼拝の場所でささげる信仰の祈りには病人を癒す効力があることを知っています。多くの聖句が人を癒す信仰の力について語っています。使徒ヤコブは、わたしたちは「いやされるようにお互いのために祈[る]」べきであり、また、「義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」と付け加えています(ヤコブの手紙 5:16)。イエスは御自分に触れて癒された女性にこう言われました。「あなたの信仰があなたを救ったのです。」(マタイ 9:22)<sup>3</sup> 同様に、モルモン書は主が「人の子らの信仰に応じて力をもって働かれる」と教えています(モロナイ 10:7)。

最近の全国調査から、アメリカでは10人に約8人の割合で「古代と同じように今でも奇跡は起きると信じている」ことが分かりました。調査を受けた人の3分の1が「神の癒しを経験した、あるいは目撃した」と答えました。<sup>4</sup> 多くの末日聖徒は病気を癒す信仰の力を経験しています。また、ほかの教会でも信仰深い人が同じ経験をしていると聞いています。テキサスの新聞配達人がそのような奇跡を語っています。5歳の少女があるとき突然、呼



吸困難になり、発熱しました。両親はすぐにわが子を病院に連れて行きました。病院に着いたときには、腎臓と肺が機能を停止し、熱は42度近くありました。体は真っ赤で、あちこちに紫色の斑点が出ていました。医者からは、原因不明の毒性性ショック症候群で危篤だと言われました。家族や友人に伝えられ、信仰深い人々は少女のために祈り、家族が所属するテキサス州ウェーコのプロテスタント教会では特別な祈祷会が持たれました。奇跡的なことに、少女は死の淵から突然戻って来て、1週間余りで退院したのです。少女の祖父は「この子は、神がほんとうに祈りにこたえ、奇跡を起こされることの生きた証拠です」<sup>5</sup>と記しています。

実に、モルモン書が教えているとおり、神は「御自分を信じるすべての人、まことにあらゆる国民、部族、国語の民、民族に聖霊の力によって御自身を現され、人の子らの中で、彼らの信仰に応じて大きな奇跡……を行われる」のです(2ニーファイ26:13)。

### III.

メルキゼデク神権を有する成人の皆さんと、間もなくその力を授かる若い男性の皆さんのために、わたしは神権の力にかかわる癒しの祝福について特に話します。この神権の力を有するわたしたちは、それを正しく使えるようにしっかり備えるべきです。自然災害が増え不況が激しさを増す現状

を見れば、この力は過去よりも未来においてもっと必要になることは明らかです。

主の僕が「病人に手をおけば、いやされる」ことは、多くの聖句が教えています(マルコ16:18)。<sup>6</sup> 病人を祝福するために神権の権能を用いると奇跡が起こります。わたしはそのような奇跡を経験してきました。少年時代にも、成人してからも、皆さんの多くと同じように、聖文に記されているような奇跡的な癒しを見てきました。

病人を癒すために神権の権能を用いることには次の5つの要素があります。(1)油注ぎ、(2)油注ぎの結び固め、(3)信仰、(4)祝福の言葉、(5)主の御心。

### 油注ぎ

旧約聖書では、油注ぎは、神権の権能により授けられる祝福の一部として頻繁に述べられています。<sup>7</sup> 油注ぎは、聖別のためであると宣言されていました。<sup>8</sup> 恐らくこの神聖な儀式を通して天から注がれる祝福を象徴すると考えられていたでしょう。

新約聖書にも、イエスの使徒たちが「大ぜいの病人に油をぬっていやした」と記されています(マルコ6:13)。ヤコブの手紙では、油注ぎの役割が神権の権能による癒しの祝福のほかの要素とともに教えられています。

「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を注いで祈

てもらうがよい。

信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。」(ヤコブの手紙5:14-15)

### 油注ぎを結び固める

メルキゼデク神権の権能により油注ぎをしたら、すぐに同じ権能によってその油注ぎを結び固めます。結び固めるとは確認し、意図された目的のために固くつなぐという意味です。長老たちが病人に油注ぎをし、その油注ぎを結び固めると、苦しんでいる人に主が御心のままに祝福が注がれるための天の窓が開きます。

ブリガム・ヤング大管長は次のように教えています。「神の癒しの力と影響力がわたしを通じて病人に及ぼされ、病が消え去ることを期待して、わたしは病人に手を置きます。……

わたしたちに備えができて、主の前に聖い器となる時、全能者から流れ出る力は執行者の幕屋を通して病人の器官に到達します。そして、病人は健康になります。……」<sup>9</sup>

わたしたちは神権の権能によって祝福された人が癒された事例を多く知っていますが、そのような癒しについて公の集会ではめったに口にしません。近代の啓示で次のように警告されているからです。「これらのことを自慢してはならないし、世の人々の前でこれらを語ってもならない。これらのことはあなたがたの益のために、また救いのために、あなたがたに与えられるからである。」(教義と聖約84:73)

### 信仰

信仰は天の力によって癒されるために欠かせません。モルモン書は次のようにさえ教えています。「もしも人の子らの中にまったく信仰がなければ、神は人の子らの中で何の奇跡も行おうことがおできにならない。」(エテル12:12)<sup>10</sup> 病人に癒しの儀式を施すことに関する有名な説教の中で、スペンサー・W・キンボール大管長は





こう語っています。「信仰の必要性がしばしば軽視されています。祝福を受ける本人の方により大きな責任のあることに気づかず、病人やその家族は、ただ神権の力と儀式を施してくれる兄弟たちの賜物だけを当てにしているようです。……その人が正常な認識と責任の持てる人であれば、癒されるか否かはほかの何よりも本人の信仰にかかっているのです。『あなたの信仰があなたを救ったのです』[マタイ9:22]と、主は繰り返しおっしゃいました。』<sup>11</sup>

キンボール大管長は次のようなことも言っています。「あまりしばしば儀式を受けるのは信仰が欠けているか、または信仰を強める責任を長老たちに押しつけようとする誤った考えの表れです。」大管長は、神権の祝福を受けた忠実な姉妹について紹介しています。翌日、もう一度儀式を施してほしいかと尋ねられた彼女は、こう答えました。「いいえ、わたしはすでに油注ぎを施していただきました。もう儀式を受けたのですから、信仰によって祝福を願う求めるのはわたしの責任です。』<sup>12</sup>

### 祝福の言葉

神権の祝福のもう一つの側面は、神権者が油注ぎを結び固めた後で語る祝福の言葉です。この言葉は、非常に大切な場合もありますが、その内容は祝福の本質

ではなく、教会の記録には記されません。神権の祝福の中には、祝福師の祝福のように、語られる言葉自体が祝福の本質であるものもあります。しかし、癒しの祝福の場合、祝福の言葉以外の部分、すなわち、油注ぎ、結び固め、信仰、主の御心が、本質的な要素となります。

理想的には、儀式を施す長老は主の御霊と波長を合わせ、主の御心を知り、祝福の言葉の中でその御心を宣言することです。プリガム・ヤングは神権者に次のように教えています。「主の言葉が語られるとき、主の御心が明らかにされるときに、それと気づくことができるように生活する特権と義務があなたにあります。』<sup>13</sup> それが起こるときは、祝福の言葉はそのとおりに、また奇跡的に成就します。癒しの儀式を施している最中に確かな靈感を受け、わたしの語っている言葉は主の御心であるとはっきり分かる、すばらしい機会がわたしには何度かありました。しかし、癒しの祝福を施すほとんどの人と同じように、何を語ればよいのか確信が持てないことも頻繁にあります。様々な理由により、すべての長老たちの御霊の促しを感じる力は、強められたり弱められたりします。祝福を施すすべての長老は、苦しんでいる人に対する個人的な願いからも影響を受けます。そのほか死すべき人間の一つ一

つの不完全さが、わたしたちの言葉に影響を与え得るのです。

幸いにも、癒しの祝福で語られる言葉は、癒しの効果を決める本質的な要素ではありません。信仰が十分であり、それが主の御心ならば、儀式執行者がそう言おうが言うまいが、苦しんでいる人は癒され、祝福されるのです。逆に、執行者が個人的な望みを持っていたり、経験が浅かったりして、主がその人の信仰に応じて授けようと決められたこと以上の命令や祝福の言葉を口にしても、その言葉は成就しないでしょう。ですから兄弟の皆さん、長老たちは、言うべきことが分からないことを恐れて癒しの祝福を施すのをためらうべきではないのです。癒しの祝福で語られる言葉は、それを聞く人々の信仰を奮い立たせ教化しますが、祝福の効力は、信仰と主の御心によって決まるのであり、儀式を執行する長老の語る言葉によって決まるのではないのです。

### 主の御心

若い男性と成人の皆さん、これからわたしが言うことを、特に銘記してください。神の神権の確実な力を行使するとき、そして信仰の折りを聞きこたえてくださるという神の約束を尊ぶときに、信仰と神権の癒しの力は、その神権を所有しておられる



御方の御心に反する結果をもたらすことはできないということをいつも覚えておく必要があります。この原則は、病人に手を置くよう教会の長老たちに指示する啓示の中で教えられています。主は「わたしによって癒されるといふ信仰を持っていて、死に定められていない者は、癒されるであろう」と約束しておられます（教義と聖約 42:48, 強調付加）。同様に、近代の別の啓示で主は「神の御心にかんがって求める〔ときに〕……彼が求めるとおりに行われる」と宣言しておられます（教義と聖約 46:30）。<sup>14</sup>

これらすべてからわたしたちが学べるのは、主の僕でさえ、癒されるといふ十分な信仰がある中で神の神聖な力を行使しているとしても、もし癒すことが主の御心でないならば、その人が癒されるといふ神権の祝福を与えることはできないというこ

とです。

神は偉大な愛の御方であり、わたしたちの永遠の幸福のために何が最善であるかを最もよく御存じの御方なので、神の子であるわたしたちは神を信頼しています。福音の第一の原則はイエス・キリストに対する信仰であり、信仰とは信頼です。そのような信頼を、重病で亡くなった10代の少女の葬儀の席で、わたしのいとこが語った言葉の中に感じました。その言葉に最初は驚き、それから教化されました。彼はこう言ったのです。「彼女が亡くなったのは主の御心でした。彼女は十分な治療を受けました。神権の祝福も受けました。彼女の名前は神殿の祈りの名簿に記されました。彼女の健康が回復するように数え切れないほど祈りがささげられました。そして、ご遺族には信仰が十分あるので、もし彼女を今天に召すことが主の御心で

なかったなら、彼女は癒されていたはずなのです。」同じような信頼を、大切な10代の娘を癌で亡くした父親の言葉の中にも感じます。彼はこう断言しました。「わたしたち家族の信仰は、イエス・キリストにあるのであり、結果にあるではありません。」これらの教えは真実であると、わたしの心に鳴り響いています。わたしたちは愛する人が癒されるようにできるすべてを行います。そして結果については主を信頼するのです。

わたしは神の神権の力と、信仰の祈りの力と、またこの原則の真実性について証します。何にも増して、わたしは主イエス・キリストについて証します。わたしたちはその御方に仕え、その御方の復活により不死不滅が保証され、その御方の贖罪により神の最大の祝福である永遠の命を得る機会を与えられているのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツォー選 (1954年), 163
2. モーサヤ 4:27 参照
3. マルコ 10:46 - 52; ルカ 18:35 - 43 も参照
4. *US Religious Landscape Survey: Religious Beliefs and Practices: Diverse and Politically Relevant* (The Pew Forum on Religion and Public Life, 2008年6月), 34, 54. <http://religions.pewforum.org/reports>.
5. スティーブ・ブロー, "Sometimes, 'Miracles' Are Just That," *Dallas Morning News*, 2000年1月30日付, 31A 参照
6. マタイ 9:18; マルコ 5:23:6:5:7:32 - 35; 16:18; ルカ 4:40; 使徒 9:12, 17:28:8; 教義と聖約 42:44, 48:66:9 も参照
7. 例として, 出エジプト 28:41; サムエル上 10:1:16:13; サムエル下 5:3 参照
8. レビ 8:10 - 12 参照
9. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』 277。ラッセル・M・ネルソン「肉の腕に頼ることなく」『リアホナ』2010年3月号, 40; *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 474 も参照
10. 1ニーファイ 7:12; 教義と聖約 35:9 も参照
11. 「キンボール大管長, 癒しの儀式について語る」『聖徒の道』1982年8月号, 43
12. 『聖徒の道』1982年8月号, 42 - 43
13. 『教え——ブリガム・ヤング』, 68
14. 1ヨハネ 5:14; ヒラマン 10:5 も参照



七十人会長会  
ロナルド・A・ラズバンド長老

# 宣教師の神聖な召し

主は、務めを果たすことができるすべての若い男性が、神の預言者から伝道の召しを受けるにふさわしくなるよう今晚から備え、決意を新たにすよう求めておられます。

**愛**する神権者の皆さん、こんばんは。今晚、わたしは伝道活動について話します。わたしはこのメッセージを、世界中で出席しているアロン神権を持つ若い男性の大きな軍勢、また彼らを見守る父親、祖父、そして神権指導者に向けて伝えます。

伝道活動はわたしにとって、また8つの七十人定員会の会員たちにとって非常に大切なテーマです。主は七十人に「行くようにしておられたすべての町や村へ、……先に」<sup>1</sup>行くよう命じておられます。伝道活動は教会にとっては活力の源であり、教会のメッセージを受け入れるすべての人々にとっては命を与える祝福です。

主は、人々を教え導いておられたとき、ガリラヤの漁師たちに網を捨てて御自分について来るように招き、こう言われました。「あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」<sup>2</sup> 主はつましい生活をしていた人々にそのような召しをお与えになり、彼らを通して、ほかの人々が福音の真理を聞き、主のみもとに来ることができるようにされたのです。

1837年の6月、預言者ジョセフ・スミスは使徒であったヒーバー・C・キンボールをイングランドへの伝道に召しました。キンボール長老の召しと与えられたのは、二人がカートランド神殿の一室に座しているときでした。ジョセフは神の権能に

よってこう告げました。「ヒーバー兄弟、主の御霊がわたしにささやきました。『わたしの僕ヒーバーをイングランドに遣わして、わたしの福音を宣言させ、その国に対して救いの門を開かせなさい。』」<sup>3</sup>

このような御霊のささやきは、主の僕たちが宣教師をそれぞれの任地へ派遣する際に、どのように召しと与えられるのかを示す例です。

宣教師は今日、同じメッセージを携え、神の預言者から与えられた、同じ神聖な伝道の召しを受けて、主が定めておられるように二人ずつ組んで出て行きます。わたしたちの預言者トーマス・S・モンソン大管長は、伝道に召される人々についてこう語っています。「伝道の機会は生涯にわたって皆さんのものです。永遠の祝福が待っています。観客になるのではなく、神権の奉仕というステージに立つ特権が与えられるのです。」<sup>4</sup>

愛するアロン神権者の皆さん、皆さんがステージに立つのです。自分の務めを果たす準備ができていますか。喜んで果たそうとしていますか。主は、務めを果たすことができるすべての若い男性が、神の預言者から伝道の召しを受けるにふさわしくなるよう今晚から備え、決意を新たにすよう求めておられます。

我が家の二人の子供たちが専任宣教師として奉仕する召しを受けたときに、家族全員で大喜びした日を懐かしく思い出します。子供たちがそれぞれ神の預言者か



アルゼンチン、ブエノスアイレス



らの特別な手紙を開いたとき、わたしたちは興奮と期待でいっぱいになりました。娘のジェネッサはデトロイト州ミシガン伝道部に、息子のクリスチャンはロシアのモスクワ南伝道部に召されました。全員がともにへりくだる、胸の高なる経験でした。

ラズバンド姉妹とわたしは、数年前にニューヨーク州ニューヨーク北伝道部を管理する特権にあずかりました。宣教師たちがニューヨークシティーに到着する度にわたしは驚きを感じました。

彼らが伝道部に着任した日に行う面接で、わたしは一人一人の宣教師に心から感謝したい気持ちになりました。伝道部への彼らの召しが、彼らのために、また伝道部会長であるわたしのために、神によって計画されたものであると感じました。

伝道の召しを終えると、わたしはゴードン・B・ヒンクレイ大管長から教会の七十人として奉仕する召しを受けました。新任の中央幹部として最初に受けた訓練で、十二使徒定員会の会員が、この偉大な教会の300を超える伝道部に宣教師を割り当てる場に同席する機会がありました。

ヘンリー・B・アイリング管長の励ましと許可を頂いて、わたしにとって非常に特別な経験を紹介します。数年前、当時十二使徒定員会会員だったアイリング管長とともにした経験です。使徒は皆王国の鍵を持っており、教会の大管長の指示と割り当てによってそれらの鍵を行使します。アイリング長老はそのとき宣教師を任地に

割り当てることになっており、わたしも訓練の一環として見学しました。

それはある日の早朝のことでした。幾つかの大きなコンピュータースクリーンが用意された部屋でアイリング長老と会いました。宣教師管理部からも、その日の割り当てを受けたスタッフが手伝いに来ていました。

最初に、ともにひざまずいて祈りをささげました。宣教師がどの伝道部に割り当てられるべきかを「完全に」知ることができるよう祝福してくださいと、アイリング長老が心のこもった言葉で主に求めたのを覚えています。「完全に」という一言で、長老がその日どれほどの信仰をもってその場に臨んでいたかが分かりました。

宣教師を割り当てる作業が始まり、割り当てを受ける宣教師の写真がスクリーンの一つに表示されました。写真が映し出される度に、まるでその宣教師が同じ部屋にいるような気持ちになりました。するとアイリング長老は、優しく、愛情のこもった声でスクリーン上の宣教師にあいさつするのです。「おはようございます、ライアー長老。おはようございます、ヤン姉妹。お元気ですか。」

長老は、宣教師がどこで伝道を終えることになるかを思い巡らすのが好きだと話してくれました。宣教師をどこに割り当てるべきか分かりやすくなると言うのです。それからアイリング長老は、宣教師についてのビショップとステーク会長の所見や、

医療記録、その他の事項を検討しました。

長老は次に別のコンピュータースクリーンを見せてくれました。そこには世界各地の地域と伝道部が表示されていました。そして最後に、アイリング長老は御霊に促されるままに宣教師の任地を決定するのです。

ほかの十二使徒の作業の様子からも、わたしは、主の使徒が通常これと同じ方法で毎週数多くの宣教師を世界各地での奉仕に割り当てていることを知りました。

この経験は、何年も前に国内の東部諸州伝道部で宣教師として奉仕した自分に深い感動を与えてくれました。また、伝道部会長として奉仕した経験から、ニューヨークシティーで迎えた宣教師が皆、啓示によって遣わされたという証が増し加えられたことを主に感謝しました。

何人かの宣教師の割り当てが終わり、次の宣教師について深く考えていたアイリング長老はわたしの方を向いてこう言いました。「ラズバンド兄弟、この宣教師はどこへ行くべきだと思いますか。」わたしは驚き、静かに答えました。「分かりません。わたしにそのようなことが分かるとは思っていません。」アイリング長老はわたしを見詰め、ただこう言いました。「ラズバンド兄弟、もっと注意を払ってください。あなたにも分かりますよ。」わたしはすを長老の方に少し寄せました。そして、もっとよく注意を払ってスクリーンを見詰めました。

その後も割り当てを行いながら、アイリング長老は何度かわたしの方を向いて尋ねました。「ラズバンド兄弟、この宣教師はどこへ行くべきだと感じますか。」わたしが伝道部の名前を挙げると、アイリング長老は思いやりを込めたまなざしでわたしを見詰めて言いました。「いいえ、そこではありません。」それから長老は、促しを感じるままに宣教師の割り当てを続けました。

すべての割り当てがそろそろ終わるころ、ある宣教師の写真がスクリーンに表示

されました。わたしはそれまでにない強い促しを受けました。その朝で最も強い促しでした。わたしは、目の前の宣教師が日本に行くべきだと感じたのです。この宣教師についてアイリング長老から尋ねられるかどうか分かりませんでした。しかし驚くべきことに、長老はわたしに尋ねたのです。少しためらいながらも、わたしは謙虚に言いました。「日本でしょうか。」 アイリング長老は即座に答えました。「そうです。日本の画面を出しましょう。」スクリーンに日本の伝道部が表示されました。すると、わたしには、その宣教師が日本札幌伝道部へ行くべきだとすぐに分かりました。

アイリング長老はわたしに伝道部の名前までは尋ねませんでした。しかし長老は、その宣教師を日本札幌伝道部に割り当てたのです。

わたしは深く感動し、その宣教師がどこへ行くべきかを知るための促しを感じさせてくださったことを心から主に感謝しました。

アイリング長老は集会を閉じるに当たり、救い主が、世界に出て行き、回復された福音を宣べ伝えるよう割り当てを受ける宣教師一人一人を愛しておられることを証してくれました。また、これらのすばらしい若人、シニアの宣教師、シニアの夫婦宣教師がどこで働くべきかを私の僕が知ることができるのは、救い主の深い愛のおかげであると言いました。わたしは、その日の朝にさらなる証を得ることができました。この教会で召され、特定の伝道部に割り当てを受ける宣教師、また割り当てが変更される宣教師は皆、主なる全能の神から、私の僕を通して与えられる啓示によって召されるのです。

最後に、回復の初期の時代に大切な役割を果たしたホイットマー家の兄弟たちに与えられた主の言葉を引用します。彼らは金版の証人となり、その証はすべてのモルモン書の冒頭に記されています。彼らは1829年に神の預言者から召され、主イエス・キリストの福音を宣べ伝えた最初の



宣教師の一員でした。

教義と聖約第14章の前書きにはこう書かれています。「ホイットマー家の息子たちのうちの三人はそれぞれ、この業が真実のものであるという証を得ていたので、自分のなすべき務めをひどく気にかけるようになった。」

ジョン・ホイットマーとピーター・ホイットマー・ジュニアに対し、主はこう言われました。「あなたは自分にとって最も価値のあることを知るために、何度もわたしに願ったからである。」<sup>5</sup>

多くの若い男性は、同じことを知るよう願ったことがあると思います。主の答えはこうです。「さて見よ、わたしはあなたに言う。あなたにとって最も価値のあることは、この民に悔い改めを告げて人々をわたしのもとに導き、わたしの父の王国で彼らとともに安息を得られるようにすることである。」<sup>6</sup>

若い友人の皆さん、皆さんの人生のこの時点で、皆さんにできる最も大切な業は主から伝道の召しを頂くことです。今から準備し、義にかなった生活を送り、家族と教会の指導者から学んでください。来てわたしたちとともに地上に神の王国を築いてください。「偉大な大義」<sup>7</sup>における神聖な務めを受け入れてください。イエス・キリストの御名によってへりくだり祈りませ、アーメン。■

#### 注

1. ルカ10:1
2. マタイ4:19
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』327
4. トーマス・S・モンソン “That All May Hear,” *Ensign*, 1995年5月号, 49
5. 教義と聖約15:4;16:4
6. 教義と聖約15:6;16:6
7. 教義と聖約128:22



中央若い男性会長  
デビッド・L・ベック

# すばらしいアロン神権

今すぐ神への務めを果たすことに取り組まなくてはなりません。  
皆さんがそうしてくれることをわたしは確信しています。

**今** 晩、教会のすばらしい若い男性の皆さんにお話ができることを光栄に思っています。わたしは世界中にいる皆さんの多くとお会いする機会に恵まれてきました。皆さんの熱意を肌で感じています。

皆さんは並はずれた強さと勇気をもって試練に立ち向かっています。わたしは皆さんを愛し、信頼しています。

皆さんは自分が思っている以上に、周りの人に影響を与えています。わたしたちの教会の会員でないある少年は、アロン神権者である自分の友達についてこのようなことを口にしました。

「ルイスには何か特別なものを感じます。……彼はほかのだれとも……違っています。彼の持つ何かがそうさせているのです。……それが何なのかは全然分かりませんが、みんなとは違うのです。それは何か感じるものであって、目に見える【もの】……ではありません。ただ感じるものなのです。」

ルイスや皆さんをほかの少年たちから分け隔てているとても大切なものがあります。それは皆さんがアロン神権を持っていることです。これは神聖な賜物ですが、多くの人はその偉大さを十分に理解していません。今晚、皆さんが自分でアロン神権のすばらしさを見いだす手助けをしたいと思います。

## Ⅰ. 神はあなたを信頼しておられる

神が皆さんに聖なる神権をゆだねている

のは、皆さんに大いなる信頼を寄せておられるからです。神は、皆さんを信頼できることを御存じなので、人々に奉仕するためにこの神権を使うことを許しておられます。神はこれまでも、最も重要な業の一部を若い男性に任せてこられました。

例えば、イエス・キリストに関するモルモン書の力強い証は、神から信頼された二人の若い男性がいなかったならば、この世に存在しなかったでしょう。この神聖な記録をまとめた預言者モルモンが、自分の民に起きることをよく観察し、記録するように神から命じられたのはわずか10歳のときでした。そして15歳のときに、「主の訪れを受け、イエスの慈しみを味わって知【りました。】」(モルモン1:15)

モルモン書を翻訳し、出版したジョセフ・スミスは、14歳のときに天の御父とイエス・キリストの訪れを受け、大いなる召しを受けました。

トーマス・S・モンソン大管長はこう語りました。「皆さんに大きな期待が寄せられ



ているのです。……主の言葉はラッパのように、皆さんやわたしに、そしてあらゆる場所にいる神権者に向かって響きわたるのです。『それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。』(「勇気が求められる」『リアホナ』2004年5月号, 54, 57)

## Ⅱ. 新しい「神への務め」プログラム

皆さんがこの緊急の呼びかけにこたえられるように、教会は、今朝ヘンリー・B・アイリング管長から発表された新しい「神への務め」プログラムを実施することにしました。わたしはこのプログラムを楽しみにしています。この資料は6月の初めに、ビショップと支部会長に送られます。資料を受け取ったら、すぐに始めてください。

皆さんは執事、教師、祭司として、霊的な強さを築き、神権の義務を学び、それらを果たすための活動に参加することになります。すべての活動は、次の基本的なパターンに従います。

初めに、福音の原則または神権の義務について学びます。そこで、天の御父が皆さんに何をしよう望んでおられるかを知り、それがなぜ大切なのか霊的な証を得られるように努力します。

次に、学んだことに基づいてどのようなことを行うかを計画します。計画は自分の必要や環境、人々に奉仕する機会などを考慮して立てることができます。これは、自分が成長するために責任を引き受け、霊的な自立を促してくれる絶好の機会となります。

それから、自分が学び、経験したことをほかの人々と分かち合います。そうすることによって自分の証を強め、周りの人たちの信仰を築くことができます。福音について人々に話す能力も向上します。

次の経験を分かち合ってくれた、ある若い男性に感謝しています。彼ともう一人のアロン神権者は、重い病気にかかって





外出のできない男性の家を訪れて、<sup>せいさん</sup>聖餐式を執り行う割り当てを受けました。二人はその男性が医者から何も食べないように、聖餐のパン一切れすら食べないように言われていたことを知らずに男性を訪れました。聖餐のパンを祝福してから、その若い男性はパンを体の弱った男性に差し出しました。彼は祝福されたパンを一切れ取り、しばらく待ってから、それを唇に当てました。この信仰篤い兄弟が聖餐に対して敬意を示すのを見たとき、その若い男性は、それがあたかも救い主の足に<sup>せつぶつ</sup>接吻をしているかのように見えたと言いました。その兄弟が主を愛していることがはっきりと分かりました。

その日、彼は聖餐の大切さについて、忘れることのできない方法で、強い印象を受けました。皆さんも将来、この若い男性のように、神聖な経験をすることでしょう。

親や指導者、定員会の会員は「神への務め」プログラムの中で重要な役割を果たします。日曜日の定員会集会では定期的に学び、行動し、分かち合う機会があります。新しい「神への務め」プログラムは、神への務めを果たし、アロン神権のすばらしさを見いだす皆さんの旅を導いてくれるものとなります。

### Ⅲ. 神への務めを果たす

ここ1年間の旅を通して、わたしは、皆さんとアロン神権に対する考え方が変わりました。わたしが見いだしたものに皆さんも

気づいてくれるのを楽しみにしています。アロン神権がなぜ自分の人生にとって大切なのか、また、アロン神権がなぜ教会にとってなくてはならないものなのかを知るでしょう。そして、それが神権の「大きな部類」の一つと呼ばれている理由を十分に理解できるようになるでしょう（教義と聖約107:6参照）。さらに、神権の鍵や天使の働き、備えの福音についても今まで以上に理解できるようになるでしょう（教義と聖約13章:84:26参照）。

サタンは、アロン神権を使って重要なことを行うにはまだ若すぎる、または、そのための人数が少なすぎるなどと考えるように仕向けるかもしれません。しかしいづれも正しくありません。

神がモーセにおっしゃった言葉は今日の皆さんにも向けられています。「また見よ、あなたはわたしの子である。……わたしはあなたに一つの業を用意している。」（モーセ1:4, 6）

神は偉大な業を行うために御自身の力を皆さんにお与えになりました。神への務めを果たすとき、皆さんは家族を強め、祝福します。これが神権の最も大切な義務です。自分の息子が家族に与えている影響についてその母親はこのように述べています。「レオは我が家の神権者です。家族にとってとても大きな祝福です。彼はほかのきょうだいの良い模範です。……彼らにいつもお祈りするようになっていきます。日曜日には聖餐のパスをします。弟

は彼のことを見えています。また、レオは家族で祈れるように助けてくれます。大きくなっても、ずっと家族にとって祝福となることでしょう。将来、弟にバプテスマを施すことができるでしょう。これはわたしたちにとって慰めであり、恵みです。」

神への務めを果たす中で、皆さんは教会員ではない友達に手を差し伸べ、友達が教会に入るための準備を助けることができるでしょう。そのとき、ほんとうの兄弟のように、彼らを見守り、強めてください。そして道に迷っているほかの若い男性を救い出しに行ってください。

また、神への務めを果たすとき、皆さんはいつでも、どのようなところにおいても、人々を義に向かわせる力となるでしょう。義にかなった模範を示し、神権を使って熱心に奉仕するとき、それは皆さんを知っている人全員をキリストのみもとに招く有効な手段となります。

ニーファイ人は最も重大な局面を迎えたとき、一人の若い男性、モルモン<sup>1</sup>の指導力と靈感に頼りました（モルモン2:1-2参照）。わたしたちは、皆さんが今、教会の大きな力となり、世の中の良い模範となるように望んでいます。これは主が期待しておられることなのです。

### Ⅳ. 忠実な神権者となる

忠実な神権者になるとき、皆さんの心に変化が起きることを証します。完全に清くなり、ふさわしい状態で聖餐式を執り行い

たいと思うようになります。すべての若い女性に対して優しさや尊敬をもって接するようになり、親を敬います。また、御霊を退けるような考えや言葉、行動を避けるようになります。そして自分が仕える主を知り、主のようになる努力を常にすることでしよう。

アロン神権の奉仕を熱心に行うとき、その対象となる人々の生活が変わることを証します。神権による奉仕を必要としている人がいます。家族は皆さんを必要としています。定員会も必要としています。また、教会も、また世界も皆さんを必要としています。

今すぐ神への務めを果たすことに取り組みなくてはなりません。皆さんがそうしてくれることをわたしは確信しています。

数週間前のある寒い朝に、わたしはポルトガルのリスボンを流れるテガス川に沿ってジョギングをしていました。そして、何世紀も昔のポルトガルの探検家たちをたたえた記念碑の所で足を止めました。そのとき、太陽が昇ってきて、その巨大な記念碑とわたしに暖かい光を注ぎました。海を見詰める探検家たちの決意に満ちた顔を見て、感動を覚えました。彼らはほとんどだれもしたことのないことをしようとしたのです。住み慣れた居心地のよい世界を離れ、未知の海へ向かって果敢に船を進め、新しい地を発見しました。彼らは世界を変えたのです。

その勇敢な探検家たちの記念碑のことを考えると、皆さんのことが心に浮かんできます。皆さんが、今日の世界でほとんどだれも選ばない道を突き進んでいる姿が浮んできます。そして神への務めを果たしている皆さんの姿を思い浮かべます。

わたしたちが皆、アロン神権のすばらしさを理解し、神が信頼しておられるように、わたしたちもアロン神権者を信頼するよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



大管長会第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ管長

## 忍耐し続ける

忍耐から学ぶ教訓を通して、人格が養われ、生活が高められ、幸福が増し加えられます。

1960年代に、スタンフォード大学の教授が4歳の子供の自制心を試す簡単な実験を始めました。子供たちの前に大きなマシュマロを置いて言いました。「今すぐ食べてもいいけれど、15分我慢できたら、二つ食べることができるよ。」

それから部屋を出て、マジックミラー越しに子供たちを観察しました。すぐにマシュマロを食べる子供もいました。数分だけは我慢できても、誘惑に負けてしまう子供もいました。待てたのは30パーセントだけでした。

それほど興味深い実験ではなかったので、彼はほかの研究に取りかかりました。なぜなら、「マシュマロを食べずに我慢した子供について研究できることはあまりなかった」からです。しかし月日が流れ、子供たちの追跡調査をしてみても興味深い相関関係に気づきました。待てなかった子供たちは、後の人生で苦勞し、待つことのできた子供たちより素行に問題が多かったのに対し、待つことのできた子供たちは、積極性と意欲がもっと盛んで、成績や収入も良く、より健全な人間関係を築いていたのです。

子供とマシュマロを使って始まった簡単な実験は、画期的な研究に発展して、我慢や忍耐する能力が人生での成功を予測する重要な性格特性であることを明らかにしたのです。<sup>1</sup>

### 待つことは時として難しい

待つのが難しいことは、子供も大人も承知しています。わたしたちの世界には、ファーストフードや、インスタント・メッセージ、オンデマンド配信があり、ささいな質問にも深遠な質問にも即座に答えが返ってきます。待つことは苦手で、スーパーのレジで自分の列がほかの列より流れが遅いと、血圧が高くなる人さえいるのです。

忍耐、つまり自分の望みをしばらくの間抑える能力は、希少価値の高い徳です。欲しいものは欲しい、すぐに欲しいのです。だから忍耐という考え自体が、不快でつらいものに思えるのでしょう。

しかし忍耐がなければ、神に喜ばれることも、完全になることもできません。実際、忍耐は清めのプロセスであり、理解力を磨き、幸福を深め、行動を絞り込み、希望と平安をもたらします。

親であれば、子供の望みをすべてかなえてやるのがいかに愚かなことか知っています。しかし、即座に満足が得られるとだめになるのは、子供だけではありません。天の御父は、親が時間をかけて理解する原則を御存じです。子供を成熟させ、その可能性を开花させたいければ、待つことを学ばせなければならないのです。

### 忍耐は単に待つことではない

10歳のころ、わたしの家族は不慣れた土地で難民となりました。学校ではいつ



も良い成績を取っていましたが、西ドイツではそうはいきませんでした。教育内容がそれまでとはまったく違っていったのです。新しい学校で学ぶ地理は知らないことばかりでした。歴史も非常に異なっていました。以前の第2外国語はロシア語でしたが、今度は英語になりました。これは大変でした。実際、自分の舌は英語を話すようには作られていないと本気で思ったことが何度かありました。

教科課程があまりにも違うため、わたしは落ちこぼれてしまいました。生まれて初めて、自分は学校の勉強についていけないほど賢くないのではないかと思いました。

幸いなことに、先生が忍耐することを教えてくれました。着実に忍耐強く頑張っていけばできるようになると教えてくれたのです。

やがて苦手な科目が、あの英語でさえ少し分かってきました。続けて努力すればできるようになるということを徐々に学びました。すぐには無理でしたが、忍耐するときにできたのです。

この経験から分かるように、忍耐とは単に何かが起こるのを待つことではありま

せん。忍耐に必要なのは、価値ある目標に向かって積極的に努力し、結果がすぐに、あるいは簡単に現れなくても落胆しないことなのです。

ここに大切な概念があります。忍耐とは、無抵抗にあきらめることでも、恐れて行動しないことでもありません。忍耐とは、積極的に待って堪え忍ぶことです。持ちこたえ、できるすべてを行い、働き、希望を持ち、信仰を働かせることです。望むように事が進まなくても、不屈の精神で苦難に耐えることです。忍耐は単なる我慢ではなく、よく堪え忍ぶことなのです。

一方、忍耐できないのは、利己心の現れです。それは自己中心的な人の特徴です。世の中に広まっている「宇宙の中心」症候群と呼ばれる病気に根ざしています。この病気にかかると、世界は自分を中心に回っており、周囲の人はすべて、自分が主役を演じる人生の大舞台のわき役にすぎないと信じるようになります。

兄弟の皆さん、これは主が神権者のために定められた標準から何と懸け離れていることでしょう。

## 忍耐——神権の原則

神権者として、主イエス・キリストの代理人として、わたしたちは主の模範と同じ方法で人に仕えなければなりません。神権の指導に関するほとんどすべての教えが、最終的には、教義と聖約第121章に行き着くには理由があります。その章の幾つかの節で、主は神権による指導の真髄を教えておられるのです。「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛に……よる。」<sup>2</sup>

これらの節で述べられている特質や習慣は、神のような忍耐の根幹を成し、神権者や族長としての効果的な奉仕に深く結び付いています。これらの特質は皆さんが召しを尊んで大いなるものとし、福音を宣べ伝え、定員会の会員をフェローシップするとき、最も大切な神権の奉仕、すなわち家庭という囲いの中で愛に満ちた奉仕を行う際に、強さと知恵を与えてくれます。

いつも忘れないようにしましょう。神が人に神権を託された一つの理由は、神権の奉仕に求められる忍耐を通じて自らの



性質を磨いて、永遠の祝福を受ける備えをすることなのです。

主がわたしたちに忍耐してくださるよう、わたしたちも仕える人に忍耐しましょう。自分と同じように、人々も不完全です。同じように間違いを犯します。同じように大目に見てほしいと願っているのです。

一人も見捨てないでください。それには自分自身を見捨てないことも含まれます。

わたしたちはだれでも、キリストのたとえに登場する僕と同じように、負債を負っている王に「どうぞお待ちください」<sup>3</sup>と懇願するときがあるのではないのでしょうか。

### 主の方法と時

イスラエルの民は、約束の地に入るまでに、荒れ野で40年間待ちました。ヤコブはラケルのために7年も待ちました。ユダヤ人は神殿を再建するために祖国に戻るまで、バビロンで70年待ちました。ニューファイ人は、しるしが現れなければ殺されると知りながらも、キリスト降誕のしるしを待ちました。神の預言者であるジョセフ・スミスでさえも、リバティーの監獄での試練に対して「いつまで[ですか]」<sup>4</sup>と問いかけました。

いずれの場合も、天の御父が子供たちに待つように求められるときには目的がありました。

だれもが待つことを求められます。わたしたちは祈りの答えを待ちますが、そのときの自分にとってふさわしく、良いと思われるものを待ち望んでいるので、なぜ天

の御父が答えを延ばされるのかどうしても分からないことでしょう。

わたしが戦闘機パイロットの訓練に備えていたときのことです。軍事予備訓練の大半は、運動に費やされました。延々と走り続けることが、なぜパイロットになるのに不可欠なのか、今でもよく分かりません。しかし、とにかく走って、走って、走り抜きました。

わたしは走りながらあることに気づいて、正直なところ悩みました。幾度となくわたしを追い抜いて行くのは、たばこを吸い、酒を飲み、福音——特に知恵の言葉に反することを何でもしている男たちでした。

わたしは思いました。「ちょっと待て。走っても疲れないはずじゃなかったのか。」でも、実際に疲れましたし、しかも、知恵の言葉にまったく従っていない人に追い抜かれたのです。正直なところ、当時はそのことで悩み、自問しました。「あの約束はほんとうなのだろうか。」

答えはすぐには得られませんでした。しかし、やがて分かったのは、神の約束は必ずしもすぐに望みどおりに成就するとは限らないということです。答えは神の時と方法に従って得られます。わたしは何年も後に、神のすべての律法に従順であればすぐに与えられる霊的な祝福に加えて、知恵の言葉に従う人に与えられる物質的な祝福を自分の目で確かめることができました。振り返ってみると、主の約束は常に、即座にはないかもしれませんが、確実に成就するものなのです。

### 忍耐には信仰が求められる

ブリガム・ヤングは、十分に理解できないことが起こったときには、「自分で理解できるまで待つ忍耐をお与えくださるよう」<sup>5</sup>と求めるよう教えました。そしてブリガムは理解できるまで祈り続けたのです。

主の計画では、「教えに教え、訓戒に訓戒」<sup>6</sup>を加えて、理解がもたらされます。要するに、知識と理解を得るには、忍耐が必要なのです。

現在という深い谷は、未来の経験という山から振り返って見なければ理解できないことがよくあります。試練が去って長い時間が過ぎるまで、主の御手に気づかないこともよくあります。また人生で最も困難な時期が、人格の土台を築き、将来の機会と理解と幸福に至る道を開くために欠かせない要素になることが多いものです。

### 忍耐、御霊の実<sup>7</sup>

忍耐は神の属性であり、心と霊を癒し、知識と理解の詰まった宝の箱を開き、普通の男性や女性を聖徒や天使に変える力があります。忍耐は御霊の実です。

忍耐とは、あることを最後までやり通すことです。将来の祝福のために、当座の満足を先送りすることです。怒りを制し、不親切な言葉を抑えることです。悪を行う人が裕福に見えるときでも、悪を拒絶することです。

忍耐とは変えられないことを受け入れ、勇気と高潔さと信仰をもって立ち向かうことです。「子供が父に従うように、主が〔わたしたち〕に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従」<sup>8</sup>うことです。結局、忍耐とは、毎日、毎時間、そうすることがたとえ難しいときでも、「主の戒めを守ることに於いて堅く確固として、揺るぎなくある」<sup>9</sup>ことです。黙示者ヨハネはこう語っています。「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある。」<sup>10</sup>

忍耐とは完全へ至る過程です。救い主

は、あなたがたは堪え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろうと言われました。<sup>11</sup> ギリシア語原本からの別の翻訳にはこうあります。「あなたがたは堪え忍ぶことによって、自分の魂を完全に支配するであろう。」<sup>12</sup> 忍耐とは、最大の成長は与えられるときより待つときにあると確信しながら、信仰をもって踏みとどまることです。

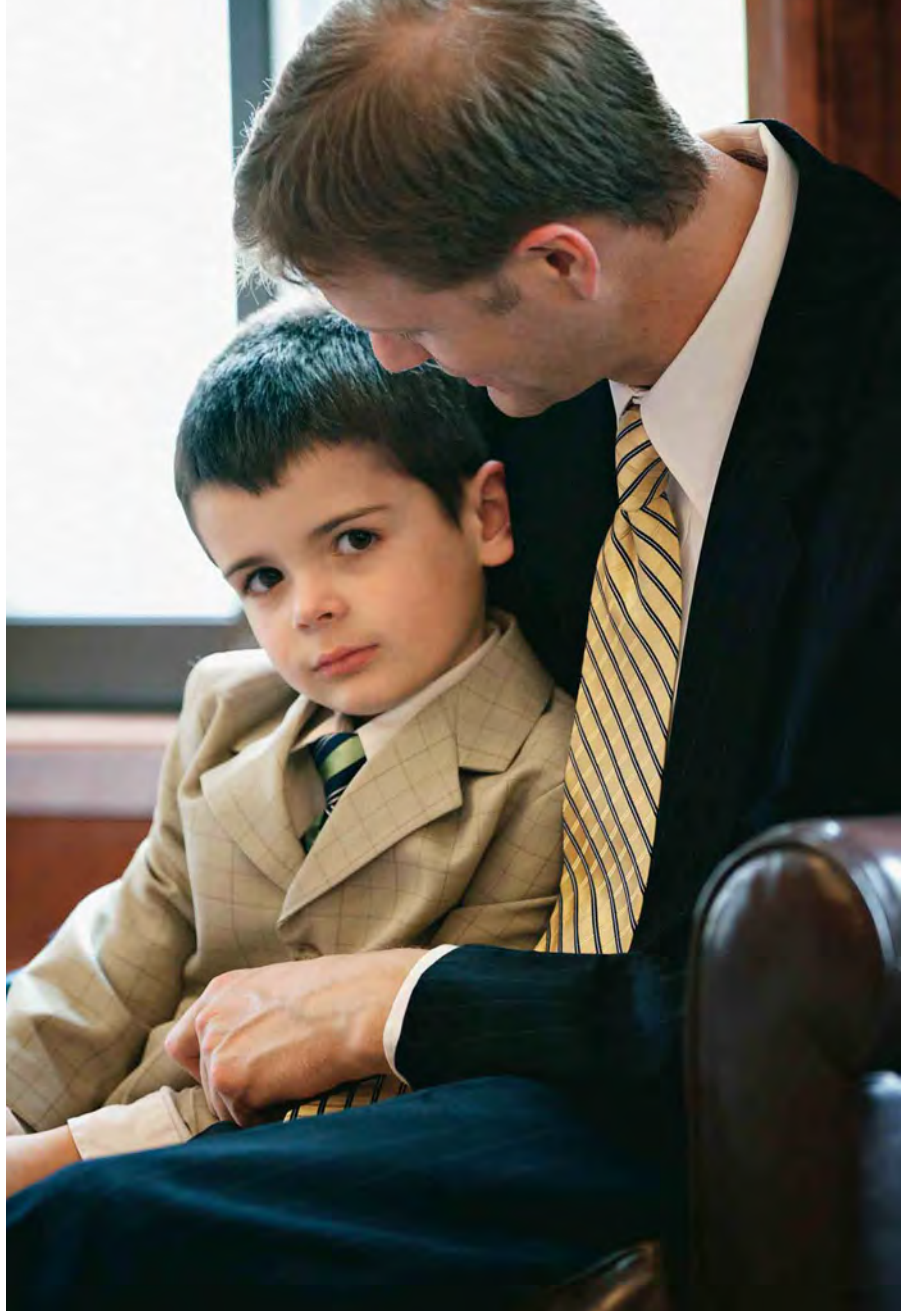
これは救い主の時代だけでなく、現代においても真実です。なぜなら、この末日にあっても「あなたがたが完全になるまで忍耐し続けなさい」と命じられているからです。<sup>13</sup>

#### 忍耐するわたしたちを主は祝福される

詩篇の言葉を言い換えてみましょう。堪え忍んで主を待ち望めば、主は耳を傾けてくださる。主はわたしたちの叫びを聞かれる。主はわたしたちを滅びの穴から引き上げて、わたしたちの足を岩の上に置かれる。主は新しい歌をわたしたちの口に授け、われらの神にささげる賛美の歌を授けられた。多くの人はこれを見て、かつ主に信頼するであろう。<sup>14</sup>

愛する兄弟の皆さん、忍耐の業は要約すればこうなります。戒めを守る、天の御父を信頼する、柔和な心とキリストのような愛をもって主に仕える、救い主への信仰と希望を働かせる、決してあきらめない。忍耐から学ぶ教訓を通して、人格が養われ、生活が高められ、幸福が増し加えられます。それらは、ふさわしい神権者となり、主イエス・キリストの忠実な弟子とされるよう助けてくれます。

忍耐が全能の神の神権者を際立たせる特徴的なしるしとなるようにわたしは祈っています。勇気をもって主の約束と主の時を信頼できますように、自分がしてほしいように忍耐と哀れみをもって人のために行動できますように、そして完全になるまで忍耐し続けられますように。イエス・キリストの聖なる御名により祈ります、アーメン。■



#### 注

1. ジョナ・レーラー, "Don't! The Secret of Self-Control," *New Yorker*, 2009年5月18日付, 26 - 27 参照
2. 教義と聖約 121:41. 39 - 45 節も参照
3. マタイ 18:26
4. 教義と聖約 121:2
5. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』81
6. 教義と聖約 98:12
7. ガラテヤ 5:22 - 23 参照
8. モーサヤ 3:19
9. 1 ニーファイ 2:10
10. 黙示 14:12
11. ルカ 21:19 参照
12. ルカ 21:19, 末日聖徒版聖書〔英語〕の脚注 b 参照
13. 教義と聖約 67:13
14. 詩篇 40:1 - 3 参照



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

# まったく勤勉に 遂行する

わたしたちは主から与えられた義務を学び、決して怠惰にならず  
勤勉に遂行しなければなりません。

兄弟の皆さん、今晚、皆さんとともに過ごせることを感謝しています。また、皆さんが神権の奉仕をどれほど忠実に果たしているか知り、へりくだる思いがします。今晚、わたしは主の奉仕を勤勉に果たすことについて話します。わたしが最近した幾つかの経験から、このテーマを選ぶことにしました。

一つの経験は、デビッド・L・ベック兄弟が話した、新しいアロン神権者のすばらしい小冊子を入念に読んだことです。それは『神への務めを果たす』と名付けられています。その小冊子に記された、若い男性に期待されている行動と人格について読み、深く考えているうちに気づいたのは、そこに書かれていることはブリガム・ヤング大管長が一生勤勉な神権者に約束したことであるということでした。「神権を受けて、召しを忠実に果たし続ける人、また、神から求められることはいつも喜んで行い、生涯すべての義務を果たし続ける人は、神に関する事柄を受ける特権だけでなく、それをどのように受けるかについての知識も授けられ、いつも神の御心を知るができるでしょう。」<sup>1</sup>

数週間前、執事になったばかりの兄弟がこの勤勉の道を歩み出すのを見ました。彼の作った図表を父親が見せてくれました。

そこには礼拝堂のすべてのいと、<sup>せいさん</sup>聖餐のパスの割り当てを受ける一人一人の執事の番号と、礼拝堂で会員に聖餐を配るときの経路が示されていました。父親とわたしは、だれかに頼まれたわけでもないのに神権の奉仕を確実に果たす計画を立てた少年のことを思っただけでほほえみました。

この少年の勤勉さは、新しい『神への務め』小冊子の規範に従うものです。その規範とは、主の期待を知り、その期待にこたえる計画を立て、計画を勤勉に遂行し、その経験が自分を変えてくれたことや、人

を祝福したことについて人と分かち合うというものです。

この執事は、主から召された責任を確実に果たすために、その図表を作りました。神権の奉仕を始めたばかりの彼に、いつも喜んで「神から求められること」<sup>2</sup>を行うように、主が教えてくださっていたのです。

今晚勤勉について皆さんに話すよう導いてくれたもう一つの経験は、この世での神権の奉仕が終わりに近づいたある男性を見たことです。彼はビショップを2度務めました。若いころ初めてビショップに召されたのは、わたしが彼と出会う何年も前のことでした。今は年老いて、2度目のビショップの召しから解任されました。肉体的に衰えるにつれて、神権のどの奉仕も非常に難しくなってきました。

それでも彼は計画を立て勤勉に遂行しようとしていました。毎週日曜日、教会に行けるときには、聖餐会に出席するほとんどの人が入るドアからいちばん近い列に座りました。朝早く行って、その列の席を確保しました。彼はビショップのとき壇上に座ってしていたように、入って来る一人一人に目で愛と歓迎を伝えました。奉仕のために彼が払っている犠牲を多少なりとも知っていたわたしたちは、その模範に元



気づけられ、高められました。ビショップの務めは終わりましたが、神権の奉仕は続いたのです。

神権を持つ偉大な僕しもべが示すそのような模範を皆さんも見てきたことでしょう。今晚、わたしは彼らから学んだことを話します。彼らはまず、何の目的でだれに仕えているのかを知ります。それを心の底から理解したときに、彼らに大きな変化が生じるのです。

初めに、アロン神権を持つ若い男性に向けて話します。皆さんは神が皆さんに寄せておられる信頼の大きさを感じれば感じるほど勤勉になるでしょう。『神への務め』の中に大管長会から皆さんへのメッセージがあります。「天の御父はあなたを深く信頼しておられて、あなたが果たすべき大切な使命を用意しておられます。祈りによって御父に心に向け、御霊みたまの促しに耳を傾け、戒めを守り、交わした聖約を守るときに、御父はあなたを助けてくださいます。」<sup>3</sup>

バプテスマのヨハネは若い男性の皆さんが持つ神権を回復するために地上へ戻りました。彼はアロン神権の鍵かぎを持っていました。イエスはこのヨハネのもとに来てバプテスマを受けられました。ヨハネは自分を召した御方を知っていました。彼は主に「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずです」<sup>4</sup>と言いました。

1829年5月15日にジョセフ・スミスとオリバー・カウドリを聖任するために主から遣わされたヨハネは、アロン神権には天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しゆるぎのために水に沈めるバプテスマの鍵があることを知っていました。<sup>5</sup> どちらから召され、どれほど輝かしい目的で遣わされたのか知っていました。

皆さんの神権の召しにより、皆さんは今日、主の教会の会員に主の晩餐である聖餐を施すことができます。それと同じ特権を、救い主は地上で務めを果たしていたときに十二使徒に授けられました。復活の後、教会を導くために十二弟子を召したときにも、主は同じ力を授けられました。



モルモン書に記されているとおり、主御自身が、主の無限の犠牲のしるしを備えて、民のために祝福されました。主について、また、主が神権の奉仕をするときの皆さんをどれほど尊んでおられるかについて考えてください。主を思い起こすなら、できるかぎり主に近づき、主がされたように適切に誠実にこの聖なる務めを行おうと決意することでしょう。<sup>6</sup>

それは皆さんの人生の規範となり、神権の奉仕をいつも勤勉に行う力が増すでしょう。その奉仕のために主は今皆さんを備えておられるのであり、将来皆さんを召されるでしょう。主のように奉仕するという決意は、古代に「神の御子の位に従う聖なる神権」<sup>7</sup>と呼ばれたメルキゼデク神権を受けるための備えとなるでしょう。

さて、次にメルキゼデク神権を受けて奉仕する召しと榮譽にあずかっている人々に向けて話します。アロン神権と同様、メルキゼデク神権は、主ならざるであろうことを行う責任以上のものです。それは主のようになるという勧めです。主はこう約束しておられます。

「だれでも忠実であって、わたしが語ったこれら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は、御霊により聖められてその体が更新される。

これらの者は、モーゼの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子

孫となり、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる。

主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。

また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。

そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受けるのである。それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。<sup>8</sup>

すべての神権者がその栄光に満ちた祝福にあずかるための規範があります。主がわたしたちのためにその規範を与えておられる聖句の一つが、教義と聖約第107章にあります。

「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。

怠惰な者は、その職にいるにふさわしい者と見なされない。また、自分の義務を学ばず、認められるに足る者であることを示さない者は、その職にいるにふさわしい者と見なされない。まことにそのとおりである。アーメン。」<sup>9</sup>

わたしたちは主から与えられた義務を学び、決して怠惰にならず勤勉に遂行しなければなりません。この規範は簡潔ですが、従うのは容易ではありません。わたし



私たちはあまりにも注意散漫です。神権会のテキストより、日々のニュースの方がおもしろく思えることがあります。座って休む方が、神権の奉仕を必要とする人を訪問する約束を作るよりも魅力的に見えることがあります。

ほかへの興味で心が神権の務めから離れているときや、体が休息を求めるときに、わたしは次のように言って自分を元気づけます。「主を思い起こしなさい。」主は神権の奉仕における勤勉さについて、わたしたちの完全な模範です。わたしたちの司令官で、わたしたちを召された御方で、わたしたちの前を行かれます。主は、従わせ、人々を招いて来させるために、わたしたちを選ばれました。

今晚、わたしは主を思い起こし、心が震えています。この復活祭の前の土曜の夜に、わたしたちは主の復活を思い起こします。復活に先立つ数日間の主の模範をわたしは思い起こします。

御父とわたしたちへの愛から、主は死すべき人間には耐えられない苦しみを甘んじて受けられました。無限の犠牲に必要とされた苦しみの一部を、主はこう述べておられます。皆さん、その言葉を思い出してください。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」<sup>10</sup>

カルバリの十字架上で救い主はこう宣言されました。「すべてが終わった。」<sup>11</sup> それから主の霊は主の体から離れ、主の死すべき体は愛情を込めて墓に葬られました。主は復活される前の3日間霊界で行われたことを通じて、一つの教訓を与えられました。わたしは主の奉仕の中でもかなり難しい務めを終えた、休むだけのことはしたという気持ちになるときに、必ずその教訓を思い起こします。

救い主の模範はわたしたちに働き続ける勇気をくれます。地上での働きを終えられた後も、主は霊を救うという栄光に満ちた御自身の業を続ける決意をもって霊界に行かれました。そこで主は忠実な霊たちの業を組織して、主の贖罪の犠牲がもたらした憐れみをこれからまだ受けられる人々を救出する業を始められたのです。教

義と聖約第138章の言葉を思い出してください。

「見よ、主は義人の中から軍勢を組織し、力と権能をまとった使者たちを任じて、暗闇の中にいる者たち、すなわちすべての人の霊のもとへ行って福音の光を伝えるように彼らに命じられた。このようにして、福音が死者に宣べ伝えられたのである。

選ばれた使者たちは、主の恵みの日を告げ知らせ、束縛されている囚われ人、すなわち、自分の罪を悔い改めて福音を受け入れるすべての人に自由を宣言するために出て行った。」<sup>12</sup>

主を思い起こすときいつも、神権の働きを休みたいという誘惑に抵抗しやすくなります。今日わたしたちは主を思い起こしているからこそ、聖約したことをまったく勤勉に行うという決意を胸に、自分の義務を学ぶためにここにいるのです。主の模範があるからこそ、現世で主から受けた務めを果たすために最後まで堪え忍び、過去と現在における主の模範に倣い、永遠に御父の御心を行うと決心しているのです。

この教会は主の教会です。主は、わたしたちの弱さを知りながら、召し、信頼してくださいました。主は各自が経験する試練を御存じでした。忠実な奉仕と主の贖罪により、わたしたちは主が望まれることを望み、主に代わって自分が仕える人を祝福する者になれます。十分な期間勤勉



に主に仕えるなら、わたしたちは変えられます。常にさらに主に似た者となれるのです。

主の僕の生活にその奇跡が起きた証拠を見てきました。数週間前に一人の忠実な神権者の自宅の居間でその証拠を見ました。

執事、父親、ビショップ、ステーキ会長、顧問としての彼をわたしはずっと知っていました。彼が神権を用いて勤勉に神の子供たちに仕えている様子を何十年も見てきました。

家族が居間に集まり、彼を囲んでいました。彼は白いシャツとスーツとネクタイという姿で笑っていました。わたしは驚きました。なぜなら、わたしが彼を訪問したのは、彼が痛みを伴う治療を受けているものの治療の効果が表れていないと聞いていたからです。

それでも、彼はそれまでの生涯にわたる神権の奉仕を通じて何百人もの訪問者にしてきたように、にこやかにあいさつしてくれました。苦難の中にある彼を助けるための訪問でしたが、神権の奉仕ではよくあるように、助けられ学んだのはわたしの方でした。

わたしたちは座って楽しく語り合いました。そのとき、死期の迫ったわたしの母を彼の父親がどんなに世話してくれたかを聞きました。わたしはそれまでそのことを知りませんでした。彼は子供のときに、人を助ける方法を勤勉な神権者である父親から学んでいたのです。そう考えたときに、わたしも慰めと祝福を与えるために神権者として訪問する際に、息子たちを連れて行ってよかったと思いました。

数分後、彼は静かにこう尋ねました。「もしよろしければ、祝福をお願いしてもいいでしょうか。」彼と一緒に何年も奉仕してきた以前のステーキ会長が、メルキゼデク神権の力によって聖別された油を彼の頭に注ぎました。

祝福を結び固めたときに、わたしは主がすでにこの忠実な神権者のためにな

されたことの少なくとも一部を聖霊から教わりました。彼には汚れがなく、罪は洗い流されていました。彼の性質は、主の望まれることを望むように変えられていました。死を恐れていませんでした。彼の心の望みは、自分の家族と、自分を必要としているほかの天の御父の子供たちに仕えるために生きることでした。

わたしはその晩彼の家を後にしながら、常に勤勉に奉仕する神権者に向けられる主の優しさをこの目で見たことに感謝しました。そのような神権者は、主が望まれるように望み、主が行われるように行うように、その心を変えられるのです。

最後に、神権を持つ主の僕である皆さんに助言を与えます。聖文と生ける預言者の言葉について深くたゆまず考えてください。神とその愛子の性質が理解できるように、常に聖霊を求めて祈り続けてください。主があなたに行うよう望んでおられることを御霊が教えてくださるよう嘆願してください。それを行う計画を立ててください。従順になると主に約束してください。主の命じられたことを成し遂げるまで断固として行動してください。仕える機会に感謝するため、また次に何をすべきかを知るために祈ってください。

わたしは、天の御父とイエス・キリストが生きておられることを証します。御二方は復活し、栄光に満ち、わたしたちを愛し、見守っておられます。神権の鍵は、天の使者を通じて預言者ジョセフ・スミスに回復され、トーマス・S・モンソン大管長まで連綿として受け継がれてきました。生ける使徒一人一人もその鍵を保持しています。

皆さんにわたしの祝福を残します。皆さんが主の真の教会における聖任された神権を持つ僕として、大きな信頼と約束を受けていることを御霊によって感じるができますように。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

#### 注

1. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』142
2. 『教え——ブリガム・ヤング』142
3. 『神への務めを果たす——アロン神権者用』(小冊子), 5
4. マタイ 3:14
5. 教義と聖約 13 章参照
6. 3 ニーフアイ 20:3-9 参照
7. 教義と聖約 107:3。アルマ 13:1-9 も参照
8. 教義と聖約 84:33-38
9. 教義と聖約 107:99-100
10. 教義と聖約 19:16-19
11. ヨハネ 19:30
12. 教義と聖約 138:30-31





トーマス・S・モンソン大管長

# 備えは祝福をもたらす

わたしたちの召しについてよく考えましょう。わたしたちの責任について思いを巡らし、主イエス・キリストに従いましょう。

**兄** 弟の皆さん、ここソルトレーク・シティのカンファレンスセンターにいる皆さんを見ると心が高められます。世界数千か所の礼拝堂にも同じ神の神権者がいて、この衛星放送を見ていることは驚くべきことです。国籍も言語も様々ですが、わたしたちは一つに結ばれています。わたしたちは、神権を受けて神の御名によって行動する責任を託されています。神聖な信頼を受けています。わたしたちには多くのことが期待されているのです。

執事に聖任されて初めての神権会に出席し、開会の賛美歌「神権持つ子らよ」を歌ったときのことを鮮明に覚えています。今晚わたしはこの特別な賛美歌の精神に再び触れ、皆さんに伝えます。「神権持つ子らよ、来たれよ」<sup>1</sup> わたしたちの召しについてよく考えましょう。わたしたちの責任について思いを巡らし、主イエス・キリストに従いましょう。

20年前、ある聖餐会<sup>せいさんかい</sup>に出席しました。子供たちが「わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です」というテーマで発表していました。男の子も女の子も、主人々への奉仕ができるよう備えている姿を見せてくれました。音楽は美しく、子供たちは自分のセリフを上手に話し、天からは御霊<sup>みたま</sup>が送られました。当時11歳だった孫の一人は、発表の中で自分の番が来ると最初の示現について話しました。集会が終わり、両親と祖父母のところに来た孫に、わた

しはこう言いました。「トミー、もう宣教師になれそうだね。」

孫はこう答えました。「まだだよ。学ぶことがたくさんあるもの。」

その後の何年にもわたり、トミーは献身的で誠実な両親、教会の教師、アドバイザーのおかげでほんとうによく学びました。ふさわしい年齢になったとき、トミーは伝道に召されました。そして、大変立派にその召しを果しました。

若い男性の皆さん、わたしは皆さんに宣教師の奉仕に備えるよう強く勧めます。今から必要な事柄を学ぶなら、将来の役に立つでしょう。皆さんがそれらの事柄を学ぶうえで役立つ資料や教材はたくさんありま



す。また、それらの資料や教材は、皆さんがふさわしい宣教師となるための生活を今から送れるよう助けてくれます。その一つが、大管長会と十二使徒定員会の監修で出版された『若人の強さのために』という小冊子です。この中には、教会指導者の言葉や教え、また聖文にある言葉や教えが、標準としてまとめられています。それらの標準に従う人は皆、天の御父からの祝福と御子からの導きを受けることができます。ほかにも、よく祈り、検討を重ねたうえで丁寧に作られたレッスンの手引きがあります。また、家庭の夕べでは福音の原則を学ぶことができます。皆さんのほとんどは、セミナーで献身的な教師からたくさん学ぶことができます。

伝道だけでなく神殿結婚の備えも始めてください。それには正しいデートも含まれます。デートが適切とされる文化圏に暮らしていても、16歳になるまではデートをしないでください。「すべての10代の若人がデートをする必要があるわけではありませんし、デートを望んでいるわけでもありません。……デートを始めるときはグループ交際かダブルデートにしましょう。……デートの相手が親と会えるようにしてください。」デートは結婚の準備ですから、「高い標準を持つ人……とだけデートをしてください。」<sup>2</sup>

行く場所に気をつけ、誘惑に遭わない、良い環境を選ぶようにしてください。

ある賢明な父親は息子にこう言いました。「そこにいるべきでないと感じたら、立ち去りなさい。」これはわたしたち全員にとって有益な助言です。

主の僕<sup>しもべ</sup>たちは、天の御父と自分自身に敬意を示すために、ふさわしい服装をするようにと常に勧告してきました。服装は皆さんがどういう人間であるかを周りに伝え、皆さんの行動とほかの人の行動にしばしば影響を与えます。皆さんと周りの人に最も良い影響を与えるような服を着てください。入れ墨やピアスを含め、極端な服装と外

見を避けてください。

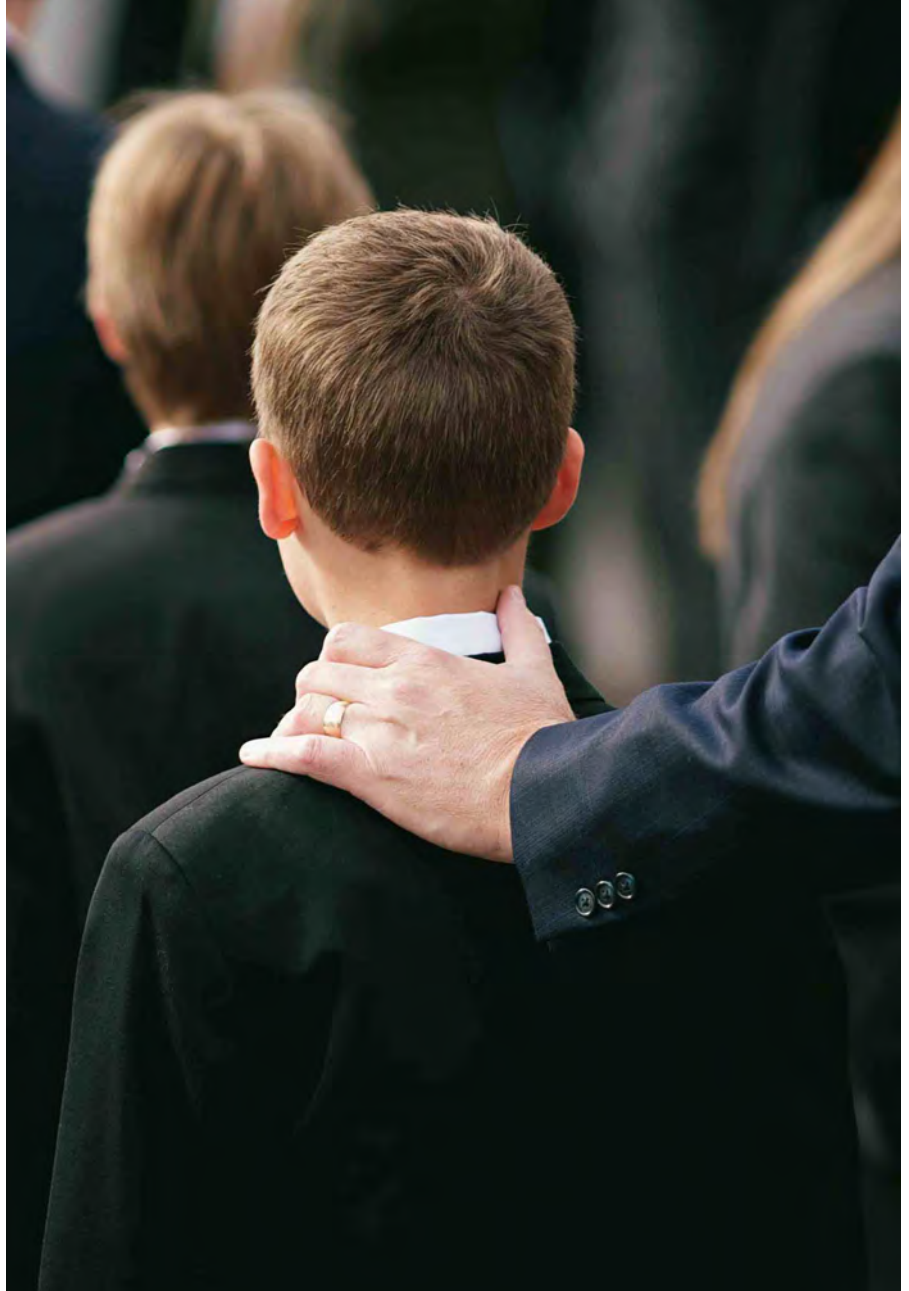
だれでも良い友人が必要です。皆さんと皆さんの友人は、互いの考えや行動に大きな影響を与え合います。友人と共通の価値観を持っていれば、互いに強め合い、励まし合うことができます。すべての人に優しく敬意をもって接してください。これまで教会員でない多くの人が、友人から教会の活動に誘われたことがきっかけとなり教会に入りました。

よく言われるように「正直は最良の策」です。<sup>3</sup> ある末日聖徒の若い男性は、自分が教え、信じていることを実践しています。人に対しても、自分に対しても、神に対しても正直に生きています。彼にとって正直は習慣となっています。正直が自分の一部になっているのです。難しい決断に迫られると、彼は「人からどう思われるだろうか」ではなく「自分は自分をどう思うか」と自問します。

守ると決めた正直の標準を破るように誘惑される人も中にはいるでしょう。大学時代、出席していた商法のクラスに、クラス討論の予習を一度もして来ない同級生がいたのを覚えています。わたしは「期末試験はどうするのだろうか」と思っていました。

期末試験のためにクラスに入って来た彼を見て、その答えが分かりました。冬にもかかわらず彼は素足にサンダルをひっかけて来たのです。驚いて見ている間に授業が始まりました。すると、彼は教科書をすべて床の上に置き、サンダルを脱ぐと、グリセリンを塗った、よく訓練されたつま先で、床にある1冊の教科書のページを器用にめくり、試験問題の答えを見つけていったのです。

彼は商法のコースでトップレベルの点を取りました。しかし報いを受ける時が来ました。しばらくして、彼が総合テストを受ける準備をしていると、彼のコースの学部長が異例の発表をしたのです。「今年はこれまでの慣例を破り、筆記試験の代わりに口頭試問を行う。」例の足の器用



な青年も、さすがに足を口の中に入れることはできず、試験に落第しました。

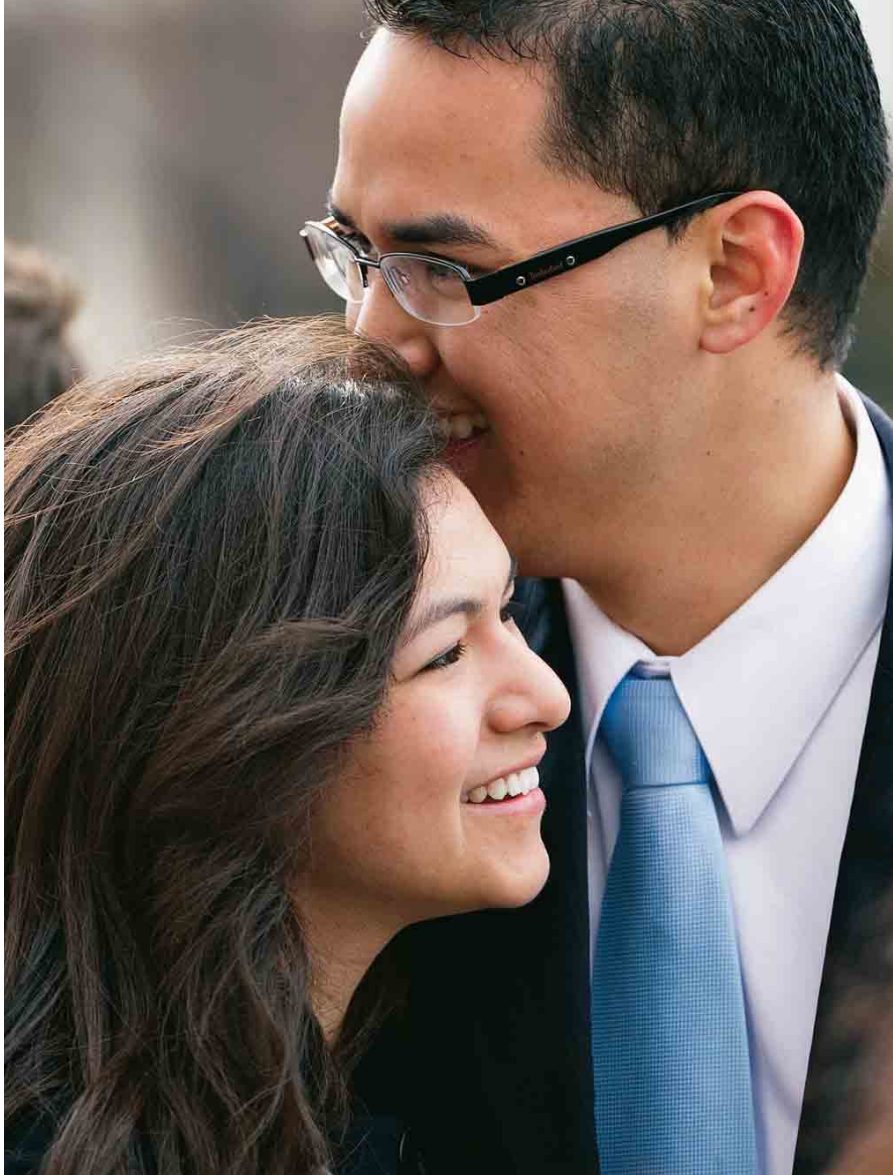
皆さんの話し方や言葉遣いは、皆さんがなりたい人物像をよく表します。人を励まし、高める言葉を使ってください。不敬で、低俗で、下品な言葉や、不適切でいかかわしい冗談は、主を侮辱するものです。神やイエス・キリストの御名を決して誤って使ってはなりません。主は言われました。「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。」<sup>4</sup>

天の御父はわたしたちに、「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値すること」<sup>5</sup>を求めるように勧告しておられます。皆さんが見たり、聞いたり、読んだりするものは、すべて皆さんに影響を与えます。

ポルノグラフィーは特に危険です。習慣性があります。好奇心に引かれて手を出しただけでも、やがてそれが習慣となり、もっと下品な物に手を染め、性的な罪悪に陥ることがあります。どんな犠牲を払ってでもポルノグラフィーを避けてください。

天の御父の定められた標準に添わないものであれば、ためらうことなく映画館から外に出てください。テレビを消してください。ほかのラジオ局に変えてください。簡単に言えば、映画、本など、どのような形の娯楽であれ、疑わしいと思ったら、見たり、読んだり、関係したりしないことです。

使徒パウロは次のように言いました。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。……神の宮は聖なるものであり、そ



して、あなたがたはその宮なのだから……。」<sup>6</sup> 兄弟の皆さん、宮である自分の体を清潔に清く保つのはわたしたちの責任です。

有害な薬物、処方薬の誤用、アルコール、コーヒー、茶、種々のたばこは、肉体、精神、霊の健康を損ないます。いかなる形のもので、アルコール性飲料は霊と肉体に有害です。たばこは皆さんを奴隷にし、肺を傷め、寿命を縮めてしまいます。

音楽は、皆さんがさらに天の御父に近づくうえで助けとなるものです。音楽は教え、教化し、ひらめきを与え、きずなを強めるために活用することもできます。しかし一方で、音楽はテンポ、リズム、音の強さ、歌詞の内容などを通して、霊的な感受性を鈍くすることもあります。不適切な音楽で自分の心を満たすようなことをしてはなりません。

性的に親密な関係は非常に神聖なもの

です。そのために主は、すでに結婚している人に互いの完全な忠節を求めると同様、未婚の人にも自制心と純潔を求めておられます。デートをするときには、相手を尊重してください。そして、あなたに対しても同じ思いで接するよう、相手に望んでください。背きは必ず悲しみにつながります。

教会の第9代大管長であるデビッド・O・マッケイ大管長はこう勧告しました。「どうか、清い思いを持ってください。」そして、次のような重要な真理を明らかにしました。「どのような行いにも、まず思いが先行します。行いを慎もうと思うならば、まず思いを慎まなければなりません。」兄弟の皆さん、良い思いで心を満たしてください。そうすれば正しい行いをするようになります。詩人テニソンが騎士ギヤラハッドの口を借りて語った次の言葉を、皆さんも心から語るができるように願っています。「わが心の清さゆえに、わが強

さは10人の力に勝る。」<sup>7</sup>

しばらく前、10代の青少年の性行動について論文を発表したある著者は、その研究を総括して、社会が青少年に伝えるメッセージに混乱があると言っています。つまり、広告やマスコミが「性行動は好ましく、むしろ期待されているというきわめて強力なメッセージ」を送るために、専門家の警告や親たちの願いがかき消されてしまうことがあると言うのです。こうしたマスコミからのメッセージを、主は次のような分かりやすくはっきりとした言葉で否定しておられます。「清くありなさい。」<sup>8</sup>

誘惑に遭ったら、使徒パウロの賢明な言葉を思い起こしてください。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」<sup>9</sup>

皆さんはこの教会の会員として確認の儀式を受けたときに、聖霊を伴侶とする権利を得ました。聖霊は正しい選択ができるように皆さんを助けてくださいます。難しい問題や誘惑にぶつかっても、それを自分だけの力で解決しなければならぬと考える必要はありません。祈りを通して霊的な力が得られることを忘れないようにしましょう。

旅路の半ばでつまずいた人がいても、元へ戻る道があります。悔い改めと呼ばれる道です。救い主が命をささげられたのは、わたしや皆さんにその賜物をお与えになるためでした。道は困難ですが、主の約束は確かです。「たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなる」のです。<sup>10</sup>

永遠の命を危険にさらすことのないようにしましょう。神の戒めを守ってください。罪を犯してしまったとしても、すぐに元の道に戻り始めれば、それだけ早く救いの奇跡による平安と喜びを見いだすことができます。幸せは、主の望まれる方法で生活



し、神と人に仕えるときに訪れるのです。

霊的な力は自分を忘れて奉仕することにより、しばしば与えられます。何年も前のことですが、当時のカリフォルニア伝道部へ行き、そこでジョージア州出身の若い宣教師と面接しました。わたしは確か次のように尋ねたのを覚えています。「毎週、両親に手紙を出していますか。」

彼は「はい、モンソン兄弟」と答えました。

次に「家族から返事が来るとうれしいですか」と尋ねました。

返事がありませんでした。そこでわたしはこう尋ねました。「家族から最後に便りがあったのはいつですか。」

彼は震える声で答えました。「家からの便りは一度もありません。父は執事の職を受けているだけですし、母は教会員ではありません。二人ともわたしに伝道に出るなど言いました。伝道に出たら、手紙は絶対に出さないと言ったのです。モンソン兄弟、どうしたらいいでしょう。」

わたしは心の中で天の御父に祈りをささげました。「すべてを犠牲にしてあなたに仕えるこの若い僕に、何と答えたらいいでしょう。」すると靈感が注がれました。わたしはこう言いました。「長老、伝道中、必ず1週間に1度両親に手紙を書いてください。自分のしていることと、彼らをどんなに愛しているかを伝え、証を述べ

「そうしたら返事がありますか。」

「きっとありますよ」と、わたしは答えました。

こうしてわたしたちは別れました。数か月後、南カリフォルニアのステーキ大会に出席したとき、一人の若い宣教師がやって来てこう言いました。「モンソン兄弟、わたしのことを覚えていらっしゃいますか。伝道に出て最初の9か月間、父母からまったく返事をもらえなかったあの宣教師です。あなたはわたしに『毎週家に手紙を出せば、両親はきっと返事をくれますよ』と言われました。」そして彼はこう尋ねました。「モンソン長老、あの約束を覚えていらっしゃいますか。」

わたしは覚えていました。そこで「両親から返事がありましたか」と尋ねました。

彼はポケットから輪ゴムで束ねられた手紙を取り出し、束のいちばん上にある手紙を取って言いました。「両親から返事があっただけではないんです。母の手紙を読むので聞いてください。『息子へ、毎回あなたの手紙を楽しく読んでいます。お父さんもお母さんも宣教師の息子を誇りに思います。ところで、お父さんが祭司に聖任されました。わたしにバプテスマを施す準備をしています。お母さんは今、宣教師からレッスンを受けています。1年してあなたが伝道を終えるころ、お父さんと二人でカリフォルニアへ行く予定です。あな

たと一緒に主の宮に入って、永遠の家族になりたいからです。』」この若い宣教師は、こう尋ねました。「モンソン兄弟、天の御父はいつでも祈りにこたえ、使徒の約束を成就してくださるのでしょうか。」

わたしはこう答えました。「あなたが示したような信仰を持つならば、天の御父は祈りに耳を傾け、御心にかなう方法でこたえてくださいます。」

清い手と、潔い心と、熱心な態度が、天の力を引き寄せたのです。謙遜な心を持った宣教師が熱心にささげた祈りが、天からの祝福によってこたえられたのです。

兄弟の皆さん、ふさわしい生活を送ってわたしたちも天の力を受け、同じような祝福にあずかることができるよう祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. 「神権持つ子らよ」『賛美歌』199番
2. 『若人の強さのために』24、25
3. ミゲル・デ・メセネバンテス、ジョン・バーレット 編、*Familiar Quotations*、第14版(1968年)、197
4. 出エジプト20:7
5. 信仰箇条1:13
6. 1コリント3:16-17
7. アルフレッド・ロード・テニソン、*Familiar Quotations*、647
8. 教義と聖約38:42
9. 1コリント10:13
10. イザヤ1:18



大管長会第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ管長

# 「あなたは、 わたしの手である」

イエス・キリスト、わたしたちの主の弟子として、わたしたちは非難するためではなく支え、癒すために召されています。

**第**二次世界大戦で、ある都市が爆撃されていたときの話です。イエス・キリストの大きな像が深刻な損傷を受けてしまいました。がれきの中にキリスト像があるのを見て、住民は嘆きました。この像は彼らの信仰と、生活の中に神がおられることの大切な象徴だったからです。

専門の技術者たちにより像の大半を修復することができたのですが、両手はあまりに損傷が激しく、修復が不可能でした。彫刻家を雇って新しい手を作ってもらえばいいと言う者もいましたが、戦争の悲惨さを後世に伝えるためにそのままにしておきたいと思う人たちもいました。結局、この像は手のないままそこに残りました。しかし、都市の住民はキリスト像の台座に、次のような言葉を記したプレートを付けたのです。「あなたは、わたしの手である」

## わたしたちはキリストの手

この話には深遠な教訓があります。救い主のことを考えるとき、わたしは御手を広げておられる主を思い描くことが多いのです。慰め、癒し、祝福し、愛するために手を差し伸べておられる御姿です。救い主は常に人々の立場に立って語られ、決

して見下したような話し方はなさいませんでした。謙遜な者、柔和な者を愛して人々の中を歩まれ、教え導き、希望と救いをお与えになりました。

これが、救い主が現世の生涯で行われたことです。現代に生きたとしても、同じことをなさっていたでしょう。そしてこれは、救い主の弟子であり末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちが行うべきことなのです。

この美しい復活祭の朝、わたしたちの思いと心は救い主に向かいます。救い主はイスラエルの望みであり、世の光です。

救い主の完全な模範に倣うならば、わたしたちの手は主の手となり、目は主の目となり、心は主の心となることができます。



## わたしたちの手は人を受け入れることができる

わたしたちの教会の会員がほかの人に奉仕する様子を見て、わたしは深い感動を覚えます。皆さんが自分を顧みずに犠牲を払った話や計り知れないほどの思いやりを示した話を聞く度に、わたしたちの心は感謝と幸せでいっぱいになります。皆さんは世の人々にとって輝く光です。皆さんはその慈しみと思いやりゆえに世界中の人々に知られています。

しかし残念なことに、意気消沈し、その後居心地が悪くなって教会の集会に行ったり参加したりするのをやめてしまう会員がいることも、時々耳にします。

わたしが少年だった第二次世界大戦後の復興期、ドイツは壊滅状態で、荒廃していました。多くの人が飢え、病に苦しみ、死と隣り合わせでした。ソルトレーク・シティーの教会から人道支援の食料や衣類が送られて来たことをよく覚えていますが、その衣類のにおいを今でも覚えていますし、缶詰の桃の甘さはいまだに忘れません。

当時はこうした支援物資を目当てに教会に入った人もいました。会員の中には、そのような改宗者をさげすむ人もいました。彼らのことを Büchsen Mormonen (ビュッシュェン・モルモネン)、つまり「缶詰に釣られて改宗したモルモン」という蔑称で呼ぶ人すらいたのです。彼らはこうした新会員たちに憤っていました。物質的な必要が満たされれば教会を離れるに違いないと思ったのです。

教会に来なくなる人も確かにいましたが、多くの改宗者は残りました。教会に来て福音の喜びを味わい、思いやりのある兄弟姉妹が優しく受け入れてくれたことに胸を打たれたのです。彼らは「我が家」を見いだしました。そして現在、これらの改宗者の子孫で、3世代目または4世代目という家族が教会にたくさんいます。

変わった服装や外見の人、異なった話し方をする人、何か違うことをする人を含

めて、すべての神の子供たちを受け入れ、愛するようにしてほしいと思います。そのような人たちには欠陥があるのではないかと人に思わせるのは、良いことではありません。周囲の人を元気づけてください。歓迎の手を差し伸べてください。教会の兄弟姉妹が長い道のりの末にようやく我が家を見いだしたと感じられるように、特別な親切と思いきり、慈愛の手を差し伸べようではありませんか。

裁きたくなる誘惑に駆られたら、救い主のことを考えましょう。「すべての人を見もとに引き寄せるために御自分の命を捨てるほど、主は世を愛しておられる……。

〔主は〕『地の果てに至るすべての者よ、わたしのもとに来……なさい』と言われる。……すべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない。』<sup>1</sup>

わたしが聖文を読んだ限りでは、救い主から最も激しい叱責を受けるのは、富や影響力を持っていたり、自分は義にかなった人間だと思い込んでいたりするために、自分を高く評価している人であることが多いようです。

あるとき主は、神殿に行って祈った二人のたとえをなさいました。一人は立派なパリサイ人で、こう祈りました。「神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています。」

もう一人は忌み嫌われていた取税人で、「遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。』そして、イエスはこう言われたのです。「あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。』<sup>2</sup>

確かに、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いるのです。<sup>3</sup> わたしたちはだれでも、憐れみを必



要としています。最後の日に神の法廷に呼び出されたとき、わたしたちは自分のたくさんの欠点を赦されることを望まないでしょうか。救い主の愛の御手を感じたいと切実に思わないでしょうか。

自分が切実に求めるものを人に差し出すことこそ、人がなすべき正しいことのように思われます。

個人の生活や世の中において、罪を受け入れたり、悪を見過ごしたりするよう勧めているわけではありません。しかし、わたしたちは熱意に駆られて罪と罪人を混同してしまい、あまりにも性急かつ冷淡に人を責めてしまうことがあります。わたしたちは、現代の預言から、「人の価値が神の目に大なるものである」ことを知っています。<sup>4</sup> 宇宙の広さを測ることができないのと同様、人の価値を計り知ることはできません。わたしたちが出会う人は皆、天の御父にとってかけがえのない存在なのです。これが理解できれば、わたしたちの

同胞にどのように接したらよいのか分かるようになります。

長年にわたって試練と悲劇に見舞われてきたある女性が涙ながらにこう言いました。「自分が古い20ドル札のような存在だということが分かってきました。しわくちゃになり、破け、汚れ、乱暴に扱われ、傷だらけになっています。それでも、わたしは20ドル札です。価値ある存在なのです。見栄えはあまり良くないかもしれませんが、くたびれて使い古されていますが、それでもわたしには十分、20ドルの価値があるのです。」

#### わたしたちの手は慰めを与えることができる

このことを念頭に置いて、心をほかの人に向け、思いやりをもって手を差し伸べましょう。だれもがそれぞれにいばらの道を歩んでいるのですから。イエス・キリスト、わたしたちの主の弟子として、わたしたちは非難するためではなく支え、癒すため



に召されています。悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めるよう命じられているのです。<sup>5</sup>

人の苦しみを、「自業自得だ」などと考えるのは、キリスト教徒としてふさわしいことではありません。復活祭の日曜日は、救い主がわたしたち全員の痛みや病、苦しみを進んで引き受けてくださったことを思い起こす絶好の日です。苦しんで当然のように見えるようなわたしたちの苦しみを、主は引き受けてくださったのです。<sup>6</sup>

箴言にはこう書かれています。「友はいずれの時にも愛する、兄弟はなやみの時のために生れる。」<sup>7</sup> どのようなときでも愛そうではありませんか。そして、特に逆境にあるときには、兄弟姉妹のそばにいて、支えようではありませんか。

### わたしたちの手は奉仕することができます

ユダヤのある伝承に、アブラムとジムリという二人の兄弟が出てきます。この二人は畑を持っており、共同で耕していました。労働の負担も収穫も二人で等分することに同意していました。ところが、収穫を目前にしたある晩、ジムリは眠ることができませんでした。なぜなら、アブラムに

は妻と7人の息子がいるのに、収穫の半分しか受け取らないというのは理にかなったことではないかと思えてならなかったからです。他方、我が身だけを養えばいい自分には、収穫の半分は多すぎます。

そこでジムリは服を着るとそっと畑に出て行き、自分の収穫の3分の1を取って、アブラムの取り分に加ええました。そして、正しいことをしたことに満足を感じながらベッドに戻りました。

一方、アブラムも眠れませんでした。作業を手伝ってくれる息子もなく、すべてを一人でやっているかわいそうなジムリのことを考えていたのです。あれほど重労働を独りでしているのに収穫の半分しか受け取らないのは道理に合わないと思いました。神が喜ばれるはずありません。そこで、アブラムはそっと畑に出て行き、収穫の自分の分の3分の1を取って、愛するジムリの取り分に加ええました。

翌朝、兄弟は畑に出ると、二人とも驚いてしまいました。二人の収穫物の山は、どちらも同じ大きさに見えたからです。その夜、二人とも家を抜け出して、前の晩と同じことをしようとしました。しかし、今回二人は出くわしてしまったのです。お互いの姿を見て、二人は泣き、抱き合いました。どちらも言葉が出ませんでした。心が愛と感謝でいっぱいになっていたからです。<sup>8</sup>

これが思いやりの精神です。自分を愛するようにほかの人を愛するということです。<sup>9</sup> ほかの人の幸せを求め、人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにするということです。<sup>10</sup>

### 真の愛には行動が伴わなければならない

真の愛には行動が伴わなければならない。わたしたちは一日中愛について話すことができます。声高に愛を語る歌や詩を書くことができますし、愛をたたえる歌を歌うこともできます。愛するよう説教することもできます。しかし、その愛を行動で示さないかぎり、わたしたちの言葉は「やかましい鐘や騒がしい鑢（ようちゆう）と同じ」な

のです。<sup>11</sup>

キリストは愛について語られるだけではありませんでした。日々の生活で愛を示されたのです。群集を残して立ち去ったりはなさいませんでした。イエスは人々の中にいながら、個人に手を差し伸べられました。迷い出た者を救助されました。愛の手を差し伸べるよう人々に教えるだけではなく、実際に人のために働くようゆだねられました。「弱者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひびを強め」る方法を教えるだけでなく、実践して見せてくださいました。<sup>12</sup>

キリストは人を教え導く方法（かんべき）に御存じでした。救い主が御手を差し伸べられると、触れられた者は勇気づけられ、成長し、強くなり、その結果、さらに善い人になったのです。

わたしたちが救い主の手なのであれば、同じことをするべきではないでしょうか。

### わたしたちは救い主がされたように愛することができる

救い主は、「律法全体と預言者とが、かかっている」<sup>13</sup> 大切な戒めとして愛について語り、生活や家庭、ワード、地域社会、国における完全な優先順位を明らかにされました。わたしたちは、人生の非常に細々としたことと律法、しなければならぬことの長いリストについてあれこれと思い悩みながら時を過ごすこともできます。しかし、いちばん大切な戒めをないがしろにすれば、すべては無駄になり、わたしたちは風に吹きまわされる水なき雲や、実らない木のようなものになってしまいます。<sup>14</sup>

父なる神と同胞へのこのような愛がなければ、わたしたちは主の教会という体裁を整えているだけで、実体がありません。愛のない教えが何の役に立つでしょうか。愛のない伝道活動や神殿活動、福祉活動が何の役に立つでしょうか。

愛のゆえに、天の御父はわたしたちの霊を創造されました。救い主がゲツセマネの園に行き、わたしたちの罪（あがな）の贖いと





# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

## 大管長会

2010年4月現在



第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング

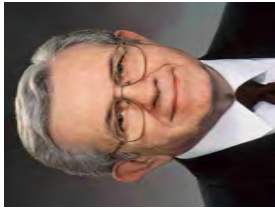


大管長  
トーマス・S・モンソン



第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ

## 十二使徒定員会



ロバート・D・ヘイルズ



L・トム・ベリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ジェフリー・R・ホランド



D・トッド・クリストファースン



クエンティン・L・クック



ニール・L・アンダーセン



ロナルド・A・ラスバンド



クラウディオ・R・M・オースタ



スティーブン・E・スノー



ウォルター・F・ゴンザレス



L・ホットニー・クレイトン



ジェイ・E・ジエンゼン



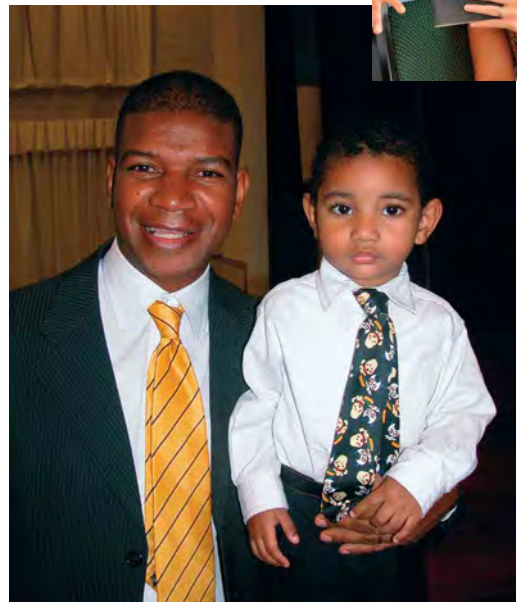
ドナルド・L・ホールストロム

## 七十人会長会





第180回年次総大会に教員  
が世界中から集まった。  
左上から時計回りに  
フィリピン・ナボタス、  
フランス・カルカソンヌ、  
アルゼンチン・フォルモサ、  
ブラジル・サンパウロ、  
ブラジル・サンパウロ、  
チリ・サンティアゴ、  
チェコ共和国・プラハの末日聖徒。





十二使徒定員会  
リチャード・G・スコット長老

て御自身をささげられたのは、愛があったからでした。愛は、救いの計画の偉大な原動力です。それは幸せの元であり、常に新たな癒しを与えてくれる泉であり、尊い希望の源なのです。

キリストのような愛をもって人に手と心を差し伸べるとき、素晴らしいことが起こります。わたしたち自身の霊が癒され、精錬され、強くなるのです。さらに幸福になり、さらに平安になり、聖なる御霊のささやきがさらに受けやすくなります。

天の御父がわたしたちを愛してくださっていること、御子を与えてくださったこと、イエス・キリストの生涯と模範、罪なくささげられた無私の犠牲に対して、天の御父に心の底から感謝しています。キリストは亡くなられたのではなく、墓からよみがえられました。この事実にはわたしは歓喜しています。主は生きておられ、地上に戻って御自身の権能と福音を人に回復してくださいました。主は、人が目指すべき完全な模範を示してくださいました。

この復活祭の日曜日に、そして毎日、救い主がいかにわたしたちを愛しておられるか、慰めを与えてくださるか、癒してくださいるか、敬虔に畏れをもって思い巡らし、救い主の御手になろうと決意しようではありませんか。わたしたちを通して人が救い主の愛の御腕を感じられるようにしようではありませんか。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

#### 注

1. 2ニーファイ 26:24-28, 強調付加
2. ルカ 18:9-14 参照
3. ローマ 3:23
4. 教義と聖約 18:10
5. モーサヤ 18:9 参照
6. アルマ 7:11-13; 教義と聖約 19:16 参照
7. 箴言 17:17
8. クラレンス・クック, "Abram and Zimri," *Poems by Clarence Cook* (1902年), 6-9 参照
9. マタイ 22:39 参照
10. マタイ 7:12 参照
11. 1コリント 13:1
12. 教義と聖約 81:5
13. マタイ 22:40
14. ユダ 1:12 参照

# 生きて変わらぬ主、 御名に栄えあれや

イエス・キリストの贖罪を理解し、贖罪に信仰を持つならば、幸せな人生を送るために必要な強さと力が得られるでしょう。

**復**活祭の朝です。今日は、全キリスト教界が死に対するイエス・キリストの勝利を祝うことに定めた聖なる日です。キリストの復活によって、それまで抗うことのできなかった死の鎖が砕かれました。地上に生まれた天の御父の子供たちに、死からよみがえって再び生きる道が開かれたのです。

あの聖なる日に、天の御父はどれほど喜ばれたことでしょうか。御父の命じられることにすべて従う、完全なふさわしさを備えた御子が、死の鎖を打ち砕かれたのです。御父の幸福の計画が、栄光に満ちた従順な御子による大なる最後の犠牲によって効力を生じていなかったとしたら、この計画の永遠の目的は果たせたでしょうか。霊の体に宿っていた英知は、地上に来て肉体を受けても、もしも死が人の存在の終わりであり、だれ一人よみがえらなかつたとしたら、地球の創造に永遠の目的があったと言えるでしょうか。この重要性を理解していたすべての人にとって、その日の朝は、何と輝かしいものだったことでしょうか。

復活祭は、敬虔なキリスト教徒が皆、愛する救い主に思いを向け、へりくだり感謝をささげる神聖な時節です。救い主を愛し、戒めを守ることでその愛を示す

べての人に、平安と喜びが訪れる時です。復活祭になると人はイエスとその生涯、贖罪、復活について思い巡らします。「その翼には、いやす力を備えている」イエスは(マラキ 4:2。3ニーファイ 25:2も参照)、死からよみがえられました。贖い主から受けられるこの癒しは、だれもが必要とするものです。わたしは、最高の教師であるイエス・キリストの教えに見られる具体的な原則に基づいて、希望のメッセージを伝えます。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にはキリストの完全な教義がありますから、キリストの贖罪がもたらす癒しの広さと深さを、より十分に理解することができます。キリストが進んでくださった、計り知れない苦痛と犠牲を伴うこの行為は、この世だけでなく永遠にわたる影響を人に及ぼすことをわたしたちは知っています。

この復活祭の日に、復活と、支払われた代価、贖罪によって与えられた賜物を思い起こしながら、これらの神聖な出来事について聖文は何を教えているか深く考えてください。これらの出来事が実際に起こったという個人の証が強まることで、それらは、覚えておくべき原則以上のものです。人の存在そのものの一部



律法に従うとき、わたしたちは祝福を受けます。律法を破れば、以前その律法を守っていたからといって、破ったことに対する正義の要求を逃れることはできません。救い主の贖罪のおかげで、わたしたちは不従順な行いをしたとしても、悔い改めることによって正義が要求する代価を逃れることができるのです。

わたしはこれを理解しようと努めるにつれて、イスラエルの聖者であり、平和の君、そしてわたしたちの贖い主である御方の贖罪に対する敬意と感謝の念が強くなりました。イエス・キリストが贖罪を通して天の御父の子供たちのためにくださったことの重要性を、死すべき人間は十分に理解することはできず、言葉で適切に表現することもできないことは分かっています。しかし、各人がそれについて学べることを学ぶのはきわめて大切です。贖罪は天の御父の幸福の計画に欠かすことのできない要素であり、それなしでは計画は効力を生じることがなかったのです。贖罪を理解し、それによって得られた洞察力をもって人生を見通すならば、皆さんは、この世で得るあらゆる知識、経験、技術をはるかに有効に活用できるようになるでしょう。

贖罪が御父と御子の双方に要求したのは何か想像してみるのには有益であるとわたしは信じています。救い主は3つの課題に直面されました。

まず、計り知れないほどの責任の重さです。これを完全に成し遂げないかぎり、天の御父の子供たちは一人もみもとに帰ることができないということを救い主は御存じでした。子供たちは御父の御前から永久に追放されます。なぜなら律法を破ったことを悔い改める方法はありませんし、清くない者は神とともに住むことができないからです。御父の計画は無効になり、霊の子供たちは皆、永遠にサタンの支配の下で苦しむことになるのです。

第2に、絶対的に清い思いと心をお持ちの救い主が、人類が出遭うあらゆる苦し

となり、世をむしろむき出しの罪の高波をせき止める防波堤になるはずで

す。預言者リーハイは、次のような深遠な真理を宣言しました。「したがって、贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる。それは、メシヤが恵みと真理に満ちておられるからである。見よ、メシヤは律法の目的を達するため、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないのである。」(2ニーファイ2:6-7) 高慢な者や傲慢な者にとっては、贖罪はなかったかのようにであると、この聖句は示唆しています。

イエス・キリストは生きておられます。イエスはわたしたちの救い主であり、贖い主であられます。栄光に満ちた、復活され

た御方です。イエスは愛を伝える能力をお持ちです。その愛は非常に強く、圧倒的なものであり、人の言葉では表し尽くせないほどです。イエスは死の縄目を断つために御自分の命をささげられました。キリストの贖罪は、天の御父の幸福の計画に完全な効力を与えたのです。

イエスは、わたしたちの福音への従順さに応じて、正義と憐れみを両立されます。イエスは全人類の光です。あらゆる真理の源です。イエスはすべての約束を成就されます。その戒めを守る者は皆、想像を絶するような輝かしい祝福を得ることができるのです。

贖罪がなければ、天の御父の幸福の計画は完全な効力を持つことはできませんでした。贖罪は、人生で犯す過ちの結果を克服するあらゆる機会をもたらします。

みを、最も邪悪で卑劣な罪が引き起こす苦悩までも経験なさらなければならなかったということです。

第3に、救い主は、肉体的にも精神的にも限界まで追い込まれているときに、サタンの手下たちの猛烈な攻撃に耐えなければなりません。そして、力が限界に達し、最も助けを必要としていたときに、わたしたちには十分理解できないある理由のために、御父は重い責任を救い主御一人に背負わせ、救い主が御自身の力と能力のみで担うに任されたのです。

救い主が十字架の上から「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれたとき（マタイ 27:46; マルコ 15:34）、天の御父はどんなに激しい苦悩にさいなまれておられたか、わたしは想像しようと努めています。天の御父は十字架上の御子をお見捨てになったのではないとわたしは信じています。イエスは、常に御自分を支えてくださった御父の助けが取り去られるのを感じたために叫ばれたのだとわたしは信じています。救い主がほかの助けなしに御自分の力だけで贖罪を完全に欠けるところなく成し遂げる必要があることを御父は御存じでした。御父は、御子をお見捨てになったわけではありません。御自身の完全な御子が贖罪の永遠の実を勝ち取ることができるようにされたのです。

贖罪のすべての効力を十分に理解できる人は、死すべき人間の中にはだれもいません。

イエス・キリストの贖罪の重要性についてわたしたち一人一人がさらによく理解できるよう努めることはどうしても必要です。その理解は、人生を築く揺るがぬ土台となるからです。土台となる標準のない世の中、欲望の追求の陰で尊厳や徳、清さが廃れてきている世の中にあって、イエス・キリストの贖罪を理解し、贖罪に信仰を持つならば、幸せな人生を送るために必要な強さと力が得られるでしょう。そしてそれは、試練のときに自信を、混乱のと

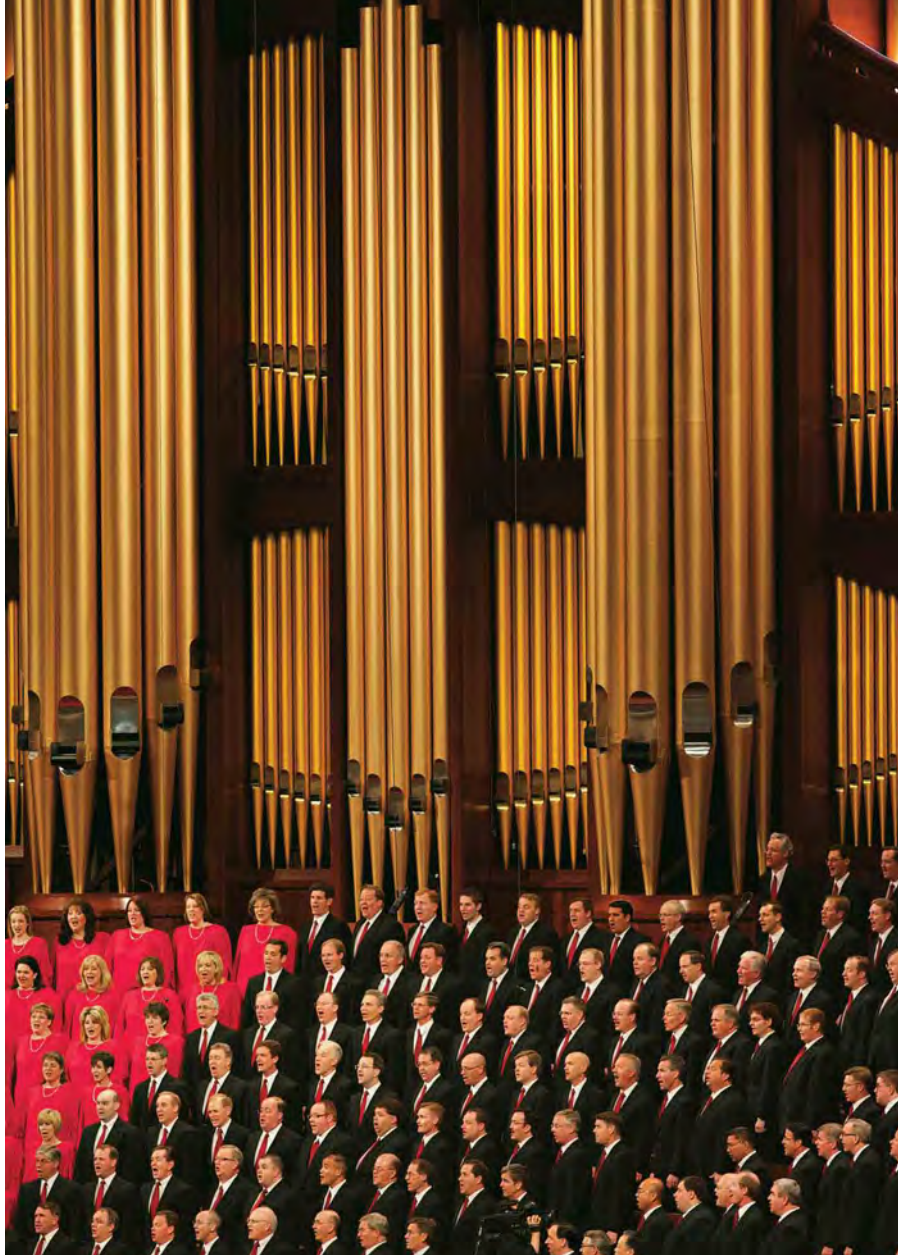
きに平安を与えてくれるのです。

わたしは熱意を込めて皆さんに勧めます。イエス・キリストが神から任ぜられた救い主、贖い主としての召しを完全に果たされた結果、わたしたちがあずかっている比類のない永遠かつ無限の恩恵を理解し、その価値が分かるよう、個人で計画を立てて学習してください。そうするよう、心を込めて祈り求めながら、聖文について個人で深く思い巡らしてください。無限の価値を持つ救い主の贖罪がよく理解できるようになり、感謝が深まることでしょう。イエス・キリストと主の贖罪について学ぶもう一つの力強い方法は欠かさず何度も神殿に参入することです。

わたしたちが一人一人決意を新たにしたり、神聖な家庭で真の原則を教えることができますように。そのようにするとき、

わたしたちに託された霊の子供たちに、幸せになるための最高の機会を提供することになるのです。家庭を強固にする義の道具として教会を活用してください。ただし、自分たちに託された御父の霊の子供たちを育てるに当たって、親として主から導きを受けるという欠かすことのできない責任と特権はわたしたちにあるということを確認してください。

家庭で真理を教えることは非常に大切であり、欠かすことができません。教会は大切ですが、必要な理解と導きを親が子供に与えるのは家庭においてです。確かに、現在と永遠とにわたる最も大切な召しは、父親と母親の召しなのです。わたしたちが受けるそのほかの割り当ては、やがてすべて解任されます。しかし、父親と母親の召しには解任がありません。



ただ読むだけでなく、聖句について深く考え(めいどう)冥想するとき、聖霊の力によって真理が皆さんの思いと心に滴り、それは不安な時代を生きるわたしたちにとって堅固な土台となることでしょう。子供がこれから直面する問題を乗り越えることができるよう、親として子供を訓練してください。真理を教え、実践させてください。そうするならば、世の中がどれほど激しく揺れ動こうとも子供たちは動揺することはないでしょう。

この復活祭の日に、主イエス・キリストを家庭生活の中心に据えることを決意してください。霊的な事柄にせよ物質的な事柄にせよ、何を決めるにも次のことを考え、指針にしてください。「主はわたしに何を望んでおられるだろうか。」救い主が中心にあれば、家庭は平和で、落ち着いた雰囲気(あまな)に満たされます。家庭は穏やかな安心感で満たされ、子供も大人も同じようにそれを感じ取るでしょう。

永続的に善い人間に変わるためのいちばん良い方法は、イエス・キリストを模範にして、その教えを人生の指針にすることです。

主の戒めに従わなかったことがあり、ふさわしくないと感じている人は、主イエス・キリストはそのような人のために命をささげられたのだということを理解してください。主は贖罪によって、そのような過ちを克服し、不適切な行いを悔い改め、主の教えに反する生活が招く悪影響に打ち勝つ機会を永遠に与えてくださいました。

救い主はわたしたち一人一人を愛しておられます。従順になることによって救い主がこの世で与えようとしておられるすべての祝福にふさわしい者となるならば、主はわたしたちのそれぞれの必要が満たされるのを可能にしてくださいます。わたしは救い主を愛し、敬(あがな)っています。救い主から権能を受けた僕として、持てる力の限りを尽くして、主が生きておられることを厳かに証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■



七十人会長会  
ドナルド・L・ホールストロム長老

## 主に心を向ける

この世の状況のために霊的な力を失うことがあってはなりません。

何年も前、悲劇へと発展した心痛む光景を目にしました。ある若い夫婦が、初めての子供の出産を控えていました。記念すべき出来事を前に、二人は期待と興奮でいっぱいでした。しかし出産中の合併症がもとで赤ちゃんは亡くなりました。心の痛みは悲しみに、悲しきは怒りに、怒りは非難に、非難は医師への復讐(ふくしゅう)に変わりました。二人はすべての責任は医師にあるとしたのです。そして親と親戚をも大々的に巻き込み、一緒になって医師の名声と経歴を台なしにしようとしました。怒りが数週間、そして数か月と続くうち、「どうして主はこんな恐ろしいことが起きるのをお許しになったのか」と、家族の恨みは主に向けられました。教会の指導者や会員たちは何度も、彼らを霊的に、また情緒的に慰めようとはしましたが拒否されました。そのうち、彼らは教会から離れていきました。今では、その家族の4世代が影響を受けています。かつては、主と主の教会に対して信仰深く、献身的な家族でしたが、何十年の間、家族のだれ一人として霊的に活発な人はいません。

人生の最も困難な状況にあって、平安の源は多くの場合一つしかありません。平和の君、イエス・キリストは恵みを与えようと招いておられます。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ 11:28) さらに主はこう約束しておられます。「わたしの平安をあなた

がたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」(ヨハネ 14:27)

わたしの父方の祖父母には二人の子供がいました。息子(わたしの父)と娘です。息子は伝道とハワイ州での兵役を終えると、生計を立てて家族を養うため、1946年に再びハワイに戻りました。祖父母と娘はソルトレーク・シティに住んでいました。彼女は1946年に結婚し、4年後に妊娠しました。祖父母にとって、娘の初めての出産は特別に待ち遠しいものです。まして祖父母の場合は一人娘でした。しかし、彼女が双子を妊娠していることはだれにも分からず、不幸なことに彼女も双子も出産中に亡くなってしまいました。

祖父母は悲嘆に暮れました。しかしすぐに、二人は悲しみの中で主と主の贖いに心を向けました。どうしてこうなったのか、だれのせいなのかなどと、くよくよ考え込むことなく、二人は義にかなった生活をするに徹したのです。彼らは決して裕福ではなく、社会で言ういわゆるエリートでもありませんでした。教会で高い地位に就いたこともありません。ただ二人は献身的な末日聖徒でした。

1956年に退職すると、彼らは、あとに残った息子と暮らすためにハワイに移りました。晩年は家族を愛し、教会で奉仕する日々を送りました。何より、二人はともにいることが大好きでした。離れ離れになることを嫌がっていました。どちらが先に死んだとしても、その後どうすればす



ぐにまた一緒になれるだろうかと話していたほどです。結婚して65年たち、90歳の誕生日を迎えようというころ、二人は数時間の間に置いて老衰で亡くなりました。ビショップとして、わたしは二人の葬儀を行いました。

アートおじいちゃんとルーおばあちゃんの忠実さは、その後の4世代に影響を与えています。特に困難な状況に直面した

とき、その影響は顕著です。わたしの両親の末娘、つまりわたしの妹は34歳のとき、出産後の合併症で亡くなりました。出産から10日後、彼女は生後10日から8歳までの子供4人を残してこの世を去ったのです。このとき、祖父母の忠実さが、息子、つまりわたしの父、そして母に直接的で深い影響を及ぼしました。前の世代の模範を見ていた両親は迷わず主に心に向

け、慰めを求めたのです。

世界中の人々も教会員も大きな喜びと痛みを経験しています。喜びも痛みも主の計画の一部です。一方が欠ければもう一方を知ることはできません。「人が存在するのは喜びを得るためである」という聖句(2ニーファイ2:25)と「それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである」という聖句は矛盾しません(2ニーファイ2:11)。補い合っているのです。息子アルマは主に心に向けたときの気持ちをこう表現しています。「わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされた……。」(アルマ36:20)

大きな問題に人が屈してしまうことがあります。ささいなことを大きな問題にする人もいます。サイモンズ・ライダーはキャンベル派の指導者でした。教会のことを聞き、ジョセフ・スミスと会いました。感銘を受けた彼は1831年6月に教会員になります。その後すぐに長老に聖任され、伝道に召されました。ところが、大管長会からの召しの手紙と宣教師の正式な委任状にあった彼の名前のつづりが一文字だけ間違っていました。正しい姓はR-y-d-e-rなのですが、R-i-d-e-rとなっていたのです。この召しと、召しを送った人たちに対して疑問を持った彼は、伝道へは行かず、教会を去る選択をします。それはすぐにジョセフと教会に対する憎しみと強い反発に変わりました。1832年3月の夜半、怒った暴徒がジョセフ・スミスとシドニー・リグドンを家から引きずり出してタールを塗り、羽根を付けたとき、このように叫ぶ声が聞こえたのです。「サイモンズ、タールが入ったバケツはどこだ。」(*History of the Church*, 第1巻, 262-263) 10か月もたわずに、サイモンズ・ライダーは熱心な改宗者から暴徒の首謀者へと変わってしまいました。たった一文字のつづりの間違いに腹を立てたことが彼の霊的な墮落の始まりでした。程度の大きさにかかわらず、わたしたちが問題にどう対応するかで、人生が変わってしまうことがあるのです。





預言者ジョセフ・スミスは個人を襲う悲劇や敵対心に対処するための一つの模範を示しました。リバティーの監獄で冷酷な扱いを受けていたときに明らかにされたのが、この神の導きです。(この中には、それまでのジョセフの生涯の描写と、将来に対する警告も含まれています)。「愚かな者[が]あなたをあざ笑[つても]……たとえあなたは<sup>かんなん</sup>艱難を経験するように定められても、……たとえあなたの敵があなたを襲っても、……たとえあなたが穴の中に投げ込まれたり、殺人者の手に渡されたりして[も、]……[たとえ]すべての元素が結束して道をふさいでも、また何にも増して、たとえ地獄の入り口が大口を開けてあなたをのみ込もうとしても、息子よ、あなたは<sup>あがな</sup>このことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」(教義と聖約 122:1, 5-7)そして、次の深遠な言葉が与えられました。「人の子はこれらすべての下に身を落とした。あなたは人の子よりも大いなる者であろうか。」(教義と聖約 122:8) 続いて明確な指示と偉大な約束が示されます。「それゆえ、あなたの道に踏みとどまりなさい。……人のなし得ることを恐れてはならない。とこしえにいつまでも、神はあなたとともにいるからである。」(教義と聖約 122:9)

その後の年月も、ジョセフ・スミスは義をもって逆境に満ちた人生を耐え続けました。次の言葉から、ジョセフがあふれるばかりの信仰をもって人生を見詰めていたことがわかります。「わたしが経験するように定められている数々の危難については……わたしにとってほんのささいなことに思われます。……わたしがいつも泳いでいる水は深いのです。……わたしは……艱難を誇り……ます。……神は……それらのすべてからわたしを救い出してください、またこれから後もわたしを救い出してくださいからです。」(教義と聖約 127:2) 敵からの絶え間ない圧力に屈しないというジョセフの自信は、常に主に心を向けるというジョセフの持っていた力が土台となっていたのです。

家族、友人、教会員、教会の指導者、仕事の同僚など、だれかから不当な扱いを受けたと感じるなら、あるいは愛する人の死、病気、財政破綻、虐待、依存症など、何か理不尽なことが起こったと感じるときは、持てるすべての力を使って真摯に問題に取り組んでください。「あなたの道に踏みとどまりなさい。」(教義と聖約 122:9) あきらめるという選択肢はありません。そして、一刻も早く主に心を向けてください。あなたが持っている主への信仰のすべてを働かせてください。主と

ともに重荷を背負ってください。主の恵みにより、重荷を軽くしていただくのです。わたしたちは「キリストの喜びにのまれてしまう苦難のほか、……どのような苦難も受けること[は]ない」という約束を受けています(アルマ 31:38)。この世の状況のために霊的な力を失うことがあってはなりません。

主の最も偉大な行いである<sup>あがな</sup>贖いは、「万物の下に身を落とすこと」と(教義と聖約 88:6)、「すべての人の苦痛」を受けることをイエスに求めました(2ニーファイ 9:21)。このことから、贖いには、罪を克服する手段を与えること以上の広い目的があることがわかります。地上での最大の偉業を成し遂げたことで、救い主は「もしあなたが十分に固い決意をもって主に立ち返り、主に頼り、力の限り主に仕えるならば、もしあなたがこのようにするならば、主は……奴隷の状態から救い出[す]」という約束を成就する力を得られました(モーサヤ 7:33)。

この復活祭の朝を祝うに当たり、「輝く明けの明星」である主に心を向けましょう(黙示 22:16)。主が永遠にわたしたちの道と、真理と、命を照らしてくださることを証します(ヨハネ 14:6 参照)。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



前中央初等協会会長  
チェリル・C・ラント

# 子供たちが救い主の御顔を見られるように

幼い子供の親や指導者であるわたしたちの神聖な責任は、彼らを救い主のみもとへ連れて行くことです。

何年前にわたしは託児の指導者たちに、とても幼い子供たちに福音を短くレッスンする方法を教えました。ある指導者が幼い息子をひざに乗せていました。わたしは救い主の絵を手に取り、イエスについて話しながら、どうやって子供に話すかを示しました。小さな男の子は母親のひざを降り、わたしの前によちよち歩いて来て、絵を見詰め、主の御顔に触りました。話の途中で、わたしは「これはだれ？」と尋ねました。すると男の子は笑顔で「イエス様」と答えました。

まだ自分の名前さえ言えないほど幼いこの男の子は、救い主の絵が分かり、主の御名を知っていたのです。その子のかわいらしい反応を見たとき、救い主の御言葉を思い出しました。「あなたがたは忍耐することによって自分の霊を保つために、常に主の顔を求めなさい。そうすれば、あなたがたは永遠の命を得るであろう。」(教義と聖約 101:38)

主の御顔を求めるとはどのような意味でしょうか。もちろん、主の絵を認識する以上の意味があるでしょう。キリストは「主を求めよ」と促されました。これは、主がどのような御方で、人のために何をなさり、人に何を命じておられるかを知るよう

にという促しです。主のみもとに行くこと、最終的に主の御顔を見ることは、信仰と行いにより主に近づくときのみ実現することにより実現します。では、この世でどのように主に求めれば、次の世で主の御顔を見られるのでしょうか。

第3ニーファイには、この世で実際に救い主の御顔を見た人々の記録があります。わたしたちは今主を見ることはできなくても、恐らく彼らの経験から学べるでしょう。救い主は亡くなられた後、彼らに現れ、彼らを教え、祝福されました。そして



「イエスは、幼い子供たちを連れて来るように命じられ」ました(3ニーファイ 17:11)。

幼い子供の親や指導者であるわたしたちの神聖な責任は、彼らを救い主のみもとへ連れて行き、主と天の御父の御顔を見られるようにすることです。しかしそれを果たすとき、わたしたち自身も主のみもとへ行くのです。

もう一度聞きます。それは、特に誘惑に満ちたこの世にあって、どうすれば達成できるのでしょうか。第3ニーファイで、親たちは主を愛していました。信仰を持ち、イエスが行われた奇跡を信じました。自分の子供を愛し、主の御言葉を聞くために子供を集め、彼らを主のみもとに連れて行くという戒めに従いました。

子供たちが連れて来られると、キリストは親たちにひざまずくように言われました。そして、わたしたち全員のためにしてこられたように、彼らのために天の御父に祈られました。その祈りはあまりにも「大いなる驚くべきこと」だったので、言葉で表せませんでした(3ニーファイ 17:16)。主のみもとへ来て、主の贖いを受け入れることで、この親たちは子供を主のみもとへ「連れて来る」ために必要なことをすべて行う強さを得ました。

第3ニーファイ第22章13節に、キリストが親たちに命じられたもう一つの事柄が書いてあります。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。」

そこで、救い主との経験に倣って、このニーファイ人の親たちは、主について子供に教えました。親は子供に、主を愛すること、主の福音、そして福音に生きる方法を教えました。親は子供をとてもよく教えたので、その地では200年にわたって義と平和が続きました(4ニーファイ 1:1-22 参照)。

さて皆さんの周囲にいる最愛の人たちを見てください。最も大切なわたしたちの家族です。皆さんは何より、家族が永遠に



福音の真理を子供に教えることによって、また御霊を感じ、認識できるよう助けることによって、わたしたちは一歩ずつ子供を救い主のみもとへ連れて行くことができます。幼い子供でも、永遠に関することを理解し、受け入れることができます。子供は聖文や預言者が大好きです。いい子になりたいと直感的に思っています。天とのつながりを保てるように子供を助けるのはわたしたちの責任です。聖霊を遠ざける影響から子供を守るのもわたしたちの責任です。そのための助けと指針は聖文の中にあります。そして、聖文から答えを見つけるように子供に教えることができます。正しい原則を教え、その原則を生活に当てはめられるように助けることができます。学んでいる真理に対する証が得られるように、子供の心を御霊に向けさせることができます。福音に生きる喜びを見いだせるよう、助けることができます。そうすれば、子供を強めてくれる信仰と従順の固い基が、子供の生活の中に築かれるでしょう。

ただ、これを全部するのは簡単ではありません。ニーファイ人の記録によれば、彼らの家族には200年間の平和が続きました。しかしたくさんの方が努力が必要だったのです。努力と忍耐と信仰が求められますが、わたしたちが携わる事柄の中でこれ以上に大切に、報いをもたらすものはありません。そして、主はわたしたちを助けてくださいます。なぜなら主は子供たちをわたしたち以上に愛しておられるからです。主は子供たちを愛し、祝福されます。

主がニーファイ人の子供たちを一人一人祝福し、彼らのために祈られたことを思い出してください(3ニーファイ17:14-17, 21参照)。それから「イエスは群衆に語って、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。

そこで彼らは、見ようとして天に目を向けたとき、天が開くのを見た。そして、天使がまるで火の中にいるかのような有様で天から降って来るのを見た。天使は降っ

自分のものとなることを望んでいるでしょう。第3ニーファイの記録には、子供を主のみもとへ連れて行く際に役立つ規範が記されています。第1に、わたしたちは心から主を愛し、子供を愛さなければなりません。第2に、常に主を求め福音に生きるよう努めることにより、子供の模範とならなければなりません。第3に、福音とその教えに生きる方法を子供に教えるべきではありません。

この規範に従い、子供を救い主のみもとへ連れて行くことは、一歩ずつ達成します。この規範をもう一度見ましょう。第1に、主と家族を愛するようにならなくてはなりません。それには時間と経験と信仰が必要です。無私の奉仕が必要です。そして主の愛に満たされると、わたしたちは愛せるようになります。主はわたしたちの行いを悲しまれることもあるでしょうが、わたしたちを愛し、いつもそばにいて助けてくださいます。このようにしてわたしたちは子供を愛する方法を学ばなければなりません。

第2に、わたしたちは模範とならなくてはなりません。これも一歩ずつ達成するものです。子供に、キリストのみもとへ来て主の御顔を見てほしいなら、わたしたち自身もそれを追求することが大切です。子供に示せるように、わたしたちはその方法を知らなければなりません。子供が信頼し従えるように、自分の生活を整えなければなりません。このように自問してもよいでしょう。「子供はわたしの顔を見るとき、何が見えているだろうか。」「子供はわたしの生き方を見て、わたしの顔に神の面影を見ているだろうか。」

忘れないでください。だれ一人として子供の完璧な模範にはなれませんが、わたしたちはふさわしい親や指導者にはなれるのです。ふさわしくなろうと努力すること自体が良い模範です。うまくいかないと感じることもあるかもしれませんが、わたしたちは努力し続けることができます。主とともにいれば、主によって強められ、なるべき自分になれ、なすべきことができます。

第3に、聖文や預言者から与えられる

て来ると、幼い子供たちを取り囲み、幼い子供たちも火に包まれた。そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。」(3 ニーファイ 17:23-24)

どうすれば今日の子供たちはこのような祝福を味わえるでしょうか。M・ラッセル・バラード長老は言いました。「貴い子供を託されている人が神聖で高貴な管理人の職を授けられているのは明らかです。なぜなら、その人々は今の時代の子供たちを、愛と、信仰の炎と、彼らの本質への理解をもって包み込むよう、神より任じられているからです。」(『汝の子供たちを見よ』『聖徒の道』1994年10月号, 40)

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは子供たちを祝福するために今日天の御父から遣わされた天使です。わたしたちは福音の原則を教え、福音に生きる喜びで家庭を満たすことにより、子供たちがいつか救い主の御顔を見ることができるようになることができます。わたしたちは一緒に主を知ることができます。わたしたちは主の愛と祝福を感じることができます。そして主を通して、わたしたちは御父のみもとに帰ることができます。主の教えに従順に、忠実に、熱心に従いながら、わたしたちはこれらのことを行います。

「まことに、主はこのように言う。自分の罪を捨て、わたしのもとに来て、わたしの名を呼び、わたしの声に従い、わたしの戒めを守る者は皆、わたしの顔を見て、わたしがいることを知るであろう。」(教義と聖約 93:1)

兄弟姉妹の皆さん、わたしは神が生きておられ、イエス・キリストが神の御子であり、わたしたちの救い主、贖い主であることを知っています。主はみもとに来るようわたしたちを招いておられ、子供たちをみもとへ連れて来て、ともに主の御顔を見て、主と天の御父とともに永遠に暮らすようにわたしたちに命じておられます。わたしたち皆が、この大いなる祝福を受けるために努力できるよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■



十二使徒定員会  
クエンティン・L・クック長老

## わたしたちはイエス・キリストに従う

救い主がしてくださったすべてを喜びましょう。救い主のおかげで、一人一人が救いと昇栄を得られるようになりました。

**復** 活祭の日曜日、主なる救い主イエス・キリストを愛する世界中の末日聖徒に向けて話すのは意義深い責任です。わたしたちは今朝、主が死に勝利されたことを祝います。救い主がわたしたちのために進んで贖いの犠牲を払ってくださったことについての理解を大切に、心から感謝します。主は御父の御心に従うことにより、死に崇高な勝利を得られました。これは人類史の中で並外れた出来事です。わたしは救い主に従うということについて話すこの機会に感謝しています。

救い主の地上での務めにおいて、十字架に先立つ最後の2日間はきわめて重要であり、ある意味で人知を超えたもので

す。人類の永遠の行く末にとって欠かせない多くのことが、木曜日に、そしてキリストが十字架につけられた金曜日に取り上げられました。最後の晩餐、すなわち「イスラエルが……束縛から解放されたことを記念する……定められた制度」である過越の食事は、木曜日の夕方に始まりました。<sup>1</sup> 重要な儀式と教義が最後の晩餐の席で教えられました。そのうちの3つだけ挙げます。第1に、救い主は聖餐の儀式を教えられました。パンを取り、裂き、祝福し、弟子たちに渡しながら言われました。「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」<sup>2</sup> 救い主はこのようにして聖餐を設けられました。第2に、主は、最も大切な原則である愛を教える教義を特に強調して、こう教えられました。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」<sup>3</sup> 第3に、キリストの執り成しまたは指示により、もう一人の慰め主として「使徒たちに聖霊が与えられると約束され」ました。<sup>4</sup>

救い主はそれから贖罪を成し遂げられました。主は「人類の罪」と「サタンが加えることのできる……恐怖」を引き受けられたのです。<sup>5</sup> その過程で、不当に仕組





まれた裁判と、十字架に先立つ、恐ろしく痛ましい出来事を耐えられました。これはイースターの朝にキリストの勝利の復活でクライマックスを迎えます。キリストは救い主、贖い主として神聖な使命を果たされました。わたしたちは死から復活し、霊と肉体は再び結合します。個人のふさわしさに応じて、主の恵みにより、神のみもとに戻るといふ輝かしい機会を得ることができます。<sup>6</sup>

預言者ジョセフ・スミスは、イースターの出来事について次のように言っています。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証<sup>あかし</sup>です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」<sup>7</sup>

わたしたちはゲツセマネとカルバリの比類ない意義を喜ぶとともに、復活された主にいつも心を傾けてきました。イングランドの神学者および信仰者であるフレデリック・ファーラーは、原始キリスト教会の初期の信者たちは「よみがえった、永遠の、栄光を受けられたキリスト」である救い主を賛美し、「十字架上の主ではなく、王座に着かれた主を思っていた」<sup>8</sup>と証しています。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、「主は生きておられる！」という言葉こそ、世界に対するわたしたちのメッセージであると教えました。末日聖徒にとってキリストの象徴とは、わたしたちの言葉や行いに

表れる信仰や、福音に従った生き方の中に見いだすことができるでしょう。<sup>9</sup>

今日<sup>こんにち</sup>キリスト教徒であるとは何を意味するかを深く考えながら、弟子の歩む道に求められるものについて考えてください。主が地上での最後の2日間に行われたことを深く考え、その模範に適切な方法で従うことを勧めます。

第1に、救い主が聖餐を教えられたことについてよく考えてください。救い主は御自分の身に起ころうとしていることを御存じでした。前世における天の戦いに始まった救い主の聖なる贖いの使命は、その日の夕べとその翌日に果たされようとしていました。敵対者による裁判が目前に迫っていましたが、偽りの告発に対して主が御自分の身を守る備えをしておられたという証拠はまったくありません。それどころか救い主は弟子たちに神聖な聖餐の儀式を教えられました。その神聖な場面について考えるとわたしは深く感動します。聖餐会は教会のすべての集会の中で最も神聖な集会です。復活された後、救い主はニーファイ人にも聖餐を教えられました。<sup>10</sup> 救い主の弟子となり、主の教会の忠実な会員になりたければ、聖餐を覚え、尊ばなければなりません。この儀式により、救い主に従い、悔い改めてキリストの贖いを通じて聖徒となる意志があることを、各自が打ち砕かれた心と悔いる霊をもって示せます。<sup>11</sup> 聖餐によって、バプテスマのときに交わした聖約を更新し、御子を覚え、御子の戒めを守る意志があることを神に証明できます。<sup>12</sup> これにより御父と御

子へのわたしたちの愛と感謝は増します。

救い主は愛と一致を強調し、互いに愛し合うならば主の弟子であると認められるであろうと明言されました。永遠を決する贖罪に主がまさに臨もうとしておられたときに、この戒めに従うことがわたしたちに求められたのです。神の戒めを守り、神の子供たちに仕えるときに神に愛を示すことができます。わたしたちは贖いを十分に理解することはできませんが、たとえ逆境に直面しても、もっと愛し、親切であろうと努めながら生きることはできます。

救い主が弟子たちに互いに愛し合うように命じられたこと、しかもこの原則を最後の晩餐のときに劇的に力強く教えられたことは、主の現世での最後の数日の中で最も胸を打つ、美しい出来事の一つです。

主は単に倫理を教えておられたのではありません。このとき、神の御子は、使徒たちと彼らに続くすべての弟子たちに、御自身の最も大切な教えを覚え、従うように訴えかけておられたのです。互いへの接し方は、イエス・キリストにどの程度進んで従おうとしているかの尺度です。

この大会のメッセージを聞きながら、わたしたちは心を動かされ、より善い行いをしようという決意を固めるでしょう。しかし月曜の朝に、職場や学校や隣近所など、多くの場合混乱している世界に戻ります。この世の多くの人は、互いを恐れたり、怒ったりしています。わたしたちはそのような感情を理解する一方で、礼儀正しく話し、敬意をもって交わる必要があります。意見の相違があるときは特にそうです。救い主は敵をも愛せと教えられました。<sup>13</sup> 大多数の会員がその勧告に心を留めています。しかし、怒りや主張を吐き出す方が、イエス・キリストが模範を通して教えられたように振る舞うことよりも大切だと感じている人がいます。皆さん一人一人に勧めます。意見の違いをどう扱うかは、わたしたちが何者であるか、救い主の真の弟子であるかどうかのほんとうの尺度で

す。意見が違うのは差し支えありませんが、不愉快な人になるのはよくありません。暴力行為は、意見の違いを解決する方法ではありません。反対に遭いながらも愛と敬意を示すなら、わたしたちはさらにイエス・キリストのようになるでしょう。

救い主が使徒に聖霊を受けると約束されたことは、聖霊すなわち神会の第三の御方の卓越した役割を認めることであり、この上なく重要な意味があります。聖霊は霊の御方、慰め主であり、御父と御子について証し、すべてのことの真理を明らかにし、悔い改めてバプテスマを受けた者を聖別して下さいます。また約束の聖なる

御霊みたまとも呼ばれ、わたしたち一人一人の義にかなった行い、儀式、聖約を神に受け入れられるものとして確認してくださいませ。<sup>14</sup> 約束の聖なる御霊により結び固められた人々は、御父のすべてのものを受けませ。<sup>15</sup>

わたしたちが生きているこの争い好きの騒がしい世界では、目覚めている時間はいつでも、情報や音楽やまったく無意味なものを見たり聞いたりすることが可能です。聖霊から靈感を得たいと思うなら、落ち着ける時間を見つけ、熟考し、祈る必要があります。また聖霊の促しを受け、それを基に行動できるふさわしさを身に付

けなければなりません。聖霊の警告に注意を向ければ大きな過ちを避けることができます。真昼となるまで聖霊から光と知識を受けることは、会員であるわたしたちの特権です。<sup>16</sup>

ゲツセマネと十字架で救い主が贖いの試練に立ち向かわれたのは、わたしたちにとって偉大な模範です。救い主は人知を超えた精神的、肉体的、霊的な苦難に直面されました。ゲツセマネの園で、主は御父に次のように祈られました。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯さかずきをわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。」<sup>17</sup> 救い主の弟子であるわたしたちは、時として、試され、不当に迫害され、あざけられ、耐えられそうもないほどの物質的、霊的な嵐あらしにさらされ、過ぎ去らせてほしいと祈るほどの苦い杯を味わうかもしれません。人生の嵐を免れる人は一人もいません。

わたしたちは救い主の再臨に備えています。聖文は、それがいつ起こるかだれも知らないと言明しています。聖文は、末日にわたしたちが飲む苦い杯の中には、「あちこちに〔ある〕地震」<sup>18</sup> や、「その境を越えて打ち上げる海の波」<sup>19</sup> があることを、はっきり伝えています。

破壊的な地震と津波が、最近、チリ、ハイチ、太平洋の島々など、あちこちで起きています。数週間前に、H・デビッド・バートン管理ビショップとタッド・R・カリスト長老とわたしは、昨年9月にサモア東部を襲った津波で家族を失った聖徒たちと会う機会を得ました。礼拝堂は満員で、感動的な集会になりました。イエス・キリストの贖いのおかげで、亡くなった愛する人たちと再会できることを、参加した素晴らしい会員たちに約束することができました。

ステーキ会長のソニー・パーセル兄弟は、運転中に沖合から巨大な波が近づいて来るのを見ました。クラクションを鳴らし、学校へ向かって歩いていた子供たち





者トーマス・S・モンソン大管長の教えを忠実に守ることで。大管長は救い主に従う素晴らしい模範です。

この輝かしい復活祭の朝、わたしは、回復における忠実な僕であるエライザ・R・スノーが書いた大切な言葉に思いをさせます。

#### 救いの計画

いかに尊し  
憐れみと愛の  
神の恵み！<sup>21</sup>

わたしはイエス・キリストが生きておられ、世の救い主、贖い主であられることを使徒として証します。イエス・キリストは真の幸福に通じる道を準備してくださいました。このことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

#### 注

1. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』576
2. ルカ 22：19
3. ヨハネ 13：34 - 35 参照
4. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』585。ヨハネ 14：16 - 17 も参照
5. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』594 - 595
6. 2 ニーファイ 9：6 - 24 参照
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』49。教義と聖約 20：22 - 25 も参照
8. フレデリック・W・ファーラー、*The Life of Lives — Further Studies in the Life of Christ* (1900年)、209
9. ゴードン・B・ヒンクレイ「栄えあるイースターの朝に」『聖徒の道』1996年7月号、74 - 77；「わたしたちの信仰の象徴」『リアホナ』2005年4月号、2 - 6 参照
10. 3 ニーファイ 18：1 - 11 参照
11. モーサヤ 3：19 参照
12. モーサヤ 18：8 - 10；教義と聖約 20：37、77 - 79 参照
13. マタイ 5：44 参照
14. 教義と聖約 132：7 参照
15. ローマ 8：16 - 17；エペソ 1：13 - 14；教義と聖約 76：51 - 60 参照
16. 教義と聖約 50：24 参照
17. マタイ 26：39
18. マタイ 24：7；ジョセフ・スミス—マタイ 1：29
19. 教義と聖約 88：90
20. 教義と聖約 110 章参照
21. 「高きに満ちたる」『賛美歌』112 番

を止め、安全な高台にできるかぎり速く逃げるよう警告しました。子供たちは指示に従いました。彼は死に物狂いで車を走らせ、4歳になる娘のもとに着くと車に乗せ、それから母親のもとに向かおうとしました。母親のところへ着く前に車が大波にとらえられ、100ヤード(91メートル)以上引きずられて木に引っかかりました。パーセル兄弟は急いで娘を車の屋根に上げて安全を確保し、泳いで母親を助けに行きました。母親は家の近くの木の枝にしがみついていた。母親と一緒に、安全を求めて車まで必死に泳ぎました。運悪く、安全な高台にたどり着く時間がなかった人も大勢いました。多くの人、特に小さな子供と老人が命を失いました。

わたしたちはサモアの家族の皆さんに世界中の会員が彼らに愛と関心を示し、彼らのために祈り、断食献金や人道支援活動を通じてサモアの会員とその隣人を助けようとしていることを伝えました。チリヤハイチの会員とその隣人たちについても同じことをしています。そのようにするのは、わたしたちがイエス・キリストに従う者だからです。

サモアの家族の皆さんと会っていたとき、霊的な意味で高台に上り、生活を改善し、救いの儀式にしっかりつかまることがの重要性が、非常に明確に理解できました。救い主の模範と生涯は、この世のものが支配する低い地にある道を霊的に避ける

ように教えてくれます。集会後に会員たちと握手をしていると、ある姉妹が話してきました。まだ家族で神殿に行っていないのに、娘を失ってしまったそうです。涙ながらに「わたしたちの今の目標は、家族が永遠に一緒にいられるように、神殿の神聖な儀式を受ける準備をすることです」と言いました。

この姉妹の言葉や世界の現状について深く考えていると、神殿という高台、避難所、永遠の堤防を求めるように、今すぐ一人一人に勧めなければならないと感じました。

カートランド神殿の奉献から1週間後、復活祭の日曜日に当たる1836年4月3日に、十二使徒は会員たちに、主の晩餐の聖餐を配る儀式を執り行いました。集会が終わり厳粛に無言で祈った後に、救い主が栄光のうちに預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れ、家族を永遠につなぐ神聖な結び固めの力を含む、さらなる神権の鍵がモーセ、エライアス、エリヤを通じて回復されました。<sup>20</sup>

今日この復活祭の朝に、救い主がしてくださったすべてを喜びましょう。救い主のおかげで、一人一人が救いと昇栄を得られるようになりました。しかしわたしたちはサモアの子供たちのように、主が安全と平安のために備えてくださった高台にできるだけ速く駆け上げなければなりません。

そのための一つの方法は、生ける預言





トーマス・S・モンソン大管長

# 主はよみがえりぬ

最初の復活祭の朝、空になった墓は、「人がもし死ねば、また生きるでしょうか」と尋ねたヨブの疑問の答えとなりました。

**実**にすばらしい部会となりました。話や音楽に携わってくれたすべての人に対し、教会の大管長として、この場を借りて純粋に二つの言葉を送ることにします。英語で最も大切な二つの言葉です。チェリル・ラント姉妹とその顧問、聖歌隊、音楽家、話者の皆さんに伝えたいのは、「Thank you (ありがとう)」という言葉です。

何年も前、イングランドのロンドンに滞在中に、わたしは名高い美術館であるテートギャラリーを訪れました。ゲーンズバラ、レンブラント、カンスタブルなど有名な画家の作品がどの部屋にも展示されていました。わたしは絵画の美しさに感動し、これらの傑作を生み出すだけの見事な腕前をつぶさに見ていました。しかし、3階の静かな一隅にひっそりと掛かっているある作品を見たとき、わたしは注意を引かれたばかりか、心を奪われました。それは、画家フランク・ブラムリーの描いた、風の吹きすさぶ海を前にした粗末な小屋の絵でした。帰らぬ漁師の母親と妻の二人は、夜を徹して海を見詰め、漁師の帰りを待ちました。そして夜が明け、待っていた人が海にのまれて帰らぬ人になったことを悟ります。年若い妻は傍らにひざを突き、老いた義母のひざに顔をうずめて絶望の涙を流しています。窓辺の燃え尽きたろうそくは、帰らぬ人を待って一睡もせずに過ごした夜を物語っています。

わたしには、その若い女性の心の痛み

がよく分かりました。彼女の悲しみが伝わってきました。画家がこの絵に付けたことさら生々しい題が、悲劇を物語っていました。絵の題名は、「望みなき夜明け」でした。

この若い女性は、ロバート・ルイス・ステューブンスンの「レクイエム」の言葉を、慰めとして、また現実として、どれほど望んだことでしょうか。

「船乗りは家に、  
かの海原から帰り来る。  
狩人もまた、  
かの山から家に帰り来る。」<sup>1</sup>

この世の人生のあらゆる事実のうち、やがて終わりが訪れる、ということほどはっきりしているものはありません。死はすべての人に訪れます。それは、「わたしたちが生まれながらに受け継いだもので

す。人は幼いときにも青年のときにも、あるいはまた円熟し切ったときにも死の犠牲になることがあります。また頭に霜を頂く老年に及ぶまでその招きを受けない者もいます。ある者は事故によって、ある者は病によって、……またある者は……自然老衰によって死んでいきます。しかし、……人は必ず死ななければなりません。」<sup>2</sup>死はつらい別れを意味します。特に若い人の場合は、夢は実現せず、志は果たされず、望みはついえるのです。

愛する人の死、または、自分自身の人生の終焉しゆうえんを前にして、見えるものと見えないものとを隔てる幕の向こうに何があるのかを考えたことのない人がかつていたのでしょうか。

何世紀も昔、ヨブという人はあらゆる物質的な恵みを受けていましたが、後に人が受けるあらゆる艱難かんなんを一身に受けました。そして、友と並んで座りながら、時を超えた人類普遍の質問をしたのです。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」<sup>3</sup>ヨブが口にしたのは、この世に生きる男性女性のだれもが考えたことのある疑問です。

この栄えある復活祭の朝、わたしはヨブのこの質問について考えます。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」そして、わたしが十分に考えた事柄みことばだけでなく、啓示された神の御言葉から答えましょう。要点から始めます。

わたしたちが住むこの世界が計画され



たものならば、計画を立てた方がいるはず  
です。この宇宙にある数多くの驚異を目  
撃しながら、全人類のための計画がある  
ことを信じていない人がいるでしょうか。計画  
を立てられた御方の存在を疑うことので  
きる人がいるでしょうか。

創世記を読むと、偉大なる計画者が天  
と地を造られたことが分かります。「地は  
形なく、むなしく、やみが淵のおもてに」あ  
りました。

偉大なる計画者が「光あれ」と言われ  
ると、「光があ[りました]。」計画者は大  
空を造られました。陸と海とを分けて、言  
われました。「地は青草と、……種類に  
したがって種のある実を結ぶ果樹とを地  
の上にはえさせよ。」

この御方は二つの光をお造りになりまし  
た。太陽と月です。この御方の計画で星  
も現れました。水の中には生き物を、地  
の上には鳥が空を飛ぶように言われると、そ  
のとおりになりました。家畜と獣、這うも  
のをお造りになりました。計画は完成に  
近づきました。

最後に、この御方は御自分の形に人を  
創造されました。男と女とに創造され、す  
べての生き物を治めさせられました。<sup>4</sup>

人にだけ、英知、つまり頭脳、思い、心  
が与えられました。これらの属性によっ  
て、人のみが信仰と望み、靈感と志を持  
てようになったのです。

偉大なる計画者の最高傑作であり、す  
べての生き物を治め、頭脳と意志を有し、思  
考力と感情を持ち、英知と神性を備えた  
存在、すなわち人間が、霊が地上の幕屋を  
離れることで終わりを迎える、などと説  
得力をもって主張できる人がいるでしょうか。

死の意味を理解するには、人生の目的  
を理解しなければなりません。信仰に頼  
るだけのかすかな光は、啓示がもたらす  
真昼の太陽の光のような確信へと変わっ  
ていく必要があります。わたしたちはその  
啓示によって、人がこの世に生まれ出る前  
から存在していたことを知っています。前  
世において、わたしたちは確かに、現世に

来る機会が与えられたことを知って喜び  
呼ばわった神の息子や娘の中にいました。  
現世での生活は、困難でありながらも、欠  
かすことのできないものでした。<sup>5</sup> 自分た  
ちの目的が肉体を得て試練を克服し、神  
の戒めを守ることを証明することだと知っ  
ていました。御父は、現世の性質上、人  
が誘惑を受け、罪を犯し、完全の域に達し  
ないであろうことを御存じでした。そこ  
で、目的を達成できるように、わたしたち  
のために苦しみを受け、命をささげてくだ  
さる救い主を備えられました。アダムの墮  
落の結果、人の肉体は死すべきものとな  
りましたが、救い主はわたしたちの罪あがな  
われたばかりでなく、贖いの一部として肉体  
の死をも克服してくださいました。

こうして、2,000年以上も前に、救い主キ  
リストは、死すべき人間としてベツレヘムの  
馬屋でお生まれになりました。昔から預言  
されていたメシヤが降誕されたのです。

イエスの少年時代に関する記録はほと  
んど残っていません。わたしはルカの福  
音書にある次の一節が好きです。「イエ  
スはますます知恵が加わり、背たけも伸  
び、そして神と人から愛された。」<sup>6</sup> また、  
使徒行伝には、救い主についての短くとも  
意義深い言葉が記されています。「よい  
働きをしながら、……巡回されました。」<sup>7</sup>

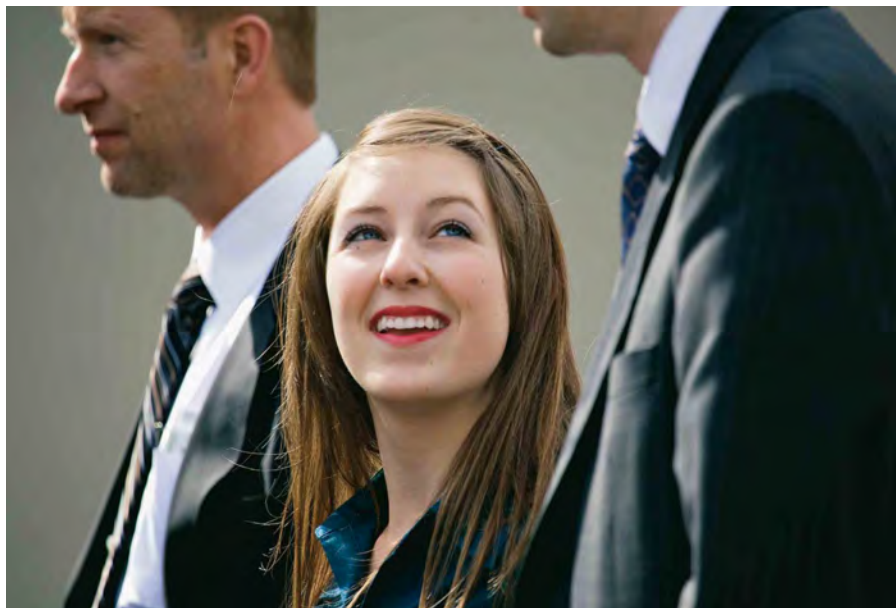
イエスはヨルダン川でヨハネからバプテ  
スマをお受けになりました。十二使徒を召

し、病人を祝福し、歩けない人を歩けるよ  
うにし、目の見えない人を見えるようにし、  
耳の聞こえない人を聞こえるようにされま  
した。また、死者をよみがえらせることす  
らなさいました。イエスは、教え、証し、  
わたしたちが従うべき完全な模範を示して  
くださいました。

そして世の救い主の地上における使命  
は終わりに近づきました。最後の晩餐が、  
十二使徒を交えて、2階の部屋で開かれま  
した。前途にはゲツセマネとカルバリの  
十字架が待ち受けていました。

死すべき人間には、キリストがゲツセマ  
ネでわたしたちのためにしてくださったこ  
との大切さを十分に理解することはでき  
ません。イエス御自身がその経験につい  
て後にこう語っておられます。「その苦し  
みは、神であって、しかもすべての中で最  
も大なる者であるわたし自身が、苦痛の  
ためにおののき、あらゆる毛穴から血を流  
し、体と霊の両方に苦しみを受けたほど  
のものであった。」<sup>8</sup>

ゲツセマネの苦悶もんに続き、今や、力を使  
い果たされたイエスは、荒々しく乱暴な手  
でつかまれ、アンナス、カヤパ、ピラト、そ  
してヘロデの前に引き回されました。非難  
され、ののしられました。何度も激しくた  
たかれ、痛みにあえぐイエスの体はさらに  
衰弱しました。鋭いばらで作ったおぞま  
しい冠が頭に押しつけられ、額を突き刺し



たとき、イエスの顔を血が滴り落ちました。そして、再び、イエスはピラトのもとに引き連れて行かれました。ピラトは怒りに狂う群衆の「十字架につけよ、彼を十字架につけよ」<sup>9</sup> という叫びに屈しました。

イエスは鞭打たれました。鞭はとがった金属や骨を付けた何本もの皮ひもできていました。残酷な鞭打ちが終わると立ち上がり、よろめきながらも御自分で十字架を運ばれました。とうとうこれ以上先にはお進みになれなくなると、別の者が代わりに十字架を背負いました。

ついに、カルバリと呼ばれた丘の上で、無力な弟子たちが見守る中、イエスの傷ついた体は十字架に釘で打ちつけられました。無慈悲にも、イエスは嘲笑され、ののしられ、あざけられました。それでもなおイエスはこう叫ばれたのです。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」<sup>10</sup>

苦悶の時間が過ぎ去り、イエスは死を目前にしておられました。イエスは乾き切った唇でこう言われました。「『父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。』こう言ってついに息を引きとられた。」<sup>11</sup>

慈悲深い死の静けさと慰めがイエスを死すべき人間の悲しみから解放しました。イエスは御父のみもとに戻られたのです。

最後の瞬間に、主は後戻りすることもおできになったのです。でも、そうはされませんでした。すべてのものを救うために、すべてのものの下に身を落とされました。イエスのなきがらは急いで、しかし静かに借り物の墓に葬られました。

クリスチャンが手にしている聖典の中で、涙を流すマグダラのマリヤとほかのマリヤに天使が告げた言葉ほど大きな意味を持つ言葉はありません。週の初めの日、二人は主の遺体に香料を塗るため墓へ向かうと天使はこう告げました。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」<sup>12</sup>



救い主は生き返られました。人類の歴史の中で、最も輝かしく、慰めとなり、安らぎを与える出来事が起きました。主が死に打ち勝たれたのです。ゲツセマネとカルバリの苦痛と苦しみはぬぐい去られていました。人類の救いが確実にになりました。アダムの墮落は贖われました。

最初の復活祭の朝、空になった墓は、「人がもし死ねば、また生きるでしょうか」と尋ねたヨブの疑問の答えとなりました。わたしの声の届く限りにいるすべての人に宣言します。人がもし死ねば、また生きるのです。啓示によって与えられた真理の光があるので、わたしたちはそのことを知っています。「それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」<sup>13</sup>

わたしは、キリストの十字架上の死の悲しみと復活の喜びを経験した人々の証を読み、そして信じています。復活された主の訪れを受けた新世界の人々の証を読み、

そして信じています。

現在の神権時代に、今や聖なる森と呼ばれている場所で御父と御子と言葉を交わし、自らの血をもって自分の証を確実なものとした人の証を信じています。彼はこう宣言しました。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であられる。』」<sup>14</sup>

死の暗黒は、明らかにされた真理の光によって必ず追い払われます。「わたしはよみがえりであり、命である」<sup>15</sup> と主は言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。」<sup>16</sup>

わたしは長年にわたって、復活が真実であることや、救い主が約束された平安と慰めを、最も必要なときに受けた会員の数え切れないほどの証を聞き、そして読んできました。



そのような話を一部分紹介しましょう。2週間前に、7人の子供を持つある父親から感動的な手紙を受け取りました。彼は自分の家族について、特に11歳のときに発病した息子のジェーソンについて書いています。発病してから数年間、ジェーソンの病気は何度か再発しました。手紙には、健康上の問題を抱えながらも、積極的に明るい息子のことが書かれていました。ジェーソンは12歳でアロン神権を受け、「気分がよいときも、そうでないときも、いつでも喜んで最善を尽くし、自分の責任を大なるものとしていました。」14歳のときにはイーグルスカウト章を受けました。

昨年の夏、15歳の誕生日を迎えて間もなく、ジェーソンは再び入院しました。ある日見舞いに訪れると、ジェーソンは目を閉じていました。眠っているのか起きているのか分かりませんが、父親はジェーソンにそっと話し始めました。「ジェーソン、これまでの短い人生の中でたくさん耐えてきたね。今度は大変そうだね。大きな闘いを目の前にしているけれど、イエス・キリストへの信仰は絶対に失ってほしくない。」驚いたことに、ジェーソンはその途端、目を開くと、はっきりとした、決意を込めた声で「絶対に失わないよ」と言ったそうです。ジェーソンは再び目を閉じ、その後は話すことはありませんでした。父親はこう書いています。「ジェーソンはこの短い言葉によって、わたしがかつて聞いたことのないほど力強く、純粋なイエス・キリストに対する証を述べました。……その日、『絶対に失わない』と言った息子の言葉がわたしの心に刻み込まれたとき、天の御父がわたし

に、これほどすばらしく、気高い少年の父親になる祝福を与えてくださったのだという喜びが心にあふれてきました。……それが息子から聞いた、キリストに対する最後の証でした。」

家族は今回もいつもと変わらない入院だと考えていましたが、ジェーソンはそれから2週間もたたないうちに息を引き取りました。当時、兄と姉は伝道に出ていました。もう一人の兄カイルは伝道の召しを受け取ったばかりでした。実際、召しは予想よりも早く届きました。そこで家族はジェーソンが他界する1週間前の8月5日に病室に集まり、カイルの伝道の召しの封筒を開き、家族全員で通知を読みました。

この父親の手紙には、伝道の召しを手にして傍らに立つ兄のカイルと、病院のベッドに横たわるジェーソンの写真が添えられていました。写真の下にはこう記されていました。「一緒に伝道に召されました。とぼりの両側で。」

すでに伝道地にいたジェーソンの兄と姉からは美しい慰めの手紙が届き、ジェーソンの葬儀で読み上げられました。アルゼンチン・ブエノスアイレス西伝道部で奉仕していた姉は次のように書いています。「わたしはイエス・キリストが生きておられることを知っています。主が生きておられるので、わたしたちは皆、そして愛するジェーソンも、再び生きるのです。……わたしたちは永遠の家族として結び固められているという確かな知識に慰めを得ることができます。……わたしたちがこの世で精いっぱい従順で、より良い行いをするなら、わたしたちは〔また弟に〕会えま

す。」さらにこう書いています。「わたしが長い間好きだった聖句は今や新しい意味と重要性を持つようになりました。……それは黙示録21章4節です。神は『人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである。』」

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはたとえこの上なく深い悲しみにあっても、最初の復活祭の朝に天使が告げた言葉から深い平安を受けることができます。「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」<sup>17</sup>

主はよみがえりぬ

喜び告げよ

獄は破られ

自由は来たる

主は死を砕き

勝利を得たり<sup>18</sup>

地上における主の特別な証人の一人として、わたしはこの輝く復活祭の朝に、これが真実であることを、救い主イエス・キリストの聖なる御名によって宣言します。アーメン。■

#### 注

1. ロバート・ルイス・ステイブンソン, "Requiem," *An Anthology of Modern Verse*, A・メジューン編 (1921年), 208
2. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』19 参照
3. ヨブ 14: 14
4. 創世 1: 1 - 27 参照
5. ヨブ 38: 7 参照
6. ルカ 2: 52
7. 使徒 10: 38
8. 教義と聖約 19: 18
9. ルカ 23: 21
10. ルカ 23: 34
11. ルカ 23: 46
12. ルカ 24: 5 - 6
13. 1コリント 15: 21 - 22
14. 教義と聖約 76: 22 - 23
15. ヨハネ 11: 25
16. ヨハネ 14: 27
17. マタイ 28: 6
18. 『主はよみがえりぬ』『賛美歌』114 番



十二使徒定員会  
ラッセル・M・ネルソン長老

# 先祖と 愛によって結ばれる

わたしたちは神殿の聖なる儀式を通して先祖と結ばれるときに、  
家族との結びつきを求める生来の切なる思いが満たされます。

**復** 活祭やクリスマスの時期に愛する友人や親戚から手紙を受け取ると、思い出がよみがえってきます。家族の写真が添えられているとそのメッセージはあっそう豊かなものとなります。その中でわたしが思わず見入ったのがこれです。

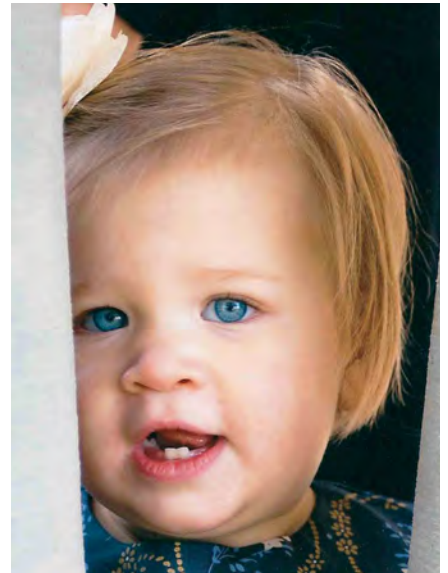
これはひ孫の写真です。彼女を「いとしいルビー」と呼ぶことにします。この写真から、彼女の母親が同じ年齢だったころのことを思い出しました。アルバムから「いとしいルビー」の母親、つまりわたしの孫娘の写真を見つけました。

わたしが撮影した「いとしいルビー」の母親の写真は29年ほど昔のものです。彼女は今もこのように青い目をしています。

半世紀前の楽しい思い出が浮かんできました。「いとしいルビー」の祖母つまりわたしの娘が我が家に新しく加わったときでした。これが赤ん坊のときの娘の写真です。今や彼女は優しい祖母となり、わたしは「いとしいルビー」の曾祖父です。（わたしの赤ん坊のころの写真はつまらないものなのでお見せしません。）これらの写真はわたしたち4世代が愛によって結ばれていることを表しています。

家族の一人一人に感じている愛について考えると、天の御父が子供たちに対して抱いておられる愛がいかに深いかおぼろげながら分かります。子供たちの永遠の行く末について創造主が作られた計画において、中心を成しているのは家族です。世界中で家族が攻撃にさらされている今、末日聖徒イエス・キリスト教会はこの真理を宣言し、広め、擁護しています。「家族——世界への宣言」と膨大な家族歴史活動は、この教会が家族という神聖な制度に希望と支援を与えている数々の証拠の中のわずか二つにすぎません。

わたしたちは子供たちに対する神の愛が無限であると教えています。人種、国籍、性別を問わず、神はすべての人を愛しておられます。<sup>1</sup> 神は初めからそしてこれからもずっと全人類を愛してくださいます。神は家族が永遠の昇栄を得るよう万人を招いておられます。子供たちの不死不滅と永遠の命すなわち昇栄をもたらすことが神の業であり、栄光です。<sup>2</sup> 「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」<sup>3</sup>



「いとしいルビー」ネルソン長老のひ孫



「いとしいルビー」の母、ネルソン長老の孫娘



「いとしいルビー」の祖母、ネルソン長老の娘



神殿儀式カード

御子の贖罪しよぐさいによって、御父の目的は二つとも成就します。贖罪なしに不死不滅みみはありません。贖罪がなければ、御父の御前まへに戻ることも、家族が死を超えて続くこともありません。

神の永遠の律法に従う神の子供たち一人一人にこれらの完全な祝福が実現するのは、贖罪のおかげです。有史以来、神の多くの子供たちは福音の祝福にあずかってきましたが、それ以上に多くの子供たちにはその機会がありませんでした。天の御父は創世の前から、福音の知識なしに世を去った人々のためにバプテスマの儀式を定めておられました。<sup>4</sup> 御父はこの子供たちも愛しておられるからです。

御父は彼らが永遠の家族の一員となる

ための方法も用意されました。この地上に来るすべての人は脈々と続く先祖の子孫として誕生します。わたしたちは生来、先祖との結びつきを求める気持ちを持っています。この願望は年齢にかかわらず人の心に宿っています。

祖母が家族の情報をコンピューターに入力するのを若い女性が助けたとき、あるいは若い男性が国勢調査記録から曾祖父の名前を見つかる時に築かれる霊的な結びつきについて考えてください。心を先祖に向けるとき、わたしたちの内部に何かの変化が起きます。自分より偉大な何かの一部を感じます。わたしたちは神殿の聖なる儀式を通して先祖と結ばれるときに、家族との結びつきを求める生来の

切なる思いが満たされます。

この業が大切であるからこそ、教会は神殿を人々に近い場所に建設してきました。<sup>5</sup> そして、家族歴史の探究はかつてなく容易になっています。神殿の儀式のために人名を見つけ、準備する方法も改善されています。2005年10月の総大会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は家族歴史と神殿活動がすばらしい段階に移行することを発表し、こう語りました。「地上の各地に次々に神殿が建設されるにつれ、神殿活動を進めるうえで困難な側面が幾つか現れてきています。……同一人物に儀式が重複して施されるという問題があります。……このため、時に系図の探求には非常に難しい要素がからんできます。……コンピューター技術に問題の解決を求めているところです。」<sup>6</sup>

それ以降、重複が減っただけでなく、手続きが易しくなり、ほぼすべての教会員が神殿・家族歴史活動に参加できるようになっています。この神聖な業が専門家にはできなかった時代は終わりました。どのような状況に置かれていても、今すぐ家族歴史を生活の一部にすることができます。初等協会の子供は家系図を家族の木に描くことができます。青少年は身代わりのバプテスマに参加することができます。また、コンピューターを使って年配の人が作業するのを手伝うことができます。親は自分の生涯の出来事を子孫に話すことができます。ふさわしい成人会員は神殿推薦状を持ち、親族のために神殿の儀式を執り行うことができます。

預言者ジョセフ・スミスはこのように語りました。「わたしたちがこの世で神から受けている最も大きな責任は、死者を探し求めることです。」<sup>7</sup> 新しい科学技術によって、この責任は果たしやすくなりました。神殿・家族歴史活動は「新しいファミリーサーチ」(New FamilySearch)<sup>8</sup> と呼ばれるシステムによって容易になっています。会員たちはインターネットを介するこのシステムを使って、先祖を見つけ、彼

らのためにどの儀式を執行する必要があるかを判断し、神殿の儀式のために名前を準備することができます。家庭や家族歴史センター<sup>9</sup>から、あるいはインターネットを使用できればどこからでもアクセスできます。手順は簡単です。<sup>10</sup>

最初に神殿の業を施したいと思う個人を特定します。

次に「家族の儀式の要請書」を印刷します。この書類によって、神殿で必要な情報を提供するため、提出者はフロッピーディスク等を神殿に持って行く必要がなくなります。

神殿では「家族の儀式の要請書」から儀式カードを印刷します。儀式が執行されたら、その日のうちに「新しいファミリーサーチ」に記録し入力します。

ところで、コンピューターを利用できない人やこの科学技術を使いたくない人はどうなるのでしょうか。心配は要りません。順を追って進めましょう。まずは家庭からです。ボイド・K・バッカー会長の提案<sup>11</sup>に従って空のダンボール箱を一つ用意することから始めます。あなたと家族に関する大切な情報を箱に入れます。家族から集めた資料も箱に入れます。次に、ワードか支部の家族歴史相談員に支援を求めます。「新しいファミリーサーチ」システムでは、必要なすべてのコンピューター操作をあなたに代わって相談員が行えます。神殿の儀式のために名前を準備することもこれに含まれます。相談員は全世界に約6万人います。ワードか支部の相談員が親身になって助けてくれることでしょう。

「新しいファミリーサーチ」システムは、一つの共通の系図作成を促進することによって、家族歴史活動の手順を変更しました。以前は、個人がそれぞれに作業して、自分の家族の記録を持っていました。家族や親戚がしていることを知らずに取り組むことがしばしばありました。現在では、各自が情報を提供し、協力して家系図を作成できるようになっています。

「新しいファミリーサーチ」は大きな前



グアテマラ・グアテマラシティ神殿に参入する  
エルサルバドル・サンサルバドル・イロバンゴステークの聖徒たち。

進を遂げているとはいえ、一つの段階にすぎません。この先の作業があります。このシステムにより、長年にわたって多くの情報源を基に教会に提出された情報を簡単に利用できるようになったため、「新しいファミリーサーチ」では以前には分からなかった入力の重複や誤りを見つけ出すことができます。こうした特徴は初期の開拓者を先祖に持つ人には特に有益です。重複や誤りは正す必要がありますが、それは各自が自分の家族について行うのが最善の方法です。

これらの課題に取り組む過程で挫折感を覚えるかもしれません。あなたの心配は十分に理解しています。教会はトーマス・S・モンソン大管長の靈感あふれる指導の下で、これらの問題を解決できるよう支援するために絶えず努めています。わたしたちは神のすべての子供たちの家系図を作成するために力を合わせているのです。膨大な試みですが、計り知れない報いをもたらします。

これは楽しい業です。この写真には新しい改宗者が親族のために神殿活動を行っている様子が写っています。この聖徒たちはグアテマラ・シティ神殿に初めて参入するためにエルサルバドル・サンサルバドル・イロバンゴステークからやって来ました。彼らが手にしているのは神殿

カードです。彼らが身代わりのバプテスマを執行した、亡くなった親族の名前が記されています。

教会の家族歴史活動を成功させるためには、神権による指示と指導が欠かせません。指導者はこの神聖な業の根底にある教義を教え、証します。<sup>12</sup> 召しを与え、召された人が指導を受けられるようにします。<sup>13</sup> 神殿・家族歴史活動がワードの意識を高め、新しい改宗者の霊性を強め、すべての会員の生活に祝福をもたらす方法であると考えています。

神殿・家族歴史活動には幕のかなたの人々に祝福をもたらす力がありますが、生者にも同じ祝福をもたらす力があります。この活動に携わる人々を精錬する力です。彼らは文字どおり、先祖と家族を高く上げる助けをしているのです。

わたしたちは昇栄すると、先祖と家族とともに全能の神のみもとで暮らすことができます。預言者ジョセフ・スミスはわたしたちの義務を予見して次のように語りました。「まことに、主の大いなる日は近づいています。……わたしたちは教会として、また民として、また末日聖徒として、義をもってささげ物を主にささげましょう。また、主の聖なる神殿が完成するとき、わたしたちの死者の記録を載せた、そのまま受け入れるに値する書をそこにささげましょう。」<sup>14</sup>



記録を作るのは個人の責任であるとともに全体の責任でもあります。力を合わせて取り組むならば、主がそのまま受け入れてくださるに値する記録を作ることができます。その記録によって亡くなった先祖のために儀式を執行することができ、先祖は自らの選びによってその儀式を受け入れることができます。これらの儀式は幕のかなたで捕らわれている人に解放をもたらすことができるのです。<sup>15</sup>

子供たち、孫たち、「いとしいルビー」そしてすべてのひ孫たちは愛によって結ばれています。愛によって先祖とも結ばれてい

ます。神聖な儀式を通して結び合わされたこの結びつきは家族を昇栄へと導いてくれます。<sup>16</sup> わたしたち一人一人がこの聖なる目標を達成できますように、イエスキリストの御名によって祈ります、アーメン。■

#### 注

1. 1コリント12:13; ガラテヤ3:28; 2ニエファイ26:33 参照
2. モーセ1:39 参照
3. ヨハネ3:16
4. 教義と聖約124:33 参照
5. 近年トーマス・S・モンソン大管長は全世界の教会員の83パーセントが神殿から200マイル(320キロ)以内の場所に住んでいる、と

語った(「大会へようこそ」『リアホナ』2009年11月号, 4 参照)。

6. ゴードン・B・ヒンクレー「開会に当たり」『リアホナ』2005年11月号, 6
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』475
8. 現在は英語, スペイン語, ポルトガル語, フランス語, ドイツ語で利用できる。日本語, 中国語, 韓国語版は近日利用可能になる。
9. 全世界に4,000以上の家族歴史センターがある。
10. コンピューターを使用できる場合は, new.familysearch.org にアクセスする。初めて登録するには, 本人の会員記録番号と生年月日が必要である。所属するワードまたは支部の書記がこの情報を教えてくれる。サインインすると, 先祖の情報システム内に取められているかを確認し, 必要とされる神殿の儀式を調べることができる。また, その時点で知らない先祖を見つけて, 自分の家系図に加えることができる。さらに, 「家族の儀式の要請書」フォームを印刷して神殿に持って行くと, 必要な儀式を執行することができる。
11. ボイド・K・バッカー「あなたの家族歴史——始めること」『リアホナ』2003年8月号, 12-17 参照
12. ステーク会長会の指示の下で, 一人または複数の高等評議員が割り当てを受けて, ステークの神殿・家族歴史活動を監督する。ワードや支部レベルでは大祭司グループリーダーまたは長老定員会会長が指導する。家族歴史相談員と神権指導者がその義務を果たせるように, 印刷物とオンラインで多くの資料が用意されている。
13. 新しい資料として, 『神殿・家族歴史活動に関する会員のガイド』(アイテム番号36795 300)と『神殿・家族歴史活動に関する教師のガイド』(アイテム番号35804 300)および付属のDVDが利用できる。これらを手入手するには, オンライン(lds.org)でダウンロードするか閲覧するか, 教会配送センターに注文する。
14. 教義と聖約128:24
15. イザヤ61:1; ルカ4:18; 教義と聖約138:18, 31, 42 参照
16. 教義と聖約128:18 参照





十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ長老

# 神に対する わたしたちの義務—— 次の世代に対する 親と指導者の使命

若人が自分自身で福音を深く理解し信じるよう助けるのは、わたしたちの<sup>ひつす</sup>必須の務めです。

わたしは<sup>きょう</sup>今日、若人を導き若人に仕えるために召された親とすべての人を励ましたいと望んでいます。主はジョセフ・スミスに「これは……わたしたちが次の世代に対して、……ぜひとも果たすべき義務である」と啓示されました（教義と聖約 123:11）。

わたしは、父親として、また祖父として、若人に関するわたしの<sup>あかし</sup>神への務めは何だろうかと長年考えてきました。個人的な回想と証を通して、わたしが学んだことを少し紹介させてください。

親であれ指導者であれ、神への務めを果たす第一歩は、模範により導く、すなわち、家庭の中で常に熱心に、福音の原則に従って生活することです。それには毎日の決意と努力が必要です。

若人にとって、福音を実践する親を日常的に見ることは、何にも代えられません。2,000人の若い兵士は親の信じていることに疑問を持ちませんでした。彼らは自

ら述べたとおり「母たちがそれを知っていたことを疑いません」でした（アルマ 56:47-48 参照）。わたしたちの子供たちは、わたしたちが知っている事柄を知っているのでしょうか。

あるとき孫から、一緒に映画を見に行ってほしいと言われました。人気はあるものの、ふさわしくない映画でした。わたしは孫に「おじいちゃんはそれを見られるほど年を取っていないんだ」と言いました。孫は最初意味が分からない様子でしたが、わたしの妻から「おじいちゃんには年齢制限は当てはまらないのよ」と言われ、戻って来てこう言いました。「分かったよ、おじいちゃん。おじいちゃんはその映画を見られるほど年を取るつもりは絶対になんていうことだよ。」 そのとおりなのです！

模範によって道を示すことに加えて、わたしたちは若人の気持ちを理解し、福音の道とともに歩むことによって、彼らを導き

ます。彼らの気持ちを真に理解するには、同じ部屋にいたり、家族や教会の活動と一緒に参加したりする以上のことが必要です。彼らの思いと心に、深く、永続する印象を残せるような「教えるひととき」を計画し、うまく使わなければなりません。

例えば、教会の指導者は神権活動やスカウト活動、キャンプを定期的に計画しますが、それらの活動はその最も大切な目的をいつも達成しているのでしょうか。わたしが学んだのは、神権活動やスカウト活動が男の子にとって最も意義深くなるのは、単に達成章を手に入れるときではなく、その子とその子の人生について関心を寄せる指導者とともに座って話すときだということです。

同じように、母親と父親の皆さんは、学校や様々な活動に子供を連れて行く途中、その時間を使って、子供の希望や夢や恐れや喜びについて話し合っているのでしょうか。皆さんは時間を取って、子供たちにMP3プレーヤーやそのほかあらゆる装置のイヤホンを耳から外してもらい、子供たちが皆さんの言葉を聞き、皆さんの愛を感じることができるようになっていますか。年を重ねるごとに実感するのは、わたしの人生を形成し、今のわたしを作ってくれたのは、若いころの「教えるひととき」、特に両親が作ってくれたひとときだったということです。

子供の心を理解している親の影響力は、どれほど評価してもしすぎることはありません。若人は人生で最も大切な移行期にあり、教会を最も離れやすいのもこのころです。この時期の若人に最大の影響を与えるのは、ビショップやそのほかの指導者との面接ではなく、温かく、親切で、思いやりのある親との普段の交わりであることが、調査の結果分かっています。

それを考慮に入れて、わたしたちは食卓に着くとき、家族が全員そろっているのでしょうか。少年時代に、夕食の時間も野球を続ける許可を求めたことがあります。「食事はオープンに入れておいて」と母に



教会の成人会員は「成長するわたし」と「神への務め」の達成条件は単にチェック項目の長いリストではないことを理解すべきです。これらは、若い男性や若い女性一人一人が、神殿の儀式を受け、伝道し、永遠の結婚関係を結び、昇栄を得るにふさわしくなるために、自分で定めた目標です。しかし、理解してほしいのは、若い男性や若い女性が独りでそれを達成しようとするのは、大きな損失、あるいは悲劇と言えることなのです！

父親、母親、若人の指導者の皆さん、「成長するわたし」と「神への務め」に皆さんの子供や若人とともにぜひ取り組んでください。若人だけでなく、皆さんも成長するでしょう。同じく重要なことに、皆さんと若人は信仰と友情のきずなの中でともに成長し、互いに強め合い、福音の道にとこしえにとどまり、ほんとうに永遠の家族となることができるでしょう。

神に対する親の義務を果たすうえで一つ大切な事柄は、子供に福音を教え、回復された救い主の教会に完全に加わるよう備えさせることです。ベニヤミン王の民の教訓を思い出してください。王の教えを聞いて、大人の多くは心に大きな変化を生じました（モーサヤ5:2参照）。けれども、それからこのように記されています。「当時の若者の中には、ベニヤミン王が民に語ったときにまだ幼い子供であったために、彼の言葉を理解できなかった者が大勢いた。彼らは、自分たちの先祖の言い伝えを信じなかった。……そして、彼らの心はかたくなであった。」（モーサヤ26:1, 3）

若人が自分自身で福音を深く理解し信じるよう助けるのは、わたしたちにとって**必須の務め**です。光の中を歩むよう教えることはできますが、その光は借りることができません。彼らはそれを自分で得なければなりません。祈りと学習と熟考を通じて、若人は霊的な光の源である神御自身から直接、自分自身の証の光を得なければなりません。自分が何者であり、

言う、「ロバート、お母さんはあなたに、少し休んで、家に帰って来て、家族と一緒に食事をしてほしいの。そうしたら、暗くなるまで野球をしてもいいわ」と言われました。母は家族全員に、家族で食事をするときに、心に栄養を与えてくれるのは食べ物ではなく、家族の交流であることを教えてくれました。母は、最も大きな愛を与える場所は家庭であると教えてくれました。

わたしたちが若人と交流して真に彼らの心に触れるには、信頼する成人の同僚や親しい友人に向けるのと同じような関心を若人に向けなければなりません。最も大切なのは、質問をして、彼らに話してもらい、それから喜んで聞く、そうです、聞いて、もっと聞いて、霊の耳を傾けるようにして聞くことです！数年前に、わたしが新聞を読んでいると、幼い孫が横にびたりくっついて座りました。わたしは読みながら、ぺちゃくちゃと何か言い続けるかわいい声を楽しんでいました。驚いたことに、しばらくすると、孫はわたしと新聞の間に強引に入って来たのです。そして、両手でわたしの顔を挟み、鼻をわたしの鼻に押し

付けて、「おじいちゃん、ほんとうにそこにいるの?」と言いました。

お父さん、お母さん、そこにいますか。おじいさん、おばあさん、そこにいますか。そこにいるとは、若人の気持ちを理解し、若人とつながるという意味です。若人とつながるとは、単に言葉を交わすという意味ではなく、何かを一緒にするという事です。

最近、ある母親から、上の3人の娘が「成長するわたし」の条件を満たせるようにどのように助けたかについて聞きました。彼女は普通に報告を受け、プロジェクト完了のサインをしたのです。それから彼女は涙を流しながら穏やかに言いました。「最近、4番目の娘のプロジェクトを助けていますが、この娘とは一緒に取り組んでいるのです。おかげで、わたしたちの生活も関係も大きく変わりました。でも、3人の娘とはそうした経験ができなかったことを思うと、とても悲しく感じます。」舌が語り、ペンがつづる悲しい言葉の中で、最も悲しい言葉はこうです。「こうであったらよかったのに。」<sup>1</sup>

どのような者になるよう天の御父が望んでおられるか理解しなければなりません。わたしたちはどのように助けられるでしょうか。

家庭の夕べ、家族会議、あるいは子供と福音について意義深い会話をするとき、彼らの目をのぞき込んで、彼らを愛していること、天の御父が彼らを愛しておられることを伝えるチャンスがあります。これらの神聖な機会に、彼らは何者であり、この地球に、そしてこの家に来たこと、そしてわたしたちが永遠の家族となるために神殿で聖約を受けたことがどれほど幸せなことをか、心底理解できるよう助けることもできます。あらゆる交わりの中で、福音の原則と祝福を分かち合ったり身をもって示したりできます。

この危険な時代にあって、若人は単に知るだけでは不十分です。行う必要があります。儀式や定員会、補助組織、靈感されたプログラム、強めてくれる活動に心か

ら参加することにより、若人は神の武具を身に着けることができます。敵対する者の火の矢を退けられるよう若人が武具を身に着けるのを助けようではありませんか。主の方法を真に選ぶには、彼らは主の方法を知る必要があります。主の方法を真に知るには、わたしたちが彼らを教え、行動し参加し行うよう導く必要があります。

**最も大いなる伝道活動がわたしたちの家庭の中で行われるでしょう。**わたしたちの家庭、定員会、クラスは伝道地の一部です。わたしたちの子供や孫は、わたしたちの最も大切な求道者です。

**最も大いなる家族歴史活動がわたしたち自身の家庭の中で行われるでしょう。**それは、次の世代である子供たちを霊的に備えることです。それにより、子供たちの従順を通して、来るべき世代におけるわたしたちの家族が、確実に、永続するようになります。

**最も大いなる救助活動、最も大いなる**

**活発化が家庭で行われるでしょう。**もし皆さんの家族のだれかが、見知らぬ道に迷っていたら、皆さんはレスキュー隊員であり、教会で最も大いなるレスキューに従事しているのです。自分自身の経験から、あきらめないかぎり、失敗することはないことを証します。始めるのに早すぎることも、遅すぎることもありません。過去に起きたことを悩まないでください。電話をかけ、メモを残し、訪問し、家に戻って来るように言いましょ。恐れや気後れは不要です。皆さんの子供は天の御父の子供です。皆さんは御父の業を行っているのです。子らを集めると約束された御父は、皆さんともにおられます。

**最も大いなる信仰が、親としての試練や艱難の中で強くあり続けるとき、家庭の中で見いだされるでしょう。**モンソン大管長は最近、数人の母親に「わたしたちは時々、自分の成功と失敗の結果を性急に判断しすぎてしまいます」と語りました。言



い添えるなら、今日の試練を永遠だと思わないでください。天の御父は長い目で見て業を進められます。「聖徒たちに関して将来起こる多くのこと」があると主は言われました。「したがって、……わたしたちの力の限りすべてのことを喜んで行おう。そして願わくは、その後、わたしたちがこの上ない確信をもって待ち受けて、神の救いを目にし、また神の腕が現されるのを見ることができるようになる。」(教義と聖約 123:15, 17)

この復活祭の日曜日にわたしは、神が生きておられ、イエスがキリストであられることを知っているという証を述べる機会がわたしたちにあるようにと望みます。わたしたちが証を述べるときに、わたしたちの心がどこにあるかを子供たちが知り、わたしたちが子供たちを愛していることを知ることができるようにと望みます。最も大いなる愛と、最も大いなる教えは、わたしたちの家庭の中で見いだされるはずで

す。主の祝福が親と、忠実な家庭で育てられる若人とともにあり、彼らが愛され導かれる家庭と家族の中にあることの喜びを理解できるように、わたしは主に願います。わたしたちが永遠の家族を持ち、父なる神と御子イエス・キリストの御前で永遠に一緒にいることができるように、わたしは祈ります。

イエス・キリストが生きておられるというわたしの特別な証を伝えます。主は迷い出た羊の羊飼いであり、途方に暮れた人の救出者であり、傷ついた心の癒し手であり、全人類の希望です。主を信じ、わたしたち一人一人に対する主の永遠の愛を信じながら、神に対するわたしたちの務めを主とともに果たしましょう。イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

#### 注

1. "Maud Muller," *The Complete Poetical Works of John Greenleaf Whittier* (1876年), 206 参照



七十人

ブラッドリー・D・フォスター長老

## お母さんが そう言ったから

母親の愛に対するわたしたちの思いが普遍的なのは、恐らく、そこに救い主の愛が表れているからでしょう。

**主**は子供を霊的に養育するという主要な責任を両親に課せられました。時には、ひとり親としてこの責任を果たすこともあります。わたしの母も比較的若いころに夫を亡くし、独りで4人の子供と生きていかなければなりませんでしたが、しかし、信仰と勇気をもって逆境に立ち向かった母は、真理の道からそれないかぎり、終わりは始めより良くなるとわたしたちに約束してくれました。モルモン書に登場する、勇気ある母親に育てられた子供たちのように、「わたしたちは、[母]がそれを知ってい[る]ことを疑いません[でした]。」「(アルマ 56:48) 兄弟姉妹、わたしは個人的な経験から母親の偉大な影響を理解しています。

わたしの良き友であるドン・ピアソン兄弟が話してくれた経験談は、この影響力をよく表しています。ある夜のこと、ピアソン兄弟は4歳になる息子のエリックから寝る前にお話を読んでほしいと言われました。エリックはお気に入りの本を選んでいました。それは海の島々に住み、島から島へと熱気球で旅をする家族の物語を描いた『パディー・ポークの気球の冒険』(*The Ballooning Adventures of Paddy Pork*)という本でした。文字のない絵本だったので、ピアソン兄弟は自

分の言葉で物語を聞かせました。

「パディーは熱気球に乗っています。今、ある島に着陸するところです。気球のへりからひもを垂らしています。」

エリックが話を遮りました。「お父さん、ひもじゃないよ。ロープだよ。」

ピアソン兄弟はエリックをちらりと見ると、絵本に戻って物語を続けました。「気球の外に出たパディーは、木を伝って下りています。おや、大変! コートが枝に引っかかっています!」

エリックがまた話を遮りました。「お父さん、コートじゃなくて、ジャケットだよ。」

ここまで話して、ピアソン兄弟は少々当惑し、こう言いました。「エリック、この本は絵だけで、言葉がないんだよ。どうしてジャケットじゃないとだめなんだい。」

エリックは答えました。「だって、お母さんがそう言ったから。」

お父さんは本を閉じて言いました。「エリック、この家で家長、つまりいちばん偉い人はだれだと思おう。」

今度はよく考えて、エリックは答えました。「お父さんだよ。」

ピアソン兄弟は息子にほほえみかけました。何とすばらしい回答でしょうか。「どうして分かったの。」

エリックは即座にこう答えました。「お



母さんがそう言ったから。」

ジェームズ・E・ファウスト管長はこう言っています。「この世において母性に勝る徳は〔ありません〕。子供たちにとって母親の影響力は計り知れないものがあります。」「〔父親、母親、結婚〕『リアホナ』2004年8月号, 3)

神の計画によって、子供を養い育てることは女性に与えられた霊的な受け継ぎの一部となっているのでしょう。自分の娘を見てそう思いましたし、今は孫娘を見てそう思います。彼女たちは、まだ歩けもしないときから小さな赤ちゃん人形を抱っこし、世話をしながらいました。

わたしは農場と牧場を営んでいます。自然界でも、母親が、生まれ持った愛情をどのように示すかを目にする事ができます。毎年、春になると、わたしたちは雌牛と生まれて間もない子牛の群れをアイダホ州のスネーク川沿いの小さな丘に連れて行き、1か月くらい放牧します。それから散らばっている牛を集め、道に沿って追って行きます。その先には囲いがあり、牛はそこでトラックに積まれてモンタナ州にある夏の牧場へと運ばれるのです。

とりわけ暑いある春の日のことです。わたしは馬に乗って群れの後ろから牛を追う手伝いをしていました。牛はほこりまみれの道を囲いに向かって移動していました。わたしの役目は、道から迷い出た子牛を集めることでした。牛の歩みが遅かったので、わたしは物思いにふけていました。

あまりにも暑かったため、幼い子牛たちは日差しを避けようと、次々と木々の中に入り込もうとしました。わたしは、ほかのことに気を取られることで、時として細く狭い道から離れてしまう教会の若人のことを考えました。また、教会を去ってしまった人たち、あるいはほかのことに気を取られているうちに教会から見捨てられたと感じているかもしれない人たちについても考えました。わたしは、人の気をそらすものは、必ずしも邪悪なものだけとは限らないと思いました。ただの日陰でも十分に人の気をそらすことがあるのです。

はぐれた子牛を集める作業を数時間続けると、汗が顔からしたたり落ちました。業を煮やしたわたしは子牛にどなりつけました。「もういいからお母さんのところに

行きなさい！お母さんは前にここに来たことがあるから、どこに行けばいいか知っているよ！」母牛は、今は暑くてほこりっぽい道を歩いていても、終わりは始めより良くなるということを知っていたのです。

群れを囲いに入れるとすぐに、3頭の雌牛が入り口で不安そうに歩き回っているのに気づきました。雌牛は自分の子牛を見つけれないのです。途中で子牛がはぐれてしまったことが分かっているようでした。使用人の一人がわたしにどうすればよいか尋ねてきました。わたしは答えました。「子牛の居場所はきっと、400メートルほど戻った木立の中じゃないかな。きっとそこにいると思うよ。」

確かににらんだとおり、迷子の子牛は日陰で昼寝をしていました。近づいて行くと子牛は驚いた様子で、わたしたちが連れて行こうとするのを嫌がりました。わたしたちが母牛ではないので怖がっていたのです。囲いの方角へ押せば押すほど、子牛は動こうとしなくなりました。とうとうわたしは使用人たちに言いました。「これじゃだめだ。もっといい方法がある。戻って囲いから母牛を出そう。母牛が来て子牛を見つける。そうすれば子牛は母牛について来ると思う。」言ったとおりでした。母牛はどこに子牛がいるかはっきりと分かっていました。そして期待にたがわず、子牛を囲いへと導いて行ってくれました。

兄弟姉妹、すべての人に選択の自由が与えられているこの世界では、愛する人々の中に、しばらくの間迷い出る人がいるかもしれません。しかし、決してあきらめてはなりません。そのような人々がいるところまで、いつでも戻らなければなりません。決して働きかけをやめてはならないのです。預言者トーマス・S・モンソン大管長は、わたしたちが、道に迷ったかもしれない大好きな人々の救助に向かうよう、強く願っています。(例として、「任命された職にしっかりと立つ」『リアホナ』2003年5月号, 54-57参照) 親は、神権指導者の



助けを受け、子供がいるところまで引き返して、子供を見つけなければなりません。彼らの帰りを待っている「家」が家族と教会にはいつでもあることを知って安心させるのです。人の心がいつ変わるのかわたしたちには決して分かりません。また、人がいつ世の中にうんざりし、疲れてしまうのかも決して分かりません。しかし、そうなったとき、子供たちが最初に向かうのは、ほとんどいつでも母親のところだと思います。その気持ちはエリザベス・エーカーズ・アレンの次の詩に歌われています。

時の流れよ、もとに戻れ  
我は労苦と涙に疲れ果てた……

虚しさ、卑しさ、偽りに疲れ果てし今  
母よ、おお母よ、我が心はあなたを呼び求

める……

我が心を覆う過ぎ去りし日々  
母のごとき愛、示されしことなし

病みたる魂、世に疲れし頭を  
母のごとき力にて癒す者なし  
眠れぬ我がまぶたをまどろみの柔らかき  
平安にあずからしめたまえ  
母よ、我を揺らし眠りに就かせたまえ、我  
を揺らし眠りに就かせたまえ

(“Rock Me to Sleep,” *The Family Library of Poetry and Song*, ウィリアム・カレン・プライアント編 [1870年], 190 - 191; 句読点は現代の用法に修正)

母親の愛に対するわたしたちの思いが普遍的なのは、恐らく、そこに救い主の愛

が表れているからでしょう。ジョセフ・F・スミス大管長は次のように語っています。「真の母親の愛は、どのような愛よりも神の愛に近いのです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』35 - 36)

ほかのすべてのことと同様に、救い主は、地上の母親に愛を示すことにおいても完全な模範を示されました。現世での最後にして最も重大な瞬間、すなわちゲツセマネでの苦悩を経験し、不正な裁判を受け、いばらの冠をかぶらされ、残酷にも重い十字架に釘で打ちつけられた後、イエスは十字架から、息子のそばにいるためにやって来ていた母親マリヤを見下ろされました。亡くなる前にイエスが示された最後の愛に満ちた行いは、母親を世話する人がいるかを確かめることでした。イエスは弟子にこう語っておられます。「ごらん下さい。これはあなたの母です。」そのとき以来、この弟子はイエスの母親を自分の家に引き取りました。その後、聖文にあるように、イエスは「今や万事が終わった」ことを知って、首を垂れて亡くなられたのです(ヨハネ19:27-28, 30参照)。

今日皆さんの前に立ち、イエス・キリストがまさにこの世の救い主、贖い主であることを証します。この教会はイエス・キリストの教会、末日聖徒イエス・キリスト教会です。天の御父は、御自分の子供たちが皆、みもとに戻って来るよう願っておられます。このことを疑いなく知っています。聖霊がわたしの心に証されるからです。最初から知っていたわけではありません。幼いころには、両親の証に頼らなければなりませんでした。母はわたしに、たとえ暑くほこりっぽい道を歩んでいると思えるときも、たとえ気をそらせようとするものがあっても、真理の道から離れないかぎり、終わりは始めより良くなるということを確認させてくれました。母が、そのような教えてくれたことに、わたしはいつまでも感謝するでしょう。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■



七十人  
ジェームズ・B・マルティノ長老

## 万事を益となす

この世にいる間は、なぜそのような困難に直面しているのか分からないかもしれませんが、それらの経験によって成長できるという確信が得られます。

わたしは若かったころ、毎年春が来るのを楽しみにしていました。気温が上がってくると、野球がしたくてうずうずしました。ほかの多くの若い少年たちのように、偉大な野球選手になることを望んだものです。同じような夢を持った、ある一人の少年の話の思い出します。将来偉大な野球選手になるという強い望みを持ち、彼は外で練習することにしました。片手にボール、もう片方の手にバットを握ると、ボールを空中に上げ、できるだけ遠くまで打てるようにとの願いを込めて大きくスイングしましたが、ボールは木のバットに当たることなく地面に落ちます。それでも彼はめげずに再び挑戦しました。ボールを上げようとしたとき、強烈なヒットを打つ姿が頭に浮かび、気合いが高まりました。しかし残念なことに結果は同じでした。ボールは地面に転がっていました。しかし、優れた野球選手ならだれでも知っているように、アウトになるまでにチャンスは3回あるのです。少年はさらに集中してボールを上げ、今までになく強くスイングしました。ボールが再び地面に落ちると、彼の目には涙が浮かび始めました。しかし彼は突然大きな笑みを浮かべ、こう言いました。「何てすごいピッチャーなんだ！」

わたしたちは皆、試練や試しに直面しますが、この単純な例のようにその困難に

どう対処するかによって成功や幸福が決まってくるのです。わたしたちは皆、どこにいても逆境に直面します。聖文は「すべての事物には反対のものがなければならない」<sup>1</sup>と教えています。わたしたちは皆、困難に直面しますが、問題はいつそれに直面するかではなく、どのようにそれに立ち向かうかなのです。

使徒パウロは、ローマの聖徒たちが紀元後の時代で最もひどい迫害に直面することになるほんの数年前に、興味深い教えを説きました。パウロは聖徒たちに「神〔が〕、神を愛する者たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さい」<sup>2</sup>ことを思い起こさせました。わたしたちを完全に申し分なく愛しておられる天の御父は、わたしたちが経験を心得、ますますキリストのようになるために必要な性質や特質を伸ばすことができるようにしてくださいっているのです。試練は様々な形で

やって来ますが、その一つ一つの経験から良いものが得られることを知るにつれ、わたしたちはさらに救い主のようになることができます。この教義を理解するにつれて、御父の愛をさらに確信することができます。この世にいる間は、なぜそのような困難に直面しているのか分からないかもしれませんが、それらの経験によって成長できるという確信が得られます。

試練が過ぎた後にそれを振り返り、その経験から何を学んだかを考えるのはずっと簡単ですが、難しいのは試しに遭っているさなかに永遠の観点で物事を見ることだと思います。ある人にとっては大した試練には思えなくても、それを経験しているわたしたち一人一人にとってその試練は現実のものであり、わたしたちは神の前にへりくだって教えを受ける必要があるのです。

この復活祭の日曜日に、わたしたちは救い主の生涯を思い起こします。すべての行動において、わたしたちはイエス・キリストの模範に従うことを望んでいます。救い主のこの世での最後の時間から、わたしたちが試練に直面する際に助けとなる5つの事柄について述べたいと思います。

1つ目に、救い主は御自分の望みではなく、天の御父の望みを行うことを求められました。試練のさなかにも、救い主は聖なる使命を続けて果たされました。救い主はゲツセマネの園でひざまずき、こう言われました。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯さかずきをわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、



みこころが成るようにしてください。」<sup>3</sup> わたしたちは成長し、将来直面し得る試練に備えるために痛みや悲しみを経験することがあります。ここで母親の皆さんに聞きたいと思います。「子供が何も間違っただけで泣いたり涙を流したりするようなことをするのでしょうか。」もちろん皆さんはそうするでしょう。母親は子供を医者に連れて行き、予防接種を受けさせますが、ほとんどの子供は泣きながら帰って行きます。なぜそうするのでしょうか。それは今受ける小さな痛みが、将来受けるかもしれない痛みや苦しみから子供たちを守ってくれると知っているからです。天の御父は終わりのことを初めから知っておられます。わたしたちは救い主の模範に従い、救い主を信頼しなくてはなりません。

2つ目に、試練に直面したとき、わたしたちは不平や文句を言わないようにすることを学ばなければなりません。ニューファイは救い主の贖いの犠牲についての偉大な示現を受けてこう述べました。「それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられるからである。」<sup>4</sup> わたしたちは問題を解決し、試練を乗り越えようと常に努力しなくてはなりません。「どうしてわたしが」とか「どうしてこんな目に遭うのだろう」と言うのではなく、「どうすればよいだろうか。この経験から何を学べるだろうか。自分のどこを変えるべきだろうか」と尋ねるべきだと思います。

数年前、妻とわたしがベネズエラで奉仕をしていたとき、わたしたちのいちばん下の息子が通い慣れた高校を離れ、わたしたちのところに来ることになりました。彼は不満を言いませんでしたが、何もかもが新しいその国にやって来て苦労していたこ



とは明らかでした。しかし、予期せぬ驚くべき物事の展開によって、一つの試練から始まったその経験は、彼の人生にとっての大きな祝福となったのです。彼は自分の態度を変え、成功への決意を強めることによってこれを成し遂げたのです。

3つ目に、試練に直面したとき、わたしたちは神の偉大な助けを求めなければなりません。わたしたちの救い主でさえも祈りの必要性を感じ、ゲツセマネの園では「ますます切に」<sup>5</sup> 祈られました。神の助けを切に求めれば、わたしたちは偉大な信仰を得るために学ぶことができます。多くの場合、天の御父からの答えは、わたしたちから試練を取り除くものではありませんが、その代わりに御父はその経験の中でわたしたちが強められるように助けてくださいます。アルマに従った者のためにして下さったように、主は「〔皆さん〕の肩に負わされる荷を軽くし、……〔皆さん〕の背にその荷が感じられないほどに」<sup>6</sup> して下さいます。試練のさなか、わたしたちは辛辣になったり、献身的でなくなったりするべきではありません。そうではなく、救い主の模範に従ってより熱心に、より誠実に、そしてより忠実になるべきなのです。

4つ目に、試練のときにもほかの人に奉

仕し、ほかの人について考えることを学んでください。キリストは奉仕の最も偉大な模範でした。キリストの人生は、人々を助け、奉仕することの模範で満たされていましたが、あらゆるものの中で最も偉大な贈り物は、救い主がわたしたちのためにして下さったことなのです。救い主はおっしゃいました。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。」<sup>7</sup> わたしたちは悔い改め、救い主の奉仕の模範に従わなくてはなりません。ほかの人に奉仕するとき、わたしたちは自分の問題を忘れ、また、ほかの人の苦痛や不安を取り除くために働くことにより、自分自身を強めることができます。

前回の総大会で、愛する預言者であるトーマス・S・モンソン大管長はこう述べました。「救い主が言っておられるのは、自分を捨てて人に奉仕しなければ、自分自身の人生の目的などほとんどないということだとわたしは信じています。自分のためにだけ生きる人は、ついには枯渇してしまい、比喩的に言えば、命を失ってしまいます。一方、自分を捨てて人のために奉仕する人は、成長し、繁栄して、実際に自



分の命を救うのです。』<sup>8</sup>

5つ目に、ほかの人を赦し、自分の置かれている状況を彼らのせいにしやうとしないでください。「もし彼らがこんなことをしていなかったなら、わたしがこのような対応をすることはなかっただろうに」と言いたくなることもあるでしょう。生まれながらの人はほかの人のせいにするによって自分の行動に対する責任から逃れようとする傾向があります。救い主は、御自分を十字架に釘付けにした者たちを見て、天の御父に嘆願しておっしゃいました。「彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」<sup>9</sup> わたしたちはもっと寛容であっていいのではないのでしょうか。

人生の試練を経験するとき、永遠の観点に立ち、不平を言わず、さらによく祈る者となり、ほかの人のために奉仕し、互いを赦し合ってください。これらを行うとき、「神は、神を愛する〔わたし〕たち……と共に働いて、万事を益となるようにして下さい」<sup>10</sup> でしょう。わたしは天の御父がわたしたちを愛し、わたしたちのために御子を遣わして道を示し、開いてくださったことを、厳粛に、確かに証します。救い主は苦しみを受け、亡くなり、復活することによってわたしたちが生きることができるようにしてくださいました。そして主は、わたしたちが人生の試練にあるときさえも「喜びを得る」<sup>11</sup> ことを望んでおられるのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. 2ニーファイ 2: 11
2. ローマ 8: 28
3. ルカ 22: 42
4. 1ニーファイ 19: 9
5. ルカ 22: 44
6. モーサヤ 24: 14
7. 教義と聖約 19: 16
8. トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号, 85
9. ルカ 23: 34
10. ローマ 8: 28
11. 2ニーファイ 2: 25



七十人

グレゴリー・A・シュワイツァー長老

## 正しく判断する力を養い、人を裁かない

正しい判断は、人を理解するときだけでなく、自分を天の御父へと導くか、あるいは遠ざけるかという結果にしばしばつながるような決断においても必要です。

わたしたちの住む世の中では、判断を求められる状況が数多くあります。しかもそれは難しい判断である場合がしばしばです。それでも、救い主は同胞を「さばくな」<sup>1</sup> という戒めを与えられました。欺きと腐敗に満ちた世界にあって、どうすれば人を裁くことなく、なおかつ正しく判断できるでしょうか。友達を選ぶ、永遠の伴侶を見つける、家族を扶養し、主に奉仕できる仕事を選ぶなど、人生のそれぞれの段階できわめて重要な決断を下すとき、わたしたちは正しく判断しなければなりません。救い主は人を裁かないよう求めておられますが、同時に優れた判断力を用いるよう期待しておられます。

わたしたちは性急に人を裁いてしまうということがよくあるかもしれません。そのために相手との関係が変わったり、以前のように接することができなくなったりすることもあります。情報が限られているため、または目先のものにとらわれてその奥にあるものを見ないために、誤った判断が下されてしまうことがよくあるのです。

その例として、イエスがマリヤとマルタのもとを訪ねられたときの話があります。よく引用される話です。マリヤとマルタは

兄弟のラザロとともにベタニヤに住んでいました。義になかった人々が住み、休息を取ることのできるこの家で、主は心からの歓迎を受けておられました。主の訪問を受けたある日、マルタは食事の支度に追われていましたが、マリヤは主の足もとに座って、教えを聞くことを選びました。

「ところが、マルタは接待のことで忙しくて心をとれみだし、イエスのところにきて言った。『主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか……。』

主は答えて言われた、『マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。

しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。』<sup>2</sup>

この話は日曜日のレッスンで何度も使われるため、マルタは信仰の面では劣っていると思われてしまいます。しかし、マルタというこの偉大な女性の理解力と証をもっとよく知ることのできる話があります。彼女の兄弟ラザロを生き返らせるために救い主が到着されたときのことです。このとき、イエスが来られたと聞いてすぐに



出迎えに行ったのはマルタでした。イエスに会った彼女は「あなたがどんなことをお願いになっても、神はかなえて下さることを」存じていると伝えました。

そこでキリストはマルタに、復活についてのすばらしい教義をお伝えになりました。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。」

彼女は力強い証を込めて答えました。「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております。」<sup>3</sup>

マルタはこれまで何度、御霊より家事に

関心が向いている人物だという誤った判断をされてきたでしょうか。しかし、兄弟の死という試練のさなかにマルタが示した証は、彼女の理解力と信仰の深さをはっきりと表しています。

最初に紹介した話を聞き、自分はマリヤだろうか、それともマルタだろうかと考えたことのある姉妹たちは多いでしょう。しかし真実は、その人の全体像を知り、正しく判断することで分かるのです。マルタについてさらによく知ることで、彼女が実は、救い主の使命について、また命を支配するという、救い主がお持ちの神聖な力について雄々しく勇敢な証を持つ、深い霊性を備えた人物であることが分かります。マルタを誤って判断することで、わたしたちはこのすばらしい女性の本質を知るこ

とができなくなっていたかもしれません。

自分自身も若い医者だったとき、性急な判断を下すことについて大切な教訓を学びました。救急病棟で深夜勤務に就いていたときのことです。若い男性が、ひどい痛みを苦しむ妻を連れて来ました。服装と不衛生な様子から、二人がずさんな生活を送っていることはすぐに分かりました。夫の長い髪は乱れ、二人の洋服もしばらく洗濯されておらず、生活のすさみよりは彼らの顔に表れていました。

診察後、わたしは男性と座って状態を説明し、治療について話し合いました。そのとき、この男性は、それまでに見たことのないほど深く澄んだ愛をもってわたしを見詰め、妻に対するあらん限りの愛情を込めてこう尋ねたのです。「先生、わたしの大切な妻は大丈夫でしょうか。」その瞬間、この男性が神の子供であることを御霊が証されるのを感じたわたしは、その目に救い主の特質を見ました。この男性は確かに自分以外の人への愛を示していたのに、わたしは彼を誤って判断していたのです。長く印象に残る教訓となりました。

正しい判断は、人を理解するときだけでなく、自分を天の御父へと導くか、あるいは遠ざけるかという結果にしばしばつながるような決断においても必要です。自分の人生を振り返ってみると、誤った判断によるわずかな進路の変更のために、自分が主の望まれるのとは遠く離れたところに行ってしまったかもしれないという経験が何度もありました。教育を受けながら家族を築く、福音のあらゆる面で活発でいる、非常に限られた収入の中から自分の一と献金を納める、困難な状況で召しを受けるといった決定をすることで、わたしは犠牲についてより深く理解することができました。本来は霊的である決断にこの世の判断を当てはめると、人生の多くの祝福を逃してしまいます。

正しい判断力を養ってきた人は多くの特質を備えています。重要な決断を下す

うえでの判断力を育てるための助言を4つ示しましょう。

**第1, 自分自身の標準をイエス・キリストの福音に合わせる。**判断のよりどころであるイエス・キリストの福音なしに、正しく物事を判断することはできません。福音には、人を幸福に導いてきたすばらしい記録が数多くあります。この世の考えの幾つかは人類を混乱させ、その結果、人は自分で標準を定めようとしています。「新しい道徳律」などという言葉聞くのはこのためです。これは人を欺く言葉です。道徳についての標準は永遠であり、変わることはありません。また、道徳について新しい解釈を見つけようとするべきではありません。小冊子『若人の強さのために』には、これらの標準が青少年に向けて書かれています。これらの標準は明確にイエス・キリストの福音と結びついており、成人してからの人生でも変わることがありません。わたしたち大人もこの小冊子を研究し、生活で実践するとよいかもしれません。

**第2, 生ける預言者のメッセージに耳を傾ける。**預言者は、危険な投機を避けるように、また、入念な予算計画を立てて消費者負債を避けるようにと長年にわたって勧告してきました。これらの言葉に従うことで、どれほど多くの金銭上の誤った判断を避けることができたでしょうか。正しい判断によってポルノグラフィや依存と苦しみを引き起こすメディアを避けていけば、どれほど多くの結婚生活が破綻せずに済んだでしょうか。わたしたちは毎回の総大会で、また教会機関誌から預言者の勧告を知ることができます。それらの勧告を実践するなら、わたしたちは正しい判断ができるようになります。ないがしろにするなら、言い訳はできません。

**第3, 聖なる御霊の声を聞く力を育てる。**バプテスマの後、わたしたちには聖霊の賜物が与えられます。しかし、人生で最も大切な判断を下すときに聖霊が助けてくださることを忘れ、賜物を使わないでいる

ことがよくあります。主がこの賜物を下さったのは、わたしたちが人生で難しい判断に迫られることを御存じだからです。正しい判断力を養うには、この声を聞くことがきわめて重要です。御霊の声を聞くには、深く考え、静かな細い声を聞く時間の取れる静かな環境が必要な場合が多くあります。それは自分の外側も内側も穏やかな環境です。ですから、ただこの世の音楽や騒々しいメディアを締め出すだけではなく、わたしたちの心の内側にある罪という騒音を締め出すことが必要です。こうするなら御霊と交わることができるようになるでしょう。わたしたちにとって、この交わりがぜひとも必要なのです。

キリストは言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」<sup>4</sup> 聖なる御霊を聞くことで心穏やかになると、人生で間違った判断を下してしまうかもしれないという恐れがなくなります。

**第4, 戒めを守る。**神の戒めを喜んで守ることで、約束されている多くの祝福がもたらされます。モルモン書は、イエス・キ

リストについてのもう一つの証であるだけでなく、戒めを守ったことと、戒めを守らなかったことの結果が載っている書物です。ニューファイ第一書の第2章で主は言われました。「あなたがたは、わたしの命令を守るかぎり栄え〔る。〕」<sup>5</sup>

この同じ約束を、モルモン書のおもな預言者のほとんどが繰り返しています。そのことが真実であると証する、1,000年にわたる歴史が刻まれました。同じメッセージは現代のわたしたちにも当てはまります。正しい判断力を最善の方法で身に付け、実践できるのは、主が定められた戒めという範囲の中なのです。

困難な決断に直面したときに、これらの指針に従うなら、どのように判断すべきかをもっとよく知ることができることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. マタイ7:1。救い主が「不義に裁いてはならない」と戒められたジョセフ・スミス訳マタイ7:1も参照
2. ルカ10:40-42
3. ヨハネ11:20-27参照
4. ヨハネ14:27
5. 1ニューファイ2:20





七十人  
フランシスコ・J・ビーナス長老

## 義にかかわること

親や指導者として、わたしたちは会員と家族を見守り、霊的な死をもたらすかもしれない事柄に彼らが近づかないよう助ける必要があります。

**教** 義と聖約は、神の僕たちの証の後に、地震という証拠と、そのほかいろいろな出来事という証拠が来ると告げています。「また、すべての物事が混乱する。そして、必ず人々は気落ちする。恐れがすべての人に及ぶからである。」(教義と聖約 88:91。88 - 90 節も参照)

カリブ海地域会長会の一人であるわたしは、恐れを信仰に置き換えた忠実な聖徒たちをこの目で見てきました。ハイチで学んだ教訓は、モルモン書の記述にたとえることができます。

この恐ろしい破壊を目にして受けた気持ちから、アルマ書第 28 章の言葉を思い出しました。「國中至る所に、……大きな嘆きと悲しみの声が起った。」(アルマ 28:4)

教会員も 42 人が亡くなりましたが、その家族や友人は「親族を失ったことをまことに悲しみながらも、彼らがよみがえって、決して終わることのない幸福な状態で神の右に住むであろうという望みに喜びを感じ、また主の約束によってそれを知って [います。]」(アルマ 28:12)

教会は直ちに会員と会員でない人々に向けて援助物資を送り、物資は地元の神権指導者と扶助協会の指導者の指示の下に配布されました。被災者は、医療品、食料、水やそのほかの基本物資だけでなく、

地元の指導者からの勧告、導き、慰めも受けました。「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」世界中の会員が彼らを支えています (モーサヤ 18:9)。

それぞれの時代にそれぞれの預言者が、気づきにくいものの、決してないがしろにできないもう一つの悲劇について警告を発しています。それは「悪人に [及ぶ] 恐ろしい死」です。「彼らは清くないので、義にかかわることに関して死んだ状態になるからである。清くない者は決して神の王国を受け継ぐことができ [ない。]」(アルマ 40:26)

ニーファイは自分の兄弟たちに、次のような言葉でこの原則を教えました。「邪

悪なままで死ぬ [人々は] 義にかかわる霊的なことから捨てられなければならない。」(1 ニーファイ 15:33)

レーマン人の預言者サムエルはこう教えました。「悔い改めない者は皆、切り倒されて火の中に投げ込まれる。そしてこれらの者には、再び霊の死、まことに第二の死が及ぶ。彼らは義にかかわる事柄に関して再び絶たれるからである。」(ヒラマン 14:18)

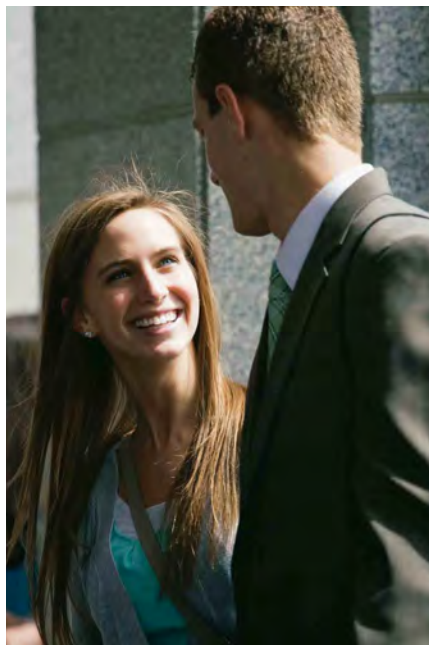
霊的な事柄に関して死ぬという悲劇は、次のような人々にさらに深刻な影響を及ぼします。「一度神の御霊に照らされ、義にかかわることに関して大いなる知識を得てから、その後、罪と背きに陥ると、[それらの人々は] 前よりもいっそうかたくなになる。したがって彼らの状態は、これらのことをまったく知らない場合よりももっと悪くなるのである。」(アルマ 24:30)

親や指導者として、わたしたちは会員と家族を見守り、霊的な死をもたらすかもしれない事柄に彼らが近づかないよう助ける必要があります。わたしたちはまた、霊的な事柄に関して今は死んでいる人々を救助し、彼らが「再び生まれ……まことに、……神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にな [れるように]」努めるのです (モーサヤ 27:25)。

義にかかわることに対して死んだ状態にある人は、贖いの力、真理への改心、義の原則を固く守ることで霊的な癒しを受けることができます。

会員と家族が生涯にわたって改心する過程で、彼らに義にかかわる事柄について教えることはきわめて重要です。それにより、主の王国で救われるために守るべき主の戒め、福音の原則と教義、必要な事柄、儀式に関する正しい知識を得ることができるからです。

聖文には、生涯にわたる改心を助けるために「義にかかわること」を教えることの大切さを証明する例が多くあります。アンモンと同僚たちがレーマン人に福音を



の  
宣べ伝えたときの記録には次のように書かれています。「そしてアンモンは、ラモーナイ王の民に教えを説いた。彼は、義にかかわることについてあらゆる事柄を民に教えた。」(アルマ 21:23)

第23章を読み進めると、義にかかわるあらゆる事柄を熱心に教えた結果を知ることができます。「信仰を持つようになったすべての人、すなわち真理を知るようになったすべての人は、……主に帰依した……。〔そして彼ら〕は皆、二度と道を踏み外さなかった。」(アルマ 23:6)

父アルマが教会を確立したとき、彼は、「民を見守り、義にかかわることをもって彼らを養〔う〕」ふさわしい男性を祭司と教師に任命しました(モーサヤ 23:18)。

子供たちが義にかかわることを理解するよう助けるうえで、親はきわめて重要な役割を果たします。モルモン書には、罪悪、戦争、争いを悲しみ、人々のかたくなな心を嘆いていた息子アルマが「息子たちを集め、義にかかわることについて、息子たちにそれぞれの責任を与えることにした」と書かれています(アルマ 35:16、強調付加)。

注目すべき興味深い点は、アルマが息子たちそれぞれの必要に合わせて指導する内容を変えたうえで、一人一人を教え、責任を与えたことです。アルマは証をし、教義と原則を教え、それによって子供たちが人々に同じ原則を教えられるよう彼らを備えさせました。

家族が悪の力から攻撃を受ける今、アルマが生きたころとさして変わらない状況下で生活するこの時代に、大管長会と十二使徒定員会は『家族——世界への宣言』の中でこう述べました。「両親には、愛と義をもって子供たちを育て……するという神聖な義務があります」(『リアホナ』2004年10月号、49)

これには、子供たちが「真理の帯を腰に締め、正義の胸当てを着け、……平和の福音の備えを足に履〔いて〕、揺るぎない状態を保てるよう(教義と聖約 27:16)、義



にかかわることすべてについて彼らを養い、支え、教えることが含まれます。

アルマの時代と同様、現代の指導者も教会員を見守り、義にかかわることをもって会員を養っています。そうした助けがあって、わたしたちは生涯にわたる改心を成し遂げることができるのです。2009年12月10日改定の「指導者訓練の強調点」で、大管長会と十二使徒定員会は神権指導者と補助組織の指導者に対して、「聖文を研究し、定期的に祈り、イエス・キ

リストの福音に従って生活するよう、家族一人一人、両親、子供たちを励ます」ことを求めました(2009年12月15日付けの大管長会の手紙)。

聖文を研究し、定期的に祈り、イエス・キリストの福音に従って生活することは義の業です。主は次のようなすばらしい約束を明らかにしておられます。「義の業を行う者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける……。」(教義と

聖約 59 : 23)

義にかかわることをより効果的に教えるためには、情報を与えるだけでなく、教えを受ける人が啓示を受けられるよう助けなければならないということを理解することが大切です。こうすることにより、教えを受ける人はこれらの原則を自分で知りたと思えるようになるのです。

主はハイラム・スミスに、預言者である弟のジョセフ・スミスを通して次のことを明らかにされました。

「わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。

そのとき、……あなたは、わたしから与えられると信じながら信仰をもってわたしに願うことで、義にかかわることは何であろうとすべて知るであろう。」(教義と聖約 11 : 13 - 14)

最後にこのことをお伝えします。聖文は義にかかわることへの死について警告しています。またこの死は、神の御霊に照らされた後に罪と背きに陥る人に深刻な結果をもたらすことも警告しています。

義にかかわることを教えることは、人々が真理の知識を得て改心し、キリストへの信仰を最後まで固く保てるよう助けるための大切な要素です。

両親には、義にかかわることについて子供たちに教える神聖な義務があります。指導者と教師は、自分に任された会員に義にかかわるあらゆることを熱心に教えることで、彼らを見守り、養うことができます。

教える過程で、その人自身が啓示を受けられるように助けるなら、これらのことはさらに効果的に達成され、それにより人々は神の御霊によって照らされたいという望みを持つようになるのです。そして彼らが信仰を働かせるとき、御霊は義にかかわることを知らせてくれます。これらをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。■



十二使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老

# イエス様の話聞かせて

イエス・キリストに対する個人の信仰が強くなると、子供たちは必ず直面するであろう試練に対して備えることができます。

**総** 大会の最後の部会の最後の方で話す割り当てを受けたなら、自分が準備した話のどの部分が先の話者たちによって話されるだろうと思ひながら、すべての言葉に注意深く耳を傾けるでしょう。総大会ではテーマを割り当てられることも、話者同士が協同することはありません。しかし主の方法はもちろん常に最善の方法です。主は一人一人の話者が祈りと努力によって準備する話を、啓示と力に満ちた「霊的な交響曲」に作り上げてくださいます。同じテーマ、原則、預言者からの警告、心を高める約束が繰り返し述べられる様子は、天のハーモニーとも呼べる奇跡です。この大会でわたしたちは主の思いと御心を聞き、感じてきたということを証します。

トーマス・S・モンソン大管長は教会の若人のことを「どの時代にも増して善良」<sup>1</sup>な人々と呼び、こう言いました。「皆さんは栄光に満ちた時代にこの地上にやってきました。皆さんの前には限りないチャンスが待っています。」<sup>2</sup>しかし大管長は警告もしました。「わたしたちは困難な時代に地上に生を受けました。」<sup>3</sup>「現代は何をしても許される時代です。一般社会の人たちは神の律法を軽視し、破っています。」<sup>4</sup>わたしたちの周りには気をそらすよう仕向けるものがあまりにも多いのです。「敵対する者が、可能なかぎりあらゆる手段を使ってわたしたちをわなに……誘い

込もうと〔し〕ています。」<sup>5</sup>

わたしたちには、若人が託されています。彼らは重要な責任と偉大な霊性を持ってこの地上にやってきました。彼らを備える務めをおろそかにすることはできません。親や教師であるわたしたちの課題は彼らの心に霊的なろうそくの芯を作るのではなく、前世ではぐくんだ信仰の炎です。すでに赤らんでいるその芯に、風を送ってやることなのです。

今日わたしは、初等協会の歌に出てくる子供の願いを強調します。

エス様の話聞かせて

長い旅の途中あったこと<sup>6</sup>

今日の世界の中では、子供も、若い男性も、若い女性も、一人一人が真理に改心する必要があります。親や青少年の指導者、支えてくれる友達とは別に、各人が自分自身の光、主イエス・キリストへの「確固として動か〔ない〕」<sup>7</sup>信仰を持つ必要があるのです。

イエスの話には、子供たちの心にある信仰の残り火を燃え立たせる風のような力があります。イエスは「わたしは道であり、真理であり、命である」<sup>8</sup>とおっしゃいました。イエスの話を繰り返し話すと、主イエス・キリストへの信仰がはぐくまれ、証の土台が堅固になります。子供たちにとってこれほど価値のある贈り



物が考えられるでしょうか。

子供たちの心には、イエス・キリストの生涯と教えが刻まれているでしょうか。個々の生活の中でどうすべきか悩むとき、子供たちは救い主の生涯について考えているでしょうか。そうすることは、将来ますます大切になってきます。

子供たちは前世の会議<sup>9</sup>で、いちばん大いなる者であったイエスが「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください」<sup>10</sup>とお申し出になった様子を思い描いたことがあるでしょうか。イエスの模範に従って奉仕する意志が自分にあることに気づいているでしょうか。

イエスのつましい降誕について考えたことがあるでしょうか。<sup>11</sup> 世の救い主は「飼葉おけの中に寝かせ」られました。<sup>12</sup> 主が置かれた環境を考えることによって、富や財産に対する正しい考えが身に付いているでしょうか。

イエスが度々、「求めなさい。そうすれば与えられるであろう」<sup>13</sup>と教えられたことを子供たちは知っているでしょうか。心配していることについてひざまずいて祈るとき、主がささげられた感謝の祈り<sup>14</sup>や御父への嘆願の祈り<sup>15</sup>が子供たちの脳裏に映るでしょうか。

イエスが子供を愛しておられることや、

主が子供たちを腕に抱いて彼らのために祈り、涙を流された様子<sup>16</sup>を子供たちに話したことがあるでしょうか。子供たちはイエスが「両腕を広げて〔彼らを〕受け入れようとして」<sup>17</sup>おられることを知っているでしょうか。

断食の律法について教えるとき、彼らはイエスが断食された話<sup>18</sup>から力を得ているでしょうか。

子供たちは寂しいときに、友に去られた救い主が弟子たちに「あなたがたも去ろうとするのか」<sup>19</sup>と尋ねながらお感じになった孤独を悟るでしょうか。

子供たちは救い主の奇跡の力を感じたことがあるでしょうか。イエスは重い皮膚病にかかった人を癒し、<sup>20</sup>盲人の目を開けられました。<sup>21</sup> 5,000人の人に食物を与え、<sup>22</sup> 海を静め、<sup>23</sup> ラザロを死からよみがえらせられました。<sup>24</sup> 子供たちは、「奇跡が行われるのは信仰による」<sup>25</sup>ことを信じていて、自分の生活に奇跡が起こるよう祈っているでしょうか。

子供たちは、救い主が会堂司におっしゃった「恐れることはない。ただ信じなさい」<sup>26</sup>という言葉から勇気を得ているでしょうか。

子供たちは主の完全な生涯と、<sup>27</sup> 無私の奉仕と、裏切りを受けられたことと、残

酷な十字架<sup>28</sup>について知っているでしょうか。イエスが復活し、<sup>29</sup> アメリカ大陸のニューファイ人を訪れ、<sup>30</sup> 聖なる森でジョセフ・スミスに御姿を現された<sup>31</sup>ことが確かであることを子供たちに証してきたでしょうか。

子供たちはすべてが正され、すべてのひざがかがみ、すべての舌がイエスはキリストであると告白する主の大いなる再臨を待ち望んでいるでしょうか。<sup>32</sup>

子供たちは「イエス様の話聞かせて」<sup>33</sup>と言っているでしょうか。

若人と子供の皆さん、皆さんが持つ重要な責任と偉大な能力にふさわしく生きてください。イエスについてもっと知ってください。聖典を開いてください。例えば、ヨハネによる福音書をもう一度読み、それについて両親や教師、友人と話し合うのもよいでしょう。

父親と母親、祖父母の皆さん、そして、自分の子供はいないけれども、愛情を込めて子供や若人を養い育てている皆さん、わたしは皆さんにイエス・キリストについてもっと頻繁に話すよう勧告します。イエスの聖なる御名には偉大な霊的な力があります。「キリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も……人の子らに救いをもたらすこと

はできない」<sup>34</sup>のです。

父親のいない家庭で子供を育てている母親の皆さんに約束します。イエス・キリストのことを話すならば、天の力の祝福を感じるでしょう。

ステラ・オークス姉妹は夫に先立たれた後、女手一つで（ダリン・H・オークス長老を含む<sup>35</sup>）3人の幼い子供たちを育てました。彼女はこう語りました。「主がわたしを愛しておられ、わたしが使命を果たせるようにして下さることを知らされました。わたしは愛に包まれるのを感じました。……そして、試練がやって来ても、主が〔支えて下さることを知っていました。〕」<sup>36</sup>

父親の皆さんに特別なお願いがあります。救い主について子供に話すという重要な役割を果たしてください。子供たちは母親の言葉とともに、父親の信仰を表す言葉による確認を必要としています。

話を聞いても子供が信じないことがあるかもしれませんが、イエスに対するあなたの証は子供たちの思いと心に残ります。間違った道を選んだアルマの話覚えていますか。アルマは信仰に立ち返ってこう言いました。

「わたしは……父がイエス・キリスト……の来臨について〔話していたのを〕思い出した。……世の罪を贖うために来

られるというのである。

心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、……わたしを憐れんでください』と叫んだ。』<sup>37</sup>

子供が耳を傾けなくても、落胆しないでください。時間と真理はあなたの味方です。時が来れば、あなたの言葉を天からの言葉のように思い出すでしょう。あなたの証が子供たちから取り去られることはないのです。

車やバスに乗っているとき、夕食のとき、ひざまずいて祈るとき、聖文学習のとき、夜遅く語り合うときにあなたが敬虔な態度で救い主について語れば、その言葉には主の御霊が宿ります。<sup>38</sup>

あなたが全力を尽くすとき、イエスに対する証は子供たちの心に少しずつはぐくまれるでしょう。彼らは謙遜な祈りを通して天の御父に近づき、聖霊の力によって御父の影響を感じるでしょう。イエス・キリストに対する個人の信仰が強くなると、子供たちは必ず直面するであろう試練に対して備えることができます。<sup>39</sup>

わたしはブリガム・ヤング大学の学生時代に、ビル・フォレストとデビー・ハッチングズに出会いました。ビルは帰還宣教師でした。ビルとデビーは恋に落ち、カリフォルニア州オークランド神殿で結婚しました。そしてアリゾナ州メサに新居を構え、5人の息子と2人の娘に恵まれたのです。ビルとデビーは主イエス・キリストを愛していて、子供たちにも主を愛するよう教えました。彼らの息子であり、現在メキシコ・オアハカ伝道部で奉仕しているダニエル・フォレスト長老はこう言っています。「わたしたちは毎朝学校に行く前に必ずテーブルに着いて聖典を読み、話し合いました。」

今では結婚して子供が2人いる娘カーラは、高校で朝早く行われる活動に父親が車で送ってくれたことを今でも鮮明に覚えています。「父は引用文や聖文、詩を暗記するのが好きでした。〔そして、このよう







に早朝に運転するときには) それらを暗唱できるように一緒に練習したものです。」父親が好きな聖句の一つはこれです。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を……送るときにも、……それが……あなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは……その岩の上に建てられて……[いる]からである。」<sup>40</sup>

2,000年の復活祭に当たる日曜日の前の金曜日、ちょうど今から10年前のことです。ビル・フォレストはアリゾナ州エステート・グローブワードのビショップを務めていました。職場に行く途中、家からほんの1マイル(1.6キロ)離れた所を運転していたときに、砂利を積んだ大型トラックが彼の車に衝突しました。デビーと子供たちはビルが出た直後に家を出て、偶然その悲惨な現場に出くわしました。ビルはその事故で亡くなりました。愛すべき夫であり父親であったビルの不滅の霊は、死を克服された神の御子である御方、その復活祭の日曜日に家族皆でその栄えある復活を祝うはずだった御方のみもとへ、突然召されたのです。

デビーと7人の子供たち(末の子はまだ5歳でした)は、どのようにして必要な

力を得たのでしょうか。父親の事故当時15歳だったカーラは、最近こんな話をしてくれました。「[父と母が救い主について]いろいろな方法で教えてくれたことに感謝しています。父と母はわたしと一緒に聖典を開き、一緒に祈り、[救い主の]慈愛と愛と忍耐を模範で示してくれました。……毎年の復活祭の時期になるとわたしは感傷的になり、救い主の生涯と使命、復活について思い巡らし、この世の父の生涯についても思い出します。」

ダニエル・フォレスト長老はこう語りました。「父が亡くなったとき、わたしは10歳でした。つらい時でしたが、……母はいつも救い主の教えの模範となってくれました。わたしは、父がスペインで伝道したときの名札を付けています。父の言葉の中でわたしが大好きなのは、『主と二人なら何でもできる』と、『救い主を土台にしなければ、しっかりと立つことはできない』の二つです。」

イエス・キリストへの信仰は、フォレスト家の子供たちの心に満ちています。この復活祭の週末、父親を亡くして10年になる子供たちの心には、深い寂しさもありますが、「死のとげはキリストにのみ込まれて」<sup>41</sup>います。彼らは、救い主の計り知れない賜物によって、この世の父と、天の御父と再び会えることを知っているのです。

イエス様の話聞かせて。

もうすぐわたしたちは神の預言者の言葉を聞きます。預言者について主は次のようにおっしゃっています。「あなたがたは……あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」<sup>42</sup> トーマス・S・モンソン大管長が地上における主の代弁者であることを証します。

イエスがキリストであり、全人類の救い主であられることを証します。イエスの生涯と贖罪、復活、待ち望まれている再臨は、太陽が昇るのと同じように確かです。とこしえに神の御名がほめたたえられますように、<sup>43</sup> イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。■

#### 注

1. トーマス・S・モンソン「変化の時代にあって変わらぬ真理」『リアホナ』2005年5月号, 19
2. トーマス・S・モンソン「勇気を持てるように」『リアホナ』2009年5月号, 123
3. トーマス・S・モンソン「義の模範」『リアホナ』2008年5月号, 65
4. トーマス・S・モンソン「閉会に当たり」『リアホナ』2009年11月号, 109
5. トーマス・S・モンソン「また逢う日まで」『リアホナ』2009年5月号, 113
6. 「イエス様の話聞かせて」『子供の歌集』36
7. アルマ1:25
8. ヨハネ14:6
9. アブラハム3:2-28 参照
10. アブラハム3:27
11. ルカ2章参照
12. ルカ2:7 参照

13. 3 ニーファイ 27 : 29
14. ルカ 10 : 21 参照
15. ルカ 11 : 2 - 4 参照
16. 3 ニーファイ 17 : 11 - 24 参照
17. モルモン 6 : 17
18. ルカ 4 : 1 - 13 参照
19. ヨハネ 6 : 67。昨年モンソン大管長は若人に  
向けて次のように語った。「皆さんは自分が  
信じるものを守るよう求められることがきつと  
あるでしょう。証がしっかりと根付いていない  
と、皆さんの信仰を疑う人々のあざけりに立ち  
向かうことは困難になります。」(Liahona,  
2009年5月号, 126)
20. マルコ 1 : 40 - 42 参照
21. ルカ 18 : 35 - 43 参照
22. マルコ 6 : 34 - 44 参照
23. マルコ 4 : 35 - 41 参照
24. ヨハネ 11 : 8 - 53 参照
25. モロナイ 7 : 37
26. マルコ 5 : 36
27. 1 ペテロ 2 : 21 - 25 参照
28. ルカ 22 : 47 - 48, 23 : 32 - 46 参照
29. ヨハネ 20 : 11 - 23 参照
30. 3 ニーファイ 11 - 26 章参照
31. ジョセフ・スミス歴史一 : 17 参照
32. 教義と聖約 88 : 104 参照
33. 「イエス様の話聞かせて」『子供の歌集』 36
34. モーサヤ 3 : 17
35. ダリン・H・オークス長老はかつてこのように  
述べた。「わたしは子供のころ、夜の時間は  
ほとんど読書で過ごしました。お気に入り  
は『ハルバートの聖書物語』でした。それは  
……聖書の中から168の話を探り上げていま  
した。わたしはその本の物語が好きで、何度  
も読みました。」「(『聖書の物語と個人的な守  
り』『聖徒の道』1993年1月号, 43)
36. ステラ・オークス, "Thy Will Be Done," レオ  
ン・R・ハーツホーン編, *Remarkable Stories  
from the Lives of Latter-day Saint  
Women*, 全2巻(1973-1975年), 第2巻,  
184
37. アルマ 36 : 17 - 18
38. 今日の世界ではこれまで以上に、子供たちが  
自分の親について語る言葉が、エノスが自分  
の父親について語った言葉のようになる必要  
がある。「永遠の命……について語るのを  
度々聞いていたのだが、その父の言葉が、その  
ときになってわたしの心に深くしみ込んできた。  
すると、わたしの霊は飢えを感じた。それで、  
わたしは造り主の前にひざまずいた。」(エ  
ノス 1 : 3 - 4)
39. モンソン大管長は若人にこう約束した。「証  
がしっかりと根付くと、福音や、救い主、天の御  
父についての証が、皆さんが人生の中で行う  
すべての行動に影響を及ぼします。……絶え  
ず養いを与えるなら、証が皆さんを安全に  
守ってくれるのです。」(Liahona, 2009年  
5月号, 126)
40. ヒラマン 5 : 12
41. モーサヤ 16 : 8
42. 教義と聖約 21 : 5
43. アルマ 26 : 12 参照



トーマス・S・モンソン大管長

## 閉会に当たり

目を向ければすぐに分かる、決して消えることのない光が、主の  
灯台から放たれているのです。

すばらしい最終部会でした。今日  
わたしたちが聞いたような、非  
常に少ない言葉であのようにす  
ばらしい説教がなされたことは、わたしの  
経験ではそう多くありません。わたしたち  
は皆、主を愛しているのでここにいます。  
主に仕えたいと願っています。わたした  
ちの天の御父は、わたしたちのことを気に  
かけておられます。わたしはそのことを  
証あかしします。わたしはすべての事柄の中に  
主の御手みでを感じています。

短い聖句を一つ紹介します。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知  
識にたよってはならない。

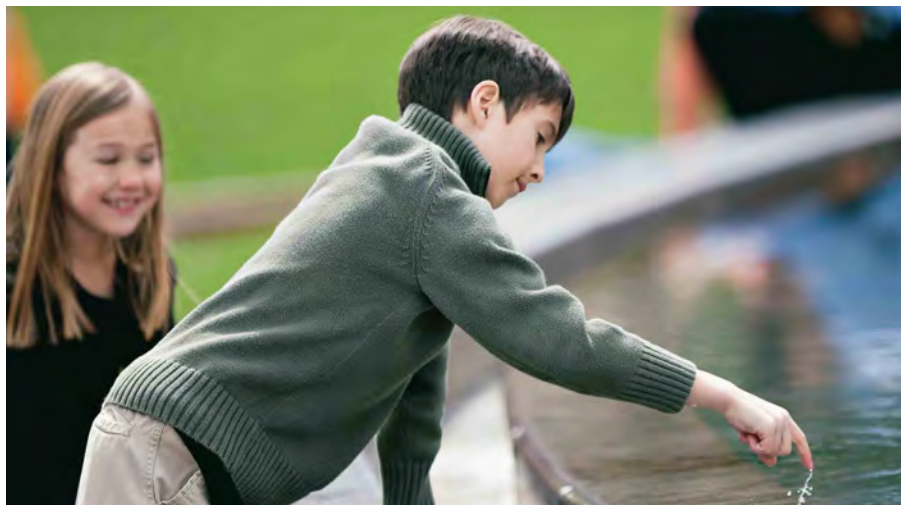
すべての道で主を認めよ、そうすれば、

主はあなたの道をまっすぐにされる。」<sup>1</sup>

この聖句はわたしの生涯を物語ってい  
ます。

愛する兄弟姉妹、心を高め、靈感を与え  
てくれたすばらしい大会も終わりを迎えま  
した。話者の勧告と証を聞いた皆さんが  
豊かに祝福され、イエス・キリストの福音  
の原則に従って生きるという決意をさらに  
強くすることができたと信じています。わ  
たしたちがここにいるのはすばらしいこと  
です。話者の一人一人に、また祈りをささ  
げてくれた人たちに感謝します。

音楽もすばらしいものでした。教義と  
聖約にある次の聖句を思い出しました。  
「わたしは心の歌を喜ぶからである。まこ





とに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭<sup>こうべ</sup>に祝福が注がれるであろう。」<sup>2</sup>

この大会で聞いた話は、『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』の5月号に掲載されます。メッセージを研究し、その教えについて深く考え、皆さんの生活に役立つよう心から願います。

皆さんとともに、この大会で解任となった兄弟姉妹に感謝の気持ちを伝えます。彼らはすばらしい奉仕をし、主の業に多大な貢献をしてくれました。すべてをささげてくれました。心の底から感謝します。

またこの大会で、わたしたちは手を挙げて、新しい責任に召された兄弟姉妹を支持しました。わたしたちは、主の大義<sup>こうべ</sup>にあつてもともに仕えることを楽しみにしています。

兄弟姉妹の皆さん、今日<sup>こんにち</sup>の世界を見渡せば、わたしたちが深刻で非常に重要な問題に直面していることが分かります。世界は安全という停泊地から離れ、平安という港から遠ざかっているかのようです。

放任、不道徳、ポルノグラフィ、不正直、そのほか多くの悪事のせいで、たくさんの人が罪という海に投げ出され、ぎざぎざした岩礁に打ちつけられています。機会を

失い、祝福が取り去られ、夢がついていないのです。

すべての人に勧めます。主の灯台に頼ってください。霧がどれほど濃くても、夜がどれほど暗くても、風がどれほど強くても、主の灯台の明かりによって救えない船乗りはいないのです。人生の嵐<sup>あらし</sup>に遭うわたしたちを主は呼んでおられます。目を向ければすぐに分かる、決して消えることのない光が、主の灯台から放たれているのです。

わたしは詩篇のこの言葉が好きです。「主はわが岩、わが城、わたしを救う者、わが神、わが寄り頼む岩、……です。わたしは……主に呼ばわって、わたしの敵から救われるのです。」<sup>3</sup>

兄弟姉妹、主はわたしたちを愛しておられます。呼び求めるときに、主は祝福してくださいませ。

イエス・キリストの回復された福音と、福音が人生にもたらすすべての良いことに心から感謝しましょう。主はわたしたち全員に、一つの民として祝福を注いでくれました。わたしは皆さんに、この業が真実であること、救い主が生きておられること、救い主が地上にある御自身の教会を導いておられることを証します。この大会の

最後に当たり、わたしは心満たされた、穏やかな気持ちです。皆さんに愛と感謝を伝えます。皆さんがわたしのために、また教会のすべての中央幹部のために祈ってくれることを感謝します。主は皆さんの祈りを聞いてわたしたちを祝福し、この地上における主の王国にかかわることを導いておられます。そのことに深く感謝しています。

大会を終えるに当たり、皆さん一人一人に天の祝福を祈ります。世界中のあちこちで家路に就く皆さんと皆さんの家族に、天の御父の祝福があるよう祈ります。この大会のメッセージと精神を、家庭、職場、集会、活動、そしてすべての行動に当てはめることができますように。

皆さんを愛しています。皆さんのために祈っています。神の祝福がありますように。約束された神の平安が今もいつまでも皆さんとともにありますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。■

#### 注

1. 箴言 3:5-6
2. 教義と聖約 25:12
3. 詩篇 18:2-3



中央若い女性会長会第二顧問  
アン・M・ディブ

## 雄々しくあれ

ヨシュア書の中にある指針……は組み合わせさせて、天のお父様とその御子イエス・キリストへの信仰、すなわち勇氣と強さをもたらし最も大きな力の源となるのです。

**中** 央幹部が総大会で神権を持つ兄弟たちに話をするとき、力強い神権指導者の「強大な一軍」に向かって話しているように感じる、と言って始めるのを何度も聞いたことがあります。今晚、わたしは選ばれた神の娘たちの「強大な一軍」の前に立っているように感じます。皆さんは勇敢な神権者とともに立ち、この末日に義にあって前進するよう選ばれているのです。堂々としていて麗しい光景です。

この夕べを始めるに当たり、わたしたちのテーマ聖句の歴史的背景を簡単に確認したいと思います。ヨシュア記第1章9節です。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」

モーセは、奴隷にされ、偶像礼拝を強いられていたイスラエルの子らをエジプトの地から導き出した偉大な預言者でした。荒れ野での40年もの苦難の末、イスラエルの子らは自由を手に入れてまことの生ける神を礼拝できる、新しい生活の地の間近までたどり着きました。モーセの死後、この奇跡の旅を最後まで続ける預言者として、ヨシュアが神によって召されました。

ヨシュアは影響力のある指導者でした。聖書辞典(Bible Dictionary)には、ヨシュ

アが「信心深い戦士の最もすばらしい例」とであると記されています。またその名前の意味は「神は救い」とであると記されています(Bible Dictionary, “Joshua”の項)。ヨシュアの靈感に満ちた指導力は大いに必要とされていました。主がイスラエルの子らに約束されたすべてのことが実現し、成し遂げられるためには、まだ多くの川を渡り、多くの戦いに勝たなければならなかったからです。

この間に、預言者ヨシュアとイスラエルの子らが非常に勇氣を必要とすることを主は御存じでした。ヨシュア記第1章の中で、主はヨシュアに「強く、また雄々しくあれ」と度々言っておられます。雄々しさ、

つまり「勇氣」という言葉は、「精神的、道徳的な強さを指し、たゆまず<sup>こんじち</sup>励み、危険や恐れ、困難に耐える精神的、道徳的な強さ」と定義されています(Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第11版〔2003年〕, “courage”の項。強調付加)。ヨシュアとイスラエルの子らは勇氣と従順さによって約束の地に足を踏み入れ、主の祝福の中で幸福を得ることができました。

ヨシュアとイスラエルの子らは大昔に生きた人々たちです。しかし今日、わたしたちも「約束の地」に入れるよう懸命に努力しています。わたしたちの最大の目標は、永遠の命を得て天のお父様とともに住むことです。ヨシュア記の第1章の中に、わたしたちが障害を乗り越え、旅を最後まで続け、「約束の地」で主から祝福を受けるための4つの信頼できる指針を見つけることができます。

1つ目に、第5節の中で主はヨシュアに「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない」と言っておられます。主がいつもともにいて、わたしたちを決して独りにしておくことはなさらないというこの約束から、勇氣と強さを得ることができます。わたしたちは天のお父様が御自分の子供たちを一人一人御存じで、愛しておられることを教えられています。天のお父様の大切な娘として、皆さんは祈りの力を通して天のお父様の約束と導きを受ける



ことができます。教義と聖約にはこう書いてあります。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約 112:10)

わたしはこの言葉を信じています。そして天のお父様がわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださることを約束します。しかし多くの場合、「主を待ち望 [んで]」いるときには、忍耐する必要があります(イザヤ 40:31)。答えを待っているうちに、見捨てられたとか、祈りが聞き届けられなかった、あるいは、祈りの答えを受けるにふさわしくないのではないかと思始めるかもしれません。それは間違っています。ダビデ王の言葉は励みとなります。「わたしは耐え忍んで主を待ち望んだ。主は耳を傾けて、わたしの叫びを聞かれた。」(詩篇 40:1)

ヨシュア記にある第1の指針は、わたしたちがそれぞれ自分の旅の中でどんなことがあるとしても、祈り、忍耐し、「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない」という主の約束を心に留めておくことを思い起こさせてくれます(ヨシュア 1:5)。

2つ目の指針は7節の中にあります。主はヨシュアにこう言っておられます。「……律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。」主はヨシュアに厳密に戒めに従うように、また主の道から外れることのないようにお教えになりました。ハワード・W・ハンター大管長はこう教えました。「ヨシュアは主に従順であれば、万事首尾よく事が運ぶことを知っていました。どのような経過でそうなるのかは、はっきりとは分かりませんでした。今や、必ずそうなるという確信を持つことができましたのでした。……〔聖典に見られる〕偉大な預言者の経験が記録され、残されたのは、厳密に従う道を選ぶ重要性をわたしたちが理解できるようにするためだけに違いないのです。」(ハワード・W・ハ



ンター「決意の時は今」『聖徒の道』1983年1月号, 101, 103 参照)

1か月前にわたしはある若い女性のグループを訪問しました。年上の女の子たちに、様々な状況において忠実で徳高くあることについて、新しくビーハイブになった子にどんなアドバイスをするか聞いてみました。一人の若い女性はこう言いました。「学校の廊下を歩いていると、もしかしたら何か気を引くもの、あまり正しいとは思わないようなものが目の隅に入ってくるかもしれません。好奇心をそそられ、見たいと思うかもしれません。でも見ないでください。これがわたしのアドバイスです。見てしまったら絶対に後悔します。ほんとうです。ただまっすぐ前を見ていてください。」

この若い女性の話聞きながら、それが「右にも左にも曲ってはならない」というヨシュアに対する主のアドバイスであり、この末日の日常的な状況に当てはめられたものだと分かりました(ヨシュア 1:7)。若い女性の皆さん、厳密に戒めに従い、周りにある誘惑を避けてください。永遠の

目標をまっすぐ見ていてください。2つ目の指針は、これを行うことによって皆さんが守られ、「すべて……行くところで、勝利を得る」ことを思い起こさせてくれます(ヨシュア 1:7)。

第8節には、3つ目の指針があります。ここで主は「律法の書」について語り、ヨシュアにこう言われました。「昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、……あなたは勝利を得るであろう。」主はヨシュアに、そしてわたしたち全員に聖文を読むようにお教えになっています。日々の聖文研究、特にモルモン書を読むことは、イエス・キリストとその福音に対する証<sup>あかし</sup>を得るためのしっかりとした基盤を作ります。そして生活の中に御霊を招きます。ハロルド・B・リー大管長はこう勧告しています。「もし毎日聖文を読んでいないとしたら、わたしたちの証は次第にやせ細り、霊性が深まることもありません。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』70)

聖文の中には数え切れないほどの指示



チリ・サンティアゴ

や約束、解決策、警告があり、わたしたちが「約束の地」へ向かう旅路において助けとなります。3つ目の指針は、わたしたちが毎日聖文を読んで深く考えるように導き、勝利と成功を収められるようにしてくれます。

主がヨシュアに語り終えられた後、ヨシュアはイスラエルの子らに向かって話をしました。話の終わりに、イスラエルの子らは第16節の中でヨシュアの言葉に答え、わたしたちに4つ目の指針を与えています。彼らはこう答えます。「あなたがわれわれに命じられたことをみな行います。あなたがつかわされる所へは、どこへでも行きます。」

わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、それと同じ決意、つまり今晚わたしたちと一緒にいる預言者トーマス・S・モンソン大管長に従うことを決意する機会があります。祈りと聖霊の確認を通して、わたしたちは皆、生ける預言者に対する自分自身の証を得ることができます。この証は、預言者の教えに耳を傾け、それを守り、日々の生活に当てはめる勇気を持つことによって強められます。

預言者の勧告に耳を傾け、それに従っていただければ、わたしたちは特別な祝福を得ることができます。前回の総大会でモンソン大管長が語った預言者の約束の幾つかをよく聞いてください。「神が皆さんを祝福して下さいますように。主の約束された平安が常に皆さんとともにありますように。」(「閉会に当たり」『リアホナ』2009

年11月号, 110)「わたしたちが……忠実〔でいる〕ならば、大いなる約束が待ち受けています。」「(「心を抑えよ、兄弟たちよ」『リアホナ』2009年11月号, 69)「天の祝福が皆さん一人一人のうえにあるよう祈ります。」(『リアホナ』2009年11月号, 109)

来週の総大会で、わたしたちの預言者や十二使徒を通して与えられる教えや約束に耳を傾けることを勧めます。それから預言者の勧告に従うことを決意し、「〔預言者が〕われわれに命じられたことをみな行い……〔預言者〕がつかわされる所へは、どこへでも行〔く〕」ことを再確認することによって4つ目の指針に従ってください(ヨシュア1:16)。

この4つの指針、すなわち祈り、神の戒めに対する従順さ、日々の聖文研究、そして生ける預言者に従うという決意は、今のところ小さな、簡単なことだと思えるかもしれせん。ここでアルマ書にある聖句を思い出してみよう。「見よ、わたしはあなたに言う。小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」(アルマ37:6)ヨシュア記の中にあるこの4つの「小さな、簡単な」指針を日々の生活に当てはめるとき、それらは組み合わさって、天のお父様とその御子イエス・キリストへの信仰、すなわち勇気と強さをもたらし最も大きな力の源となるのです。

天のお父様はわたしたちそれぞれの旅が簡単なものではないことを御存じです。わたしたちは毎日、勇気と強さを必要とする状況に遭います。最近の『チャーチ

ニュース』(Church News)の中に、そのことを確信する話がありました。

「数か月前、一人の高校教師が授業の初めに、ある政治問題に賛成する人を教室の片側に立たせ、反対する人をもう片方の側に立たせました。

生徒が両側に分かれると、教師は反対する人の方に加わりました。そして、賛成側から一人の若い女性を選び、その生徒やほかのクラスメートの意見に非難を浴びせ始めました。

ワードのマイアメイドであったその若い女性は、自分の意見を批判する攻撃に耐えました。

人前で権威者の非難に遭いながらも、「彼女は依然として」穏やかだったのです。」(“What youth need,” Church News, 2010年3月6日付, 16)

この若い女性は、自分の戦いの場ですばらしい勇気を示しました。この日、戦場は学校の教室でした。わたしは皆さんがどこにいても、どんなことがあろうとも、ヨシュア記にある指針を生かして、主の次の約束を信じることができるよう望んでいます。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主と共におられるゆえ、恐れてはならない、おのいてはならない。」(ヨシュア1:9)

天のお父様が皆さん一人一人を御存じで、愛してくださっていることを証します。皆さんが主に頼るとき、主は皆さんをお見捨てになることはないのです。主はわたしたちがみもとに帰る旅を最後まで続けられるように、必要な強さと勇気を祝福して下さいます。わたしは聖文と、預言者ヨシュアのような力強い模範に感謝しています。また、わたしたちが天のお父様のみもとへ無事に帰れるように懸命に導いているモンソン大管長に感謝しています。わたしたち皆が、イスラエルの子らのように「約束の地」に入り、主の祝福の中で安らぎを得られるように祈っています。このことをイエス・キリストの御名により話します、アーメン。■



中央若い女性会長会第一顧問  
メアリー・N・クック

# 決して、決して、決して、 あきらめないで!

主は皆さんに何を望んでおられるでしょうか。主は皆さんに雄々しく徳高い神の娘となるよう、神殿の祝福を受け……るにふさわしくなるため日々献身するよう望んでおられます。

**昨**年の8月、わたしたちは孫たちを連れて、ティンパノガス洞窟国立公園へ行きました。そこはユタ州で最も多くの人を訪れる場所の一つです。その洞窟にたどり着くには、1.5マイル（2.4キロ）の厳しいハイキングが必要ですが、美しいらせん形の鍾乳石しょうにゅうせきを見れば、努力は十分に報われます。9歳のルーシーについては、ほとんど問題はないだろうと思いましたが、6歳のキャロラインについては、歩き通すだけの気力と体力があるかどうか心配でした。

最初のうちは皆わくわくして、舗装された小道を軽い足取りで進んでいました。4分の1地点にはすぐに来ましたが、中間地点までは時間がかかりました。キャロラインは元気がなくなってきました。ルーシーは大丈夫で、キャロラインを励ましてくれました。わたしたちはキャロラインのために、歩くペースを落としました。その辺りから、すべてが悪い方へ向かうように思えました。強風が吹いて、土ぼこりが視界を遮りました。少し不安でした、そしてこれでもかと言わんばかりに「ガラガラヘビ生息地。遊歩道から出るな」という標識に行き当たりました。

重い足取りでようやく4分の3地点ま

で来ましたが、まだいちばん急な坂が残っています。疲れ果て、不安になり、限界を感じたキャロラインは、その場に座り込んで、泣きながら言いました。「もうだめ。これ以上歩けない。」

皆で座り、どうしたらよいか話し合いました。一つの計画を立てました。歩数を数えて、100歩歩く度に気分はどうか確認するのです。ルーシーとわたしは、キャロラインに「必ず助けるから」と言いました。また、歩きながら何か楽しいものを探して、見つけたら教え合うことにしました。さらに初等協会の歌も歌いました。

状況が変わりました。キャロラインはその計画に従うことを選びました。100歩ずつなら、途方もない距離も可能に思えます。キャロラインは助けてもらえることを理解しました。そして、楽しいものを探したり、歌ったりしているうちに、わたしたちはもっと楽しい気持ちになりました。

皆さんは、自力ではどうしようもないような問題に直面したとき、不安や落胆を感じたことはありますか。あきらめたいと思ったことはありますか。

偉大な預言者モーセの後継者として、イスラエルの民を約束の地へ導いて行くことになったときのヨシュアの気持ちを想像してみましょう。あきらめたいと思ったこともあったでしょう。でも、主は、強く、また雄々しくあれと3度言ってヨシュアを力づけられました（ヨシュア1:6-9参照）。神がともにいてくださるという信仰をもって、イスラエルの民はこう約束します。「あなたがわれわれに命じられたことをみな行います。」（ヨシュア1:16）

たとえ不可能な任務に思えても、またあきらめても仕方ないと思われるようなときでも、主が命じられることなら何でも行おうとして大きな勇気を示した男女の物語が聖典にはたくさんあります。

主は皆さんに何を望んでおられるでしょうか。主は皆さんに雄々しく徳高い神の娘となるよう、神殿の祝福を受けて



神のみもとに戻るにふさわしくなるため日々献身するよう望んでおられます。今の世の中でそのように生きるには勇気が要ります。皆さんにはそれを可能にする救いの計画が与えられています。選ぶ力、つまり道徳的な選択の自由は、この計画に不可欠です。皆さんはすでに良い選びをしています。肉体を得て自分自身の忠実さを証明するために地上に来ることを、生まれる前に選びました。永遠の命への道に必要な第一の儀式であるバプテスマを受けることを選びました。皆さんは今、死すべき生涯を経験しながら、日々、選び、学び、成長しています。神聖な聖約を交わし、神殿の儀式を受けることは、この計画におけるもう一つの重要なステップです。

若い女性の皆さん、年齢が上がるごとにその道は急になるので、あきらめなくなるかもしれません。人生はもっと難しくなり、どの曲がり角にも決定や誘惑が待ち構えています。サタンは混乱という風を送り、皆さんが進みたいと思っている道に疑念を抱かせます。また、危険と書かれた標識を目にしたとしても、その危険な道を進むよう誘惑されるかもしれません。限界を感じ、ある若い女性のように「今の世の中で徳高くあるなんて、ほんとうにできるのかしら」と疑問に思うかもしれません。若い友人の皆さん、答えは「できます!」です。そして、皆さんへのわたしの勧告は、第二次世界大戦時のウィンストン・チャーチルの言葉と似ています。「決して、決して、決して、あきらめないで!」(“Never Give In” [speech, Harrow School, London, England, 1941年10月29日] 参照)

大変勇気が要るでしょうが、皆さんには主の計画があります! 計画に従い、雄々しく徳高い神の娘になるために何が助けになるのでしょうか。第1に、一歩ずつ証を強めることです。第2に、天の御父やイエス・キリスト、皆さんの家族やほかの人など、計画に従うという皆さんの決意を支えようとする人に助けを求めることです。最

後に、聖霊を伴<sup>はかりよ</sup>にできるようなふさわしい生活を送ることで。

強い証を得ることの重要性について、トーマス・S・モンソン大管長は、若い女性に次のように約束しています。「絶えず養いを与えるなら、証が皆さんを安全に守ってくれるのです。」(“May You Have Courage,” *Liahona*, 2009年5月号, 126)

皆さんの証は「自分自身の経験を通して次第に強くなるものです。」「一度に完全な証を得る人はいません。」(『真理を守る——福音の参考資料』4)あの山の最も急な坂を登るために、わたしたちが一歩ずつ進んだことを思い出してください。証を得るには、一歩ずつ証を養う必要があります。「[皆さんの証は] 戒めを守ろうと決心するときに……強くなります。ほかの人々を引き上げ、強めるときに、証はとどまることなく強められます。」祈る、聖文を研究する、戒めを守る、人に奉仕するといった個人の習慣を確立するとき、皆さんは「祝福として靈感を受ける瞬間を経験し、自分の証を[強める]ことができます」(『真理を守る』4 参照)。

「成長するわたし」は、皆さんの証を一歩ずつ養うすばらしい方法です。特質の体験とプロジェクトを通してイエス・キリストの教えを学び、生活に当てはめていくことにより、主に対する皆さんの証は徐々に養われていきます。このように絶えず養えば、皆さんは道をそれずに安全に進めるのです。



次に、自分の強さと支えを増すために、ほかの人に助けを求めましょう。まず祈りを通して天の御父に頼ってください。皆さんは御父の娘です。御父は皆さんを御存じで、愛しておられます。御父は皆さんの祈りを聞き、こたえてくださいます。わたしたちは聖文の中で「常に祈 [らなければならぬ]」と何度も教えられています(例えば、教義と聖約 90:24 参照)。祈るなら、主はヨシアのときのように、必ず皆さんとともにいてくださるのです。

計画に従い、御父のみもとに戻るには、わたしたちは皆、救い主の助けが必要です。皆さんは間違ったことをしたり、違う道を降り始めたりしているかもしれません。「救い主はあなたを愛し、あなたのために御自身の命をささげてくださいました。そのおかげであなたは悔い改めることができます。……救い主の贖<sup>あがな</sup>いの犠牲のおかげで、あなたは罪の赦<sup>ゆる</sup>しを受けられるようになりました。」(『若い女性「成長するわたし」』[小冊子] 71 参照)「悔い改めが早ければ早いほど、赦しによって得られる祝福も早くあなたのものとなるでしょう。」(『若人の強さのために』30)

悔い改めに必要なことは何でも行くと、今決意してください。「毎週聖餐をふさわしい状態で受けるとともに、霊的な力がもたらされるような徳高い活動で生活を満たすという決心をしてください。このようにするとき、誘惑に抵抗し、戒めを守り、もっとイエス・キリストのようになる力を増し加えることができます。」(『若い女性——成長するわたし』71)

末日の預言者たちも、皆さんを助けるために地上にいます。預言者は現代のために語ります。預言者の言葉に注意してください。その言葉は危険を知らせ、安全に進むための標識となります。皆さんにとって特に必要な標識は『若人の強さのために』の中にあります。「従おう、預言者は主の道を知っている。」(『子供の歌集』「預言者にしたがおう」58)

この計画の大きな祝福の一つは、わた





したちが家族に組織されているということです。皆さんには、優れた知恵と経験を持つ親がいて、皆さんが神の娘としての可能性に到達できるよう助けてくれるでしょう。親を信頼してください。彼らは皆さんにとって最善を願っているのです。

母親、祖母、そして、強い証を持つ義になかったそのほかの女性たちから学んでください。この計画の中の母親の役割は、養育者となることです。母親である皆さんは、だれよりも自分の娘を愛しています。皆さんは娘にとって最高の指導者、助言者、模範です。ぜひ娘たちと一緒に「成長するわたし」に取り組んでください。わたしが徳の特質を母とともに取り組んだときにそうだったように、母と娘との関係は強まり、互いの愛と支えと励ましによって両者ともに祝福されるでしょう。

若い女性の皆さん、この計画に従うという義になかった決意を支えてくれる良い友達を選んでください。ルーシーがキャロラインを励ましたように、皆さんの多くは、互いに強め合うことができます。「若い女性表彰」を受けた人は、今度は「お姉さん」として働く番です。「オナー・ビー」(「名誉のミツバチ」)を獲得するために努めるとき、ほかの若い女性が「成長するわたし」を行うのを助けると、義になかった模

範と証によって彼女を強める機会を得ることになります。

最後に、聖霊を伴侶とできるようにふさわしく生活してください。キャロラインを励まし、周囲の楽しいものを探し、初等協会の歌を歌っていたとき、わたしたちは御霊を招いていました。愛と喜びと平安という御霊の実を味わっていたのです(ガラテヤ5:22参照)。サタンが疑いという風で皆さんを惑わせようとするとき、ほかの道へ進むよう誘惑されたとき、信仰のために不親切に扱われたりあざけられたりするとき、皆さんはそのような平安と確信が必要になるでしょう。

聖霊のささやきに従い試練に立ち向かうことができたジュリーという若い女性の経験をお話ししましょう。ある日、旧約聖書を勉強していると、「マタイ第5章を読みなさい。マタイ第5章を読みなさい」という思いが浮かびました。「なぜ新約聖書を読むという考えが浮かぶのだろう」と思いましたが、その促しに従って、マタイによる福音書を読むと次のように書かれていました。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。」(マタイ5:44)

その翌日、ジュリーは数人の友人からいじめられるをされ、裏切られました。最初は怒りました。でも、こう考えたのです。「わ

たしはこのために備えられたんだ。御霊がマタイによる福音書を読むように勧めてくれたのだから、友達を愛して、友達のために祈らなければ。」聖文を読むという小さな一歩が、キリストのように応じる備えをさせてくれました。この経験から、主が自分を知っておられることと、聖霊の促しによって何をなすべきか分かることを確信しました。

愛する若い女性の皆さん、ジュリーと同じように困難な状況に直面してもあきらめず、計画に従うことを選んだ若い女性に、わたしはたくさん会ってきました。皆さんがこれからも、一歩ずつ証を強めていくようにお祈りします。天の御父とイエス・キリストと預言者たちの助けを、そして計画に従う決意を支えてくれる人々の助けを求めてください。安全に導いてくださる聖霊を伴侶とできるような徳高い生活を送ってください。これらを行うならば、主がともにいてくださり、神殿と永遠の命に通じる道に皆さんがとどまれることを証します。「強く、また雄々しくあれ。」(ヨシュア1:9)そして、決して、決して、決して、あきらめないでください! イエス・キリストの御名により、アーメン。■



中央若い女性会長  
イレイン・S・ダルトン

# 自分が何者であるかを 忘れない

御霊の光を受けて輝いている若い女性、徳高くあることで自信と  
勇氣に満ちた若い女性以上に美しいものはありません。

わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し、わたしたちも天父を愛しています。<sup>1</sup> 皆さんの前に立てることを、へりくだり感謝しています。主はわたしに、皆さんが何者であり、なぜこの時代に地上にいるのかをはっきりと理解させてくださいました。主は皆さんを愛しておられます。また、皆さんが主を愛していることをわたしは知っています。それは皆さんの表情、慎み深さ、正義を選びたいという望み、高い徳と清さを保ちたいという決意から分かります。

わたしたちは多くの貴重で霊的な時間を共にしてきました。キャンプファイヤーを囲んでのキャンプ、礼拝堂、ファイヤサイドで証を述べてきました。信仰の火で温められてきました。ブラジルやユタ州バウンティフルなどで山に登り、金色の旗を掲げることで、徳高くあり、神殿に参入するふさわしさをいつも保つという心からの決意を表してきました。祈り、モルモン書を読み、毎日笑顔でいます。また母親、祖母、指導者と一緒に〈成長するわたし〉に取り組んでいます。しかも、すばらしいことはまだまだ続くのです。

この地上で生活する今、また若い女性であるという今はすばらしい時期です。わたしたちが思い描く姿は変わっていま

せん。それは神殿の神聖な聖約を交わして守り、儀式を受けるにふさわしくなることです。これがわたしたちの最高の目標です。そのためにわたしたちは、徳、つまり純潔と道徳的な清さに立ち返るよう世界の先頭に立ち続けます。これからも、助け合って「聖なる場所に立ち」<sup>2</sup>、聖霊を受けて認識し、頼るためにできることは何でも行います。

わたしたちはこれからもキリストのことを話し、キリストのことを喜び、どこに罪の救しを求めればよいかを一人一人が知るようになります。<sup>3</sup> そしてわたしたちは、周



囲の嵐がどれほど猛威を振るっても、しっかりと立ち続けるのです。なぜならわたしたちは「神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならない……。……その基の上に築くならば、倒れることなどあり得ない」<sup>4</sup> ということを知っていて、証するからです。

ヨシュアへの主の勧告は、「貴い生得権を持つ若人」<sup>5</sup> である今日の皆さんへの主の勧告です。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」<sup>6</sup> 皆さんは独りぼっちではありません。学校、友達、そして家族の中でさえ唯一の末日聖徒であったとしても、独りではありません。主の力に頼ることができるのです。ヨシュアがイスラエルの民に語ったとおりです。「あなたがたは身を清めなさい。あす、主があなたがたのうちに不思議を行われるからである。」<sup>7</sup> 徳に立ち返るようというヨシュアの呼びかけは、今日のわたしたちへの呼びかけでもあります。わたしたちは主の業を行うようどめられ備えられてきましたが、徳高い生活をすることによって強さと自信を得ないかぎり、業を行うことはできません。

皆さんは偉大な信仰を持つ若い女性です。皆さんは信仰を携えてこの世にやって来ました。アルマは、皆さんが前世で「非常に深い信仰と善い行い」<sup>8</sup> を示したと教えています。皆さんは信仰と証をもって戦い、神が提示された計画を擁護しました。皆さんは救い主を知っていたので、この計画が良いものであることと、救い主がすると言われたことを必ず行われることが分かりました。皆さんは救い主とともに立ち、この世に来る機会を切望しました。そして何をやる必要があるかを知っていました。それが難しいことを知っていましたが、神聖な使命を成し遂げられるだけでなく、重要なことができると確信していました。皆さんは「選ばれた霊」であり、「大いなる末日の業の基を据える務



めに携わるために、時満ちる時代に来るようにとどめられていた者」です。また、「神殿を建て、そこで……儀式を執行することも、その大いなる末日の業に含まれています。」<sup>9</sup>

そして今、皆さんはとどめられ備えてきた事柄を行うためにここにいます。今晚、皆さんを見ながら、ヒラマンの若い兵士たちのガールフレンドはきっと皆さんのような人たちだと思っています。サタンが皆さんの自己認識や徳にますます厳しい攻撃を加えているのも不思議ではありません。もし皆さんがおののき、落胆し、注意をそらし、引き延ばし、聖霊の導きを受けるふさわしさや、主の聖なる神殿に参入するふさわしさを失ったら、サタンは勝利してしまいます。

末日聖徒イエス・キリスト教会の若い女性の皆さん。自分が何者であるかを忘れないでください。皆さんは選ばれた民です。神の娘です。今の世代の若い女性である皆さんは、周りに合わせることで満足してはなりません。自分を示す勇気を持ち、「立って光を放ち……あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となる」必

要があるのです。<sup>10</sup> 世の中は、あなたは大切ではないと思わせようとしています。時代遅れで、世間を知らないと思わせようとしています。世の中は、「楽しみなさい」「何でもやってみなさい」「やってみて、満足を得なさい」と容赦なく、大声で呼びかけます。それとは反対に、聖霊はささやかれます。そして主は皆さんにこう勧めておられます。「徳の道を歩〔み〕」「この世のものを捨てて」「聖約を固く守りなさい。」<sup>11</sup>

わたしは以前から、フランスのルイ16世の息子の話をとても気に入っています。自分が何者であるかを知っていて揺るがなかったからです。彼は若いときに、王であった父を退位させた悪意ある人たちに誘拐ゆうかいされました。彼らはこの息子を道徳的に破滅させれば王位を継承しなくなるだろうということを知っていました。そして6か月間、この世のあらゆる不道徳なものや欲望にさらしましたが、彼は決してその圧力に屈しませんでした。捕らえた人たちは当惑し、思いつくすべてのことを行った後、なぜそれほど強い道徳的な力があるのか彼に尋ねました。彼はただこう答えました。「あなたたちの望むことを

するわけにはいかない。わたしは王になるために生まれたのだから。」<sup>12</sup>

この王の息子と同様、皆さん一人一人は王家の生得権を受け継いでいます。それぞれが神聖な受け継ぎを得ているのです。「皆さんは文字どおり天の御父の王家の娘です。」<sup>13</sup> 皆さん一人一人が女王となるために生まれたのです。

ブリガム・ヤング大学に通っていたとき、女王になることの真の意味を学びました。数人の学生と一緒に、預言者デビッド・O・マッケイ大管長に会うという、まれな機会がありました。いちばんいい服を着て、翌朝早くユタ州ハンツビルの預言者の家に向かう準備をするように言われました。わたしはこの経験を決して忘れないでしょう。大管長の家に入るとすぐに、御霊が家に満ちているのを感じました。わたしたちは居間で預言者を囲んで座りました。マッケイ大管長は白いスーツ姿で、隣にマッケイ姉妹が座っていました。預言者は一人一人に、前に来て自己紹介をするように言いました。わたしの番になると、預言者は手を差し伸べて握手をしてくれました。自分の生活と家族のこ



とを話すと、預言者はじっとわたしの目を見詰めました。

全員が話し終わりました。すると預言者はいすの背に体を預け、マッケイ姉妹の手を握って言いました。「では、若い女性の皆さん、わたしの女王を紹介しましょう。」隣に座っていたのは、エマ・レイ・マッケイ夫人です。輝くダイヤモンドをあしらった冠をかぶっているわけではなく、王座に着いていませんでしたが、わたしには彼女がまことの女王であることが分かりました。彼女の白髪は冠であり、清らかな目は宝石のように輝いていました。マッケイ大管長と姉妹は家族について、また、ともに過ごした人生について語りました。手を握り合う姿から、二人が深く愛し合っていることが分かりました。二人の顔には喜びがあふれていました。姉妹の表情には、お金では買えない美しさがありました。それは長年、最善の賜物を求め、教養を深め、研究と信仰によって知識を求めてきた結果でした。長年勤勉に働き、楽観的な姿勢、信頼、強さ、そして勇気をもって数々の試練に忠実に耐えてきた結果でした。マッケイ姉妹が夫と家族と主に対して確固とした献身と忠誠を示してきた結果だったのです。

ユタ州ハンツビルでのあの秋の日に、わたしは自分が神の子であることを思い起こしました。そして内面から輝き出る美

しさについて学びました。今わたしはそれを「深遠な美しさ」と呼んでいます。化粧でも整形手術でも作れない、買うこともできない美しさです。洗っても落ちることのない美しさです。それは霊的な魅力です。深遠な美しさは徳からわき出ます。純潔を守り、道徳的に清くあることから来る美しさです。皆さんのお母さんとおばあさんのような徳高い女性の目の中に見える美しさです。信仰と悔い改めによって、また聖約を尊ぶことによって得られる美しさなのです。

世の中は肉体の魅力ばかりを強調し、雑誌の表紙を飾る現実離れたモデルのようでなければならぬと皆さんに信じ込ませようとします。しかし主は、皆さん一人一人がそれぞれの美しさを備えていると告げられることでしょう。徳高く、純潔で、道徳的に清いとき、皆さんの目と顔には内面の美しさが輝いています。祖父はよくこう言っていました。「神とその無限の恵みに近くあるなら、口で伝える必要はない、顔に表れてくるのだから。」<sup>14</sup> 聖霊を伴侶とするにふさわしいとき、皆さんは自信にあふれ、内面の美しさが明るく輝きます。ですから、「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、……聖霊は常にあなたの伴侶と……なる」でしょう。<sup>15</sup>

わたしたちは次のことを教えられています。「聖霊の賜物は……あらゆる知的能力を活発にし、生まれながらのあらゆる情感や愛情を豊かにし、広げ、増し、清め〔る。〕……それは徳や親切、善行、優しさ、思いやり、慈愛を呼び起こす。人の美しさや外観、容貌を磨く。……」<sup>16</sup> 皆さん、これは偉大な美しさの秘訣です。わたしが預言者の家庭で見た美しさです。あの日わたしは、マッケイ姉妹の中に見た美しさこそが、ほんとうに大切な美しさであり、いつまでも消えることのない唯一の美しさであることを知りました。

アルマはわたしたち一人一人がよく考えるべき深い質問をしています。「あなたがたは……〔自分の〕顔に神の面影を受けているか。」<sup>17</sup>

最近、ある若い女性たちがオフィスを訪ねて来ました。訪問の最後に、一人の若い女性が目に涙を浮かべてこう話してくれました。「これまで自分がきれいだと思ったことはありませんでした。何のとりえもない人間だとずっと感じていました。でも今日、この部屋にある鏡の前を通ったとき、目に映ったわたしはきれいでした。」確かに彼女はきれいでした。御霊によって顔が輝いていたからです。彼女は天の御父が御覧になるように自分自身を見たのです。彼女は顔に神の面影を受けていました。それは深遠な美しさです。

若い女性の皆さん、永遠の鏡をのぞいてみてください。自分が何者であるかを忘れないでください。天の御父が御覧になるように自分自身を見てください。皆さんは選ばれた者です。高貴な生まれです。神から受け継いだものを汚さないでください。皆さんは女王となるために生まれました。神殿に入り、そこで「〔御〕父が持っておられるすべて」<sup>18</sup> を受けるにふさわしい生活をしてください。深遠な美しさを磨いてください。御霊の光を受けて輝いている若い女性、徳高くあることで自信と勇氣に満ちた若い女性以上に美しいものはありません。

皆さんは天の御父の娘であることを忘れないでください。御父は皆さんを心から愛しておられるので、生きるべき道を示し、いつか皆さんが御父のみもとに帰れるよう、御子を遣わされました。救い主に近づくなら、救い主の無限の贖罪により、悔い改め、変わり、清くなり、顔に主の面影を受けることができるということを証します。徳の旗を掲げ続けるとき、主の贖罪によって強く、勇敢になることができます。皆さんは黄金です。皆さんは旗なのです。

最後に、主の貴い娘であるわたしたち一人一人に与えられた主の御言葉を伝えます。「見よ、……あなたは、わたしが召した、選ばれた婦人である。」<sup>19</sup> 「徳の道を歩[み、]……この世のものを捨てて、……あなたが交わした聖約を固く守りなさい。……絶えずわたしの戒めを守りなさい。そうすればあなたは義の冠を受けるであろう。」<sup>20</sup> このことを、救い主イエス・キリストの聖なる御名によって証します。アーメン。■

#### 注

1. 「若い女性のテーマ」『若い女性——成長するわたし』(小冊子) 3 参照
2. 教義と聖約 87:8
3. 2 ニューファイ 25:26 参照
4. ヒラマン 5:12
5. 『賛美歌』167 番参照
6. ヨシュア 1:9
7. ヨシュア 3:5。『聖句ガイド』「聖め」の項、scriptures.lds.org〔英語〕も参照
8. アルマ 13:3
9. 教義と聖約 138:53 - 54
10. 教義と聖約 115:5
11. 教義と聖約 25:2, 10, 13
12. ボーン・J・フェザーストーン, “The King’s Son” *New Era*, 1975 年 11 月号, 35 参照
13. エズラ・タフト・ベンソン「教会の若い女性の皆さんに」『聖徒の道』1987 年 1 月号, 92 参照
14. 作者不明; イレイン・S・ダルトン「顔に表れてくる」『リアホナ』2006 年 5 月号, 109 参照
15. 教義と聖約 121:45 - 46
16. パーレー・P・プラット, *Key to the Science of Theology*, 第 10 版 (1965 年), 101. 強調付加
17. アルマ 5:14
18. 教義と聖約 84:38
19. 教義と聖約 25:3
20. 教義と聖約 25:2, 10, 13, 15

# ビデオプレゼンテーション ——わたしには目的があります

以下は 2010 年 3 月 27 日に開かれた中央若い女性集会の中で上映された映像の言葉です。

**トーマス・S・モンソン大管長**——  
「愛する若い姉妹の皆さん、世の中には絶えず問題がありますが、皆さんが直面するものの多くは、現代特有の問題です。」<sup>1</sup>

**中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン**——「常に徳を保つには、神の子供らしく生き、思いと行動のパターンを高い道徳基準に基づいたものにする必要があります。」<sup>2</sup>

**大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイ**

**リング管長**——「皆さんが愛ある神の娘であるという信仰が増すよう心から祈っています。」<sup>3</sup>

**中央若い女性会長会第一顧問 メアリー・N・クック**——「愛する若い女性の皆さんは、これまで多くの良い選びをしてきました。これから皆さんは、生涯にわたってこの道にとどまれるよう、徳の習慣を築いていかなければなりません。」<sup>4</sup>

**大管長会第二顧問 ディーター・F・ワークトドルフ管長**——「姉妹の皆さん、



御霊<sup>みたま</sup>を信頼し、御霊に頼ってください。日々の平凡な機会をとらえ、美しいもの、役立つものを創造することで、自分を取り巻く世界だけでなく、自分の内なる世界をも、より良くすることができます。」<sup>5</sup>

中央若い女性会長第二顧問 アン・M・ディブ——「今日、行おうと決めた小さくて簡単なことが、明日になれば、偉大で栄光に満ちた祝福へと大きく変わるのです。」<sup>6</sup>

中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン——「一人の義にかなった若い女性が世界を変えることができますでしょうか。『できます』と響き渡る声はその答えです。……毎日の祈り、毎日の聖文研究、毎日の従順な行い、毎日の奉仕など、毎日変わらず行う事柄によって皆さんは先に立つ者になり、模範になるのです。これらを行うなら、救い主に近づき、ますます救い主のようになることができます。」<sup>7</sup>

トーマス・S・モンソン大管長——「若い友である皆さん、強くあってください。……皆さんは何が正しく、何が間違っているかを知っています。罪がどのように偽装しようと、どんなに魅力的であろうと、〔真理を〕変えることはできません。……皆さんのいわゆる友達が明らかに間違ったことを強要しようとするなら、たとえ独り取り残されたとしても、正しいことを擁護する人となってください。」<sup>8</sup> ■

#### 注

1. トーマス・S・モンソン「勇気を持てるように」『リアホナ』2009年5月号, 127
2. イレイン・S・ダルトン「さあ、わたしたちは山の山に登ろう」『リアホナ』2009年5月号, 120
3. ヘンリー・B・アイリング「光の中を歩む」『リアホナ』2008年5月号, 125
4. メアリー・N・クック「徳高い人生——一歩ずつ」『リアホナ』2009年5月号, 117
5. ディーター・F・ワークトドルフ「幸福、わたしたちの受け継ぎ」『リアホナ』2008年11月号, 119
6. アン・M・ディブ「信者の模範になりなさい」『リアホナ』2009年5月号, 116
7. イレイン・S・ダルトン「顔に表れてくる」『リアホナ』2006年5月号, 109
8. トーマス・S・モンソン「義の模範」『リアホナ』2008年5月号, 65



大管長会第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長

## 末永い幸せ

天の御父は、永遠の命という最も大いなる賜物<sup>たまもの</sup>、機会、そして皆さん自身の「末永い幸せ」という祝福を与えようとしておられるのです。

愛 する世界中の若い姉妹の皆さん、今晚皆さんとともに過ごすことができ、うれしく、また誇りに思っています。トーマス・S・モンソン大管長と教会のすべての指導者は皆さんを愛しています。わたしたちは皆さんのために祈り、皆さんが忠実であることを喜んでいます。

長年にわたって、わたしはたくさん美しい言語に触れてきました。どの言語も魅力的ですばらしく、それぞれの良さを持っています。しかしどれほど違った言語でも、共通する部分もよく見つかります。例えば、ほとんどの言語に、魔法のような、多くを予感させてくれる、短い言葉があります。それは「昔々」という言葉です。

物語を始めるにはすばらしい言葉だと思いませんか。「昔々」の先には必ず何かが続きます。冒険や恋の物語、お姫様と王子様の物語かもしれません。勇気、希望、永遠の愛の話を開けるかもしれません。これらの物語では、親切が不親切に打ち勝ったり、善が悪に打ち勝ったりすることがほとんどです。しかし恐らく何よりもわたしが好きなのは、物語の最後のページの最後の行に「そして彼らは末永く幸せに暮らしました」という美しい言葉を目にする事です。

わたしたちは皆、自分の物語のヒーローやヒロインになり、試練を乗り越え、最高の人生を送り、最後には「末永く幸せに暮らす」ことになるのを望んではいないでしょうか。

今日、皆さんには、とても重要で、驚くほどすばらしいことに目を向けてもらいたいと願っています。若い女性の『成長するわたし』の1ページにはこうあります。「あなたは天のお父様の愛する娘であり、神聖かつ栄光に満ちた目的のためにこの特別な時代に生を受けるように備えられました。」<sup>1</sup>

姉妹の皆さん、この言葉は真実です！おとぎ話に出てくる空想ではありません！永遠の天の御父が皆さんを知り、皆さんに耳を傾け、見守り、無限の愛で愛してくださることを知るのはすばらしいことでは





ないでしょうか。事実、御父は皆さんをとて愛しておられるので、この世の人生を「昔々」で始まる貴い賜物として与えてくださいました。皆さんは、冒険、試練、偉大な機会、高貴なこと、勇気、愛といった自分だけの実話で、この人生という物語をつづっていくのです。何よりもすばらしいのは、御父が、わたしたちの理解を超える、計り知れない価値を持つ賜物を与えようとしておられることです。天の御父は、永遠の命という最も大なる賜物、機会、そして皆さん自身の「末永い幸せ」という祝福を与えようとしておられるのです。

しかし、そのような祝福は代価なしには与えられません。望みだけでは手に入らないのです。自分自身が何者であるかを理解し、この賜物にふさわしくなるためにどんな人間にならなくてはならないかを理解することによってのみ、この祝福を受けることができます。

### 試練は人生の一部です

しばらくの間、お気に入りのおとぎ話を思い出してください。物語の主人公はプリンセスかもしれませんし、農民かもしれません。人魚かもしれませんし、牛の乳を搾る女性かもしれません。支配者かもしれませんし、召し使いかもしれません。だれにも共通することが一つあります。皆、試練に打ち勝たなければならないということです。

シンデレラは意地悪な継母と姉たちの仕打ちに耐えなければなりませんでした。

長時間無理やり働かされ、笑い物にされたのです。

「美女と野獣」で、ベルは父親を助けるために恐ろしい姿をした野獣に捕らわれました。ベルは家、家族、大切にしているものすべてを犠牲にし、野獣の城で数か月を過ごしたのです。

グリム童話の「ルンベルシュティルツキン」で、貧しい粉屋は、王様に自分の娘はわらで金を紡ぐことができると請け負ってしまいます。王様はすぐに娘を連れて来させ、山のようなわらと糸車を置いた部屋に閉じ込めてしまいます。娘はわらを金に変えてくれる不思議な生き物に助けられますが、その後、その生き物の名前を当てられなければ最初の子供を取り上げられるという危機を迎えます。

3つの物語で、シンデレラも、ベルも、粉屋の娘も、「末永い幸せ」を手に入れる前に悲しみと試練を経験しなければなりませんでした。考えてみてください。誘惑、試練、悲しみという人生の暗い谷を歩かずに済んだ人が、これまで一人としていたでしょうか。

「昔々」から「末永い幸せ」に挟まれている間、皆、大きな試練を経験しなければなりませんでした。なぜわたしたちは皆、悲しみと悲劇を経験しなければならないのでしょうか。毎日が驚き、喜び、愛で満たされた幸せで平穏な人生をただ送ることはできないのでしょうか。

聖文にはこうあります。「すべての事物には反対のものがなければならない。」そ

れは、反対のものがなければ、苦いものと甘いものを識別できないからです。<sup>2</sup> マラソン選手が極限の苦しさを何時間も経ずして、ゴールテープを切る瞬間の勝利の喜びを感じることがあるでしょうか。ピアニストが来る日も来る日も努力を重ねることなく、難しいソナタをマスターする喜びを味わうことがあるでしょうか。

物語でも人生でも、試練は、ほかの方法では学べないことを教えてくれます。試練のおかげで人格を磨くことができます。ほかの方法ではそのように優れた人格を身に付けることはできません。愛に満ちた天の御父は、わたしたちを困難と試練に満ちたこの世界に送られました。それは、わたしたちが反対のものを通して、知恵を身に付け、もっと強くなり、喜びを経験できるようにするためなのです。

わたしの10代のときの経験を話しましょう。家族でドイツのフランクフルトにある教会に集っていたころのことです。

ある日曜日、宣教師が、見たことのない家族を教会に連れて来ました。お母さんと二人の美しい女の子で、宣教師はとても、とても良い働きをしているとわたしは思いました。

特に気になったのは、黒く美しい髪に、茶色の大きな目をした女の子の方でした。ハリエツトという名前で、完全な一目ぼれでした。残念ながら、その美しい女の子は、わたしを見ても何とも思わなかったようです。彼女と友達になりたいという男の子はたくさんいて、わたしは、はたして彼

女が自分を友達以上の存在として見てくれるか自信がありませんでした。それでもわたしはめげませんでした。彼女のそばにいられるよう、いろいろと方法を考えました。聖餐のパスをするときは、自分が彼女に配れる位置にいるかを確認しました。

教会で何か活動があるときは、ハリエツトの家まで自転車を走らせ、ドアのベルを鳴らしました。出て来るのはたいていハリエツトのお母さんです。出て来るといっても、実際は4階にあるアパートの台所の窓を開けて、用事は何かと聞くのです。「よかったらハリエツトを教会まで乗せて行きます」と言うと、お母さんはこう言います。「いいえ、ハリエツトは後で行くわ。でも、わたしでよければ喜んで乗るわよ。」予想外の展開になってしまうのですが、断るなんてとてもできません。

そこで、お母さんを乗せて教会に向かいます。わたしはロードレースにも出られるようなカッコいい自転車を持っていましたが、お母さんはサドルとハンドル間のパイプ、つまりわたしの目の前に横向きで座るのです。わたしは、超一流の運転手になったつもりで、ごつごつした石畳を進んで行きました。

その後も美しいハリエツトはたくさんの男の子とデートしていましたが、わたしとは何の進展もなさそうでした。

わたしはがっかりしていたでしょうか。はい。

わたしは負けを認めたでしょうか。いいえ、決してあきらめませんでした！

今思えば、大好きな女の子のお母さんと仲良くなるのは、決して悪いことではないということが分かります。

何年も後、空軍で戦闘機のパイロットとしての訓練を終えたわたしは、相変わらず彼女に好意を示し続けていました。すると現代の奇跡が起きたのです。ある日、ハリエツトはこう言いました。「ディーター、あなたこの何年かで、ずいぶん大人になったわね。」

わたしはすぐに行動に移り、数か月後に

は、一目ぼれして以来ずっと思い続けてきた女性と結婚しました。楽な道のりではありませんでした。苦しいこと、絶望することもありました。ですが、ついには喜びでいっぱいになったのです。喜びは今も続いているばかりか、さらに大きくなっています。

若い女性の皆さん、あなたはあなたの試練を経験するというを理解してください。免除される人はいません。苦しむでしょうし、誘惑を受け、間違いを犯すことでしょう。そして皆さんも、物語のヒロインが皆学んだように、困難に打ち勝つことで成長し、強くなれるということを学ぶのです。

皆さんの人生という物語がどのように進んでいくかは、試練とどう向き合うかにかかっています。試練そのものが話の筋骨きを決めるではありません。

皆さんの中には、若いにもかかわらず、すでに言い表せないほど嘆き悲しんでいる人がいます。心からの同情と愛をお伝えします。皆さんは、教会にとってどれほど大切な存在でしょう。天の御父はどれほど皆さんを愛しておられるでしょう。独りぼっちだと思えるときも、天使がそばにいます。自分の絶望の深さをだれも理解してくれないように思えるときも、救い主イエス・キリストは分かってください。救い主は、わたしたちの想像をはるかに超える苦しみを経験されました。しかも、わたしたちのために苦しまれたのです。あなたが苦しまなくて済むように苦しまれたのです。あなたは独りではありません。

重荷が背負い切れないと感じるなら、心を天の御父に向けてください。御父はあなたを支え、祝福して下さるでしょう。御父は、ジョセフ・スミスに語られたと同じことをあなたに語っておられます。「あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。」<sup>3</sup>

幸せな人生を送るためには、試練に耐

えさえすればいいというわけではありません。繰り返します。試練と誘惑にどう対処するかが、あなたの「末永い幸せ」を得られるかどうかの、きわめて大切な要素なのです。

### 正しいと分かっていることに忠実でいる

姉妹の皆さん、若い姉妹の皆さん、愛する若い姉妹の皆さん、自分で正しいと分かっていることに忠実でいてください。今日、皆さんの周りは幸せを約束するものであふれています。雑誌の広告は、この服、このシャンプー、この化粧品を買うだけで最高の幸せが保証されとうたっています。悪を受け入れる人、卑しい衝動に従う人を魅力的に映し出すメディアもあります。そのような人が成功と達成の象徴として描かれていることもしばしばです。

悪が善として、善が悪として描かれる今日、真実を知るのが難しいときもあります。ある意味で、これは赤ずきんが直面した悩みに似ています。目の前にいるのが大好きなおばあちゃんなのか、それとも危険なおオオカミなのか見分けがつかないのです。

わたしは長い間、飛行機のパイロットをしていました。世界中にある様々な場所から目的地まで大きなジェット機を安全に飛ばすことが仕事でした。ニューヨークからローマに行きたければ、東に向かって飛ばなければならぬということを、わたしは間違いなく知っています。南に向かいなさいと言う人がいたとしても、だまされることはありません。自分で分かっているのです、その人の言葉を信用することはありません。どれだけ説得されても、そのかさされても、お金を積まれても、脅されても、南に飛んで正しい目的地に着くとわたしが考えることはありません。なぜならわたしには分かっているからです。

わたしたちは皆、幸せを探しています。皆が自分の「末永い幸せ」を見つけようとしています。わたしは皆さんに真実を伝えましょう。神はそこに至る方法を知って





おられます！ 神は皆さんのために地図を用意されました。神は道を御存じです。神は皆さんの益と幸せを願う天の御父です。神は完全で純粋な父親としてのあらゆる愛をもって、皆さんが天の目的地に到達することを望んでおられます。この地図はだれでも手に入れることができます。キリストのみもとに来て、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても……神の証人になる」<sup>4</sup> よう努めるすべての人が、この地図にあるはっきりとした道順が分かります。つまり、何をすべきか、どこへ行くべきかが分かるのです。わたしたちはただ、天の御父を信頼するだけでよいのです。御父の計画に従うほど十分に御父を信頼してください。

それでも、すべての人がこの地図に従うわけではありません。従わない人は地図を見て、もっともだ、きっとこの地図は正しいと思うかもしれませんが。それでも彼らは、神が下さった道順をたどらないのです。多くの人が、どの道を進んでも「末永い幸せ」にたどり着くと信じています。中には、正しい道を知っている人が助けたり道を教えたりしようとする腹を立てる人すらいます。そのような助言は、時代遅れで、的外れで、今の生活と駆け離れていると思っっているのです。

姉妹たち、そうした人々は間違っています。

### 福音は末永い幸せへの道です

時として、なぜ教会の集会に参加するのか、いつも聖文を読み、天の御父に毎日祈ることがなぜそんなに大切なのかと思う人がいることを、わたしは理解しています。そのような疑問を持つ人に、わたしはこう言います。それらのことは、皆さんのために神が用意された道の一部です。この道を行けば、皆さんの目的地「末永い幸せ」に着けるのです。

「末永い幸せ」は、おとぎ話の中だけのものではありません。あなたにも訪れるのです！ あなたもたどり着けるのです！

しかし、そのためには天の御父の地図に沿って進まなければなりません。

姉妹の皆さん、どうかイエス・キリストの福音を心から受け入れてください！ 天の御父を、心と、勢力と、思いを尽くして愛する方法を学んでください。徳に満ち、善を愛してください。自分や周りの人から最善のものを引き出すように努力してください。

若い女性の徳質を受け入れ、それによって行動するようになってください。『若人の強さのために』にある標準を守って生活してください。これらの標準は、皆さんが自分の「末永い幸せ」にたどり着けるよう教え、導いてくれます。これらの標準に従って生きることで、皆さんは神殿で神聖な聖約を交わす備え、そしてそれぞれの状況で善の受け継ぎを確立する備えができます。誘惑や問題にかかわらず、「聖なる場所に立ち、動かされないように」<sup>5</sup> してください。将来の世代は皆さんに感謝し、人生のきわめて大切な時期にあって勇気を持ち、忠実であった皆さんの名前をたたえることをわたしは皆さんに約束します。

若い姉妹の皆さん、真理と義を守る皆さん、善を求める皆さん、バプテスマの水をくぐり、主の道を歩んでいる皆さん、天の御父は皆さんが「わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない」<sup>6</sup> と約束しておられます。皆さんは「惑わされることがない」<sup>7</sup> のです。神は皆さんを祝福し、栄えさせてくださいます。<sup>8</sup> 「地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはない……。そして、主なる神はあなたがたの前

から闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の栄光のために天を震わせるであろう。」<sup>9</sup>

姉妹の皆さん、わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんのために祈っています。強く、また雄々しくあってください。皆さんは、王国における全能の神の霊の娘なのです。皆さんは女王になるよう定められたプリンセスなのです。皆さん自身の驚くべき物語はもう始まっています。「昔々」で始まる皆さんの物語は今、進んでいるのです。

主イエス・キリストの使徒として、皆さんに祝福を残します。イエス・キリストの回復された福音にある徳質と原則を受け入れて生活するなら、「家庭と家族を強め、神聖な聖約を交わして守り、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかる備えができるようになる」<sup>10</sup> と約束します。やがて、皆さん自身の栄光ある物語の最後のページを開き、「末永く幸せに暮らしました」という祝福されたすばらしい言葉を読む日、そしてその言葉が成就したことを実感する日が来ることでしょう。このことを、イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。■

### 注

1. 『若い女性——成長するわたし』（小冊子） 1
2. 2ニーファイ 2：11、15 参照
3. 教義と聖約 121：7-8
4. モーサヤ 18：9
5. 教義と聖約 87：8
6. イザヤ 40：31
7. ジョセフ・スミス—マタイ 1：37
8. モーサヤ 2：22-24 参照
9. 教義と聖約 21：6
10. 『若い女性——成長するわたし』 3

# 大会を生活に取り入れる

以下の言葉、活動、質問を、家族で話し合ったり、独りで深く考えたりするときのきっかけとなるよう活用してみてください。

**総** 大会の説教は conference.lds.org から視聴できます。また、mormonmessages.org から過去の総大会の放送をマルチメディア引用で見ることができます。

**注**——括弧内の番号は、説教の最初のページを表しています。

## 子供向け

• だれでも家族歴史活動に参加することができます！ ラッセル・M・ネルソン長老は子供たちに家系図を書くことを提案しました (91 ページ)。両親は先祖の名前を書くのを助けることができます。

• クエンティン・L・クック長老の、津波から逃げたサモアの子

供たちに関する物語を読むか伝えましょう (83 ページ)。家族の人に、洪水が家の中に入ってきたところを想像して、ベッドまたはいすなど「安全な高台」を探してもらいましょう。わたしたちが今日直面する悪の洪水から逃れるための霊的な高台について話しましょう。

• D・トッド・クリストファーソン長老は聖書を英語に翻訳したウィリアム・ティンダルについて話しました (32 ページ)。自分たちが話さない言語の聖典から一節を読むように、年長の子供たちに頼みます。子供たちができないと

言ったら、母語で読むように伝えます。自分の母国語で



聖典を読むことの重要性について話しましょう。

• イエス・キリストに関する数多くの総大会説教の中から一つを家族で読みましょう。「イエス様の話聞かせて」(『子供の歌集』36) を歌います。紙と鉛筆またはクレヨンを渡します。好きなイエス様の物語を描くように子供たちに言います。聖典からの物語を一緒に読みましょう。

## 青少年向け

• ディーター・F・ワークドルフ管長の忍耐に関する説教を読みます (56 ページ)。忍耐について教えてくれる福音の原則や慣習は何ですか。例えば、断食や16歳になるまでデートをしないことなどを考えてみましょう。これらの、またその他の原則に忍耐強く従うことであなたと家族はどのような恩恵を受けてきましたか。

• M・ラッセル・バラード長老、ブラッドリー・D・フォスター長老、ジュリー・B・ベック姉妹、イレイン・S・ダルトン姉妹は皆、女性の神聖な性質について教えました (10, 18, 98, 120 ページ)。

もしあなたが女性であるならば、それらのお話は自分自身への感じ方にどのような影響をもたらしましたか。あなたの目的や才能について、どのようなことを学びましたか。あなたが男性であるならば、これらのメッセージがあなたの母親、姉妹、友人など、人生でかかわる女性や若い女性への見方にどのような影響を与えましたか。

• ジェフリー・R・ホランド長老はこう教えています。「テレビ番組が下品なものだったら、テレビを消してください。映画が粗野なものだったら、映画館から出てください。もし不適切な関係に発展しそうなら、そのような関係は断ち切ってください。こうした影響力の多くは……わたしたちの判断力を衰えさせ、霊性を鈍





## 総大会で引用された聖句

総大会のメッセージを研究する際、大会で最もよく引用された以下の聖句を参照するとよいでしょう。

- ヨシュア 1:9
- ヨハネ 14:6, 27; 19:30
- ガラテヤ 5:22
- 2 ニーファイ 2:11
- モーサヤ 18:9
- ヒラマン 5:12
- 教義と聖約 13:1; 19:16; 25:13
- モーセ 1:39

総大会で語られたセミナーのマスター聖句

- 創世 39:9
- ヨブ 19:25
- 箴言 3:5-6
- イザヤ 1:18; 53:4-5
- マタイ 25:40
- ヨハネ 7:17; 17:3
- 1コリント 10:13; 15:21-22
- 2 ニーファイ 2:25; 32:3
- モーサヤ 3:19
- アルマ 37:6; 41:10
- ヒラマン 5:12
- モロナイ 10:4-5
- 教義と聖約 14:7; 18:10; 19:16-19; 25:12; 76:22-23; 82:10; 84:33-38
- モーセ 1:39
- ジョセフ・スミス-歴史 1:17

総大会で語られた聖典からの物語

- ギデオンと 300 人の兵士 (パッカー会長, 6)
- アルマとコリホル (クリストファーソン長老, 32)
- アヒヤとヤラベアム (カールソン長老, 38)
- エリシャとナアマン (カールソン長老, 38)
- レーマンとレムエル (カールソン長老, 38)
- パリサイ人と収税人のたとえ (ワークトドルフ管長, 68)
- 復活祭と贖い (スコット長老, 75, モンソン大管長, 87)
- リバティエーの監獄のジョセフ・スミス (ホールストロム長老, 78)
- イエスとニーファイ人の子供たち (ラント姉妹, 81)
- 最後の晩餐 (クック長老, 83)
- イエスとその母 (フォスター長老, 98)
- マリヤとマルタ (シュワイツァー長老, 103)

くします。そして本物の悪へと導いていくのです。](44 ページ) 家族で、家庭を御霊の宿る場所にするために何ができるかを話し合います。今自分が見ている芸術、音楽、書籍、テレビゲームその他の娯楽をよく調べ、不適切なものはすべて捨て去りましょう。

### 成人向け

- トーマス・S・モンソン大管長の、ジェンソンという若い男性とその家族について語った話を家族とともに読み返します (87 ページ)。救いの計画により、わたしたちはどれだけ祝福されるかについて話します。

- L・トム・ベリー長老は自身の母親が扶助協会で教えるために準備した教材を使って自分の子供たちを教えたことを話しました (29 ページ)。教会の奉仕と家族の責任を調和させる方法を幾つか挙げてください。

- ロバート・D・ヘイルズ長老は子供や青少年と話をすることの重要性について強調しました (95 ページ)。子供と話す機会をどのように作り出すことができますか。

彼らの話に耳を傾けることから何を学びましたか。喜んで耳を傾けていることをどのように示すことができますか。子供と青少年にごく自然に証を述べるにはどのような機会を持つとよいでしょうか。例として、デビッド・A・ベドナー長老の説教を参照してください (40 ページ)。

「神への務め」と「成長するわたし」の重要性について話した話者も何人もいました (22, 54, 60, 95, 117 ページ参照)。これらのプログラムから益を得られるよう、青少年をどのように助けられるでしょうか。■

「神への務め」と「成長するわたし」の重要性について話した話者も何人もいました (22, 54, 60, 95, 117 ページ参照)。これらのプログラムから益を得られるよう、青少年をどのように助けられるでしょうか。■



# 学び, 行い, 分かち合う — 神への務めを果たす

**わ** たしたちは、神権を受けて神の御名によって行動する責任を託されています。神聖な信頼を受けています。わたしたちには多くのことが期待されているのです。……わたしたちの召しについてよく考えましょう。わたしたちの責任について思いを巡らし、主イエス・キリストに従いましょう。

トーマス・S・モンソン大管長「備えは祝福をもたらす」64

数週間前、執事になったばかりの兄弟がこの勤勉の道を歩み出すのを見ました。彼の作った図表を父親が見せてくれました。そこには礼拝堂のすべてのいすと、聖餐のパスの割り当てを受ける一人一人の執事の番号と、礼拝堂で会員に聖餐を配るときの経路が示されていました。父親とわたしは、だれかに頼まれたわけでもないのに神権の奉仕を確実に果たす計画を立てた少年のことを思っただけほほえみました。

この少年の勤勉さは、新しい『神への務め』小冊子の規範に従うものです。その規範とは、主の期待を知り、その期待にこたえる計画を立て、計画を勤勉に遂行し、その経験が自分を変えてくれたことや、人を祝福したことについて人と分かち合うというものです。

大管長会第一顧問、ヘンリー・B・アイリング管長「まったく勤勉に遂行する」60

教会の成人会員は「成長するわたし」と「神への務め」の達成条件は単にチェック項目の長いリストではないことを理解する必要があります。これらは、若い男性や若い女

性一人一人が、神殿の儀式を受け、伝道し、永遠の結婚関係を結び、昇栄を得るにふさわしくなるために、自分で定めた目標です。しかし、理解してほしいのは、若い男性や若い女性が独りでそれを達成しようとするのは、大きな損失、あるいは悲劇と言えることなのです！

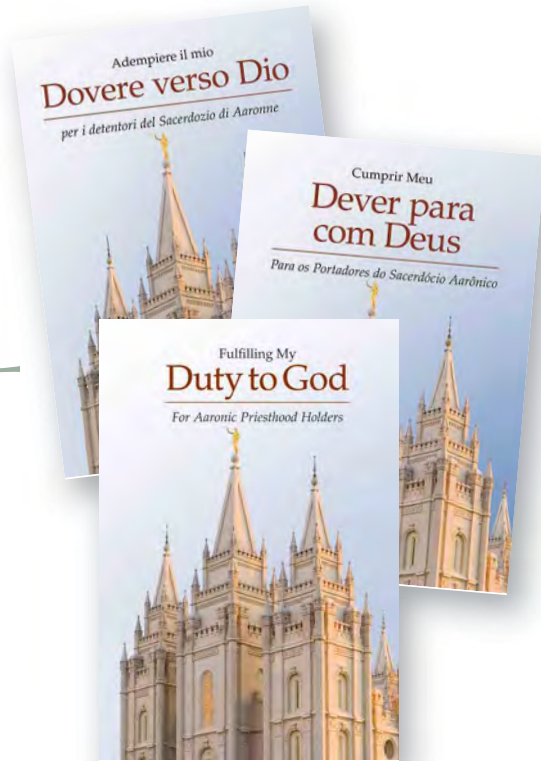
父親、母親、若人の指導者の皆さん、「成長するわたし」と「神への務め」に皆さんの子供や若人とともにぜひ取り組んでください。若人だけでなく、皆さんも成長するでしょう。同じく重要なことに、皆さんと若人は信仰と友情のきずなの中でともに成長し、互いに強め合い、福音の道にとこしえにとどまり、ほんとうに永遠の家族となることができるでしょう。

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老「神に対するわたしたちの義務 — 次の世代に対する親と指導者の使命」95

愛するアロン神権者の皆さん、皆さんがステージに立つのです。自分の務めを果たす準備ができていますか。喜んで果たそうとしていますか。主は、務めを果たすことができるすべての若い男性が、神の預言者から伝道の召しを受けるにふさわしくなるよう今晚から備え、決意を新たにしよう求めています。

七十人 ロナルド・A・ラズバンド長老「宣教師の神聖な召し」51

皆さんは執事、教師、祭司として、霊的な強さを築き、神権の義務を学び、それらを実践するための活動に参加することになります。すべての活動は、次の基本的なパターンに従います。



初めに、福音の原則または神権の義務について学びます。そこで、天の御父が皆さんに何を望んでおられるかを知り、それがなぜ大切なのか霊的な証を得られるように努力します。

次に、学んだことに基づいてどのようなことを行うかを計画します。計画は自分の必要や環境、人々に奉仕する機会などを考慮して立てることができます。これは、自分が成長するために責任を引き受け、霊的な自立を促してくれる絶好の機会となります。

それから、自分が学び、経験したことをほかの人々と分かち合います。そうすることによって自分の証を強め、周りの人たちの信仰を築くことができます。福音について人々に話す能力も向上します。

……アロン神権の奉仕を熱心に行うとき、その対象となる人々の生活が変わることを証します。神権による奉仕を必要としている人がいます。家族は皆さんを必要としています。定員会も必要としています。また、教会も、また世界も皆さんを必要としています。

中央若い男性会長 デビッド・L・ベック「すばらしいアロン神権」54

「神への務め」プログラムの情報は [DutyToGod.lds.org](http://DutyToGod.lds.org) から多くの言語で得ることができます。

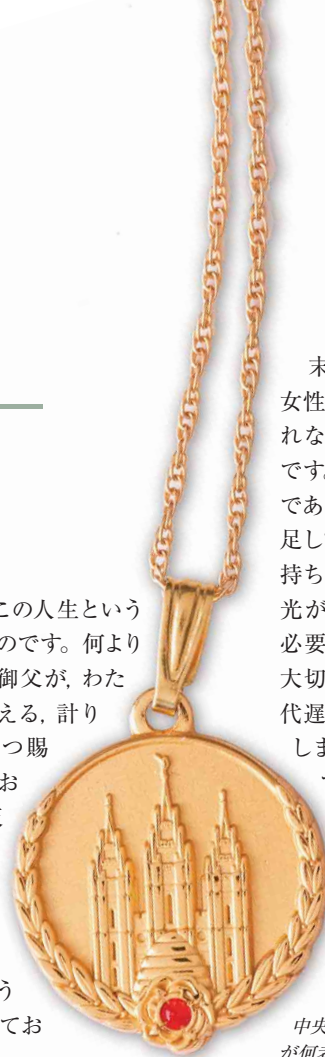
# 徳に立ち返る—— 成長するわたし

若い女性の「成長するわたし」の1ページにはこうあります。「あなたは天のお父様の愛する娘であり、神聖かつ栄光に満ちた目的のためにこの特別な時代に生を受けるように備えられました。」

姉妹の皆さん、この言葉は真実です！おとぎ話に出てくる空想ではありません！永遠の天の御父が皆さんを知り、皆さんに耳を傾け、見守り、無限の愛で愛してくださることを知るのすばらしいことではないでしょうか。事実、御父は皆さんをとても愛しておられるので、この世の人生を「昔々」で始まる<sup>たまもの</sup>貴い賜物として与えてくださいました。皆さんは、冒険、試練、偉大な機会、高貴なこと、勇気、愛といった自

分だけの実話で、この人生という物語をつづっていくのです。何よりもすばらしいのは、御父が、わたしたちの理解を超える、計り知れない価値を持つ賜物を与えようとしておられることです。天の御父は、永遠の命という最も大いなる賜物、機会、そして皆さん自身の「末永い幸せ」という祝福を与えようとしておられるのです。

大管長会第二顧問 デイター・F・ワークドルフ管長「末永い幸せ」124



末日聖徒イエス・キリスト教会の若い女性の皆さん。自分が何者であるかを忘れないでください。皆さんは選ばれた民です。神の娘です。今の世代の若い女性である皆さんは、周りに合わせることで満足してはなりません。自分を示す勇気を持ち、「立って光を放ち……あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となる」必要があるのです。世の中は、あなたは大切ではないと思わせようとしています。時代遅れで、世間を知らないと思わせようします。世の中は、「楽しみなさい」「何でもやってみなさい」「やってみて、満足を得なさい」と容赦なく、大声で呼びかけます。それとは反対に、聖霊はささやかれます。そして主は皆さんにこう勧めておられます。「徳の道歩[み]」「この世のものを捨てて」「聖約を固く守りなさい。」

中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン「自分が何者であるかを忘れない」120

「成長するわたし」は、皆さんの<sup>あかし</sup>証を一步步つ養うすばらしい方法です。特質の体験とプロジェクトを通してイエス・キリストの教えを学び、生活に当てはめていくことにより、主に対する皆さんの証は徐々に養われていきます。このように絶えず養えば、皆さんは道をそれずに安全に進めるのです。

中央若い女性会長第一顧問、メアリー・N・クック「決して、決して、決して、あきらめないで！」117

主がいつもともにいて、わたしたちを決して独りにしておくことはなさ[いません]。わたしたちは天のお父様が御自分の子供たちを一人一人御存じで、愛しておられることを教えられています。天のお父様の大切な娘として、皆さんは祈りの力を通して天のお父様の約束と導きを受けることができます。

中央若い女性会長第二顧問 アン・M・ディブ「雄々しくあれ」114



「成長するわたし」に関するさらなる情報は [PersonalProgress.lds.org](http://PersonalProgress.lds.org) を参照してください。

## 大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭のタベ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語
ボイド・K・パッカー会長	(6) ハロルド・B・リーは若い兵士に、父親に祝福をお願いするよう勧めた。パッカー会長は青年に、自分の父親から長老に聖任してもらうよう勧めた。
キース・B・マクマリン ビショップ	(13) 収容施設の看守を救った女性。
ウィルフォード・W・アンダーセン長老	(16) 癌で亡くなった父親の信仰を思い起こす娘。
ヘンリー・B・アイリング管長	(22) 10代のときに道をそれたために惨めになっている女性。アイリング家の若い息子が迷子になり、助けを求めて祈り、発見された。
L・トム・ベリー長老	(29) 子供時代のL・トム・ベリーが母親から教わったこと。
D・トッド・クリストファーソン長老	(32) ウィリアム・ティンダルは聖書を英語に翻訳したために殉教した。
青柳弘一長老	(36) 青柳長老が、自分の改宗と、教会から離れたときに受けた会員からの助けについて回想する。
ブルース・A・カールソン長老	(38) 失敗から学ばず、2年続けて飛行機を水面に衝突させた二人の釣り人。
ジェフリー・R・ホランド長老	(44) 離婚した3人の女性が、以前の夫はボルノグラフィーに苦しんでいたと語る。
ダリン・H・オクス長老	(47) 祝福を受けた女性が、もう一度祝福を受けることを断って「今度はわたしが信仰を動かせる番です」と言った。アメリカ合衆国テキサス州の少女が奇跡的に癒された。
ロナルド・A・ラズバンド長老	(51) アイリング管長は、宣教師がどこで奉仕すべきかについて啓示を受ける。
デビッド・L・ベック	(54) 若い男性が病気で家を出られない男性に聖餐を持って行くと、その男性は聖餐を敬虔な態度で受けた。
ディーター・F・ウークトドルフ管長	(56) ある教授は、マシュマロを使って4歳の子供たちの忍耐力を試した。
ヘンリー・B・アイリング管長	(60) アイリング管長は病気の友人を訪問し、祝福を施した。
トーマス・S・モンソン大管長	(64) ある学生は本のページを足でめくってカンニングをしたが、やがてその報いを受ける時が来た。モンソン大管長が宣教師にした約束が成就した。
ディーター・F・ウークトドルフ管長	(68) 人々は手のないキリスト像に「あなたは、わたしの手である」というプレートを付けた。収穫の一部分を互いに相手には内緒で与え合った二人の兄弟についてのユダヤの伝承。第二次世界大戦後、人道支援活動によって祝福を受けたドイツの聖徒たち。
ドナルド・L・ホールストロム長老	(78) 最初の子供が生まれてすぐに亡くなり、主と教会から離れてしまった若い夫婦。ホールストロム長老の両親と祖父母は大きな試練にもかかわらず忠実であり続けた。
クエンティン・L・クック長老	(83) サモアのステーキ会長が、津波から自分の娘と母親を救助した。
トーマス・S・モンソン大管長	(87) 15歳の息子を亡くした家族が、イエス・キリストへの信仰を通じて慰めを見いだした。
ロバート・D・ヘイルズ長老	(95) ヘイルズ長老の孫は、新聞を読んでいる長老の目の前に顔を近づけて「そこにいるの？」と聞いた。ヘイルズ長老の母親は、家族そろって食事をする事の大切さを教えた。娘が「成長するわたし」プログラムに取り組むのを喜んで助けている母親。
ブラッドリー・D・フォスター長老	(98) ある若い息子が父親に向かって、自分が知っていることは「お母さんから教えてもらったから」知っていると言った。
グレゴリー・A・シュワイツァー長老	(103) シュワイツァー長老は、若い医者だったときに、外見で人を判断してはならないことを学んだ。
ニール・L・アンダーセン長老	(108) イエス・キリストについて常に教えていた父親が亡くなったとき、その教えは彼の子供たちに慰めをもたらした。
アン・M・ディブ	(114) ある若い女性は、高校の教師から非難されても自分が確信していることを擁護した。
メアリー・N・クック	(117) マタイによる福音書第5章を読むようにという促しに従って祝福を受けた若い女性。
イレイン・S・ダルトン	(120) ダルトン姉妹が若いころデビッド・O・マッケイ大管長に会うと、大管長は自分の妻を自分の「女王」と紹介した。
ディーター・F・ウークトドルフ管長	(124) ウークトドルフ管長は、どのようにウークトドルフ姉妹に出会い、彼女の愛を勝ち取ったかについて語った。

# わたしたちの時代のための 教え

**メ** ルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最新の総大会特集号の説教から一つまたは複数の説教を基に準備できます。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

## 説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほか

の資料を使ってレッスンを準備したいと思うことがあるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義をあなたがどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- その意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、証<sup>あかし</sup>を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。

### 月

### 第4日曜日のレッスン教材

2010年5月— 『リアホナ』2010年5月号掲載の説教\*  
2010年10月

2010年11月— 『リアホナ』2010年11月号掲載の説教\*  
2011年4月

\*これらの説教は、[conference.lds.org](http://conference.lds.org) にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧できます。(訳注— [ldschurch.jp](http://ldschurch.jp) からアクセスできます。「福音ライブラリ」「総大会」の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには「福音ライブラリ」「リアホナ」の順にクリックし、2010年5月号のアイコンをクリックしてください。)

## 中央補助組織会長会

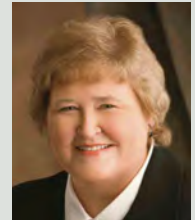
### 扶助協会



第一顧問  
シルビア・H・オールレルド



会長  
ジュリー・B・ベック

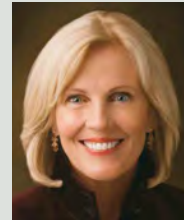


第二顧問  
バーバラ・トンプソン

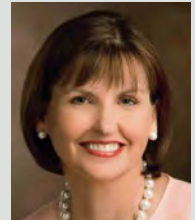
### 若い女性



第一顧問  
メアリー・N・クック



会長  
イレイン・S・ダルトン



第二顧問  
アン・M・ディブ

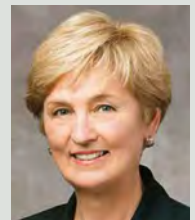
### 初等協会



第一顧問  
ジーン・A・スティーブンス



会長  
ローズマリー・M・ウィクム



第二顧問  
チェリル・A・エスプリン

### 若い男性



第一顧問  
ラリー・M・ギブソン



会長  
デビッド・L・ベック



第二顧問  
エードリアン・オチョア

### 日曜学校



第一顧問  
デビッド・M・マッコッキー



会長  
ラッセル・T・オスガソープ



第二顧問  
マシュー・O・リチャードソン

# 完成から10年を経た カンファレンスセンター

ライアン・クンツ  
教会機関誌

**カ**ンファレンスセンターはこの4月の総大会で20年目に入った。最初の10年間に、何百万もの人々がこの比類ない建物の特性を味わった。これまでに開催された総大会の部会は100を超え、イベントは4,500余り、同時にそれらにかかわる中継放送もここで行われてきた。

2000年4月1日、カンファレンスセンターで総大会の最初の部会が開かれた。そこでゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）はこのように述べた。「[カンファレンスセンター]は、この都市に新しい彩りを添えてくれるでしょう。総大会や教会のそのほかの集会在ここで開かれるだけでなく、最高水準の芸術を発

表するための文化センターとしても使用されます。教会の会員でない方もここに集い、この美しい場所の雰囲気を感じたい、この建物の恩恵に浴していただきたいと思えます。」（「全世界に証する声」『リアホナ』2000年7月号、6）

6か月後の10月8日、ヒンクレー大管長はこの建物を奉獻した。

それ以来、4,577のイベントに参加するために、ほぼ700万人がカンファレンスセンターを訪れた。約480万人が建物見学ツアーに参加し、5,500人以上の要人が訪れた。ホールおよび隣接するカンファレンスセンター・シアターで開催されたイベントには、総大会、中央若い女性集会10回、中央扶助協会集会10回、記念行

事（ヒンクレー大管長の葬儀を含む）3回、音楽演奏会125回が含まれる。それ以外に、タバナクル合唱団の「ミュージック・アンド・スポークン・ワード」がカンファレンスセンターで186回行われた。

こうした数字から、ヒンクレー大管長の言葉が徐々に成就していることが分かる。

本部施設部ディレクターのプレント・ロバーツ兄弟は、この建物で会った多くの人が、ここで感じたことへの感謝を表す姿を見てきた。ロバーツ兄弟はこう述べる。「ここへ入る人々は目に涙を浮かべ、心に御霊を感じています。心を動かすのは単なる建物ではありません。主であり、主の業、主の御霊です。」

カンファレンスセンターは1996年4月、復活祭の朝に開かれた総大会で、ヒンクレー大管長により建設が発表された。

カンファレンスセンター建設において乗り越えた建築上の問題を概観すると、この建物がいかに独特なものであるかが明らかになる。2万1,000席のホールは、ソルトレーク・シティーのメインストリートとウエストテンプルストリートの間の斜面に建設されることになった。大手の建設業者3社が建設に参加した。聴衆の視界を遮らないようにホール内は支柱のない構造としたため、1平方インチにつき250から525ポンド（1平方センチにつき17から37キログラム）の荷重を支えることができる、長さ290フィート（88メートル）の骨組みを使用しなければならなかった。この設計は屋上の造園にも適応するものであった。建築中は常時約1,000人が作業に加わった。

建築中の1999年にソルトレーク・シティーは未曾有の竜巻に襲われたが、建物は無事だった。巨大なクレーンの腕が折れたが、作業は続いた。

建物は予定どおり竣工し、センター訪問者は最新設備の恩恵に浴している。カンファレンスセンターからのテレビ中継はハ







イビジョンで放送されている。ユタ州初のハイビジョン生放送は、2000年6月にカンファレンスセンターから中継されたヒンクレイ大管長の90歳の誕生日祝賀会である。

音響技術者は内壁と天井の素材、収容人数、カーペットと緩衝材などを考慮した綿密な計算により、聴衆が話者の話も音楽も優れた音質で聴ける音響システムをホールに製作した。

ヒンクレイ大管長は、この建物は優雅な雰囲気も醸していると述べた。訪問者がそのような優雅な雰囲気を味わうことができるのは、例えば救い主の彫像と教会の歴代大管長の胸像が置かれたロビーを歩くときや、屋上の庭園で植木や草花や滝を見るときである。また、建物の最上部にある9つの天窓（演劇などの上演の際には閉じることができる）を見上げるときや、さらには、建物の至る所に飾ってある絵画（作品の多くは教会員になじみがあり、ほとんどが原画である）を鑑賞するときにも、そのような雰囲気を味わうことができる。

この巨大な建物に関する統計は群を抜いている。敷地面積は10エーカー（4ヘクタール）であり、それは市街地の1ブロックに相当する。内部に張り巡らせた電線は地球を2回りする長さである。毎分5,900ガロン（2万2,330リットル）の水が噴水と水路を循環している。

しかし、カンファレンスセンターの最大の特徴は、電線の長さでも屋根の荷重量でも、統計で表せるそのほかの値でもない。

ヒンクレイ大管長はこのように述べた。「最高の建築技術が駆使されていますが、人に見せるために建てられたものではありません。全能者をたたえ、神の永遠の目的を成し遂げるために使う建物です。」（『この偉大な千年紀の始めの年に』『リアホナ』2001年1月号, 82）■

## 新しい「神への務め」プログラムが 発表される

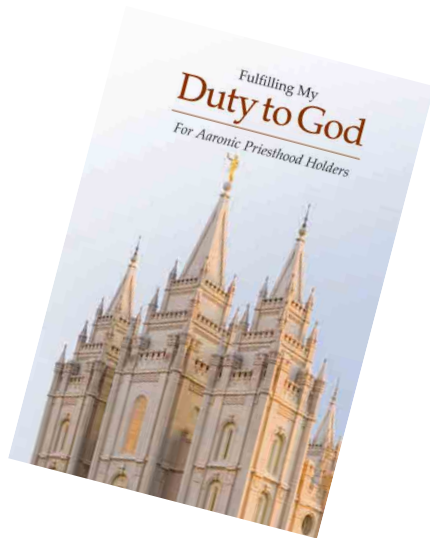
**総** 大会で発表されたとおり、この度、新しい「神への務め」プログラムができた。これは生ける預言者たちの指示によって作られたもので、若い男性が霊的な強さを築き、神権の義務を果たすのを助けるプログラムである。

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は土曜午前の部会で、新しい「神への務め」プログラムについて次のように語った。「[このプログラム]は強力なツールとなります。このプログラムは若い男性の証を強め、神との関係を強めるものとなるでしょう。彼らは神権の義務について学び、その義務を果たしたいと思うことでしょう。両親との関係、定員会会員との関係、指導者との関係を強化することでしょう。」

新しい「神への務め」プログラムは簡潔になり、焦点が絞られたものとなっている。3つの年齢別グループに課せられる条件と、親、指導者に対する指示が1冊に収められている。この冊子と関連資料は2010年6月から8月にかけて、27の言語で入手可能となる。そのほかの言語への翻訳も続行中で年内に入手できるようになる。

活動は系統立てられ、若い男性が福音の原則や神権の義務を学び、学んだことに従って**行動し**、自分の考えや気持ちを親、教会の指導者、定員会の会員たちに**分かち合う**ことができるようになっていく。

「皆さんは執事、教師、祭司として、霊的な強さを築き、神権の義務を学び、それらを実現するための活動に参加することになります」と、中央若い男性会長のデビッド・L・ベック兄弟が総大会の神権部会で語った。ベック兄弟はさらに、新しい



「神への務め」プログラムは、「神への務めを果たし、アロン神権のすばらしさを見いだす皆さんの旅を導いてくれるものとなる[る]」とも言っている。

このプログラムは、若い男性が自分の成長の責任を自ら負うことを奨励するために作られた。しかし同時に、親、指導者、定員会会員たちとの関係を強める機会を提供するものでもある。活動の多くは家庭の夕べや定員会の集会や活動に簡単に取り入れることができる。

ベック兄弟は、「神への務め」プログラムについて教会機関誌に次のように語った。「このプログラムでは、親、指導者、それに定員会会員が大きな役割を担っています。日曜日の定員会集会は、学び、行動し、分かち合う定期的な機会となります。」

新しいプログラムがワードや支部で導入されるまでは、引き続き既存のプログラムに取り組むことが奨励されている。新しいプログラムが導入された時点で、各若い男性はそれぞれの神権の職に該当する項目に取りかかるべきである。これまでのプログラムに添ってその職に当てはまる証明書あるいはメダル取得に必要な条件をほとんど満たしている場合、新しいプロ

グラムに取りかかりながら、そのまますべての条件を満たすことができる。

「『神への務めを果たす』にあるそれぞれの活動は、皆さんが主の望まれる神権者になるのに役立つような規範に従って作られています」とベック兄弟は語った。

追加情報と資料は、DutyToGod.lds.orgで利用できるようになる。■

## 姉妹がさらに 良い訪問教師と なるための 新しい誌面

**20** 10年7月に、扶助協会の姉妹たちと『リアホナ』および『エンサイン』(Ensign)の読者は、「家庭訪問メッセージ」の誌面が新しくなるのを目にすることになる。

中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹は次のように語っている。「すべての訪問教師が、家庭訪問が主からの召しであることを理解し、そのことを念頭に置いてほかの姉妹を愛し、仕え、教え、世話するというこの責任を受けてほしいと願っています。」

この新しいページは、姉妹たちが扶助協会の目的を理解するのを助け、その目的に従って生活するのに役立つ原則を教え、歴史的な見方を知らせ、ほかの姉妹たちをより効果的に見守り力づける方法を提案するものとなる。

ベック姉妹は言う。「家庭訪問メッセージは、訪問教師の手の中にあるツールです。担当する姉妹たちを思いながらメッセージを研究するとき、その姉妹に何を伝え、何をすべきかが分かります。」

次のページには、新しい家庭訪問メッセージのサンプルと、新しい項目についての説明が掲載されている。■

### 仕えるための質問

この質問は、訪問教師が靈感に従って行動し、担当する姉妹によりよく仕えられるように助けるためにある。

### 指示

「指示」の項では、訪問教師に対して、メッセージの教え方や応用の仕方に関する助言を与えている。

### 扶助協会の目的

「扶助協会の目的」の項は、信仰と個人の義を増す、家族と家庭を強める、助けを必要とする人を探し出し助ける、といった扶助協会の責任を姉妹たちに思い起こさせるために、付け加えられた。

### 実践するための質問

この質問は、扶助協会の一人一人の姉妹の行動を促し、自らの生活の中でメッセージを実践するのを助けるためにある。

VISITING TEACHING MESSAGE

## Our Responsibility to Be Worthy of Temple Worship

**T**he covenants we make with the associated ordinances we receive in the temple become our credentials for admission into God's presence. These covenants elevate us beyond the limits of our own power and perspective. We make covenants to show our devotion to build up the kingdom. We become covenant people as we are placed under covenant to God. All the promised blessings are ours through our faithfulness to these covenants. . . .

"What can the women of the Church do to claim the blessings of the temple?"

"Through His prophets, the Lord invites those who have not yet received the blessings of the temple to do whatever may be necessary to qualify to receive them. He invites those who have already received these blessings to return as often as possible to enjoy again the experience, to increase their vision and understanding of His eternal plan.

"Let us be worthy to have a current temple recommend. Let us go to the temple to seal our families eternally. Let us return to the temple as often as our circumstances will permit. Let us give our kindred dead the opportunity to receive the ordinances of exaltation. Let us enjoy the spiritual strength and the revelation we receive as we attend the temple regularly. Let us be faithful and make and keep temple covenants to receive the full blessings of the Atonement."<sup>1</sup>

*Sylvia H. Allred, first counselor in the Relief Society general presidency.*

**From the Scriptures**  
Isaiah 2:2-3; D&C 109:22-23; 110:8-10

**What Can I Do?**

1. What support can I offer to help my sisters prepare for and attend the temple?
2. How can I exemplify the heritage of the early sisters who sacrificed to receive temple blessings?
3. How can I claim the blessings of the temple?

For more information, go to [www.relief-society.lds.org](http://www.relief-society.lds.org).

**Faith • Family • Relief**

**From Our History**

President Gordon B. Hinckley (1910–2008) taught that Relief Society grew out of sisters' desire to worship in temples:

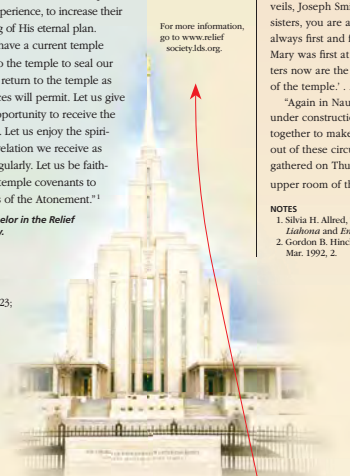
"During the construction of the Kirtland Temple the women were called upon to grind their china into small particles to be mixed with the plaster used on the walls of the temple, which would catch the light of the sun and the moon and reflect that light to beautify the appearance of the building.

"In those times, when there was very little of money but an abundance of faith, the workmen gave of their strength and resources to the construction of the Lord's house. The women supplied them with food, the best they could prepare. Edward W. Tullidge reported that while the women were sewing the temple veils, Joseph Smith, observing them, said, "Well, sisters, you are always on hand. The sisters are always first and foremost in all good works. Mary was first at the resurrection; and the sisters now are the first to work on the inside of the temple' . . .

"Again in Nauvoo, when the temple was under construction, a few women joined together to make shirts for the workmen. It was out of these circumstances that twenty of them gathered on Thursday, 17 March 1842, in the upper room of the Prophet's store."<sup>2</sup> ■

**NOTES**

1. Sylvia H. Allred, "Holy Temples, Sacred Covenants," *Testimonies and Ensigns*, Nov. 2008, 113, 114.
2. Gordon B. Hinckley, "Ambitious to Do Good," *Ensign*, Mar. 1992, 2.



August 2010 7

### わたしたちの歴史から

扶助協会の高貴な受け継ぎを読むことによって、姉妹たちは初期の教会に存在した組織と、現在の扶助協会プログラムから靈感を受けることができる。ベック姉妹は言う。「わたしたちは、彼女たちが払った犠牲を知ることによって鼓舞され、自分たちが奉仕する現在において、主の王国を建てるうえで自らの責任を果たしたいと願うようになるのです。」

### メッセージ

この主要なメッセージの項では、中央扶助協会会長が直接、明確で時宜に合った勧告を伝える。

### 聖文から

これらの参照聖句は、メッセージを研究し、教え、自分で実践する際に、その経験をさらに良いものにしてくれる。

### その他の情報

その他の資料へのリンクが扶助協会ウェブサイト（英語）（[reliefsociety.lds.org](http://reliefsociety.lds.org)）にある。

# ハイチの教会員、福音に堅く立ち、前進する

ローレン・アレン  
教会機関誌

2010年1月にハイチで発生した地震の後、ジャン・エリー・レネは家族の安全を確かめようと急いで家に向かった。家に着くと、通りで3人の息子のうちの一人が泣いているのを見つけ、さらに、家が建っていた場所のがれきの下からもう一人の息子の叫び声を聞いた。

32歳の父親は泣き声をたどってがれきを掘り、5歳の息子を見つけたが、妊娠中の妻は崩れた屋根から9か月の赤ちゃんを守るようにして亡くなっていた。

レネ兄弟はハイチ、ポルトープランスステーク、レオガネワードでワード書記として奉仕している。妻とまだおなかにいた子供を亡くし、家も失ったが、不平を言うことも、怒りを見せることもない。地震後、集会所ではほとんど毎日のように、赤ちゃんをひざに乗せ、両わきに二人の息子を座らせているレネ兄弟の姿を見ること

ができる。ビショップを助け、集会所に避難している会員とほかの人たちの援助の手配に当たっているのだ。

レネ兄弟の話は感動的であるが、これは彼に限った話ではない。ハイチ全土にいる教会員は、マグニチュード7.0の地震による破壊で大きな被害を受けた。しかし、この惨事の中、増え続けるハイチの教会員は底力を見せた。昔からの教会員であるか改宗者であるかにかかわらず、レネ兄弟のように多くの会員たちが試練の中で立ち上がり、忠実、従順であることによって平安と慰めを見いだしている。

## 試練の中に見える偉大さ

試練のさなかであっても、ハイチの教会員は福音の中でしっかりと立ち、教会員同士、また、地域の人たちと互いに助け合い、強め合い続けている。

「確かに、いろいろな物から家族まで、わたしたちは持っていたものすべてを失いました。でも、イエス・キリストへの信仰は守り抜きました。キリストの弟子としての自分たちを見詰め直す良い機会でした。」レオガネワードのビショップ、イブ・ピエール・ルイはこう語る。

地元の神権指導者は信仰と証の特にすばらしい模範ですと語るのは、カリブ海地域会長のフランシスコ・J・ビーナス長老。彼らは試練に立ち向かい、困難なときに召しを全うすること

を学び、助けの必要な人を助けている。

「彼らは、会員にもそうでない人に対しても、人々を祝福するために神権の鍵を行使しました。評議会を開いて御霊の導きを受け、日々、困難な問題に対処しています。」

ハイチ・ポルトープランスステークのブロンズナー・コリン会長は、大きな困難を引き起こした地震による破壊の後、特にハイチのビショップたちは難問に対処しなければならなかったと語る。ビショップをはじめとする教会指導者たちには、自分の家族だけでなく、何百人というワードの会員の世話と助けをする責任があったからだ。

コリン会長はこう語る。「[ビショップたちは]今も援助を続けています。多くを失いましたが、自分たちには福音があるということを理解しています。そして、これからもふわさしい生活を続けるようにと[会員たちを]励ましています。」

ピエール・ルイビショップは、地震のとき以来、地域で指導的な役割を果たしている。ハイチの災害後、数週間、数か月と、彼は何百人という被災者の手伝いをしながら、レオガネ地区の会員とそうでない人への奉仕に生活をささげている。

地震後、アリヅナ州から来てボランティア医師として働き、ピエール・ルイビショップと行動を共にしたチャド・ピーターソンはこう語る。「彼ほどすばらしく、謙虚に奉仕する人に会ったことはありません。」

## 現在、そして未来への信仰

ハイチ全土で、立ち直る力と主への信仰によってこの試練をくぐり抜けてきた会員たちの体験談が数多く語られた。

七十人のウィルフォード・W・アンダーセン長老は2010年4月の総大会で次のように語った。「ハイチの忠実な聖徒の苦しみは大きいのですが、彼らは将来に対して大きな希望も抱いています。1846年の初期の開拓者のように、心は傷ついています



が、霊は健やかです。ハイチの聖徒たちも、希望と幸福と喜びは、境遇によるのではなく、主を信じる信仰により生まれることをわたしたちに教えてくれています。」

そのような忠実さと信仰は、地震直後にも教会の集會が中断されることなく続けられたことからもうかがい知ることができる。

国の破壊にもかかわらず、ハイチの教会員はよそ行きの服に笑みを浮かべて教会へやって来た。悲しみと絶望から立ち上がろうとする多くの人にとって、福音は命綱だった。

「家も仕事も失い、家族を亡くしたにもかかわらず、人々はみな愛にあふれ、信頼に篤く、優しいのです。驚くべき信仰です」とピーターソン兄弟は言う。

現在も、ハイチにおける教会は繁榮し続けている。聖餐会の出席者は増え、ハイチの人々はそれぞれの地域の再建に励み続けているとコリン会長は語った。

「会員たちはよく奉仕をしています。訪問し合い、自分の仕事だけではなく、ほかの人の仕事も探しています。」

ハイチの教会福祉ディレクターであり、同国出身のバーソニー・セオドア兄弟は、自身を含む今と将来の教会指導者は、この災害を貴重な経験としてとらえていると語る。

「わたしたちには、人々をどれほど愛しているかを再び示す奉仕の機会が与えられました。この世の中で自分たちが皆とつながっていること、自分たちが主の民の会員であることを、改めて知ることができました。」

セオドア兄弟は、地震もほかの災害も、ハイチの会員から平安と喜びを取り去ることはできなかつたと話した。

「主は決して御自分の子供たちをお忘れにはならないという証があります。主はわたしがどこで、どのような状況にいるのか御存じです。わたしを独りきりにさせることはありません。」 ■



## 教会の援助

**20** 10年1月の地震直後に教会はハイチに援助物資を送った。それに続いて医療関係者チームが集会所内に診療所を開き、現地の病院と協力して必要な外科治療に当たった。

しかし、ハイチに安定した状態が戻ってくる兆しとともに、教会は働きを緊急援助から再建支援へと移し始め、彼らが復興を遂げ、以前のように自立した生活を送れるよう物資や人材などを提供している。

その一環として、教会はビショップの倉に似た小規模の食料倉庫を作ったほか、600戸の一時避難施設を建てるための資材を送った。避難施設はハイチの会員が組み立て、ハリケーンの季節に備えて家のない人たちに提供される。

教会はまた、会員たちが援助や必要な助けを受けられるようにするために、地元ハイチの医師による医療紹介プログラムを立ち上げた。LDSファミリーサービスも加わってハイチの人の訓練も行い、この状況の中で苦しんでいる人々の情緒面でカウンセリングができるようにしている。

ハイチにおける雇用プログラムも強化している。雇用スペシャリストは、会員が雇用や簡単な仕事を見つけるのを助けている。

イブ・ピエール・ルイビショップはこう言っている。「教会がハイチの会員に対して行ってくれたすべての支援に感謝しています。」 ■



## ケビン・R・ ダンカン長老 七十人

ケビン・リード・ダンカン長老は、子供時代から宣教師として主に仕えたいと強く望んでいました。「伝道に出たいという強い思いがこれまで揺らいだことは一度もありません」とダンカン長老は述べています。

長老は19歳の誕生日よりだいぶ前に、宣教師管理部で働く中央幹部に偶然会いました。幹部は宣教師のレスンプランを覚えるようダンカン長老に求めました。課題を達成したダンカン長老は、後にチリ・サンティアゴ南伝道部に召されました。宣教師として過ごすことにより、ますます主に仕えたいと願うようになりました。「残りの生涯、毎日を宣教師として過ごしたいと思いました」とダンカン長老は語ります。

ダンカン長老は1960年10月、デビッド・ヘンリー・ダンカンとラレーネ・エライザ・ダンカン夫妻の息子として生まれました。ユタ州ウェストポイントで家族が経営する農場で育ったダンカン長老が語る所によると、少年時代を農場で暮らす

ことにより、働くことを学んだだけでなく、働くことが大好きになりました。

そうした勤労意欲は、ブリガム・ヤング大学で会計学の学士号、税務会計学の修士号、ならびに法学の博士号を取得する助けになりました。ダンカン長老は税務関係の弁護士として働き始め、その後、法律事務所を設立しました。

ダンカン長老と妻のナンシー・エリザベス・スマート姉妹は1986年6月27日、ソルトレーク神殿で結婚しました。5人の子供がいますが、そのうちの1人はダンカン長老が最初の妻、故ウェンディー・ウォレンティン姉妹との間にもうけた子供です。

チリで宣教師として働いてからほぼ20年後、南米の教会を担当する国際準弁護士として教会奉仕伝道活動に復帰しました。同地でチリ・サンティアゴ北伝道部会長として召され、青年時代に働いていた伝道本部で暮らしました。

七十人第一定員会に召される前には、ビショップリック顧問、ワード伝道主任、高等評議員ならびにユタ州南地域の地域七十人として奉仕しました。■



## ジェリット・W・ ゴング長老 七十人

ジェリット・ウォルター・ゴング長老は、祈りの力や天の御父が御自身の子供たちのために計画を持っておられることを知っています。少年のころ、母親が重い病気にかかりました。ゴング長老は「小さな子供の言葉で感情を込めて」母親が生き延びられるよう祈ったことを覚えています。

「わたしたちの人生で、祈りは様々な方法で様々なときにこたえられます。しかしあのときはありがたいことに、わたしは母が良くなると感じましたし、分かったのです。そのとき以来、天の御父が確かに祈りを聞いてくださり、御父の知恵と方法で祈りにこたえてくださることを疑ったことはありません。」ゴング長老はそう語ります。

ゴング長老はこれまで愛情深い天の御父と心通う交流を数多く経験してきました。例えば妻との結婚、家族の養育、教育や仕事に関する決断、教会での奉仕などの経験を挙げています。

七十人第一定員会に召される前は、高等評議員、大祭司グ

ループリダー、ステーク日曜学校会長会顧問、セミナー教師、ビショップ、ステーク伝道部会長、ステーク会長ならびに地域七十人を歴任しました。

職歴としては、アメリカ合衆国国務省国務次官付き特別補佐官、また北京の駐中国大使付き特別補佐官を務めました。また合衆国ワシントンD.C.の戦略・国際問題研究所(CSIS)に在籍。召しを受けた当時、ブリガム・ヤング大学で計画・評価担当の学長補佐を務めていました。

ゴング長老は1953年12月、ウォルター・ゴングとジーン・ゴング夫妻のもとに生まれ、カリフォルニア州パロアルトで育ちました。ブリガム・ヤング大学で一般教養およびアジア研究で学士号を取得しました。また後に、ローズ奨学金を受けたオックスフォード大学で国際関係の修士号と博士号を取得しました。

ゴング長老は台湾伝道部で働いた後、1980年1月、ソルトレーク神殿でスーザン・リンジー姉妹と結婚しました。ゴング夫妻には4人の息子がいます。■



## パトリック・キアロン長老 七十人

パトリック・キアロン長老はカリフォルニア州で少しの間「とてもすばらしい」末日聖徒の家族と暮らしていたとき、彼らを通じて福音を知りました。

2年後、イングランドの自宅に戻った後、ロンドンの街頭で宣教師と出会い、結局は教会について学び始めました。モルモン書を読んでいるとき「人が存在するのは喜びを得るためである」という聖句が目にとまりました(2ニーファイ2:25)。その聖句を読んだキアロン長老は、あの末日聖徒の家庭や福音を教えてくれた宣教師の生活の中にある喜びを思い出し、自分もそうなりたと思いました。

キアロン長老はこう語ります。「その聖句が耳に鳴り響きました。喜びなさいという救い主の教えに従うことによってわたしたちの生活がどんなに豊かになり得るかを、それまでに出会った人たちの中に目の当たりにしたのです。」

1987年12月24日に教会に入ってから、キアロン長老はワード若い男性会長、ビショップ

リック顧問、支部会長、ステーク会長、地域七十人といった数々の召しを、そのような大いなる喜びをもって果たしてきました。

七十人第一定員会の新しい会員としてこう語ります。キアロン長老は常に「教会の原則に従うよう熱心に努めてきました。教会の原則がいかに生活を変えることができるかを見てきたからです。」

キアロン長老は1961年7月、イングランドのクンバーランドのカーライルでバディー・キアロンとパトリシア・キアロン夫妻のもとに生まれました。父親は英国空軍に従軍しており、キアロン長老は中東およびイギリスで教育を受けました。

後に長老は、ブリガム・ヤング大学の学生としてイングランドで勉強中のジュニア・キャロル・ヒューム姉妹に出会いました。二人は1991年にカリフォルニア州オークランド神殿で結婚し4人の子供をもうけましたが、1人は亡くなりました。

キアロン長老はこれまでイギリス、サウジアラビア、アメリカ合衆国で、政治、健康管理、自動車関連企業など多岐にわたる業界で働いてきました。今回の召しを受ける前、キアロン夫妻はイングランドでコミュニケーション・コンサルタント会社を経営していました。■



## フアン・A・ウセダ長老 七十人

フアン・アルベルト・ウセダ長老は、後に結婚することとなるマリア・イサベル・ベンデス姉妹と交際を始めたときから彼女が特別な人だと分かりました。二人とも若いころに教会員となり、母国ペルーで宣教師として奉仕しました。

しかし、人生を変えたのは、神殿で結婚するというウセダ姉妹の信念でした。当時、いちばん近い神殿はブラジルのサンパウロにありました。「利用できるすべての交通手段を使っても、7日かかりました。」ウセダ長老はこう説明します。「バス、車、船、馬車、列車、トラック、それに飛行機にも乗りました。神殿に着いたとき、わたしたちは手を伸ばして神殿の壁に触れ、夢ではないことを確かめました。わたしたちにとって原点となる経験でした。」

1979年4月13日、二人はブラジル・サンパウロ神殿で結婚しました。5人の子供に恵まれています。

ウセダ長老は、1953年7月、ペルーのリマで、フアン・ホセ・

ウセダ・ペレス、イネス・アンドラデ・ウセダ夫妻のもとに生まれました。リマのホセ・カルロス・マリアテギ・インスティテュートで会計と広報を学びました。また、セントロ・アンディノ・デ・G.E. インスティテュートでは経営管理を学び、サン・ルイス・ゴンサガ大学から広報の学士号を取得しました。

ウセダ長老は、教会教育システムでペルーとボリビアの地域ディレクターとして働いた経験があります。2003年には、父親が経営する教育および語学研修ビジネスを手伝うために、ペルーから合衆国のニュージャージーに移り住みました。

専任宣教師のほかに、高等評議員、ビショップ、ステーク会長、ペルー・リマ北伝道部長、地域七十人を歴任してきました。これから七十人第一定員会で奉仕することになります。

「聖霊が人に与えてくださる啓示の力に対して、強い証<sup>あかし</sup>があります。わたしは従順からもたらされる祝福によって、この証の確認を絶えず得ています。」ウセダ長老はそう語ります。■



## ラリー・R・ローレンス 長老 七十人

教会での様々な召しと奉仕を通して、ラリー・レイ・ローレンス長老は「〔自らの〕心をつくして主に信頼」することを学びました(箴言3:5)。

ローレンス長老は1947年8月、メリーランド州シェバリーで、アージル・ローレンス、メアリー・ローレンス夫妻のもとに生まれ、アリゾナ州ツーソンで成長しました。アリゾナ大学で学び、農業生化学で学士号を、さらに医学博士号を取って眼科医となりました。

1970年、23歳のときに教会員となり、1971年11月5日、アリゾナ州メサ神殿でローレル・スコット姉妹と結婚しました。

七十人第二定員会の召しを受ける前には、長老定員会会長、ビショップ、高等評議員、ステーク会長、ステーク伝道部会長などの召しを果しました。

ローレンス長老の言葉によると、6人の子供も成長して独立し、これからゆっくりしようとした矢先の2001年、シベリアのロシア・ノボシビルスク伝道部会長として召しを受けました。

故郷と家族を後にして、言葉も人も、気候もまったく異なる土地で奉仕するために、ローレンス長老と姉妹は信仰を働かせる必要がありました。

「とにかく主を信頼できるかどうか、わたしたちには大きな試しでした。いろいろ心配しましたが、何もかも落ち着くところに落ち着きました。〔この経験は〕わたしたちの人生を変えました。」ローレンス姉妹はそう語ります。

伝道本部のキッチンにポスターを掲げ、「あらゆる思いの中で〔救い主〕を仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない」(教義と聖約6:36)という聖句をいつも忘れないようにしていました。

ローレンス長老と姉妹は、この伝道を人生最高の経験の一つであると考え、ローレンス長老の七十人としての召しに伴う新たな責任に備えられたと感じています。

「将来に何が起こるか分かりません。でも、それが何であれ、やがて益になります。」ローレンス長老はそう語ります。■



## ペア・G・マーム長老 七十人

ペア・ゲスタ・マーム長老は、16歳のとき、教会奉仕宣教師としてドイツ、フィンランド、オランダ、スウェーデンで新しい集会所を建てる手伝いをしました。それ以来、教会の確立に熱心に携わってきています。

マーム長老は1948年9月、スウェーデンのイエンチェピングでカール・ゲスタ・イバル・マーム、カリン・アンナ・グレタ・マーム夫妻のもとに生まれました。両親から人生における重要な教えのほとんどを学びましたが、特に父親が48歳で亡くなる前に残した「福音に忠実あかしでいなさい」という証が人生の転機となりました。

「父は、最も重要な問題の解決法は福音の中に見いだせることを教えてくれたのです。」マーム長老はそう語ります。

18か月間の建築宣教師の任期を終えると、マーム長老は引き続きスウェーデン・ストックホルム伝道部で専任宣教師として奉仕し、帰還後の1969年10月、イングリッド・アグネタ・カールソン姉妹とスイス・ベルン神殿

で結婚しました。父親の不動産会社を引き継ぎ、ゲーテボルグ大学で修士号を、さらにルンド大学でスウェーデンの法律の学位(LLM)を取得しました。

教会の地域不動産部長として働き、後に実務ディレクターとして、管理ビショップリックから任命を受けて教会のヨーロッパ中央地域と北地域の初代実務管理者を務めました。

マーム長老と姉妹は8人の子供を育てました。その間、長老はステーク伝道部会長、支部会長、高等評議員、ステーク会長、伝道部会長、スウェーデン広報ディレクター、地域七十人を務めました。

数々の経験から両親の教えを確認することができたマーム長老は、七十人第二定員会の召しを通してその教えを伝えたいと願っています。彼はこう語っています。「福音はわたしたちのいかり錨です。福音に忠実であるなら、理解を超えた平安を得ることができます。」■





## ジャイロ・マサガルディ 長老 七十人

ジャイロ・マサガルディ長老は、主の業において犠牲を払うことの意味を知っています。1990年、マサガルディ長老は当時大管長会顧問であったモンソン管長から電話を受けました。ブラジル・サルバドル伝道部会長としての召しを伝える電話でした。

「わたしが伝道部会長になるなど夢にも思わなかったことです。それまで5年近くステーキ会長を務めていました。仕事も忙しいけれど順調でした。この召しを受けることは、すべてを後に残すということでした。」マサガルディ長老はそう語ります。

電話の最後に、モンソン管長は考える時間を取るように勧めました。しかし、何年も前に姉妹とともに人生を主に奉獻すると決めていたマサガルディ長老は、召しを受けるとその場で返事しました。「主がわたしたちを必要とされるなら、それが何であってもわたしたちには行く用意ができています。」長老はそう語ります。

七十人第二委員会に召される

まで、マサガルディ長老はビショップリック顧問、高等評議員、ステーキ会長会顧問、ステーキ会長、地区代表、地域七十人、ブラジル・カンピーナス神殿会長会顧問、ブラジル・サンパウロ神殿会長を務めました。

実業家としてマサガルディ長老は食肉業に携わり、後には不動産会社を所有しました。また、1965年から1966年まではブラジル陸軍の砲兵隊軍曹でした。1947年4月、ブラジルのイツで、アントニオ・マサガルディとマルガリータ・マサガルディ夫妻のもとに生まれ、イツとジュンディアイで成長しました。1970年7月、ニュージャージー州ホボケンで、幼いときに知り合ったエリザベス・イエンネ姉妹と結婚しました。

長い間二人は教会には興味がありませんでしたが、一家がブラジルに戻ってから、友人の誘いを受けてブラジル・サンパウロ神殿のオープンハウスに行きました。そこで二人は強烈で霊的な経験をしました。そして1978年10月31日にバプテスマを受け、1979年11月に家族の結び固めを受けました。マサガルディ夫妻は3人の子供に恵まれています。■



## ローズマリー・M・ウィクソン 中央初等協会会長

新しく中央初等協会会長として支持されたローズマリー・ミックソム・ウィクソン姉妹はこう述べています。「騒がしく不安に満ちた世界で、子供たちは御霊のささやきを聞く方法を見いだす必要があります。

子供たちは祈ることで安心感を覚えることができます。たとえ間違いを犯してしまったときでも、決して独りではないこと、救い主と一緒に歩いてくださること、救い主が愛してくださることを知ることができます。」

ウィクソン姉妹は1948年12月、ロバート・ウェイン・ミックソム、メアリー・ミックソム夫妻のもとに生まれ、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで育ちました。双子の姉妹とは大の仲良しでした。両親は喜んで人に与えるように教えました。「ドアを開けて家の中に入ると、安らかな気持ちになりました。」ウィクソン姉妹はそう語ります。

ウィクソン姉妹が12歳のとき、その安らかな気持ちはさらに深いところから来ることを知る経験をしました。証会で座っ

ていると、突然救い主に対する思いを話したいという強い気持ちに駆られました。「立ち上がると、イエス様への愛が洪水のようにあふれ出しました。」その気持ちを吹き込んでくださったのが聖霊であったことを母に教わったと、ウィクソン姉妹は振り返ります。

「聖霊をあのよう<sup>に</sup>に力強く実感したことはありませんでした。」月日が流れ、自分の子供の一人について祈っていたとき、聖霊からこの上ない平安を得ました。子供たちが聖霊のささやきを聞くことができるように、親や初等協会の指導者、教師が助けられるよう、ウィクソン姉妹は望んでいます。

ウィクソン姉妹はユタ州立大学で教育の学士号を取得し、1970年8月18日にソルトレーク神殿で、夫であるブレイン・ジャクソン・ウィクソン兄弟と結婚しました。子供が6人います。

ワシントンD.C.南伝道部で会長に召された夫とともに奉仕する以前は中央初等協会管理会の一員でした。その後中央若い女性管理会に召され、中央初等協会会長に召されるまで奉仕しました。■



## ジーン・A・ スティーブンス

### 中央初等協会会長 第一顧問

ジーン・オールドレッジ・スティーブンス姉妹は、どのような子供も人生の早い時期に愛を感じるならば、大きな影響を受けると信じています。愛を感じる経験があれば、天の御父と救い主が子供たちに抱いておられる大きな愛を知り理解するのに役立ちます。

スティーブンス姉妹は1952年11月、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーでクラロン・オールドレッジ、ヘレン・オールドレッジ夫妻のもとに生まれました。

スティーブンス姉妹はこのように語っています。「わたしはとても信仰の深い両親に育てられました。両親は主を愛し、家庭で福音を教えてくださいました。特に母は、驚くほど人を愛することのできる人でした。」スティーブンス姉妹は、両親が自分を愛し、喜んで主に仕えていることを、幼いころから感じ取っていました。

スティーブンス姉妹は、1973年9月12日、ソルトレーク神殿でマーク・スティーブンス兄弟

と結婚し、それ以来、自分が育った家庭と同じような家庭を築いてきました。5人の子供がいます。

姉妹は主に仕えることを喜びとし、特に初等協会の子供たちに奉仕できる機会に感謝しています。

スティーブンス姉妹はこう語っています。「子供たちは霊的なことにとっても敏感です。信じる心を持ってこの世に生まれて来ます。ほんの少し前に天の御父のみもとを離れて地上にやって来たばかりなので、わたしたちはその神聖な性質を感じることができるのです。」

スティーブンス姉妹は、親が子供にイエス・キリストの福音を教える際に、初等協会の指導者や教師は大事な役目を果たすと信じています。「初等協会は子供たちが愛を感じるすてきな場所です。また家庭で教わっている福音を教師や指導者が強める場所でもあります。」スティーブンス姉妹はそう語ります。

中央初等協会会長第一顧問に召される以前は中央初等協会管理会で奉仕しました。ワードでは扶助協会会長、初等協会会長顧問、福音の教義クラスの教師を務めました。ユタ大学を卒業し、数学の学士号と教員免許を取得しました。■



## チェリル・A・ エスプリン

### 中央初等協会会長 第二顧問

中央初等協会会長第二顧問であるチェリル・エイシー・エスプリン姉妹は天の御父とイエス・キリストを信じていなかった時を思い出すことができません。このように語っています。「幼いころから祈るように教えられました。何でもまず祈って助けを求めてから始めたのを覚えています。そしていつも祈りの答えを受けました。」

1944年10月、オーソン・エイシー、ミルドレッド・エイシー夫妻のもとに生まれたエスプリン姉妹は、アメリカ合衆国ワイオミング州ラベルから東へ13キロほど離れた農場で育ちました。9人きょうだいの2番目だったので、よく子守を頼まれました。弟や妹の世話をしながら、両親が留守の間家族が守られるように祈ったことを覚えています。

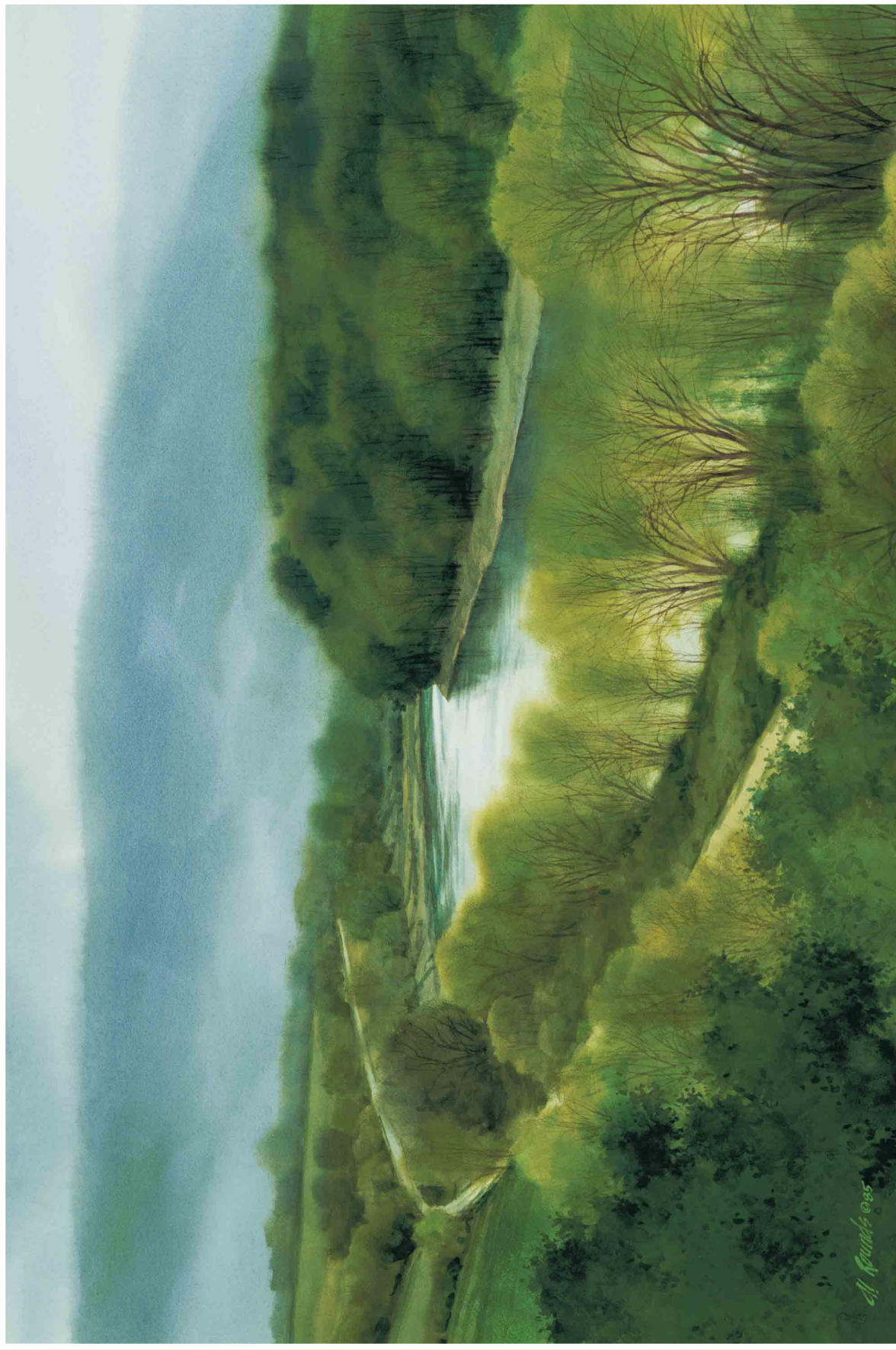
エスプリン姉妹はブリガム・ヤング大学を卒業し、初等教育の学士号を取得しました。学業の半ばで夫であるマックス・エスプリン兄弟と出会い、1967年9月1日、ユタ州のセントジョー

ジ神殿で結婚しました。卒業後エスプリン兄弟は徴兵され、その間エスプリン姉妹はワイオミング州パイロンにある実家に近い学校で2年間5年生を教えました。

エスプリン姉妹は扶助協会、若い女性および初等協会の補助組織で奉仕してきました。最後に受けたのは中央扶助協会管理会の召しでした。また夫がノースカロライナ州ローリー伝道部の会長に召されたときには一緒に奉仕しました。

エスプリン姉妹には5人の子供がいます。孫たちと過ごすのが楽しみです。一緒にパンケーキやワッフルを焼いたり、着せ替え遊びをしたり、ハイキングに行ったり、物語を読んだりします。

エスプリン姉妹は教義と聖約第84章88節の聖句が好きです。「そして、あなたがたを受け入れる者がだれであろうと、わたしもそこにいるであろう。わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」エスプリン姉妹は、いつでも祈りを通して天のお父様に助けを求められることを、子供たちに覚えてほしいと願っています。■



### 「ペンシルベニア州ハーモニー」 アル・ラウンス画

ペンシルベニア州ハーモニーのサスケハナ川は、

ジョセフ・スミスとエマ・スミスが1827年12月から1829年6月までその岸辺近くに住んでいたところと比べ、今もほとんど変わっていない。1828年、二人はこの地で最初の赤ん坊を埋葬した。また、この地で預言者ジョセフは金版の翻訳を終え、それがモルモン書となった。さらに、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはこの川の岸辺でバプテスマのヨハネからアロン神権を授かり（教義と聖約13：1参照）、

ペテロ、ヤコブ、ヨハネからメルキゼデク神権を授かった（教義と聖約128：20参照）。



トーマス・S・モンソン大管長は第180回年次総大会を閉会するに当たってこのように述べた。「イエス・キリストの回復された福音と、福音が人生にもたらすすべての良いことに心から感謝しましょう。主はわたしたち全員に、一つの民として祝福を注いでくれました。わたしは皆さんに、この業が真実であること、救い主が生きておられること、救い主が地上にある御自身の教会を導いておられることを<sup>あかし</sup>証します。」